

## 目 次

はじめに	1
夏季オンライン FD 分科会 (資料・報告)	3
冬季オンライン FD 分科会 (資料・報告)	73
2021 年度 (令和 3 年) 度「学生による授業アンケート」集計結果	109
FD 委員会年間活動記録	211
FD 委員会委員	212
あとがき	213



## はじめに

京都外国語大学・京都外国語短期大学では、“PAX MUNDI PER LINGUAS（言語を通して世界の平和を）”を建学の精神として掲げ、国際社会の平和に貢献し、次世代を担うことのできる人間力豊かなリーダーを養成・輩出すべく、様々な教育改革に取り組んでまいりました。

近年、複雑に変容するグローバル社会のニーズを捉え、本学の社会的存在意義と役割を明確にするために、2018年には「真のGlobal Universityへの進化・深化」をビジョンとした第2期5ヵ年計画（2018～2022）を策定し、全学を挙げて本計画を組み込んだ事業計画を目下推進しております。特に、「実践的FD・SDの強化」は教育改革における重要な課題のひとつであることから、本学では毎年時宜にかなうテーマを取り上げたFD研修を企画・実施しております。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機として、2020年度よりオンライン授業を全学的に導入しましたが、今やコロナ禍における緊急かつ一時的な対応という枠にとどまることなく、教育の可能性を拓くものとして、着実に浸透しつつあります。FD研修等を通じて、ポストコロナに向けた新たな学びの仕組みを検討、構築することは、時代の要請に応えることであり、本学にとって喫緊の課題であると考えます。

このような状況の中、2021年度は夏季（9月）と冬季（2月）の2回にわたって、オンラインにてFD研修を実施しました。夏季FDでは、「ハイブリッド／オンライン授業の方法と工夫」、「言語能力・専門性を高めるための授業方法や工夫」等、授業改善や教育の質向上を目的としたセッションを行いました。また、冬季FDでは、弁護士資格を有する本学職員が大学のオンライン授業において留意すべき著作権の知識についての講演を行うとともに、神田外語大学SALCラーニングアドバイザーであるNeil Curry氏をお招きし、「Helping anxious language learners」と題した講演を行っていただきました。夏季・冬季ともに講師と参加者間で活発な意見交換や質疑応答が行われ、成功裏に終えることができました。

コロナ禍では、失われたものがある一方で、新たに得たものも多く、教育・研究の可能性が拡張されたように思います。時間や場所に縛られないオンラインでのFD開催もそのひとつと言えます。今後とも本学のFD活動へご理解とご協力をお願い申し上げるとともに、様々な場面で本報告書をご活用いただければ幸甚に存じます。

学長 松田 武



## 夏季オンライン FD 分科会（資料・報告）

日 時：2021 年 9 月 10 日（金）15:00～17:00

方 式：Microsoft Teams によるオンライン開催

参加者（専任教員・非常勤講師）合計：132 名

日本語セッション 1a：58 名

日本語セッション 1b：58 名

日本語セッション 2：58 名

日本語セッション 3：38 名

英語セッション 1：34 名

英語セッション 2：36 名



## 【開催趣旨・講評】

2020年度は新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で夏季FDが中止となりました。しかし、全教員が突然オンライン授業の実施を余儀なくされたことから、2020年5月に急遽オンライン分科会を開催しました。専任教員だけでなく、非常勤講師の先生方にも対象を広げておこなったこの取り組みは非情に反響も良かったため、2021年度のFDについては夏季FDも冬季FDも希望性という形で非常勤講師の先生方も対象としました。FDによる教育の質の改善は、最終的に学生の利益につながると考え、できるだけこの体制を保持していければと考えております。

2021年9月の夏季FDでは、日本語の分科会を四つ、英語の分科会を二つ開催しました。「1a. オンデマンド授業の方法と工夫」「1b. ハイブリッド授業などの方法と工夫」「1. Methods and Innovations for Hybrid/On-Demand Classes」の三つは、主に遠隔授業の方法に関するテーマであり、「2. 言語能力を高めるための授業方法と工夫」「3. 専門性を高めるための授業方法と工夫」「2. Language Proficiency Goals and the teaching methods to reach them」の三つは、主に教育内容に関するテーマとしました。こうしたテーマ設定にした意図は、オンライン授業などの方法の習熟が重要であることは引き続きの課題であることは言うまでもないのですが、いまこの時期にこそ教育の内容についてのFDも必要と考えたからです。教育の方法と内容は車の両輪であり、バランス良く習熟していくことが重要だと考えたわけです。夏季FDの参加者は全体会が132名、各分科会は日本語の1aが58名、1bも58名、2も58名、3は38名、英語の1が34名、2が36名となりました。非常に多くの先生方に参加していただき、充実した夏季FDとなったことを報告し、御礼申し上げます。

日々の研究・教育活動に加え、こうしたFD活動にも取り組むことは、教員のみなさまの負担にもなることは重々承知しています。しかしながら、他の教員の様々な創意工夫を学ぶ機会を持つことは、長期的に教育の質を高めることに必ずつながると確信しております。また、このFD報告書のように「記録に残す」ということが、教育の改善にどれだけ貢献してきたかというのは、教育史を振り替えれば一目瞭然です。学生の側からすると「記憶に残る」のが良い教育だと言われることがあります。それはもちろんその通りなのですが、その「記憶に残る」教育を再現するためには、「記録に残す」ことが不可欠なのです。教育が一人の名人芸で終わってしまわないようにするために、FD活動も研究もあるのだと信じております。

ご参加いただいた教職員のみなさまに、改めて心から御礼申し上げます。

FD委員会 委員長 森 篤嗣

日時：2021年9月10日（金）15:00～17:00

方式：Microsoft Teamsによるオンライン開催

**【全体会：2021年度夏季FD趣旨説明】**

司会：森篤嗣 委員

由井紀久子 委員（教学担当副学長）※この報告書に資料は含まれていません。

**【日本語セッション 1a. オンデマンド授業の方法と工夫】**

司会：稲垣勉 委員

畑田彩 委員（教養教育）

安田圭奈江 先生（教養教育）

**【日本語セッション 1b. ハイブリッド授業などの方法と工夫】**

司会：森篤嗣 委員

エリック・ハーキンソン 委員（国際貢献学部グローバル観光学科）

稲垣勉 委員（教養教育）

**【日本語セッション 2. 言語能力を高めるための授業方法と工夫】**

司会：畑田彩 委員

岐部雅之 先生（外国語学部ブラジルポルトガル語学科）

竹下ルッジェリ・アンナ 委員（外国語学部イタリア語学科）

**【日本語セッション 3. 専門性を高めるための授業方法と工夫】**

司会：竹下ルッジェリ・アンナ 委員

木沢誠名 先生（非常勤講師）

森篤嗣 委員（外国語学部日本語学科）

**【英語セッション 1. Methods and Innovations for Hybrid/On-Demand Classes】**

司会：ケイト・メイヤ 委員

マイケル・バー 先生（短期大学キャリア英語科）

エリック・ハーキンソン 委員（国際貢献学部グローバル観光学科）

**【英語セッション 2. Language Proficiency Goals and the teaching methods to reach them】**

司会：陳依君委員

ロマン・ジョルダン=大塚 委員（外国語学部フランス語学科）

杉本モニカ 委員（外国語学部ドイツ語学科）

Date : 10<sup>th</sup> September, 2021 (Friday) 15:00~17:00

Location : Microsoft Teams, 夏季 FD/Summer FD

**【Introduction: Purpose of Today's FD Meeting】**

Moderator : Atsushi Mori

Kikuko Yui (Vice President) ※No documents are included in this report.

**【Japanese Session 1a. Methods and Innovations for On-Demand Classes】**

Moderator : Tsutomu Inagaki

Aya Hatada (Department of Liberal Arts Education)

Kanae Yasuda (Department of Liberal Arts Education)

**【Japanese Session 1b. Methods and Innovations for Hybrid Classes】**

Moderator : Atsushi Mori

Eric Hawkinson (Department of Global Tourism)

Tsutomu Inagaki (Department of Liberal Arts Education)

**【Japanese Session 2. Language Proficiency Goals and the teaching methods to reach them】**

Moderator : Aya Hatada

Masayuki Kibe (Department of Brazilian and Portuguese Studies)

Ruggeri Anna Takeshita (Department of Italian Studies)

**【Japanese Session 3. Professional Proficiency Goals and the teaching methods to reach them】**

Moderator : Anna Ruggeri Takeshita

Masana Kizawa (Department of Global Tourism)

Atsushi Mori (Department of Japanese Studies)

**【English Session 1. Methods and Innovations for Hybrid/On-Demand Classes】**

Moderator : Kate Maher

Mike Barr (Department of English Studies for Careers)

Eric Hawkinson (Department of Global Tourism)

**【English Session 2. Language Proficiency Goals and the teaching methods to reach them】**

Moderator : Ichun Chen

Romain Jourdan-Ôtsuka (Department of French Studies)

Monika Sugimoto (Department of German Studies)

## 【日本語セッション 1a 報告】

### オンデマンド授業の方法と工夫

話題提供者：畑田 彩先生 (FD 委員)

安田 圭奈江先生

司会：稲垣 勉委員

#### 1. セッション 1a の要旨

2021 年度の春学期からオンデマンド授業が始まりました。オンデマンド授業は「課題の提出をもって出席に代える」ことになっています。さらに、オンデマンド授業は受講者数 100 名を超える大講義が多いです。大人数の出席管理や成績評価の煩雑さに頭を抱えた教員は多いと思います。そこで、本セッションでは、manaba や Excel を使って出欠や成績管理を効率的に行う方法をデモンストレーションします。合わせて、オンデマンド授業の毎回の課題やテストを行っている方法についても話題提供します。

#### 2. 話題提供 (畑田先生)

Forms のクイズの機能を使って受講者の回答を集計し、Excel を用いて出席を管理する方法についてご説明いただいた。概要は以下の通りである。

##### \* 事前準備

- ・受講者名簿を CSV ファイルとしてダウンロードしたのち、Excel の拡張子 (.xlsx, .xls など) で保存する
- ・名簿の表側 (A 列) に通し番号を振り、学籍番号順に並び替える

##### \* 出席管理

- ・Forms を用いてクイズを作成する
- ・回答期間終了後、Forms の質問の「応答」をクリック→「Excel で開く」をクリック
- ・回答一覧が表示されるので、メールアドレス、名前、点数の列をコピーする
- ・Excel を開き、任意のシートに「形式を選択して貼り付け」→「値」として貼り付けたのち、フィルタ機能を用いてメールアドレスの「昇順」で並び替える
- ・この内容を、事前準備で用意しておいたファイルに貼り付ける (欠席者がいると行がズレるため、手作業で行を挿入する<sup>1)</sup>)

---

<sup>1</sup> FD 終了後、参加者の先生より、畑田先生が紹介された作業の一部をより効率化できる方法について助言をいただいた。

- ・学期末に集計する。データは 1 行に 1 名ずつ並ぶので、横一列に COUNT 関数<sup>2</sup>を使って出席回数 (=クイズに回答した回数) をカウントする。クイズに点数をつけているのであれば、同様に横一列に SUM 関数を使って集計する。
- ・採点入力システムに流し込む際には、関数を削除しておく必要がある。そのため、関数を入れたセルをまとめて選択し、コピー→「形式を選択して貼り付け」→「値」として貼り付けておく必要がある。
- ・最後に、A 列の通し番号の順に並び替える (途中でメールアドレスの昇順で揃えたため)。

その他、Forms を用いたテスト実施の試みについても紹介いただいた。最後に、教務部に希望する事項として、以下の 4 点が挙げられた。

- 1) 採点入力システムの名簿の並びが出席管理システムと違うので(編入者関連)、合わせてほしい。
- 2) オンデマンド授業の受講者制限を 400 人からもう少し減らしてほしい。
- 3) オンデマンド授業の出席管理回数を減らしてほしい(毎回の課題の評価は大変であるため)。
- 4) オンデマンドではなく同期型遠隔にしてほしい。

セッションに並行して、質疑を口頭もしくはチャットで受け付けたところ、Forms を用いたテストの方法について質問のチャットが 1 件あり、畑田先生に口頭で回答をいただいた。

### 3. 話題提供 (安田先生)

manaba の小テストなどの機能を使って受講者の回答を集計し、Excel を用いて出席を管理する方法についてご説明いただいた。概要は以下の通りである。

- ・授業後に毎回、小テストを manaba で実施する。学生には小テストの提出があれば「出席」未提出の場合は「欠席」とする旨を伝えておく。
- ・期間を設定して小テストを出題 (安田先生は講義終了後 3 日間を設定) し、期間終了後に「管理」→「成績管理 (エクセルで採点)」を選択し、採点シートをダウンロード
- ・ダウンロードしたシートに採点結果を入力し、manaba にアップロード<sup>3</sup>  
「公開」を設定すると、学生が点数を確認することも可能

<sup>2</sup> 稲垣注) 欠席回数をカウントしたい場合は、COUNTBLANK 関数を使用すれば可能。

<sup>3</sup> 稲垣注) Excel ファイルでダウンロードせず、個別に採点する (manaba 上で入力する) ことも可能。ただし煩雑になるので、大人数の場合は採点シートに入力することを推奨。

- ・学期末は、manabaの「成績管理」→「総合成績表ダウンロード」から、登録したすべての成績をダウンロード可能。畑田先生が紹介された方法と組み合わせることで、出席管理・点数管理が容易になる。

セッションに並行して、質疑を口頭もしくはチャットで受け付けたところ、チャットを通じて、小テストの成績を学生に個別に知らせる方法や、テストは授業時間に行われたのかといった質問があり、安田先生に口頭で回答をいただいた。

## オンデマンド授業の出欠や成績を 効率的に管理するためには？

教養教育  
畑田 彩・安田圭奈江

### オンデマンド授業の出欠管理の問題点

出欠管理をなるべく効率的にやりたい！  
受講時間まちまちのオンデマンド授業で  
テストなんてできるの？

1. FormsとExcelを使った出席・成績管理  
オンデマンド授業でのテストの試み

畑田 彩

2. manabaを使った出席・成績管理

安田圭奈江

「自分をもっと効率的にやっている！」という方は  
ぜひ情報共有をお願いします。

### オンデマンド授業の出欠管理の問題点

2021年度からオンデマンド授業が開始

大部分は100名を超える大講義

教室サイズを考慮する必要がないため  
受講者制限なし（秋学期からは上限400名）

出席は課題の提出を持って代える



担当者は出欠管理、成績評価に追われることに

### 出席管理と成績管理の手順

- ①「受講者名簿」をダウンロードして、出席・成績管理用のファイルを作る。
- ②Microsoft Formsのクイズの結果を、出席・成績管理用のファイルにコピーできるように整理する。
- ③Microsoft Formsのクイズの結果を①のファイルに集約する。
- ④出席回数・クイズの総合点を関数を使って自動計算する。
- ⑤「採点入力システム」に取り込めるデータを作成する。

### オンデマンド授業の出欠管理の問題点

秋学期からは出欠管理システムへの入力は  
任意になったものの・・・

学生や保護者からの問い合わせには  
答えられるようにしなければならない

コロナ感染・ワクチン副反応のための  
欠席は別扱い

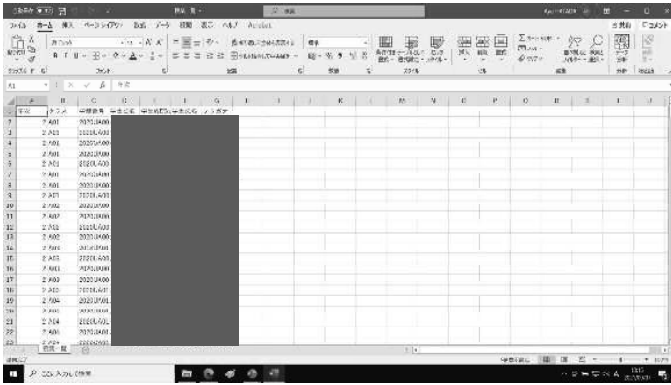
出席は課題の提出を持って代える



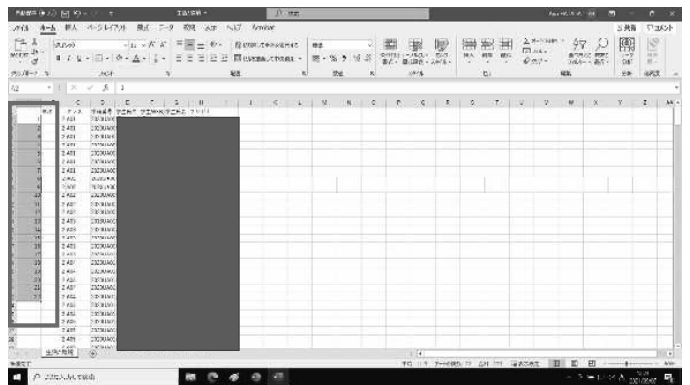
何らかの形での出席管理・成績評価は必要

### 出席管理と成績管理の手順

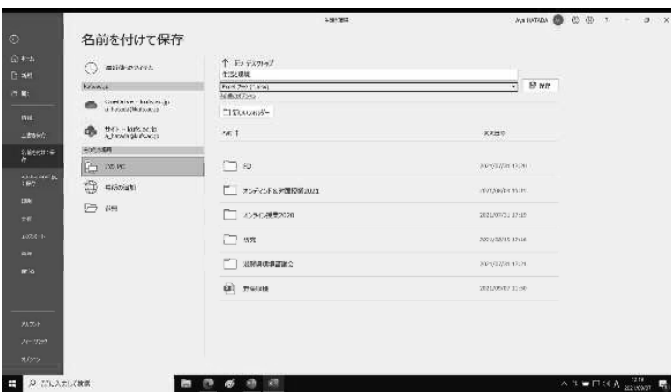
- ①「受講者名簿」をダウンロードして、出席・成績管理用のファイルを作る。
- ②Microsoft Formsのクイズの結果を、出席・成績管理用のファイルにコピーできるように整理する。
- ③Microsoft Formsのクイズの結果を①のファイルに集約する。
- ④出席回数・クイズの総合点を関数を使って自動計算する。
- ⑤「採点入力システム」に取り込めるデータを作成する。



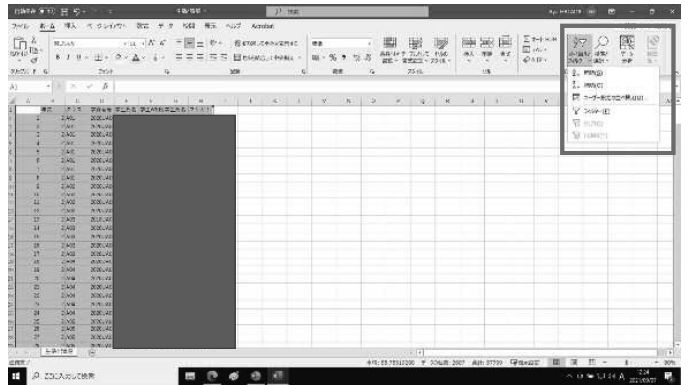
①Webcampusから受講者名簿（CSV）をダウンロード



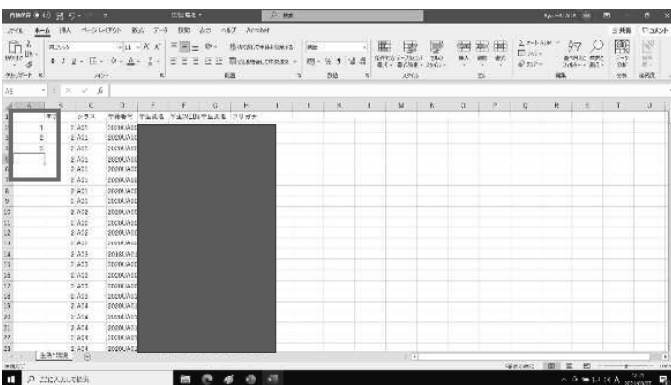
④ドラッグして通し番号をふる



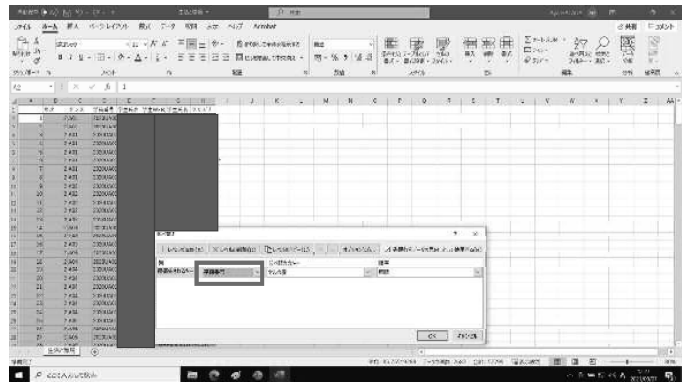
②CSVファイルをExcelファイルに変換



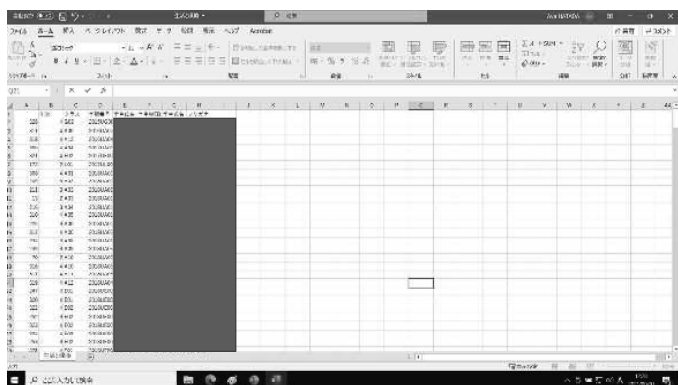
⑤列A-Hを選択して、右上の「並び替えとフィルター」をクリック、「ユーザー設定の並び替え」を選択



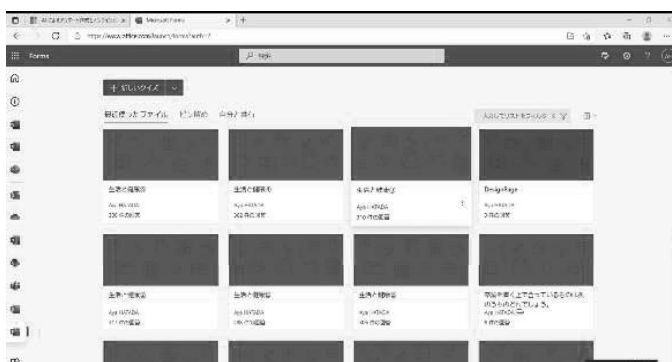
③左の列を一行挿入し、1-3まで番号を入力



⑥「最優先されるキー」で「学籍番号」を選択、「OK」をクリック



⑦学籍番号の大きい順の並びになる。



②該当のクイズを選択する

### ➤出席管理と成績管理の手順

- ①「受講者名簿」をダウンロードして、出席・成績管理用のファイルを作る。
- ②Microsoft Formsのクイズの結果を、出席・成績管理用のファイルにコピーできるように整理する。
- ③Microsoft Formsのクイズの結果を①のファイルに集約する。
- ④出席回数・クイズの総合点を関数を使って自動計算する。
- ⑤「採点入力システム」に取り込めるデータを作成する。



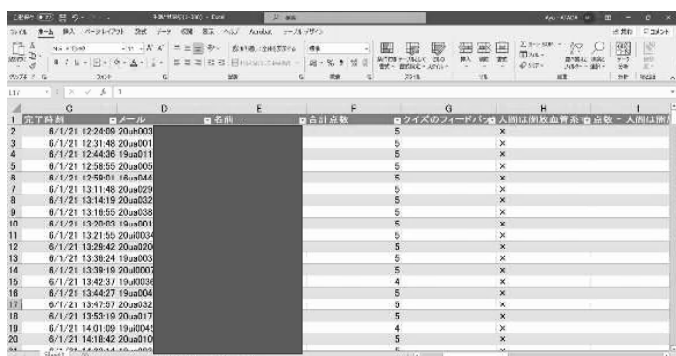
③「応答」をクリック



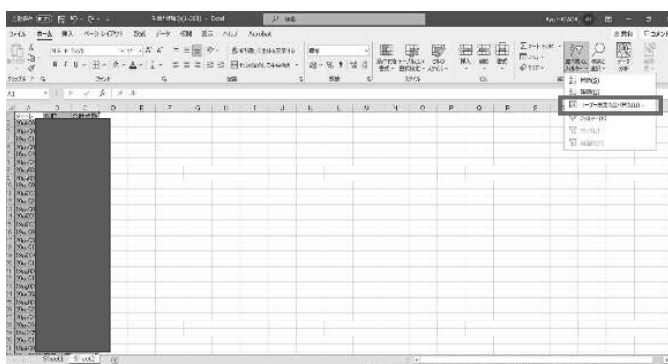
①Formsの回答を吸い上げるために、サインイン



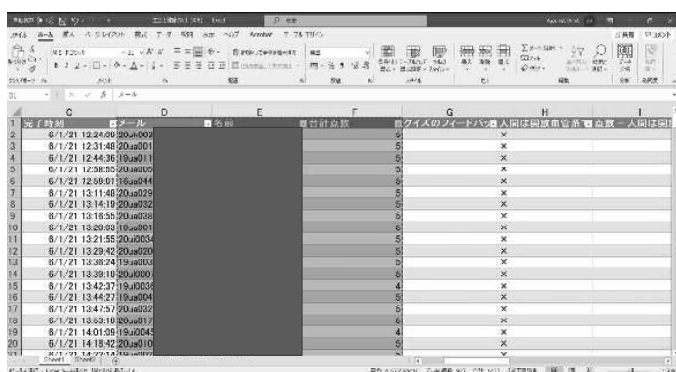
④Excelをダウンロード



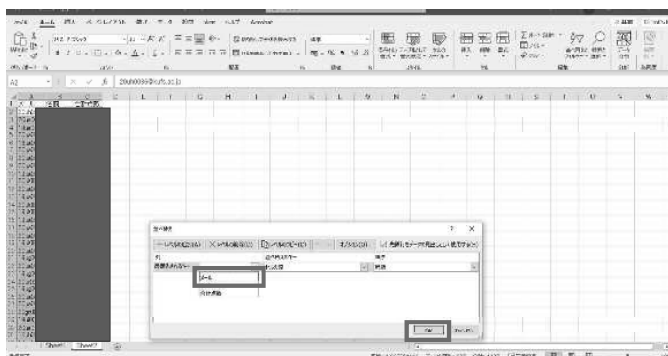
⑤ Excelを開くと、成績の一覧が出ます。



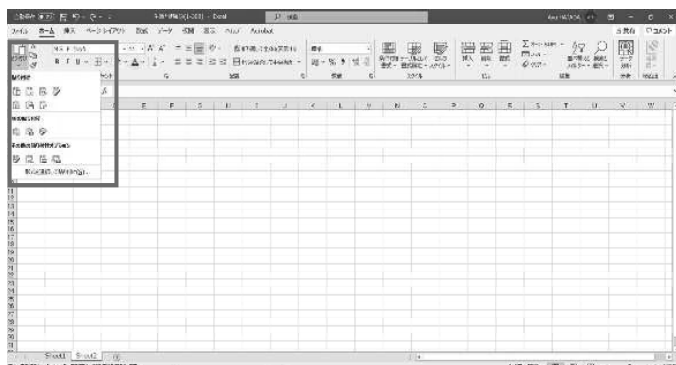
⑧列A-Cを選択して、右上の「並び替えとフィルター」をクリック、「ユーザー設定の並び替え」を選択



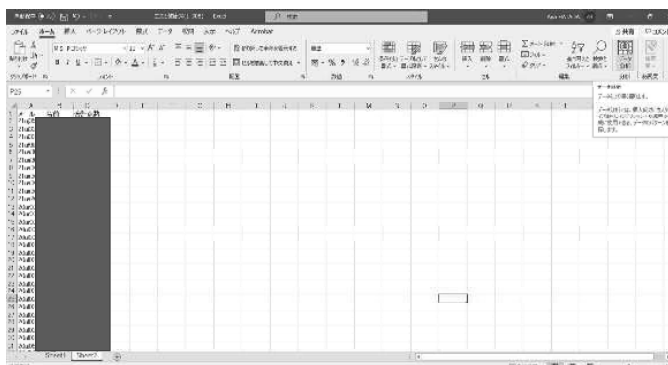
⑥「メール」「名前」「合計点数」の列をコピーする。



⑨「最優先されるキー」で「メール」を選択して、「OK」をクリックする。



⑦「Sheet2」を開き、「貼り付け」をクリック、「値」を選択する



学籍番号（メールアドレスの左から8桁）の大きい順の並びになる

## 出席管理と成績管理の手順

- ①「受講者名簿」をダウンロードして、出席・成績管理用のファイルを作る。
- ②Microsoft Formsのクイズの結果を、出席・成績管理用のファイルにコピーできるよう整理する。
- ③Microsoft Formsのクイズの結果を①のファイルに集約する。
- ④出席回数・クイズの総合点を関数を使って自動計算する。
- ⑤「採点入力システム」に取り込めるデータを作成する。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
席次	クラス	学籍番号	学生氏名	学生ID	学生氏名	フリガナ	メール	名前	合計点数	
1	328	4 602	2018U00090						5	
2	311	4 A06	2018U00224						5	
3	318	4 A12	2018U04448						5	
4	309	4 A04	2017U0152						5	
5	321	4 E32	2017U00073						5	
6	172	2 L01	2017U00002						5	
7	308	4 A01	2018U00077						5	
8	305	3 A02	2018U00073						5	
9	211	3 A03	2018U00092						5	
10	13	2 A03	2018U01105						5	
11	216	3 A04	2018U01138						5	
12	225	3 A06	2018U01194						5	
13	225	3 A06	2018U01194						5	
14	312	4 A06	2018U02029						5	
15	234	3 A08	2018U02070						5	
16	239	3 A09	2018U02070						5	
17	70	2 A10	2018U0334						5	
18	317	4 A11	2018U03376						5	
19	316	4 A12	2018U04008						5	
20	247	3 E01	2018U00007						5	
21	320	4 E01	2018U00009						5	
22	322	4 E02	2018U00049						5	
23	252	3 E02	2018U00061						5	
24	323	4 E02	2018U00062						5	
25	324	4 E02	2018U00064						5	
26	253	3 E02	2018U00071						5	
27	375	4 F01	2018U00011						5	
28	196	4 F01	2018U00016						5	

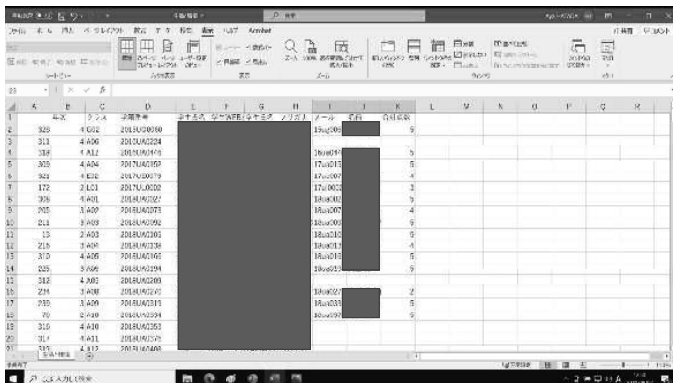
- ③学籍番号や名前を照らし合わせて、欠席だった学生の「メール」「名前」「合計点数」のセルを選択し、右クリックして「挿入」を選択。

- ①クイズのファイルの列A-Cを選択して、コピーする。

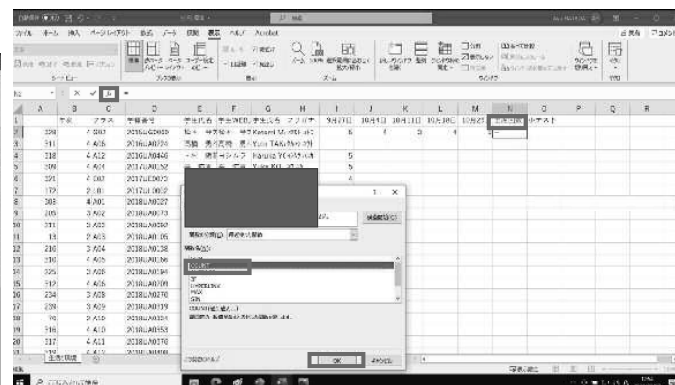
- ④「下方向にシフト」を選択。

- ②コピーした列を「出席・成績管理用ファイル」にペーストする。

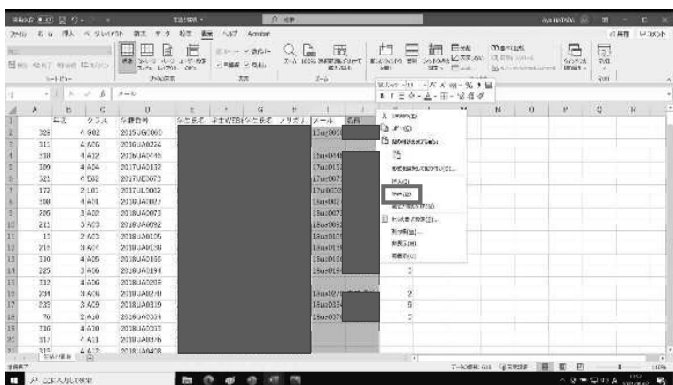
欠席者の欄を空欄にできます。



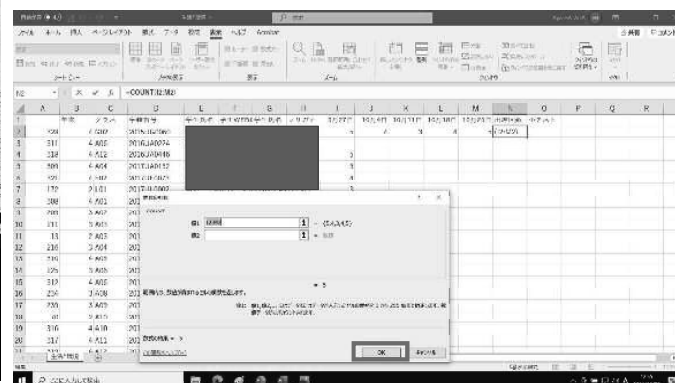
⑤これを繰り返します。



①すべてのクイズの成績が入力できたら、隣の列に「出席回数」の列を作ります。関数マークをクリックして、「COUNT」を選択し、「OK」をクリックします。



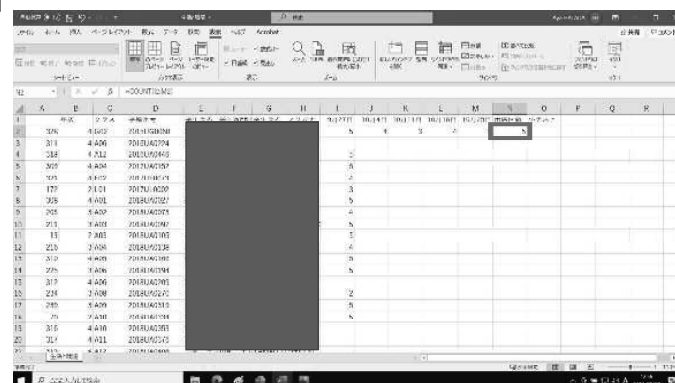
⑥最後に「メール」「名前」の列を選択し、右クリックして「削除」を選択。



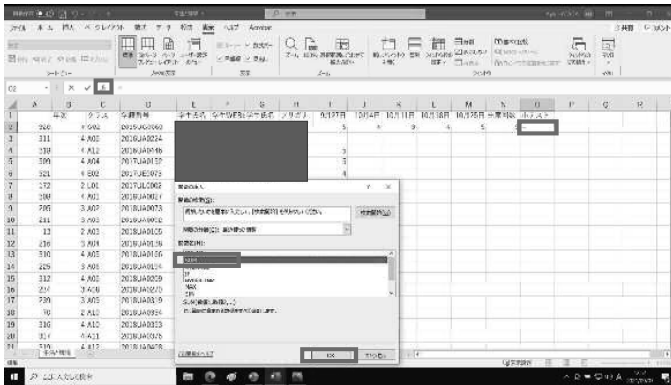
②計算範囲を指定するウィンドウです。OKをクリックします。

### ➤出席管理と成績管理の手順

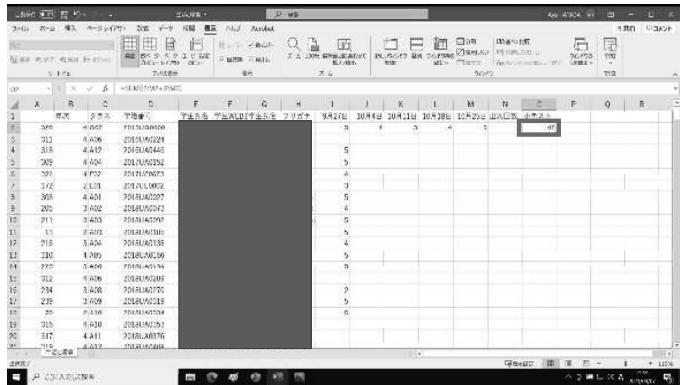
- ①「受講者名簿」をダウンロードして、出席・成績管理用のファイルを作る。
- ②Microsoft Formsのクイズの結果を、出席・成績管理用のファイルにコピーできるように整理する。
- ③Microsoft Formsのクイズの結果を①のファイルに集約する。
- ④出席回数・クイズの総合点を関数を使って自動計算する。
- ⑤「採点入力システム」に取り込めるデータを作成する。



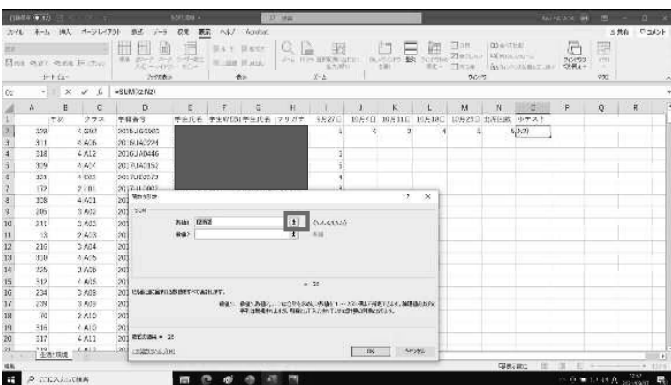
出席回数が計算できました。



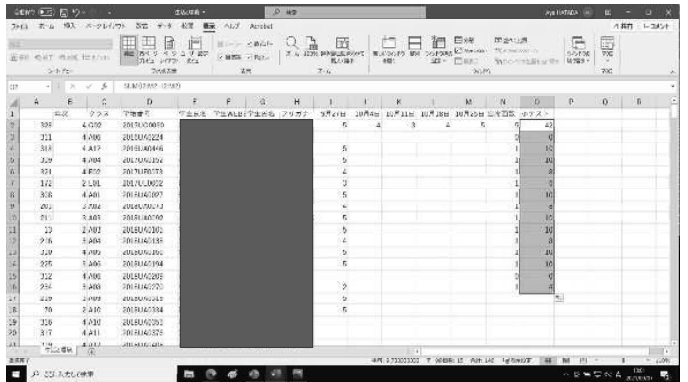
③次に小テストの合計点を計算します。「出席回数」の隣の列に「合計点」の列を作ります。関数マークをクリックして、「SUM」を選択し、「OK」をクリックします



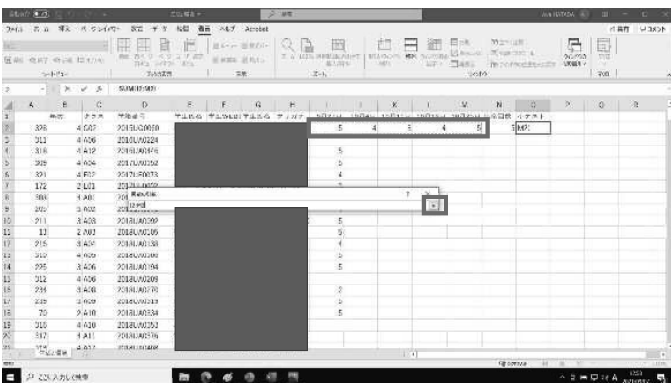
小テストの合計点が計算できました。



④計算範囲を指定するウィンドウです。今回は「出席回数」まで計算範囲に入っているので変更します。矢印をクリックします。



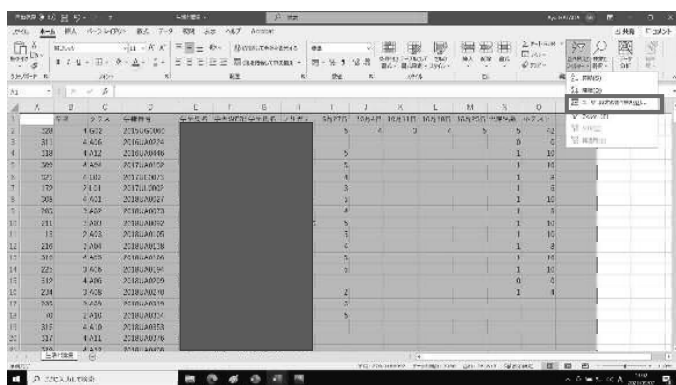
⑥通し番号をふったのと同じ要領でドラッグすると、同じ式がコピーされ、出席回数・小テストが自動計算されます。



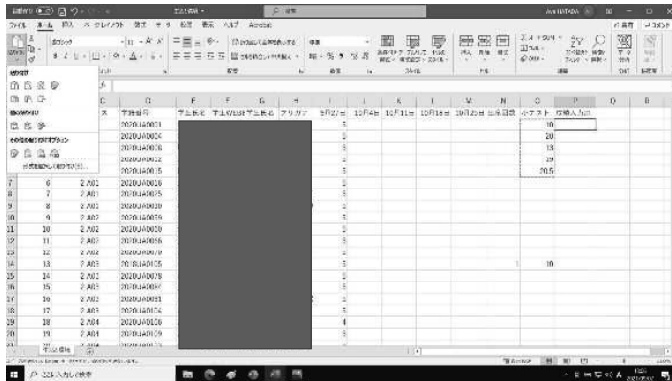
⑤計算範囲をドラッグして指定し、もう一度矢印をクリックします。

### 出席管理と成績管理の手順

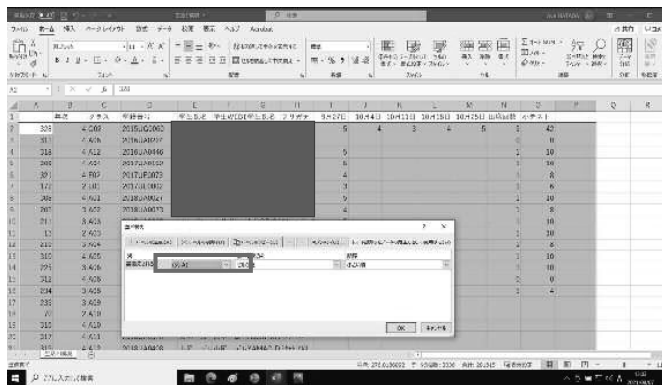
- ①「受講者名簿」をダウンロードして、出席・成績管理用のファイルを作る。
- ②Microsoft Formsのクイズの結果を、出席・成績管理用のファイルにコピーできるように整理する。
- ③Microsoft Formsのクイズの結果を①のファイルに集約する。
- ④出席回数・クイズの総合点を関数を使って自動計算する。
- ⑤「採点入力システム」に取り込めるデータを作成する。



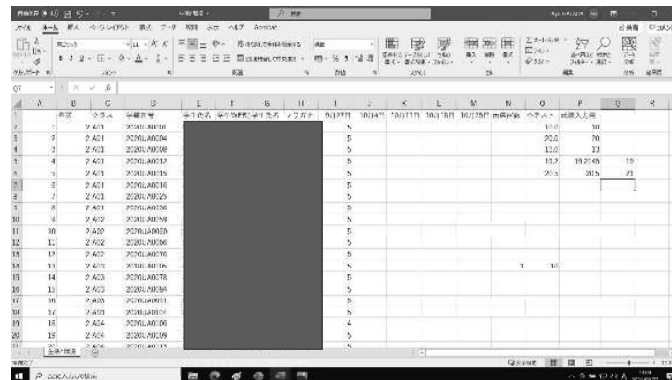
①データが入っているすべての列を選択して、右上の「並び替えとフィルター」をクリック、「ユーザー設定の並び替え」を選択する。



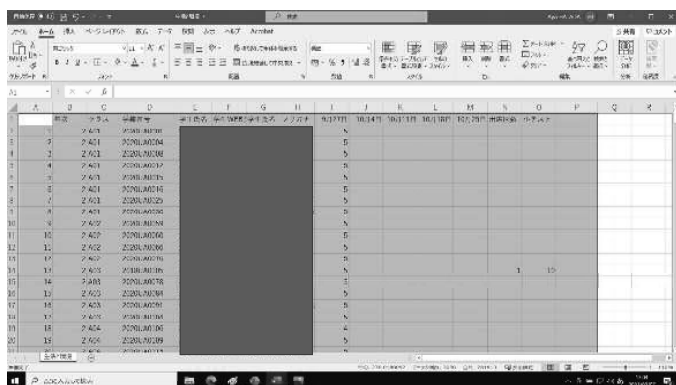
③小テストの合計点を採点入力システムに取り込むためには、関数の情報を抜いて、値だけにしなくてはなりません。小テストの点数をコピーして、隣の列に「値」でペーストします。



②「列A（通し番号の列）」を選択して「OK」をクリック。



④この場合は小数点以下の値がペーストされるので、四捨五入した整数に置き換える必要があります。



出欠管理システムの名簿順に並びなおせました。

「数的理解」での授業内テストをしました。

**テストの1週間前に以下の注意事項を周知**

- 7月22日（木）9:00に、Teamsのファイル→クラスの資料→第13回のフォルダに、問題の選択肢のみアップロードします。
- 問題文は回答入力用Formsで見ることができます。
- Formsでは分数が入力できないので、 $\frac{1}{3} \Rightarrow 1/3$ (分子/分母)と表記します。
- 試験時間は50分間です。オンラインでは時間が確認できないため、Formsを開いた時間と閉じた時間で判断します。50分を超えると、1分につき1点減点します。
- Formsは7月22日（木）の9:10に入室できるようにします。試験期間は7月27日（火）の24時までとします。
- 試験の途中でFormsを閉じてしまった、など不測の事態があっても、さまざまな時間帯に受験するみなさんに個別対応できません。いかなる理由でも一回提出した回答は修正できないので、注意してください。

➤教務部のみなさんにできたらお願いしたい（ハードルが低い順）

- ①採点入力システムの名簿の並びが、出席管理システムと違うので（編入者関連）、合わせてほしい。
- ②オンデマンド授業の受講者制限を400人からもう少し減らしてほしい。
- ③オンデマンド授業の出席管理回数を減らしてほしい。  
（毎回の課題の評価は大変）
- ④オンデマンドではなく同期型遠隔にしてほしい。

manabaを使った出席管理・成績管理

毎授業、manabaにて小テストを出題  
小テストの提出があれば「出席」  
未提出の場合は「欠席」と登録

教養教育・安田圭奈江  
ka\_yasud@kufs.ac.jp

■ 内容

1. 小テストでの出席管理方法
2. 小テスト採点方法(Excel)
3. 学期末の小テスト点数の合算(Excel)

manabaとは

- インターネットを利用した授業支援システム
  - 受講生への連絡
  - 講義資料の配布
  - レポートの出題・回収
  - 課題の出題・採点など

Webcampus

> 授業・履修関連

> manaba(授業支援システム)



1. 小テストでの出席管理方法

MS Teamsとmanabaとの比較

- MS Teams
  - リアルタイム授業に適している
  - × 時間を指定した情報発信ができない
  - × 課題の管理が困難(提出順にリスト化)
- manaba
  - 情報の公開期間を指定できる  
⇒ 情報ごとに設定が可能
  - 課題の提出状況やページへのアクセス状況を受講生ごとに確認できる

小テスト: 教員の表示画面

No.	タイトル	前提条件	期間	公開/非公開	提出	管理
1	手動採点 第2回授業 課題	-	受付終了 2021-05-06 13:50~ 2021-05-09 00:00	公開中	181名	
2	手動採点 第3回授業 課題	-	受付終了 2021-05-13 13:50~ 2021-05-16 00:00	公開中	185名	

「提出」から受講生の提出状況を把握できます

## 各テストの提出状況

個別に確認・採点    エクセルで確認・採点    > 記点設定

氏名	学籍番号	成績	提出日時	採点者	採点日時
[アイコン]	201[ ]	-		[ロウ]	-
[アイコン]	201[ ]	4点	2021-05-09 23:32:55	安田 圭亮 江	2021-05-09 21:00:06
[アイコン]	201[ ]	4点	2021-05-09 21:15:19	安田 圭亮 江	2021-05-09 21:00:06
[アイコン]	201[ ]	4点	2021-05-09 21:05:08	安田 圭亮 江	2021-05-09 21:00:06
[アイコン]	201[ ]				21:00:06
[アイコン]	201[ ]				21:00:06
[アイコン]	201[ ]				21:00:06
[アイコン]	201[ ]				21:00:06

提出日時が明記されているもの  
⇒ 「出席」

未提出 ⇒ 「欠席」

7

## 2. 小テスト採点方法

### 小テスト: 学生の表示画面

学生も自身の課題の提出状況を確認できます

8

### 小テスト採点方法

「管理」から成績管理(エクセルで採点)を選択

11

### 小テスト作成方法について

- manabaのマニュアルをご参照ください

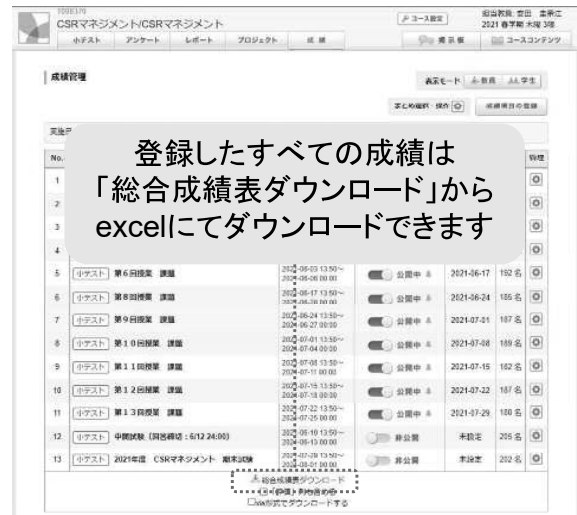
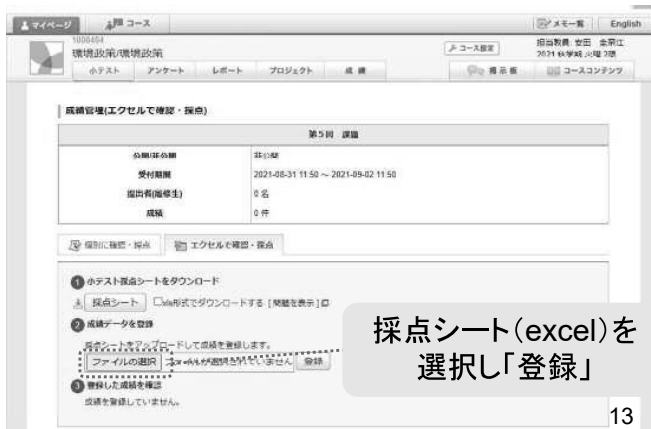
9

### 小テスト採点方法

採点シート(excel)をパソコンの任意のフォルダに保存

12

## 小テスト採点方法



## 小テスト採点方法

- 登録した成績は「成績」タブにて管理・編集  
 → 学生ごとに追加・編集することも可能  
 学生の遅延提出への対応や、別課題を出題した場合など



- 「公開」にすることで、学生が点数を確認することができます

## 3. 学期末の小テスト点数の合算

## 【日本語セッション 1b 報告】

### 夏季 FD セッション「ハイブリッドなどの授業の方法や工夫」

#### 話題提供

「KUFUS オンライン学生ポートフォリオシステム」

エリック・ハーキンソン先生（国際貢献学部グローバル観光学科）

「ハイブリッド型授業を行って気づいた点—体験談と情報の共有—」

稲垣 勉（外国語学部教養教育）

コーディネーター：畑田 彩（外国語学部教養教育）

セッション「ハイブリッドなどの授業の方法や工夫」では、エリック・ハーキンソン先生と稲垣勉先生から話題提供をしていただいた。

エリック先生からは国際貢献学部で行われている Google の機能を用いた学生のポートフォリオ作成の試みをご紹介いただいた。ポートフォリオの効果として、旅（さまざまな学修過程）の記録ができること、クラスメイトが相互に閲覧できることで達成感を共有できること、ポートフォリオの内容や作成経験が就活に役立つなど生涯学習スキルの向上につながることで、教員に学生の経験の全体像を使えられること、の 4 点が挙げられた。

稲垣先生からは、ハイブリッド授業を初めて行って気付いた、授業において注意するポイントについてご紹介いただいた。カメラをどこに向けるか、集音マイクをどこに置くか、Teams の画面共有で何を移すかに悩み、考える必要があるとのご指摘があり、対面の学生も Teams を開いてミュートにすることで、大部分は解決されるとのご説明があった。

質疑応答の時間を設けたが、特に意見が出なかつたので、ブレイクアウトルームを作り、グループで情報交換をしていただいた。あるグループでは、ハイブリッド授業に関する要望が 4 点寄せられた。一つ目は、稲垣先生の発表を受けて、教室に来ている学生も Teams を立ち上げることで、どのようなメリットがあるのか、どのような使い方をするのか、ハイブリッド授業における教室での Teams の利用方法を知りたいという要望であった。二つ目は、対面配慮申請の際に禁止事項にあったにもかかわらず、日によって（申請なく）教室に来たり、オンラインで受講したりする学生がいて対応が大変であったため、対面配慮申請の基準を厳格にしてほしいという要望であった。三つ目は、教室での授業を行うとオンラインで受講している学生への配慮が行き届かず（コメントに気が付かなかつたり、追加での課題対応が困難など）、教室にいる学生とオンラインとの両方に対応しなければならず、苦勞している、対面配慮への対応の負担を減らすための具体的な方法を提示してほしいという要望であった。四つ目は、可能であれば、語学のハイブリッド授業のノウハウを共有できるセッションをしてほしいという要望であった。全体として、非常勤の先生方は、ハイブリッド授業の運営に不安を抱えており、機器などのハード面と合わせて、研修会などソフト面のサポートが必要であると考えられた。

**ONLINE  
STUDENT  
PORTFOLIO  
PROGRAM**

**ERIC HAWKINSON**  
Department of Global Tourism

**ONBOARDING**

2018 – In class onboarding in a computer lab  
 2019 – In class onboarding in a computer lab + a tutorial video  
 2020 – Online tutorial video series  
 2021 – Online on-demand course

**Online Student Portfolio Program**

- Allow students to document their journey through our educational programs.
- Have a shareable resource of all projects, assignments, presentations, and other activities.
- Give faculty and staff a holistic picture of students' learning and experience.

**PROGRAM SUMMARY and GOALS**

**On-demand videos**

- **Why make an online portfolio?**  
<https://youtu.be/wt7HvcmayvI>
- **Using your KUPS account with Google Sites**  
[https://youtu.be/jaaHVsq\\_QkE](https://youtu.be/jaaHVsq_QkE)
- **Step-by-step guide**  
[https://youtu.be/ADRYG5\\_V0w8](https://youtu.be/ADRYG5_V0w8)

Several other videos

**Online Student Portfolio Program**

- Started in 2018
- All first-year students creating digital portfolios from
  - Department of Global Tourism
  - Department of Global Studies
- Select students from other departments

**PROGRAM SUMMARY**

**Getting Started with  
Online Learning**

TOGETHERLEARNING.COM

**TLC**  
TOGETHER LEARNING CENTER

Automated onboarding for  
online learning

218 Certificates  
generated in 2020 for  
online learning

~800 Portfolios created



## FIND A PORTFOLIO

HTTPS://  
SITES.GOOGLE.COM/  
KUFS.AC.JP/  
21GT0000

## RESTRICTIONS

NEED KUFS LOGIN

CAN'T SHARE TO PUBLIC

CAN'T COLLABORATE WITH  
NON-KUFS ACCOUNTS

## Example Portfolios

- ◆ Department of Foreign Studies  
<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/17na0074>
- ◆ Department of Global Tourism  
<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/20na0016>
- ◆ Department of Global Studies  
<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/20na0064>  
<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/20na0060>

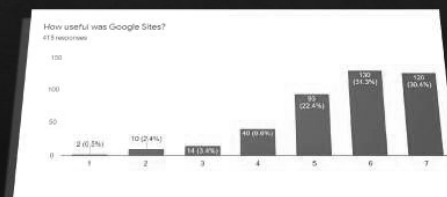
## My Portfolio

## Directory and Help

<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/myportfolio>

## Student Survey

2021/06/20-2021/07/31  
N=415



## Student Survey

2021/06/20-2021/07/31  
N=415

### Motivation

Q: Do you plan to use Google Sites to make other websites for schoolwork or projects?

A: 48.9% Yes 51.1% No

Q: Do you want to improve your portfolio to use for job hunting?

A: 72.5% Yes 27.5% No

Offer my onboarding as an on-demand course to all students

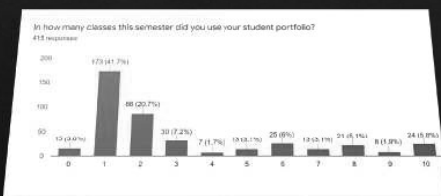
Proposal for 2024~

## Student Voices

"I love this course especially about how to make our own portfolio."

"Making portfolio was the most interesting thing in this class. But I'm not used to use pc because I bought it just a month ago. And also I'm not good at using digital devices so it was so difficult me to make it :'("

## Underutilized



## ハイブリッド型授業を行って気づいた点 — 体験談と情報の共有 —

稲垣勉（教養教育）

2021年度・夏季FD  
「ハイブリッド授業などの方法と工夫」セッション 話題提供資料  
2021/09/10

### 話題提供者（稲垣）について

- これまでの勤務校で双方向同期型、オンデマンド型の授業を経験
- 本年度より本学で初めてのハイブリッド型の授業を経験@ゼミ
- ハイブリッド型で実施した際に迷ったこと・気づいたことを話題としてお伝えします
  - 何かご助言があればぜひお願いいたします
  - また、先生方との情報交換のきっかけとなれば幸いです



### これまでの遠隔授業の経験

- 基本的に双方向同期型の授業のみ
- オンデマンドも数回程度は経験
- 受講者数は4名（ゼミ）～100名程度（講義）
  - 人数の多い科目はチャットを用いて授業中も質問や感想を受け付け、双方向同期型の授業を実施
- 外大では13名（ゼミ）～270名程度（講義）
  - ゼミのみ双方向同期型、それ以外はオンデマンドで実施
  - ハイブリッド型は未経験

### 担当ゼミ（教育・研究ゼミ）でハイブリッド型を実施

- 緊急事態宣言対応のため、全14回のうち13回は双方向同期型で実施
  - 他の科目もオンデマンドだったため、春学期に担当した授業の受講者で、実際に会えたのはそれまでわずか2人
  - ゼミの受講者からは「対面でやってほしい」という声も
- 最終回のみハイブリッド型（対面+配慮：同期型）を試みに実施
  - 希望者のみ教室（R871）に来てもらうよう指示
  - 13名中、5名が教室で受講
  - 残りの8名はTeamsで受講

### 通常のゼミ（双方向同期型）の進め方

- 毎回3名の学生が発表
  - 興味のある論文を読み、まとめてきたものを発表する形式
  - 資料は事前にTeamsにアップ・各自印刷、当日に画面共有
  - 質疑はチャットや直接の発言で共有
- 当初の考えと行動
  - 上記をハイブリッドでも同様にやればきっと大丈夫（ではなかった）
  - 遠隔授業の説明会動画を確認し、当日は少し早めに教室に行き設定

### 当日、教室（R871）で考えたこと、出した指示

- この状況下なので、学生と教員が1箇所（□の島）に固まるのは避けたい
  - 教室内に適度の距離をもって学生には着席してもらい、教員は教卓でゼミを開始
- （当初は）ハウリングするのでは？という懸念があり、教室に来た学生にはTeamsの立ち上げは不要と指示
  - 教室の受講者には印刷した資料を配布（オンラインの受講者は普段どおりTeamsからダウンロードして閲覧可能にしておくよう指示）

### 迷ったこと・気づいたこと①カメラをどこに向ける？

- ・教員？教室内？
  - 自分だけ映っていても仕方ない
  - 教室を映そうにも、学生が散っているので何が映っているかよくわからない
- ・ひとまず教室の方に向け、映ろうと思えば教員が入れるくらいの位置で開始
  - スクリーン（と、Teamsの受講者の画面）には、誰か判別できないくらい遠くにいるゼミ生と、時々私が横から入り込んでくるというよく分からない構図が映し出される



### 迷ったこと・気づいたこと③画面に何を映す？

- ・発表資料は事前に共有しているので、画面に映す資料は特でない
- ・当日も（双方向同期時と同様に）発表資料を画面共有していた
  - しかし、教室の学生には紙媒体を配布したのでほぼ意味がない
- ・いちおう・・・
  - 教室の学生にはTeamsを立ち上げないよう指示していたので、オンラインの学生が発言する際などはスクリーンを見る意味はある
  - オンラインで受講している学生には（印刷していないなどの事情があれば）意味はある



### 迷ったこと・気づいたこと②マイクはどこに置く？

- ・R871のような小さい部屋はマイクは1つ（今後は改善予定とのこと）
- ・教室で散っている学生に何か話してもらう際は、マイク周辺に来てもらう必要がある（と当日は考えていた）
- ・事前に、教室の学生に少し離れた箇所が発言してもらい、オンライン受講の学生にも聞こえるかチェック
  - いちおう聞こえたので、そのまま開始
  - しかし遠くの学生の声は聞こえなかったので、教員が教室の学生の意見を聞いてマイクに向けて再度話すという無駄が発生



### ③への対処（後から気づいた点）

- ・これも、教室の学生にもTeamsを立ち上げてミュートにして参加してもらえばよいのでは
- ・教室では、受講者のPC画面がとて小さいなどの場合を除き、わざわざスクリーンを見てもらう必要はない
- ・スクリーンを使うことに固執する必要は（私の授業では）なかった



### ①②への対処（後から気づいた点）

- ・教室の学生にもTeamsを立ち上げてミュートにして参加してもらえば解決できるのでは
- ・教室設置のカメラは教員に向けておき、教室の学生は発言時だけミュートを外して話してもらえば、発言者も見えないハウリングも起きない



### ハイブリッド型授業を経験して気づいたこと

- ・ハイブリッド型の授業でも、教室に来ている学生にTeamsを立ち上げておいてもらうことは有用
  - ※デメリットもあるかもしれませんが。お気づきの点をご指摘ください
- ・慣れている先生には「当たり前」のことかもしれませんが
- ・ハイブリッドを今後初めて担当される先生、私と同じようなところで困った・悩まれた先生のお役に立てば幸いです
- ・スライドに示した「対処」にも穴があるかもしれませんが
- ・お気づきの点やご助言をいただける点がありましたら、ぜひお願いいたします

## 最後に：学生に教室に来てもらうこと

- 個人的な感想としては、「直接会って話せることはやはり重要」
  - こちらの発言が「しっくりきているのか否か」が感じ取りやすい
  - 授業前後の相談も対応可能，研究室の書籍を貸すなどの支援も可能
- 状況が好転し，これまでの日常（に近いもの）が戻ってくる日を待ち望んでいます

\*ありがとうございました\*

13

## 【日本語セッション2 報告】

### 言語能力を高めるための授業方法と工夫

話題提供者：竹下 ルッジェリ・アンナ先生 (FD 委員)

岐部 雅之先生

司会：森 篤嗣委員長

#### 1. セッション2の要旨

竹下 ルッジェリ・アンナ (イタリア語学科)

慣用句は外国語の学習において極めて重要である。どの言語でも慣用句は、複数の語で構成され、全体の意味が字義通りではなく、比喩的な意味をもつ表現であることからその学習、そして教え方は簡単ではない。外国語を学ぶ際には、慣用句を知るか知らないかでは、理解能力において差がつく。本発表では、特にイタリア語会話の授業およびイタリア語作文の授業での学習方法について提案等を紹介したい。

岐部 雅之 (ブラジルポルトガル語学科)

外国語の文章を読解する上で辞書は欠かせない道具のひとつであるが、学生の日本語訳の中には文脈を考慮せずに「辞書の訳語」をそのまま使う例が少なくない。そこで、訳読の授業では事前に集めて添削した一部の学生の日本語訳を受講者全員で共有し、「辞書の訳語」にこだわらない個性的な翻訳への面白さを感じてもらおうよう試みた。本発表では、文学作品の翻訳における授業方法や気づきの点を紹介し、今後の工夫につなげたい。

#### 2. 話題提供 (竹下 ルッジェリ・アンナ先生)

イタリア語教育において慣用句の指導を効果的におこなう方法についてご紹介いただいた。

- 慣用句は会話に頻出するだけでなく、歴史・文化的な背景や由来もあり、語学教育に有効である。
- はじめに「愚かである」を意味する慣用句「Avere poco sale in zucca (カボチャの中に塩があまりない)」をイラストによって印象づける例を紹介。
- 竹下 ルッジェリ・アンナ・秋山美野(2021)『よく使うイタリア語の慣用句 1100』白水社を紹介。
- 本書では「動物」「食べ物・飲み物」「人の身体」「衣服」「宗教・神話」「文字・数・色」という6つのカテゴリーに慣用句を分けている。

- 「会話の授業」の提案として、「学生に慣用句のみを紹介する」→「クイズ式で意味を宛てさせる」→「日本語や他の言語に同じ意味の慣用句があるか考察させる」→「例文を作らせる」という手順を提案。
- 「作文の授業」の提案として、「学生に慣用句のみを紹介する」→「様々な筆記の練習をさせる」→「学習した慣用句を作文に利用させる」という手順を紹介。さらに「力だめし」テストで理解度を確認する。
- 学内共同研究の可能性の提案として、複数の外国語に共通する慣用句を調べ、授業用の教材等を作成するという案も出された。

#### 【質疑応答】

大越先生：ヨーロッパ言語の起源や由来を考えさせることも面白い。また、ヨーロッパ言語には聖書を題材にしたことわざも多いので、学生は聖書の内容についても学ぶ必要があるのではないか。

竹下先生：確かにヨーロッパ言語の共通性に注目することや、聖書の例を参照することは重要だと思う。宗教関連の慣用句を学ばせる時に、聖書などを引用し、覚えてもらうようにしている。

### 3. 話題提供（岐部雅之先生）

文学作品の訳読の授業において、具体的にどのような手順で発表をさせ、教師が添削をしているのかという方法をご紹介いただいた。

- 文学作品の翻訳をする際に、辞書や機械翻訳に頼りすぎ、訳した本人ですらわからない日本語の語彙や漢字を使用しているのが現状。
- そこで、類語事典を活用し、文脈を考慮した訳語を選択させるという試みや、画像・動画検索、ネイティブ向けオンライン辞典などを利用し、「読み応えのある」日本語訳を目指す方法を紹介する。
- 授業方法として、学期中 1 回以上は予習担当者として事前に日本語訳を提出させる。そして添削した後、Teams で事前に PDF を共有し、授業では添削理由や読解のポイントを説明する。
- 授業の工夫として、「訳文の表記にこだわる」、「翻訳に唯一の正解を求めない」、「オンラインで発言しにくい学生ともコミュニケーション」の三点が挙げられた（学生の日本語訳の具体例と添削例は PPT 参照のこと）。
- 評価方法として、「物語内で起こった出来事などについて日本語で記述」させることにより、配布される日本語訳だけで安心していた学生が苦戦するように工夫。文法問題としては、「短文の一部書き換え」をさせる。

【質疑応答】

花本先生：授業担当者の準備が大変ではないか。学生数がどれぐらいいたかと、どれくらい添削に時間がかかるか教えてほしい。

岐部先生：5人から30人。予習担当（回収する日本語訳）は各回3つが限界で、1つの場合もある。添削は大変だが、授業の予習の範囲内で済ませるようにしている。

金子先生：テキストについて、伝統的な文学作品だけではなく、もう少し学生が興味を持つようなジャンルの選定も必要ではないか。また、ジャンルを変えることで文体の違いについても学ぶことができるのではないか。

岐部先生：異なる授業の場合にはジャンルは変えているが、同一授業内では比較をするために基本的に同一ジャンルの作品を用いている。

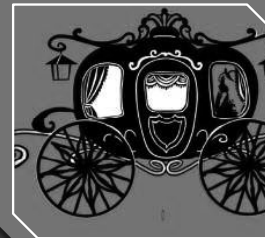
金子先生：授業中、予習担当者以外の学生が学ぶための工夫はあるか。

岐部先生：予習担当者以外の学生に質問を振るなどして、緊張感を保つようにしている。

## 言語能力を育成するための慣用句の学習 —イタリア語会話および作文における授業方法の提案—

竹下 ルッジェリ・アンナ  
Anna RUGGERI TAKESHITA  
(イタリア語学科)

夏季FD2021



SALE 塩 ZUCCA カボチャ

### Avere poco sale in zucca

- ・「カボチャの中に塩があまりない」
- ・昔の家では、乾燥したカボチャの中に塩を保存していた。キリスト教では塩は知恵を象徴し、カボチャは滑稽な言い方で人の頭を指す。“Avere poco sale in zucca”は「愚かである」を意味する慣用句である。

\*<https://ameblo.jp/sazendohanataha/entry-12597792.html>

## なぜ慣用句の学習

- ・ 慣用句が外国語の学習において極めて重要である。どの言語でも慣用句は、複数の語で構成され、全体の意味が字義通りではなく、比喩的な意味をもつ表現である。
- ・ 日本語にも「犬猿の仲」「首を長くする」「腹が立つ」「大根役者」などの言い回しがある。たとえば「馬が合う」は実際には馬が出てくるわけではなく、馬と乗り手の呼吸が合うように、相手と気持ちが通じ合うという意味のたとえであることは、よく知られている。
- ・ 外国語を学ぶ際には、慣用句を知るか知らなかでは、理解能力において差がつく。

## しかし、外国語の慣用句の学習、そしてその教え方は簡単ではない。

どのように学べば、そしてどのように教えれば良いのか？

## イタリア語の慣用句 *Espressioni idiomatiche*

- ・ イタリア語の場合には、慣用句は主に会話で使用される。
- ・ イタリア語を学ぶ学生にとって、ネイティブの話を理解するため、またネイティブならではのイタリア語に近づくための有効な手段でもある。
- ・ しかし、会話だけではなく、新聞や小説などでもよく使われるので、イタリア語の読解にも役立つ。
- ・ 慣用句は、使用される場面や文脈が鍵となる。ほとんどの慣用句には歴史・文化的な背景や由来があるので、それらを知ることによってイタリア人のセンスや考え方をかいま見ることが出来る。

## 本発表のきっかけ

- ・ 2021年9月に出版される『よく使うイタリア語の慣用句 1100』竹下 ルッジェリ・アンナ、秋山美野 (白水社)。
- ・ この本のはじまりは著者のふたりの出会いにある。
- ・ 京都外国語大学の大学院の授業（イタリア語コミュニケーション研究2）を担当していた発表者のところに、大学院生として秋山美野氏が受講した。発表者が長年思いを巡らせていた本の計画と秋山氏の研究分野が合致し、数年後一緒に本書を執筆する運びとなった。

『よく使うイタリア語の慣用句1100』  
竹下 ルジエリ・アンナ、秋山美野 (白水社、2021年9月)



## 授業での慣用句の教え方： 授業方法の提案

- ① 会話の授業
- ② 作文の授業

### 本書の構造



慣用句の分類	章の分け方
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本書では、使われている単語によってテーマ別で表現を解説し、6つの章に分け、約1100の慣用句を紹介している。</li> <li>• 各章の中では、さらに表現の中で使用される単語別に慣用句をまとめている。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「動物」</li> <li>2. 「食べ物・飲み物」</li> <li>3. 「人の身体」</li> <li>4. 「衣服」</li> <li>5. 「宗教・神話」</li> <li>6. 「文字・数・色など」</li> </ol>

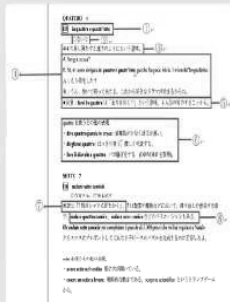
### ① 会話の授業

学年：2年～4年 (A2～B2)

- パターン A
  - ◆ 学生に慣用句のみを紹介する。
  - ◆ クイズで意味を当てさせる。
  - ◆ 自分の言語とイタリア語以外の他の外国語に同じ意味の慣用句があるかどうか考察させる。
  - ◆ 最後に意味を説明し、例文を紹介する。
  - ◆ 3年生、4年生の場合には、例文を作らせる。
  - ◆ 慣用句を暗記させるために、短いストーリーを作成させることは役に立つ（「前記の「かぼちゃの馬車」を参照）。ヒントはJames Heisig氏の*Remembering the Kanji*の方法論にある。（James HEISIG, *Remembering the Kanji*, University of Hawaii, 2011, 6th edition; 伊訳はAnna Ruggeri訳の*Per ricordare i kanji*, 2015.）
- パターン B
  - ◆ “GAMIFICATION”を利用する。（例 1～3を参照）

### 本書の使い方

1. イタリア語の表現
2. 日本語での意味 日本語で同じ意味の慣用句があればそれを入れた。
3. 慣用句の由来と解説 可能な限り入れたが、ないものもある。
4. 例文 できるだけ実用的な例文を選んだ。原則一つの例文を挙げるが、複数の意味や用法がある場合、理解を助けるために複数の例文を用意した。さらに深めたい方は参考文類に関する書籍を参考することがある。
5. 注意・関連表現 意味や用法が異なる表現を示す。「関連表現」にはよく使われる表現などを紹介している。
6. 同じ単語を使うその他の表現 よく使われるが紹介し切れなかった表現をピックアップ。
7. 直訳 可能な限り字義通りの意味を入れている。
8. ハリエーション 同じ意味の表現を紹介している。



### GAMIFICATION (伊: gamificare)

英語の game から作られた新語である。ゲームを利用し、楽しく活動させ、楽しく学ばせる学習方法である。



www.educationcorner.com



### 例 1: Avere la lingua lunga

- ◆ LINGUA 舌
- ◆ 口が軽い、おしゃべりな人である
- ◆ 直訳は「長い舌を持つ」。

A: Non avrei dovuto parlare con la zia Marta. È andata subito a spifferare tutto a mia madre.

B: Perché lo hai fatto? Lo sanno tutti che **hai la lingua lunga**.

A: マルタ叔母さんに相談するんじゃなかった。直ぐに母にしゃべっちゃったよ。

B: どうしてそんなことしたの? 口が軽いつて分かっているでしょう。

\* 絵は *Idiomando* (Michele LENZERINI, 2016) より

## ② 作文の授業

学年：3年～4年 (B1～B2)

- ◆ 学生に慣用句のみを紹介する。
- ◆ 様々な筆記の練習をさせる (力だめし)。
- ◆ 学習した慣用句を作文に利用させる。

- ◆ 「力だめし」の例
  - > A.
  - > B.
  - > C.



### 例 2: Essere al verde

- ◆ VERDE 緑
- ◆ (財産などを全て使い果たして) 一文無しになる
- ◆ 由来は二説ある。昔のロウソクは底が緑色で、尽きそうになると緑が浮き上がってくるからという説。もう一つは、金庫の内装や財布の裏地が緑色であったため、緑が見えることはお金がなくなってきたことの象徴だという説。ridursi al verde, rimanere al verdeとも言う。

Ieri ho offerto la cena a Timoteo, perché **era al verde**.  
昨日はティモテオが一文無しだったので夕食をおごった。

\* 絵は *Idiomando* (Michele LENZERINI, 2016) より

## 力だめし

A. 次の下線を正しい慣用句で完成させましょう。

Non riesco a risparmiare, perché appena ricevo lo stipendio lo spendo quasi tutto in cene e compere. \_\_\_\_\_ !

- ① Ho la testa fra le nuvole
- ② Ho i piedi per terra
- ③ Ho la faccia di bronzo
- ④ Ho le mani bucate
- ⑤ Ho la puzza sotto al naso



### 例 3: Prendere un granchio

- ◆ GRANCHIO カニ
- ◆ (油断をして) へまをする、勘違いする
- ◆ 直訳は「カニを捕まえる」。カニは甲殻類の中で価値が低いことに由来。pigliare un granchio per gambero (カニとエビを間違える) という古い言い方から派生した表現。prendere un granchio a seccoも同じ意味。

Pensavo fosse stata Beatrice a prendere uno dei miei libri dallo scaffale senza dirmi niente, ma **ho preso un granchio**. È stato Antonio.

朝から私の本を勝手に取ったのはベアトリッチェかと思っただけで、勘違いだった。アントーニオだった。

\* 絵は *Idiomando* (Michele LENZERINI, 2016) より

B. 次の下線部の空欄を正しい慣用句で完成させましょう。

“Il copione è più o meno sempre lo stesso: soldi per \_\_\_\_\_ su pretestuose irregolarità. Anche stavolta la lentezza della procura finisce su un quartiere centrale della capitale, San Lorenzo. Dove un gruppetto di vigili urbani del secondo gruppo è finito indagato con l'accusa di aver chiesto mazzette ad alcuni ristoratori per eludere i controlli amministrativi.” (Adattato da “Pizzo a tavola. Indagati quattro vigili”, *la Repubblica*, 05/09/2019)

- ① avere l'acqua alla gola
- ② avere il dente avvelenato
- ③ chiudere un occhio
- ④ non credere ai propri occhi
- ⑤ avere la lingua lunga

C. 左の文脈の例と右の慣用句を正しく組み合わせましょう。

**文脈シチュエーション**

1. Quando si è in una situazione molto difficile
2. Quando si finge di non vedere un errore o una mancanza
3. Quando si è arrabbiati con qualcuno
4. Quando si è senza vergogna
5. Quando si è realisti

**慣用句**

- a. avere il dente avvelenato
- b. avere i piedi per terra
- c. avere l'acqua alla gola
- d. chiudere un occhio
- e. avere la faccia di bronzo

(正解 → A: ① Ho le mani bucate ; B: ③ chiudere un occhio; C: 1. c., 2. d., 3. a., 4. e., 5. b.)

## 学内共同研究の可能性について

• 他の外国語と共通の慣用句を調べ、授業用の教材等を作成する。

- ◆ ぎょつとする、ソツとする (直訳は「髪の毛を真っ直ぐにさせる」)

伊 : Fare rizzare i capelli in testa.

仏 : Faire dresser les cheveux.

西 : Hacer crizar los cabellos. (Poner los pelos de punta)

独 : Die Haare steigen mir zu Berge.

英 : To make one's hair stand on end.

等

(Augusto ARTHABER, *Dizionario comparato di proverbi e modi di dire*, Hoepli, 1989, p. )

**GRAZIE!**

## 「辞書の訳語」にこだわらない 文学作品の翻訳 —授業方法と工夫—

岐部雅之（きべまさゆき）  
ブラジルポルトガル語学科  
2021年9月10日（金）

## 2. 授業方法と工夫

### 《授業方法》

- 学期中に1回以上は予習担当者として事前に提出
- 添削したあと、Teamsで事前にPDF共有（教室内で配布）
- 添削理由と読解のポイントを説明

### 《工夫》

- 訳文の表記（漢字&カタカナ&ひらがな、ルビ）
- 翻訳に「唯一の正解」を求めることへの反省
- オンラインで発言しにくい学生ともコミュニケーション

### 《概要》

#### 1. 訳読の授業の現状と目標設定

- 辞書の訳語と講師の訳例
- 各学生の個性的な翻訳（日本語の表現）

#### 2. 授業方法と工夫

- 添削済みの日本語訳を受講者全員で共有
- 予習担当者+そのほかの受講者とのコミュニケーション

#### 3. 評価方法（筆記試験）

- 講読テキストの内容理解、文法問題（教材持ち込み可）

### 学生の日本語訳（例1）

先生が紙をもつ。教授すと、①は質問をした。  
「先生、死んだ②も描くの？」  
先生は彼を見て困惑した。ウレホレいさあゆい？  
「③、生きている人だけ描くのよ。」  
彼が描き終えると、先生は紙をセロハンテープで貼り、そして大家族は完成した。少年は幸せで、自由で、賢く、うぶで、行儀がよく愛情深い、不安な目で、先生が④ことやることを見ていた。  
ある日、女の子の児童が先生にお花を持ってきた。そして先生は言った。  
「お花大好き。私が住んでいる家には植物がいっぱいある⑤。春になったら、お庭がお花で飾られて奇麗になる⑥！」  
¡así dice!  
何日か経ったある日、少年は背中に持ってきたプレゼントを隠しながら言った。  
「⑦あ、先生にお花持ってきたよ。」お花は心地よい⑧の振りを放ち、それが先生を助ます。

### 1. 訳読の授業の現状と目標設定

#### 《現状》

- 辞書の訳語のみ
- 機械翻訳に頼り、本人すら分からない語彙・漢字の使用

#### 《目標設定》

- 文脈を考慮した訳語の選択（類語辞典）
- 画像・動画検索、オンライン辞典（ネイティブ向け）の利用
- ※「読み応えのある」日本語訳（翻訳）を目指す

### 学生の日本語訳（例2）

①「みません！」と界で大声で呼んだ。  
②外だよ！とその大工は答えた。  
③してドアが開かれた。men amigo  
④入って、私の友達！家の主が言った。  
⑤ここでは、近所で悪ふざけをすることでよく知られた、おさるのフェリスベルトがいました。  
⑥こんばんは、ポテリョさんとそのお猿は言った。  
⑦止まないこの雨の中、遠くから来たんだよ、本当に遅くから。なんてtempo  
さんの家を訪問してきて、私を泊めてくれる人はいないんだよ。それであなたを思い出したんだ。  
⑧もちろんです、お猿のフェリスベルトさんとその大工は答えました。  
⑨その家はあなたのです。ただこれと同じような部屋はありますが、天気が悪くなるまで、ここに泊まっていますよ。  
mesmo tempo

### 学生の日本語訳（例3）

外はすでに暗く、中庭からベランダに蚊が集まり出していた。彼が食事を終えた後、リリーはテーブルの下で丸くなってしまった。彼女が議論の的になったとき、彼女は庭の生垣の下に潜り込み姿を消した。奇妙な行動だったが、彼女はいつも食事を終えるとすぐに何処かへ立ち去るのだった。稲子は黙って立ち上がり台所へ向かった。庄造は虫除けを探して持ってきてちゃぶ台の下に置いた。

### 3. 評価方法（筆記試験）

《講読テキストの内容理解》

- 物語内で起こった出来事などについて日本語で記述
  - ⇒ 予習をせず配布される日本語訳で安心していた学生は苦戦
  - ⇒ 持ち込み可でも白紙回答

《文法問題》

- 短文の一部の書き換え
  - (例) O menino apareceu com o vaso lindo.
    - ⇒ meninoをmeninasに、vasoをpedrasにする。
  - (正答) As meninas apareceram com as pedras lindas.

## 【日本語セッション3 報告】

### 専門性を高めるための授業方法と工夫

話題提供者：森篤嗣（日本語学科、FD 委員長）

司会：竹下 ルッジェリ・アンナ（イタリア語学科、FD 副委員長）

#### 1. セッション3の要旨

木沢誠名（グローバル観光学科・非常勤）

マーケティング手法を用いたインバウンド・リピーター向け着地型観光商品の企画と発表。大学生の旅行商品企画といえば、「私が見つけた〇〇」のような、主観価値に基づくものが多いが、実際の業界ではマーケティング性がなければ通用しない。その理論と実践を取り入れる。

森篤嗣（日本語学科）

国語科教員養成における作文評価ワークショップを取り上げる。中学校国語科教科書にある作文課題を与えてから、相互評価を宿題にする。その際に「評価の観点」を3つ自分で考えて定め、5段階評価することを課す。作文評価においては、妥当な評価の観点を設定できることが不可欠だからである。講評では他者の評価観点を吟味すると共に、各評価者による評価点の平均値と標準偏差を示し、評価が甘すぎる点やメリハリが不十分である点をフィードバックする。

#### 2. 話題提供（木沢先生）

当日欠席

#### 3. 話題提供（森先生）

日本語教師の養成、つまり中高の国語教師を育てるための「国語教育法」という授業を担当していらっしゃる森先生は、今回、国語教育法1(春学期)という授業において実践したことについて紹介していただき、特に作文評価を取り上げていただいた。

- \* 授業の構成は3時間である（1時間目は講義、2・3時間目は課題用の時間）。
- \* 1時間目では、中高国語科における作文教育について解説する。最も重要な点は次の通りである。1) 明確な評価基準の設定；2) 評価基準に客観性を担保すること；3) 減点法より加点法で；4) 内容と構成の評価のバランス；5) 引用の方法。そして、600～800字の批評文を宿題にする（中3教材）。実際の学生の批評文の例を紹介（813字）。
- \* 2時間目では、収集した批評文を全員（約20名）に配布し、学生に「中学校国語教師として、これらの批評文にオリジナルな3つの評価基準を設定し、各5点計15点で採点してください」と要求する。そのとき、「全体の平均点の調整」や「何が達成されていたら

○点か」などに言及しない。課題だけの時間になる。

- \* 3時間目では、全員（約20名）から批評文の評価（各5点計15点）を収集する。フィードバックを次の二つの観点からおこなう：1）設定した評価基準の妥当性と信頼性；2）自身の評価の平均（甘すぎないか）と標準偏差（メリハリがあるか）。実際の評価基準の例および評価点の平均値と標準偏差を紹介。
- \* まとめとしては、外国人に対する日本語教育とは異なり、国語教育としては中高生の課題に取り組みさせることが授業である。さらに、国語教育法なので「教師の観点」を考えさせ、教師の評価基準は、そのまま指導の要点でもあることに気付かせることはポイントになる。また、教師の評価基準は、そのまま指導の要点でもあることに気付かせることが欠かせない。

#### 【質疑応答】

竹下先生：授業での学生の反応はいかがであろうか。

森先生：実際に教職課程を履修する学生が少なくて（20人～5人）、最終的には教員採用試験を受ける学生は1～2人ぐらいになってしまう。従って、教職にかけるモチベーションは必ずしも高くない。しかし、一般的に評価というものを理解するためのワークショップにしている。

布施先生：一回生の基礎ゼミを担当し、特に一段落について悩んでいる。ゼミでは、400字以内で一段落を切りなさいと要求する。そうでないと、減点することになる。最近、段落なしの書く学生が多い。学生は難しいというので、森先生は段落についてどう指導をなさっているのか。

森先生：最初と最後の段落は短くてもいいが、中の部分は大体30字ぐらいになる。800字の作文を中学生に書かせる場合には、「はじめ」と「おわり」の段落は短い方が読みやすいので、こういう指導することが多い。空手の型と同じように、文章を書く経験があまりない学生にまず作文の「型」を教えた方がいいと思う。この場合には型は段落である。

住田先生：ポルトガル語教育法を担当しているが、ポルトガル語の教師になる学生がほとんどいなくて、英語教師になっていくのである。具体的な学生の指導の仕方が参考になった。いかに自ら外国語を学ぶということではなく、いかに学生たちに興味をもたせて学ばせるか、その教育方法を考えなさいとよく学生に伝えている。森先生は国語を学生たちにいかに教えるということについて具体的な説明をなさったので、興味深かった。質問であるが、小学校の教師を目指す学生の場合に、京都外国語大学の免許をあたえる資格という制度が整っているのか。

森先生：小学校の場合は、佛教大学と連携して開講している京都外国語大学の小学校教諭免許状取得支援プログラムを利用すれば、取れる。ただ、別途費用がかかり、必要な単位数も多いため利用する学生の数は多くない。

# 国語教育法における 作文評価ワークショップ

森篤嗣（日本語学科）  
2021年度夏季FD

## 批評文の例（813字）

今回のポスター選考では、チョコレートの健康性が高まっていると打ち出せるかを重要視した。その結果、Cのポスターを最も優れているポスターとする。

Cのポスターには大きく「カラダめざめるカカオ70%」と記載されており、高いカカオ使用率の表示と下部で小さく「ポリフェノールでスイーツ」の文でポリフェノールが多く摂取できると期待できる。「Z新聞」(2014年5月8日朝刊)によるとポリフェノールには抗酸化作用が期待できるためカカオ70%であるという事は健康を期待する人の目を引きやすくなる。健康への知識が少ない人にとっても「カラダめざめる」という文章は好印象を与えられる。

Aのポスターにおける特徴はポリビアという地名の記載と生産者を伺わせる人のイラストを載せることでチョコレート生産における部分が強調されている。「Z新聞」(2014年5月8日朝刊)によると現在産産連上国では労働に目を付けた利益に比べて生産者が自立できるフェアトレードという考え方が広まっている。地名は生産者意識させることでチョコレートを買うことでフェアトレードに貢献できるというメッセージをポスターで伝える。無批判健康意識を高めるというよりは、生産者など健康を考慮させることを重点に置いているため健康意識を持つ人に対して大きく印象を与えることはあまり期待できない。

Bのポスターでは高級感を出すことに重点が置かれている。実際の商品の写真と「召し上がれ」、「美味しく味わい」という文章を中心とすることで高級への興味を引ける。「黒い宝石」という比喩表現を使うことで高級感を表現している。表裏で少し高いチョコレートを賞賛が得られるため、販売対象を限定すれば効果は高いと考えられる。しかし、健康に関する記載がないため今回のチョコレートの健康性を重視するという点には当てはまらない。

チョコレートが健康に良いということを押出すためにCのポスターが一番であると考える。

## 授業の構成（1時間目）

- 全3時間構成
- 1時間目：中高国語科における作文教育について解説する。
  - ✓最も重要なのは明確な評価基準の設定
  - ✓評価基準に客観性を担保すること
  - ✓減点法より加点法で
  - ✓内容と構成の評価のバランス
  - ✓引用の方法
- 600～800字の批評文を宿題にする（中3教材）

## 授業の構成（2時間目）

- 2時間目：収集した批評文を全員（約20名）に配布する
- 「中学校国語教師として、これらの批評文にオリジナルな3つの評価基準を設定し、各5点計15点で採点してください」
- このとき、「全体の平均点の調整」や「何が達成されていたら〇点か」などに言及しない
- この時間は課題だけ出し、他の授業をする。

## 授業の構成（3時間目）

- 3時間目：全員（約20名）から批評文の評価（各5点計15点）を収集する
- フィードバックを以下の二つの観点からおこなう
  1. 設定した評価基準の妥当性と信頼性
  2. 自身の評価の平均（甘すぎないか）と標準偏差（メリハリがあるか）



## 評価基準の例

- 段落を適切に使えているか（例として教師が提示）
- 対象の特徴をよく観察しているか
- 3つのポスターの特徴をそれぞれ分析しているか
- 参考資料を用いているか
- 字数制限を守れているか
- 語彙に幅があるか
- 句読点が使えているか
- 文章に独自性があるか(見本と同じではないか)
- 説得力のある文をかけているか
- 論理的に根拠を述べているか
- 自分の意見に自信を持っているか

## 評価点の平均値と標準偏差

平均	標準偏差	平均	標準偏差
10.47	1.80	11.42	1.21
9.68	1.53	12.72	1.04
10.05	1.37	13.17	1.01
11.00	1.36	13.16	0.91
9.79	1.34	13.53	0.88
12.00	1.30	11.74	0.77
10.11	1.29	12.32	0.72
9.68	1.28	13.00	0.51
11.26	1.25	14.11	0.46
12.11	1.21		

## まとめ

- 外国人に対する日本語教育とは異なり、国語教育はほぼ全員が経験済みであるが、改めて中高生の課題に取り組ませる
- ただし、国語教育法なので「教師の観点」を考えさせる
- 教師の評価基準は、そのまま指導の要点でもあることに気付かせる
- 評価得点の分布について考えさせる

【English Session 1 Report】

**Summer 2021 Online FD**  
**Session 1 report**  
**Online, hybrid & on-demand education (English)**  
**(10<sup>th</sup> September 2021, 15:20-16:10)**

Organised by the FD committee

**Presenters:**

Michael Barr, Department of British and American Studies  
Eric Hawkinson, Department of Global Tourism

Hosted by Kate Maher (moderator)

## I – Summary

As we enter the third academic term of teaching during the COVID-19 pandemic, the challenges of adjusting to the ‘new normal’ continues. Therefore, it is unsurprising that many faculty members have shown a continuing interest in learning more about online, hybrid, and on-demand teaching methods. The purpose of this FD session was to meet the ongoing needs of faculty members and support one another in embracing the increasing use of technology in classes. In this session, two faculty members shared ideas on integrating tools from those available in the Google Suite for education, focusing on enhancing collaborative tasks and students’ self-directed learning. The presenters explained the tools and demonstrated how to use them, making the session informative and practical. The design of the session was to provide a space for discussion and an opportunity for developing a community practice in preparation for future teaching challenges in the 2021 winter term. Attendees were encouraged to ask questions and share their perspectives, creating a positive dialogue about building on what we have learnt from emergency remote teaching and hybrid delivery.

This session was attended by 37 faculty members.

## II – Design and Schedule

An online form/survey was distributed at the end of July to ask every faculty member (both part-time and full-time) about the topics they were interested in and a call for presenters.

### Session Schedule:

15:20-15:25 : Introduction to the session

15:25-15:40 : Utilising Google Slides in real time in the classroom, Michael Barr

15:40-15:45 : Q&A, discussion  
15:45-16.00 : Online student portfolio system, Eric Hawkinson  
16:00-16:05 : Q&A, discussion  
16.05-16:10: Closing comments

This report follows the same order of topics as the session below.

### III – Topic 1: Utilising Google Slides in real time in the classroom, Michael Barr (Department of British and American Studies)

In this presentation, Michael introduced the basics of Google Slides, functionality in the classroom for collaborative work in groups and monitoring student work, and provided a live demonstration.

- Compared to PowerPoint, an analogous software platform, Google Slides allows for real-time collaboration, where students can work on a slideshow simultaneously. Moreover, teachers can also monitor student work in real-time, as well as giving immediate feedback.
- Michael recommended that teachers become familiar with the Google Drive accessible through their university Gmail account for ease of storage of lesson materials made in Google Slides.
- After covering the essential functions, Michael did a live demonstration of using Google Slides in his classes. Firstly, he shared the links to four Google Slideshow templates which he had prepared in advance. Attendees were divided into small groups and invited to edit one of the templates. During the session, Michael displayed the slideshows being worked on in real-time. He recommended preparing a template slideshow with spaces for students to write their names and work areas for answering questions or completing tasks. After students finish the task, they can then use the slides to present their work to the rest of the class.
- Before starting his talk, Michael asked attendees to complete a survey about their experiences with Google Slides (results shown in the presentation slides below). The results showed that while many faculty members are familiar with some aspects of the Google Suite, most had not used Google Slides. During the session, many of the attendees commented that they were interested in incorporating this tool in their classes and saw its benefits for supporting online collaborative work among students. Several attendees expressed an interest in having further training sessions- ‘sandboxes’- to explore the benefits of Google Slides further.

Questions and discussion points:

- For "narrated" student (team) presentations using audio, have you had any compatibility issues (problems hearing audio) when opening in ppt? If so, any trouble shooting suggestions? > There might be issues with audio in regard to compatibility. The presenter recommended training videos for overcoming such issues (see Useful links below).

- What are the benefits of Google Slides over Google Docs? > Google Docs can be very text-heavy, so for tasks that are not focused on writing skills, Google Slides provide a way for students to be more creative, using images and videos in their work. Also, Google Slides is landscape which can make it easier to view on a screen.
- Some attendees had access issues during the live demonstration. > Teachers and students should be aware about being logged into their university Google account before trying to access files for security purposes.

Useful links:

- Google Slides training [https://edu.google.com/teacher-center/products/slides/?modal\\_active=none](https://edu.google.com/teacher-center/products/slides/?modal_active=none)
- Introduction to GSuite <https://youtu.be/6XtY8aoJNOk>

## IV – Topic 2: Online student portfolio system, Eric Hawkinson (Department of Global Tourism)

In this session, Eric shared the progress he has made with online portfolios since the pilot programme began in 2018 in the Faculty of Global Engagement. The programme was set up to support students in documenting their complete journey through the academic programs. Eric outlined the key elements of the programme, the onboarding process for students to create their portfolio, and the outcomes of the programme so far.

- The programme has several goals, but mainly to build more self-directed learning and practice lifelong learning behaviours.
- One of the aims of this presentation was to show faculty members how to introduce online portfolios in their departments. One recommendation made by Eric was to use online portfolios in *zemi* classes so students could keep track of their work as they produce their graduation thesis.
- Another recommendation was to encourage students to use the portfolio as an archive of their work which could be useful when applying for jobs.
- According to the results from the student survey, online portfolios have been welcomed by a lot of the students in the pilot programme, especially for the purposes of job hunting.
- In addition to sharing the findings of the pilot programme, Eric showed example student portfolios to give teachers an idea of what can be achieved (links in presentation slides). He also provided plenty of practical advice and shared useful resources for taking the first steps when starting out (see Useful links below).

Questions and points for discussion:

- For (newish) faculty, can we (easily) take the online "on-demand" course (to help get ourselves up to speed? > Eric shared training videos for onboarding (see Useful links below). He also recommended asking students at the start of a course whether they already have an online portfolio from previous classes.
- Do you think students adding to this system should be made mandatory and part of the evaluation? > Eric said there were many benefits of using online portfolios for evaluations – monitoring student work, self-directed learning reflections and so on.

Useful links:

- Example of onboarding video. Why make an online portfolio?  
<https://youtu.be/wt7HvomnvjI>
- Directory and Help  
<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/myportfolio>

## V – Conclusions

This faculty development session was a continuation in supporting the shift in teaching and learning to incorporate online delivery. The discussions demonstrated the increasing interest of faculty members in acquiring more tools for online, hybrid, and on-demand classes. To what extent COVID-19 continues to influence how teachers and students work together is unknown. However, it is clear that teachers are keen to continue investing in learning new ways to incorporate technology in their classes and provide students with tools to enhance their learning journeys - whether they are in the classroom or online. Remarks made throughout the session suggest that many faculty members would like to have further training and opportunities for sharing ideas.

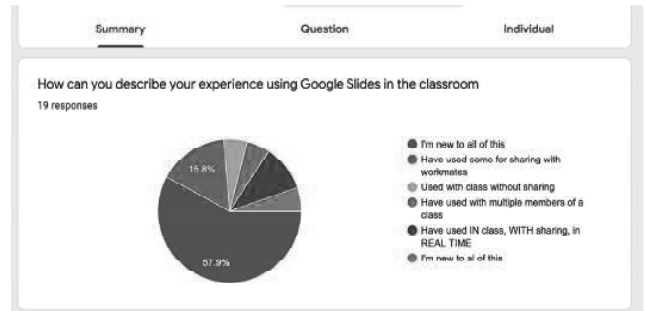


KUFS 2021 Fall  
FD Seminar

• Utilizing Google Slides in Real Time in the Classroom - Individual and Collaborative Group Work.

• Mike Barr     m\_barr@kufs.ac.jp

Results of Survey carried out at the beginning of the FD Seminar session.



**Utilizing Google Slides in Real Time in the Classroom: Individual and Collaborative Group Work**

• Abstract:

The title says it all: Google Slides has amazing functionality and allows students to engage with material in a student-centered way. Whether remote, hybrid, or in-class, students can work together or separately to create content with and for their peers, in real time. In addition, since KUFS is affiliated with the Google Education suite, all students have automatic access through their university email addresses. Using Slides is exciting and autonomous for the learner, and a wonderful way to solidify or review material learned through homework or previous lessons. This presentation aims to "show and tell" methods that have proven to be successful in the classroom during the unprecedented 2020 and 2021 academic years, when reliance on various communication technologies became a key component of higher education around the world. If time permits, participants will be able to make and share something with their peers on a volunteer basis (no pressure).

Introductory Notes:

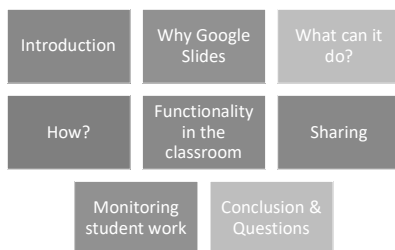
- This short presentation will be conducted in a SHOW – TELL – DO format



- You need:
1. Computer or mobile device
  2. Access to your KUFS Google Drive

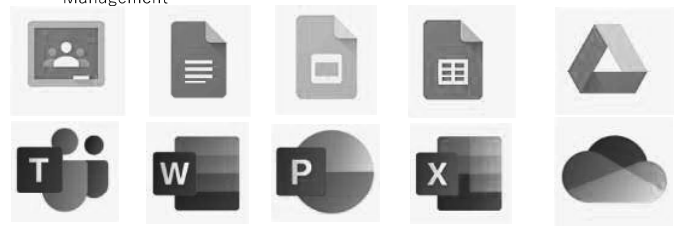
\*\* Important point: this FD session is not long, so we will not spend a lot of time troubleshooting individual problems or issues. If there is something that you need more time and assistance with, please watch the recording of the session and/or contact us for future help. \*\*

Session Outline:



Analogous Software Platforms

- Meeting File Management
- Writing
- Presenting
- Spreadsheets





Google Slides

About using Google slides in the classroom:

For integrating with Google applications, the 'Chrome' browser is preferable, but not necessary. All that we do can be accessible from any device or platform.

Advantages:

- Instructor can monitor individual or group work of multiple users in real time  
→ Technique: using multiple TABS in a browser window.
- Simple sharing between participants
- Ease of displaying student work via Classroom projector or Teams for others to view
- Cross-platform (even works on smartphones!)



As we move into 2021  
Term Two...

- Let's continue to support each other and develop our online learning / hybrid tools.
- File management, shared docs, slides...

**ONLINE  
STUDENT  
PORTFOLIO  
PROGRAM**

**ERIC HAWKINSON**  
Department of Global Tourism

**Online Student Portfolio Program**

- Allow students to document their journey through our educational programs.
- Have a shareable resource of all projects, assignments, presentations, and other activities.
- Give faculty and staff a holistic picture of students' learning and experience.

**PROGRAM SUMMARY and GOALS**

**Online Student Portfolio Program**

- Started in 2018
- All first-year students creating digital portfolios from
  - Department of Global Tourism
  - Department of Global Studies
- Select students from other departments

**PROGRAM SUMMARY**

**ONBOARDING**

2018 – In class onboarding in a computer lab  
 2019 – In class onboarding in a computer lab + a tutorial video  
 2020 – Online tutorial video series  
 2021 – Online on-demand course

**On-demand videos**

- ❖ **Why make an online portfolio?**  
<https://youtu.be/7Htomsawj>
- ❖ **Using your KUFS account with Google Sites**  
[https://youtu.be/jnaRV5a\\_QJk](https://youtu.be/jnaRV5a_QJk)
- ❖ **Step-by-step guide**  
[https://youtu.be/ADNYxS\\_Wluc](https://youtu.be/ADNYxS_Wluc)

Several other videos

**Why make an online portfolio?**

- Provide evidence of your work
- Increase your employability
- Build your network of your learning
- Have a portfolio of your work
- Demonstrate your skills

**Getting Started with Student Portfolios**

**Getting Started with Online Learning**

TOGETHERLEARNING.COM

TOGETHER LEARNING CENTER

**Automated onboarding for online learning**

**218 Certificates generated in 2020 for online learning**

**~800 Portfolios created**

**RESTRICTIONS**

**NEED KUFS LOGIN**

**CAN'T SHARE TO PUBLIC**

**CAN'T COLLABORATE WITH NON-KUFS ACCOUNTS**

### Directory and Help

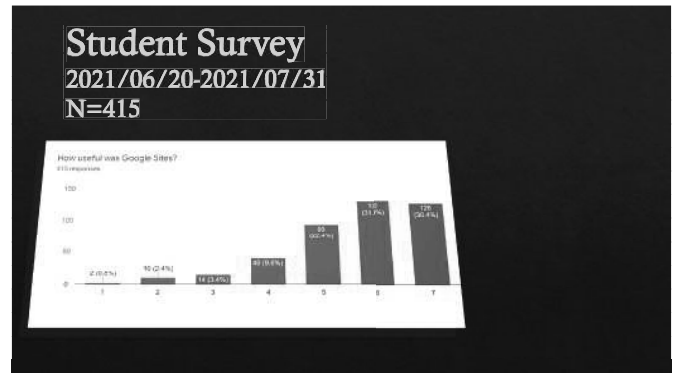
<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/myportfolio>

## FIND A PORTFOLIO

[HTTPS://SITES.GOOGLE.COM/KUFS.AC.JP/21GT0000](https://sites.google.com/kufs.ac.jp/21GT0000)

### Example Portfolios

- ◆ Department of Foreign Studies  
<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/17na0074>
- ◆ Department of Global Tourism  
<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/20es0116>
- ◆ Department of Global Studies  
<https://sites.google.com/kufs.ac.jp/20es0164>
- <https://sites.google.com/kufs.ac.jp/20es0060>



### Student Survey

2021/06/20-2021/07/31  
N=415

**Motivation**

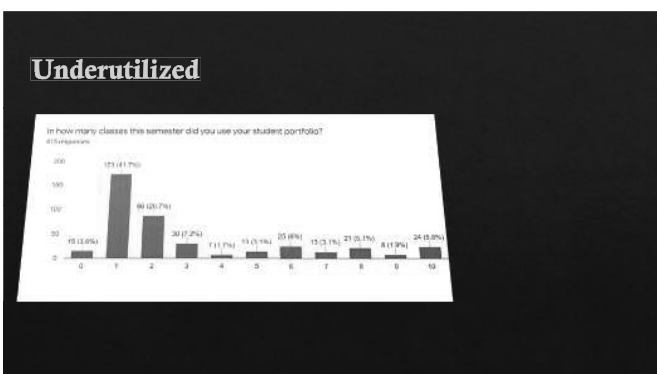
**Q: Do you plan to use Google Sites to make other websites for schoolwork or projects?**  
A: 48.9% Yes 51.1% No

**Q: Do you want to improve your portfolio to use for job hunting?**  
A: 72.5% Yes 27.5% No

### Student Voices

“I love this course especially about how to make our own portfolio.”

“Making portfolio was the most interesting thing in this class. But I’m not used to use pc because I bought it just a month ago. And also I’m not good at using digital devices so it was so difficult me to make it :’(“



Offer my onboarding as an on-demand course to all students

Proposal for 2024~

【English Session 2 Report】

## 2021 Summer FD

### Language Proficiency Goals and the Teaching Methods to Reach Them (English)

16:20-17:10, September 10, 2021

#### **Presenter:**

Romain Jourdan-Otsuka (Department of French Studies)

Monika Sugimoto (Department of German Studies)

Hosted by

I Chun Chen (Department of Global Studies)

#### **I. Summary**

The purpose of this FD session was to provide a space for our faculty members to share and exchange their teaching information from various departments at KUFS. In this session, two faculty members were invited to make a presentation about the language proficiency goals and teaching methods to reach students. The presenters explained the detail of the goals and teaching method and how to implement them through the collaboration. It made the session informative and inspiring. Everyone in this session was encouraged to exchange their experiences and/or how they did in their department so that the participants had a chance to present ideas and share the concerns.

Attended by 38 faculty members.

#### **II. Brief Summary of Presentations**

##### **1. How to kickstart your own extensive reading program? By Romain Jourdan-Otsuka**

In this presentation, Professor Jourdan-Otsuka introduced how he adopted the extensive reading program (ER) as a new teaching method. He was

inspired by seeing the large-scale and successful ER program launched in the Department of British and American Studies. Hence, he took the concept and started the ER program in his two classes.

Professor Jourdan-Otsuka shared the experiences and tips on how to start the ER program at a class-level. Also, he assessed his ER program from his two classes (high motivation but less learning experience, low motivation but more learning experience). It showed this program gave positive experiences to students in either class because students in both classes read more and more books and thus effectively expand their vocabulary. However, he also mentioned that the effect of this program may be limited. Because the program is only adopted in his class and only for one semester. Hence, it is necessary to have discussion and coordination within French department. Students may benefit and increase their average word counts to meet the intermediate level.

## **2. Goals in the German Department by Monika Sugimoto**

In this presentation, Professor Sugimoto showed the language proficiency goals set by the Department of German Studies. Also she introduced how they help students to achieved the proficiency goals.

Especially, she introduced the extended team teaching in her department. In the past, the class schedule in each course (grammar, conversation, reading and writing and CALL) is not on the same page. It caused students having difficulties to learn the language. After introducing the team teaching, they used the same textbook and utilized the online registration system (Google Docs) to keep track of the progress of each course. In addition, the Department of German Studies introduced German proficiency test from 2009 and made it accessible for KUFS students. Hence, the number of students taking the Proficiency test is getting higher from 2009.

Lastly, she mentioned the pros and cons in her department. Compared with the past, students learn more from topic related courses and focus on learning vocabulary. However, high turnover rate of teaching staff and the problem of teaching content are still needed to be discussed and solved.

### III. Question and Answer

Here is a summary of the questions and feedbacks raised by the audiences during the session.

Presentation 1 (Romain Jourdan-Otsuka)

Q1: About the copyright issues?

A: I use a free book website providing a lot of online French books. Also some of the books providing in class are my personal collection. But I only provide to students in my class. If it is not ok, I will take it out from my book list for my class.

Feedback from the audience:

It's a great idea to expand the ER program to departments of languages other than English. It is very good and needed for KUFS students to increase their reading and writing skill. However, about the budget, if ER program can be in the department curriculum, it will be easier to get the fund and expand the program. The suggestion is to target new curriculum starting in 2024. That would be a good starting point.

Q2: What did your class look like?

The time for my extensive reading class is 0. It was 100% homework. In my class, it is like a French communication class.

Presentation 2 (Monika Sugimoto)

Q1: In the French department, we try to increase the number of students taking DELF. But there is another Futsuken which is the French proficiency test given in Japanese. And that test is more popular among students. From your presentation, we also need to try to bring the DELF into KUFS. That will be nice to our students.

A: We also have Dokken (German proficiency test given in Japanese) , but we are gradually moving away from that and toward international proficiency test.

Q2: Did you change the way of teaching? Like Tokken and Futsuken, the tests are grammar and translation based...

A: Yes.

Q3: There is a problem in Italian department. Teachers in grammar course and us (conversation course) are at different paces. The problem is due to the content of grammar is too much. So they have to go faster than the pace in the conversation course. And it is very hard for us to go on the same page. Is it necessary to go faster with grammar because its content is too much and it is better to finish in a couple months than longer time?

A: For me, it is better to do step by step. Otherwise, it is overwhelming for the students. However, students' learning experience and tradition are focusing on grammar. Students treat the grammar as the most important part even though they do not know how to use it for conversation or writing at the end.

#### **IV. Conclusion**

This session provides the opportunities for KUFS teachers to exchange about their language teaching experiences. Teachers in different language departments have not enough information about the interesting and specific teaching methods utilized in the other department. Through the session, they will get more detail understanding of the course design and goals in the other departments. This also opens a discussion on the possibilities of attempt and collaboration within the department. It will contribute to our students' learning.

# How to kickstart your own Extensive Reading Program

Romain Jourdan-Otsuka, Department of French Studies

# Extensive Reading in FSL vs in ESL



# I - INTRODUCTION



# French Literature: Balzac, Laferrière, etc. How to get there?



Spring 2021 Extensive Reading in French program: 28 students, 3 months, 392 books!

平松尚子 (2009). フランス語の読解指導における精読と多読の効用について. 『藝文研究』 (96), 165-177.

## フランス語の読解指導における精読と多読の効用について

平松 尚子

日本での外国語教育において、読解は常に重要な位置を占めてきた。従来から行われてきた精読 (intensive reading) は、客観主義的教授法にカテゴライズされるものであるが、現在に至るまで、読解指導の事実上の主流となっているように思われる。一方、多読 (extensive reading) という学習方法は、英語教育上、外国語としての日本語教育の分野ではまだあまり目立たない読解と読みがあるが、フランス語教育 (あるいは他の外国語教育) の分野ではいまだ研究・実践ともに乏しいのが実情であろう。しかし現在の第二言語習得理論においては、読解指導には精読と多読の併用が効果的だという見解が主流である。本稿では、フランス語多読の実践から得られた知見をもとに、フランス語多読の教材と、これを用いた教授法について検討した。また、文学テキストを教材とするリーディング学習の新たな形態を構築するための、精読と多読を組み合わせた学習モデル構築の可能性について検討した。



## Some benefits of ER

- Readers learn **new vocabulary and structures**, gradually, without struggling.
- Affects not only **reading skills** but also **writing, listening and speaking**.
- Readers become immersed in that language **sphere of culture and representations**.
- They get to **understand better** their own interests and skills and **gain confidence**.
- Motivational factors push them to learn more outside of the classroom and become **proactive and autonomous learners**.



## Why it's important (a personal account)

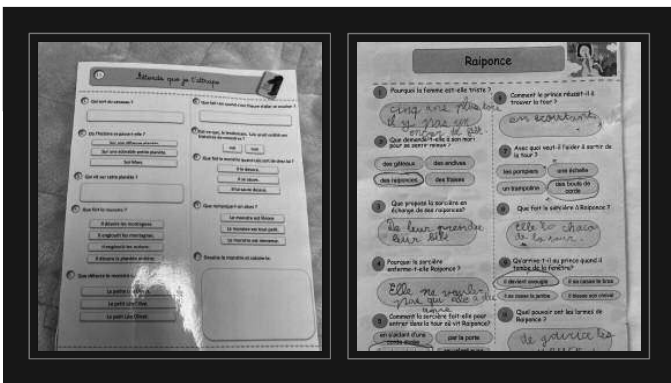
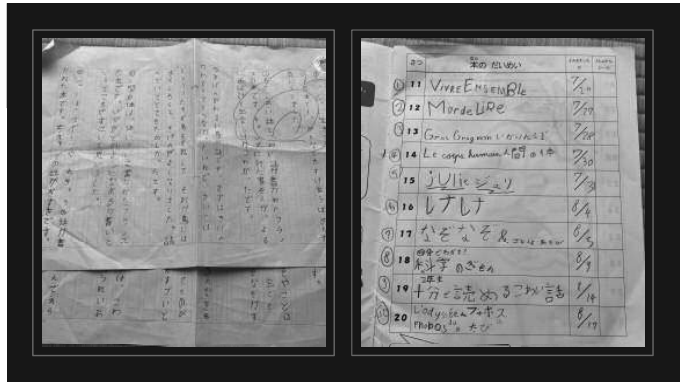
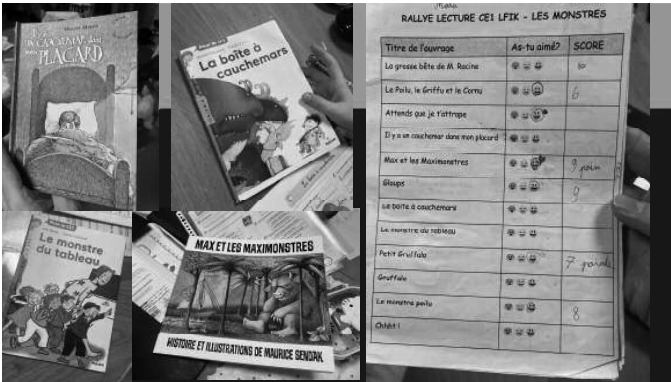
Even our best students don't read much...

Autumn  
2020,  
Advanced  
Translation  
Class



## ER in L1 (French)





Even for native speakers, there are things that they can only get from extensive reading.

Why deprive L2 learners of that opportunity?



## II – HOW TO KICKSTART YOUR OWN EXTENSIVE READING PROGRAM

## The first rule of the Reading Club...

- Make it simple for you and your students!

## The infrastructure

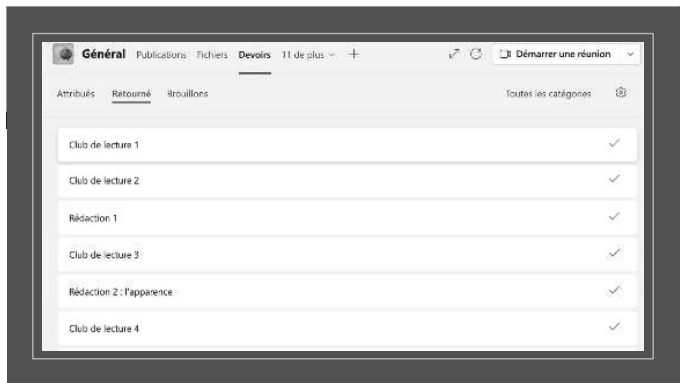
Dropbox for the books

MS Forms for the quizzes

MS Teams for the assignment & grades

## The rules

- Mandatory
- Graded
- Quiz for each book, to assess precise reading/global comprehension
- 10 to 12 books per semester (1 assignment per week, with late submission possible)



### 2. Évaluation

#### 4 parties, notées sur 120 points chacune (total = 480 points)

Production orale : Pas d'examen, mais chaque absence en cours entraîne 5 points.

Production écrite : 12 rédactions (1 par leçon + 3 projets), notées sur 10 points.

Compréhension orale : 3 devoirs à faire à la maison (1 par unité), notés sur 25 points x1,6.

Compréhension écrite : 12 fiches pour le club de lecture (1 par semaine), notées sur 10 pts.

#### 2. Calculez votre note :

$$PO : 120 - ( \dots \text{ absences} \times 5 ) = \dots / 120$$

$$PE : \dots + \dots + \dots + \dots + \dots + \dots + \dots + \dots + \dots + \dots = \dots / 120$$

$$CO : ( \dots + \dots + \dots ) \times 1,6 = \dots / 120$$

$$CE : \dots + \dots + \dots + \dots + \dots + \dots + \dots + \dots + \dots + \dots = \dots / 120$$

$$\text{TOTAL : } \dots / 480$$

(pour valider le semestre :  $\geq 288$ )

## J'aime les livres, d'Anthony Browne (niveau 1)

Fiche de Cécile Laurent  
Le livre : <https://www.dorland.com/5/0/0/7/6/6/7667b356w/L12927a/mes70/les320/livres/ceclil-1/>

Bonjour Romain. Lorsque vous enverrez ce formulaire, son propriétaire pourra voir votre nom et votre adresse de courriel.

1. Quel animal est sur toutes les pages ? (1 point)

Entrez votre réponse

2. Qui est assis sur le mur à côté de l'animal, pour les comptes ? (1 point)

Un oiseau

Niveau	Titre	Échelle	à 7 000
1	Le loup	1000	10
2	Je m'habille et je le croque	1000	10
3	J'aime les livres	1000	10
4	Le vent d'un autre pays	1000	10
5	Les couleurs d'Elmer	1000	10
6	Le petit chapeau rouge	1000	10
7	Le chat et le rat	1000	10
8	Demain, Milla!	1000	10
9	Le lutin Gaffeur	1000	10
10	Le chat et le rat	1000	10
11	Le petit chapeau rouge	1000	10
12	Le chat et le rat	1000	10
13	Le petit chapeau rouge	1000	10
14	Le chat et le rat	1000	10
15	Le petit chapeau rouge	1000	10
16	Le chat et le rat	1000	10
17	Le petit chapeau rouge	1000	10
18	Le chat et le rat	1000	10
19	Le petit chapeau rouge	1000	10
20	Le chat et le rat	1000	10
21	Le petit chapeau rouge	1000	10
22	Le chat et le rat	1000	10
23	Le petit chapeau rouge	1000	10
24	Le chat et le rat	1000	10
25	Le petit chapeau rouge	1000	10
26	Le chat et le rat	1000	10
27	Le petit chapeau rouge	1000	10
28	Le chat et le rat	1000	10
29	Le petit chapeau rouge	1000	10
30	Le chat et le rat	1000	10
31	Le petit chapeau rouge	1000	10
32	Le chat et le rat	1000	10
33	Le petit chapeau rouge	1000	10
34	Le chat et le rat	1000	10
35	Le petit chapeau rouge	1000	10
36	Le chat et le rat	1000	10
37	Le petit chapeau rouge	1000	10
38	Le chat et le rat	1000	10
39	Le petit chapeau rouge	1000	10
40	Le chat et le rat	1000	10
41	Le petit chapeau rouge	1000	10
42	Le chat et le rat	1000	10
43	Le petit chapeau rouge	1000	10
44	Le chat et le rat	1000	10
45	Le petit chapeau rouge	1000	10
46	Le chat et le rat	1000	10
47	Le petit chapeau rouge	1000	10
48	Le chat et le rat	1000	10
49	Le petit chapeau rouge	1000	10
50	Le chat et le rat	1000	10
51	Le petit chapeau rouge	1000	10
52	Le chat et le rat	1000	10
53	Le petit chapeau rouge	1000	10
54	Le chat et le rat	1000	10
55	Le petit chapeau rouge	1000	10
56	Le chat et le rat	1000	10
57	Le petit chapeau rouge	1000	10
58	Le chat et le rat	1000	10
59	Le petit chapeau rouge	1000	10
60	Le chat et le rat	1000	10
61	Le petit chapeau rouge	1000	10
62	Le chat et le rat	1000	10
63	Le petit chapeau rouge	1000	10
64	Le chat et le rat	1000	10
65	Le petit chapeau rouge	1000	10
66	Le chat et le rat	1000	10
67	Le petit chapeau rouge	1000	10
68	Le chat et le rat	1000	10
69	Le petit chapeau rouge	1000	10
70	Le chat et le rat	1000	10
71	Le petit chapeau rouge	1000	10
72	Le chat et le rat	1000	10
73	Le petit chapeau rouge	1000	10
74	Le chat et le rat	1000	10
75	Le petit chapeau rouge	1000	10
76	Le chat et le rat	1000	10
77	Le petit chapeau rouge	1000	10
78	Le chat et le rat	1000	10
79	Le petit chapeau rouge	1000	10
80	Le chat et le rat	1000	10
81	Le petit chapeau rouge	1000	10
82	Le chat et le rat	1000	10
83	Le petit chapeau rouge	1000	10
84	Le chat et le rat	1000	10
85	Le petit chapeau rouge	1000	10
86	Le chat et le rat	1000	10
87	Le petit chapeau rouge	1000	10
88	Le chat et le rat	1000	10
89	Le petit chapeau rouge	1000	10
90	Le chat et le rat	1000	10
91	Le petit chapeau rouge	1000	10
92	Le chat et le rat	1000	10
93	Le petit chapeau rouge	1000	10
94	Le chat et le rat	1000	10
95	Le petit chapeau rouge	1000	10
96	Le chat et le rat	1000	10
97	Le petit chapeau rouge	1000	10
98	Le chat et le rat	1000	10
99	Le petit chapeau rouge	1000	10
100	Le chat et le rat	1000	10

CLUB-LECTURE

13 éléments, 22,37 Go disponibles

1310794-Club de lecture.docx

niv. 1 niv. 2 niv. 3 niv. 4 niv. 5

niv. 7 niv. 8 niv. 9 niv. 10 niv. 11 niv. 12 niv. 13 niv. 14

Papa I de Philippe Corentin (niveau 3) 14 réponses

Grosse colère, de Mireille d'Alliance (niveau 3) 20 réponses

Le lutin Gaffeur, de Denise Gauvette (niveau 2) 17 réponses

Demain, Milla! de Malena Fatman (niveau 2) 23 réponses

C'est à moi, ça ! de Michel Van Zevoren (niveau 2) 18 réponses

P'tit Boule et Bill : La partie de cirque (niveau 2) 19 réponses

Les couleurs d'Elmer, de David McKee (niveau 2) 21 réponses

Lili vient d'un autre pays, d'Opheïe Texier (niveau 1) 21 réponses

J'aime les livres

Je m'habille et... je le croque !

Le mystère du pain d'épice

Anthony Browne

# J'aime les livres

6. Qu'est-ce que le Petit chapeau rouge, les trois petits cochons (etc.) prennent du loup ? 1 / 1 point

Notée automatiquement

Ils l'aiment bien.

Ils se moquent de lui.

Ils ont peur de lui.

Ils l'admirent.

7. Le Petit chapeau rouge est un personnage du conte « Le Petit chapeau rouge ». De quel autre conte célèbre les sept nains sont-ils des personnages ? 1 / 1 point

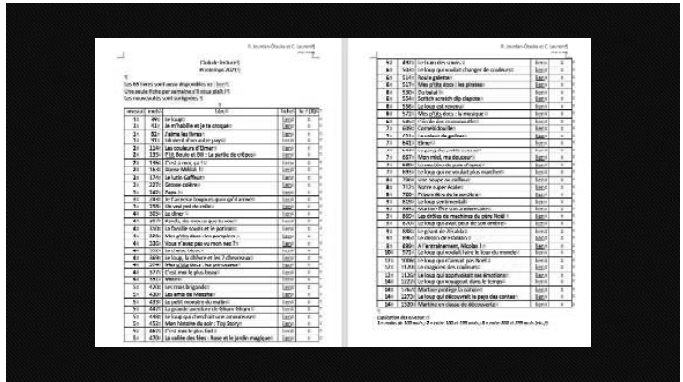
Blanche-Neige

Reponses correctes : Blanche-Neige et les sept nains.

	semaine 1			semaine 2		
	nb mots	lcompo	mots/compo	nb mots	lcompo	mots/compo
IRA Ami	82	1	82	91	1	91
BA Saki	91	1	91	163	1	163
VA Tszumi	39	0,7	27,3	41	1	41
osa	82	1	82	89	0,9	85,1
Naho	114	1	114	133	1	133
Yoko	242	0,85	205,7	243	1	243
Hi Miho	39	0,6	23,4	41	0,85	34,85
TA Hibiki	82	1	82	243	0,9	218,7
Yota	336	1	336	307	1	307
rise	82	0,9	73,8	91	1	91
ina	114	0,9	102,6	227	1	227
Ayumi	82	0,9	73,8	136	1	136
hione	39	1	39	114	0,9	102,6
oano	114	1	114	243	0,9	218,7
lana	82	1	82	91	1	91
isei	369	0,85	313,65	447	0,85	379,95
FO Aya	452	0,7	316,4	82	0,8	65,6
jua	39	0,7	27,3	41	1	41
ise	2402		2185,95	2775		2619,5
F	137,76	0,89	121,44	154,06	0,95	145,53

C	D	E	F	G	H	I
Bibliothèque de lecture extensive - ouvrages papier						
		proposer les 2 niveaux correspondants à un peu d'écrits et en-dessous				
		à partir de ...	nb exemplaires sur litéraj			Fiches
		1e année, 1er semestre	rv. 1 (moins de 100 mots)			1
		2e année, 2e semestre	rv. 2 (100-199 mots)			1
			rv. 3 (200-299 mots)			20
			rv. 4 (300-399 mots)			18
			rv. 5 (400-499 mots)			23
			rv. 6 (500-599 mots)			13
			rv. 7 (600-699 mots)			6
			rv. 8 (700-799 mots)			4
			rv. 9 (800-899 mots)			5
			rv. 10 (900-999 mots)			3
			rv. 11 (1000-1199 mots)			3
			rv. 12 (1200-1399 mots)			0
			rv. 13 (1400-1599 mots)			0
			rv. 14 (1600-1799 mots)			1
			rv. 15 (1800-1999 mots)			0
			rv. 20 (1800-1999 mots)			0
			rv. 21 (1800-1999 mots)			0
			rv. 22 (1800-1999 mots)			0
			total			144
			rv. 23 (1800-1999 mots)			0
			rv. 24 (1800-1999 mots)			0
			rv. 25 (1800-1999 mots)			0
			rv. 26 (1800-1999 mots)			0
			rv. 27 (1800-1999 mots)			0
			rv. 28 (1800-1999 mots)			0
			rv. 29 (1800-1999 mots)			0
			rv. 30 (1800-1999 mots)			0
			rv. 31 (1800-1999 mots)			0
			rv. 32 (1800-1999 mots)			0
			rv. 33 (1800-1999 mots)			0
			rv. 34 (1800-1999 mots)			0
			rv. 35 (1800-1999 mots)			0
			rv. 36 (1800-1999 mots)			0
			rv. 37 (1800-1999 mots)			0
			rv. 38 (1800-1999 mots)			0
			rv. 39 (1800-1999 mots)			0
			rv. 40 (1800-1999 mots)			0
			rv. 41 (1800-1999 mots)			0
			rv. 42 (1800-1999 mots)			0
			rv. 43 (1800-1999 mots)			0
			rv. 44 (1800-1999 mots)			0
			rv. 45 (1800-1999 mots)			0
			rv. 46 (1800-1999 mots)			0
			rv. 47 (1800-1999 mots)			0
			rv. 48 (1800-1999 mots)			0
			rv. 49 (1800-1999 mots)			0
			rv. 50 (1800-1999 mots)			0
			rv. 51 (1800-1999 mots)			0
			rv. 52 (1800-1999 mots)			0
			rv. 53 (1800-1999 mots)			0
			rv. 54 (1800-1999 mots)			0
			rv. 55 (1800-1999 mots)			0
			rv. 56 (1800-1999 mots)			0
			rv. 57 (1800-1999 mots)			0
			rv. 58 (1800-1999 mots)			0
			rv. 59 (1800-1999 mots)			0
			rv. 60 (1800-1999 mots)			0
			rv. 61 (1800-1999 mots)			0
			rv. 62 (1800-1999 mots)			0
			rv. 63 (1800-1999 mots)			0
			rv. 64 (1800-1999 mots)			0
			rv. 65 (1800-1999 mots)			0
			rv. 66 (1800-1999 mots)			0
			rv. 67 (1800-1999 mots)			0
			rv. 68 (1800-1999 mots)			0
			rv. 69 (1800-1999 mots)			0
			rv. 70 (1800-1999 mots)			0
			rv. 71 (1800-1999 mots)			0
			rv. 72 (1800-1999 mots)			0
			rv. 73 (1800-1999 mots)			0
			rv. 74 (1800-1999 mots)			0
			rv. 75 (1800-1999 mots)			0
			rv. 76 (1800-1999 mots)			0
			rv. 77 (1800-1999 mots)			0
			rv. 78 (1800-1999 mots)			0
			rv. 79 (1800-1999 mots)			0
			rv. 80 (1800-1999 mots)			0
			rv. 81 (1800-1999 mots)			0
			rv. 82 (1800-1999 mots)			0
			rv. 83 (1800-1999 mots)			0
			rv. 84 (1800-1999 mots)			0
			rv. 85 (1800-1999 mots)			0
			rv. 86 (1800-1999 mots)			0
			rv. 87 (1800-1999 mots)			0
			rv. 88 (1800-1999 mots)			0
			rv. 89 (1800-1999 mots)			0
			rv. 90 (1800-1999 mots)			0
			rv. 91 (1800-1999 mots)			0
			rv. 92 (1800-1999 mots)			0
			rv. 93 (1800-1999 mots)			0
			rv. 94 (1800-1999 mots)			0
			rv. 95 (1800-1999 mots)			0
			rv. 96 (1800-1999 mots)			0
			rv. 97 (1800-1999 mots)			0
			rv. 98 (1800-1999 mots)			0
			rv. 99 (1800-1999 mots)			0
			rv. 100 (1800-1999 mots)			0





proposer les 2 niveaux correspondants + un peu au-dessus et en-dessous à partir de ...			nb exemplaires par niveau		fiches	
1e année, 1er semestre	niv. 1 (moins de 100 mots)	31	1	1		
	niv. 2 (100-199 mots)	17	1			
1e année, 2e semestre	niv. 3 (200-299 mots)	20	0			
	niv. 4 (300-399 mots)	18	0			
2e année, 1er semestre	niv. 5 (400-499 mots)	23	1			
	niv. 6 (500-599 mots)	13	0			
2e année, 2e semestre	niv. 7 (600-699 mots)	6	0			
	niv. 8 (700-799 mots)	4	0			
3e année, 1er semestre	niv. 9 (800-899 mots)	5	0			
	niv. 10 (900-999 mots)	3	0			
3e année, 2e semestre	niv. 11 (1000-1199 mots)	1	0			
	niv. 14 (1200-1399 mots)	0	0			
4e année, 1er semestre	niv. 16 (1400-1599 mots)	0	0			
	niv. 18 (1600-1799 mots)	1	0			
4e année, 2e semestre	niv. 20 (1800-1999 mots)	0	0			
	expert (plus de 2000 mots)	0				
<b>total</b>		<b>144</b>	<b>3</b>			

**At the end of the semester...**

1 book per student per week  
 → 327 books read between April 26th and August 2nd (84,340 words)

+65 extra submissions  
 (one student even read 62 of the 65 books, 34 220 words!)

=392 books in total (114,307 words)

**27 books at the start of the semester**

Les 27 livres sont disponibles ici: [link]

numéro	titre	note	sur 100
1	Le loup	Jan.	
1	Je m'habille et je te croque	Jan.	
1	Enfin, tu vois	Jan.	
1	Lili vient d'un autre pays	Jan.	
2	Les couleurs d'Elmer	Jan.	
2	Père Noël et ses 12 petits enfants	Jan.	
2	Danser Mikhaïl	Jan.	
2	Le loup gaffeur	Jan.	
2	C'est à moi, ça!	Jan.	
2	Grosse cocotte	Jan.	
3	Papa!	Jan.	
3	Je t'aimerai toujours quand tu seras vieux	Jan.	
3	Un vrai pain de sucre	Jan.	
4	Panda, dit-moi ce que tu vois	Jan.	
4	Vous n'avez pas vu mon nez?	Jan.	
4	Le croque-pain	Jan.	
4	Le loup, la chèvre et les 7 chèvres	Jan.	
4	C'est moi le plus beau	Jan.	
5	Le petit monsieur du matin	Jan.	
5	Le train des souris	Jan.	
5	La grande aventure de Chum-Chum	Jan.	
5	Mexu, le héros du coin - The Hero	Jan.	
5	C'est moi le plus fort	Jan.	
6	Le loup et le petit chapeau	Jan.	
6	Le loup est méchant	Jan.	
9	Le géant de Zélande	Jan.	
9	Martine fête son anniversaire	Jan.	

# III – ASSESSING THE PROGRAM

## 1. Did they do the homework?

## Number of quizzes submitted (% of students)



## 2 different classes

### 2nd year « A » group (n=18)

- Highly motivated, good learners
- Learning French for only 1 year, for most of them.
- 18 classes a week on average
- My communication class: twice a week

### 4th year « C » group (n=10)

- Low motivation, poor learners
- 3 years of experience learning French, but often w/ a negative image
- Busy with job hunting
- 1 seminar + my class (once a week)

## 27/28 students (96,4%) submitted as asked

- 100% of 2a students submitted 12 quizzes.
- 216 quizzes in total, 12 on average.

- 60% of 4c students submitted 12 quizzes.
- 90% submitted 10 or more (the minimum)
- 1 student only submitted 8 (failed to register 2 quizzes).
- 111 quizzes in total, 11.1 on average.

327 submissions in total (=327 books read!)

## Assignment rules

### 2A:

- 1 book (+quizz) per week (max.)
- 12 books to read

### 4C:

- 1 book (+quizz) per week (max.)
- 10 to 12 books (for bonus points)

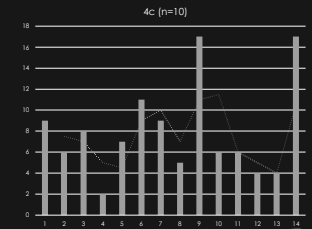
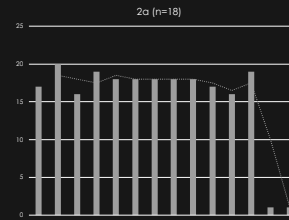
## What about consistency?

## Characterizing best practices... (Campbell, Yoshida et alii., 2015, p.86)

### Other reading habits

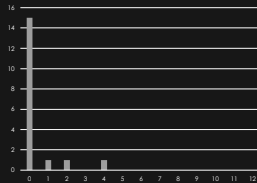
In addition to carrying more than one book around at all times, successful students also made it a point to read every day. They recognized the importance of consistency for achieving the best results, not only in word counts, but also in the benefits that arise from extensive reading. In addition, unlike many of their less successful peers, the students interviewed reported reading during the summer and winter breaks, while on holiday. That is, their reading activities never took a pause; they kept going whether or not school was in session.

## Total number of quizzes submitted per week



## 0.39 week skipped for 2a VS 6.5 for 4c

Nb of weeks 2a did not submit a quiz

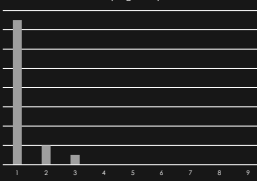


Nb of weeks 4c did not submit a quiz

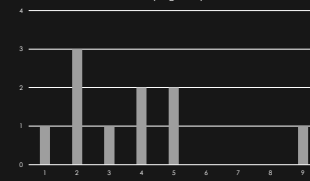


## Maximum number of quizzes submitted at the same time on average

2a (avg=1.02)



4c (avg=2.14)



## Characterizing best practices... (Campbell, Yoshida et alii., 2015, p.92)

### Profile of a Successful Teacher

Successful teachers in the ER program at KUIS were likely to...

- Give considerable attention, support, and scaffolding to students at the beginning of the semester to get them off to a good start
- Encourage students to discuss their books with their peers in pairs and groups
- Bring books to class and talk about books if they are reading themselves
- Practice Silent Sustained Reading (SSR)
- Address student progress (or lack of progress) on a weekly basis
- Motivate students either through a relaxed class atmosphere, positive reinforcement, or open accountability

## 2. How many words did they read?

## Big readers in 2a

- Both have more experience, and (maybe) used to live in France.
- 1 submitted 9 extra quizzes, for a total of 21 books, and 7467 words (compared to the average 2,904 for this group).
- Both wrote in the survey that they read frequently (almost every day) in Japanese.

## Word count: 2a vs 4c

**2a (n=18)**

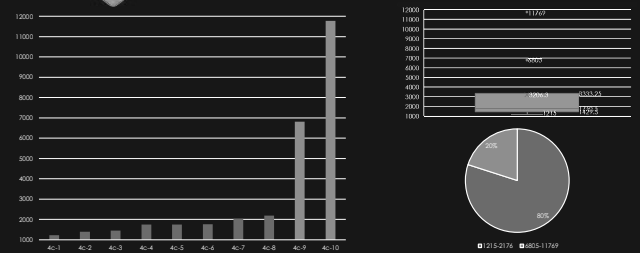
- Between April 26 and July 26
- Total word count: **52,277**
- **2,904** words per student on average
- **242** words per book
- (each student read 12 books on average)

**4c (n=10)**

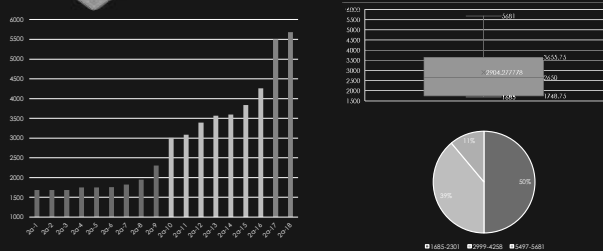
- Between April 28 and August 2
- Total word count: **32,063**
- **3,206** words per student on average
- **289** words per book
- (each student read 11.1 books on average)

-> More experienced?

## Word count per student (4c)



## Word count per student (2a)

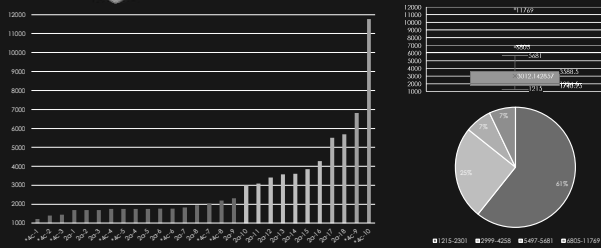


## Big readers in 4c

- One is a student from outside of Japan who learned French and passed **DELFB2** before joining KUS. Scores higher in most of the tests, but ended in group C because of issues in Japanese language.
- The second biggest reader actually read **62 of the 65 books** of the selection in total (50 extra submissions!), for a grand total of **34,220 words** (ten times his group's average of 3,206 words per student)
- Without these two, 4c **total word count** goes from 32,063 to **13,489** (vs 52,227 in 2a) and **average word count per student** from 3,206 to **1,686** (vs 2,904 in 2a).

-> 4c clearly performed worse than 2a, in both consistency and word count per student.

## Total word count per student (2 groups, n=28)



平松尚子  
(2009).  
「フランス語  
の読解指導に  
おける精読と  
多読の効用に  
ついて」 p.166

フランス語を外国語として学ぶ学習者向けにリライトしたシリーズ

**CLE INTERNATIONAL**: Collection "Lectures CLE en français facile"  
une collection de lectures dans un français adapté à l'apprentissage de la langue

niveau 1	400 à 700 mots
niveau 2	700 à 1200 mots
niveau 3	1200 à 1700 mots
niveau 4	de 1700 mots et plus

**Didier**: Collection "Aspirer de lecture"  
une collection de lectures authentiques et accessibles aux adolescents  
un choix de romans contemporains et classiques  
une segmentation par niveau selon les échelles de compétences du CECRL

niveau A1		
niveau A2		
niveau B1		

**Hachette**: Collection "Lecture facile"  
une collection de lecture en français pour se divertir, s'enrichir, perfectionner  
ses connaissances en langue, en littérature et en civilisation

facile	(jaune)	de 500 à 900 mots
moyen	(rouge)	de 900 à 1500 mots
avancé	(verte)	de 1500 mots et plus

## Characterizing best practices... (2015) p.83

Table 1. 30 Reader Data from Week 12 of 7-Year Intermediate Students, students selected for interviews and their word counts in bold.

Class	Number of Students	Students with Outcomes	Avg. Grades Passed	Average Words Read	Highest Word Count	Top Reader
Class 1	20	8/8	8.1	49,286	113,230	58 (M)
Class 2	15	8/8	8.9	49,859	118,540	94 (S)
Class 3	22	8/8	8.0	52,786	139,399	97 (M)
Class 4	18	8/8	8.0	50,888	142,947	98 (S)
Class 5	20	10/8	8.3	61,081	145,510	99 (S)
Class 6	21	8/8	8.1	50,088	159,100	100 (M)
Class 7	23	8/8	8.5	69,571	127,854	103 (S)
Class 8	22	8/8	8.0	51,301	240,921	102 (M)
Class 9	22	8/8	8.1	55,487	309,396	91.8 (B)
Class 10	20	8/8	8.9	62,868	328,375	81.4 (B)
Class 11	19	8/8	8.2	36,150	76,083	103 (M)
Average	21	8/8	8.7	48,180	143,810	

My students average word count: 2,527 to 3,012 (incl. atypical S)

- Maybe my students have less experience than English Dep. 1st Year Intermediate students?
- How well performed the English Dep. low level students?
- Is my ER program a good program for beginners?

Book selection for beginners (39-391 words, 23 items)

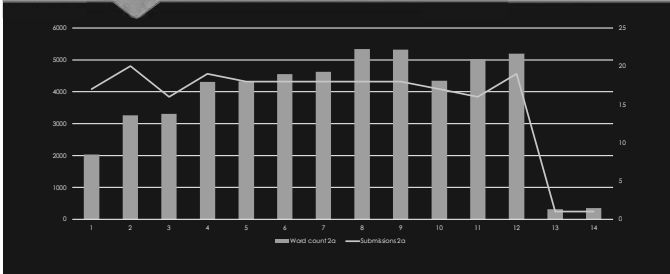
niveau	mots	titre	fiche	lu ? (X)
1	39	Le loup		
1	41	Je m'habille et je te croque		
1	82	J'aime les livres		
1	91	Lili vient d'un autre pays		
2	114	Les couleurs d'Emir		
2	136	C'est à moi, ça !		
2	163	Danse Mithili !		
2	174	Le lutin Guffeur		
3	227	Grosse colère		
3	242	Papa !		
3	243	Je l'aimerais toujours quoi qu'il arrive		
3	298	Un vrai pot de colle		
4	305	Le dîner		
4	307	Panda, dis-moi ce que tu veux		
4	310	La famille souris et le potiron		
4	320	Mes p'tits doigts - les pompiers		
4	336	Vous n'avez pas vu mon nez ?		
4	352	La chaise bleue		
4	369	Le loup, la chèvre et les 7 chevreux		
4	374	Mes p'tits doigts - les princesses		
4	377	C'est moi le plus beau		
4	391	Moun		

## Average word count per book per category of reader

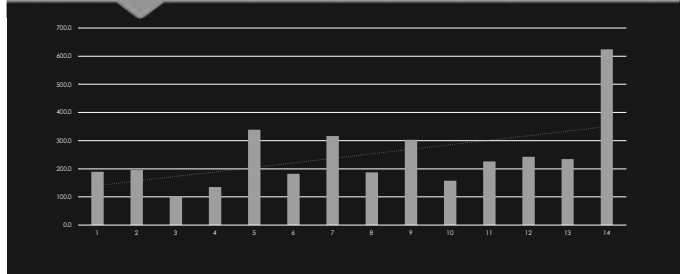
Category	Average word count	Book level(s)
Small reader (61%)	121-191	Level 2
Medium reader (25%)	250-354	Level 3-4
Big reader (7%)	458-473	Level 5
XL reader (atypical, 7%)	567-980	Level 6-10

## 3. Did they read more over time?

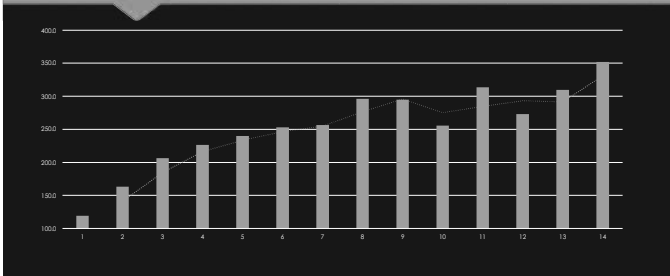
2a weekly word count and nb of submissions (n=18)



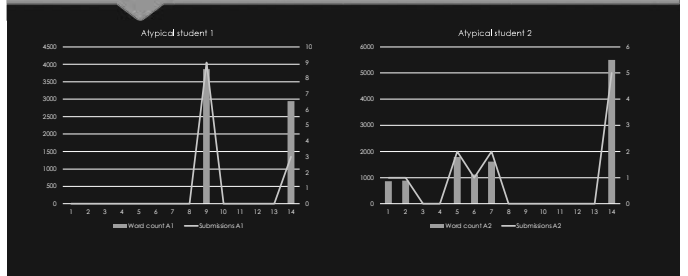
4c average weekly word count per book



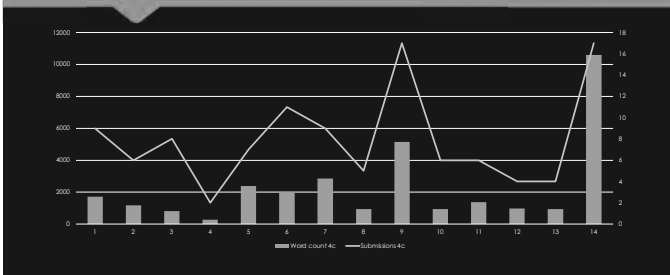
2a average weekly word count per book



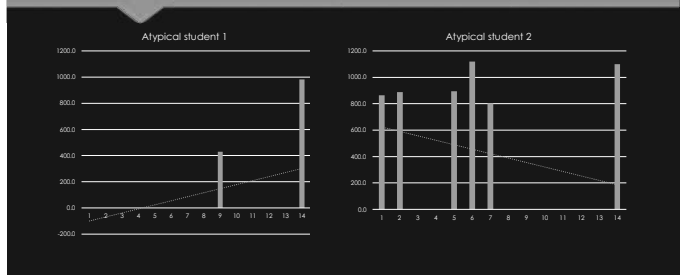
Atypical 4c students weekly submissions



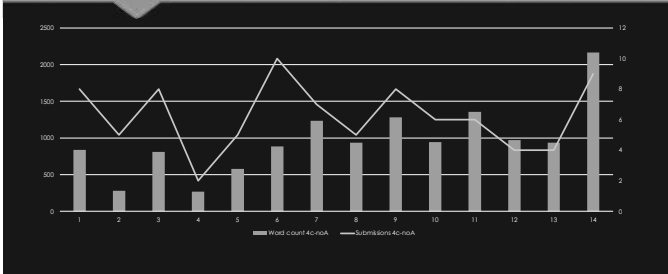
4c weekly word count and nb of submissions (n=10)



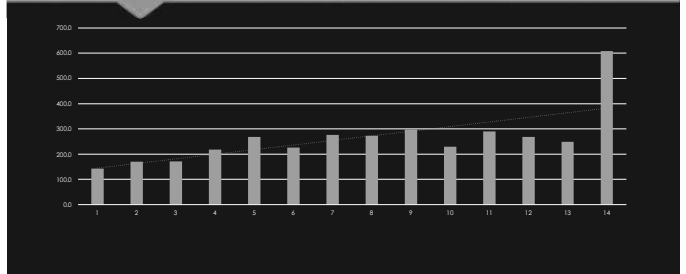
Atypical 4c students average word count



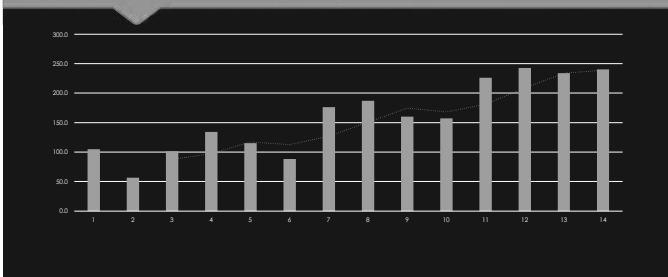
### 4c weekly word count and submissions (n=8)



### Average weekly word count per book (n=28)



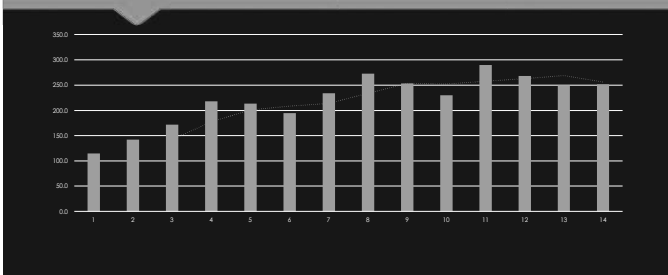
### 4c average weekly word count per book (n=8)



### A limited but positive experience

- At the time being, I'm the only teacher using ER in the French Dep., one semester at a time. Students could keep improving if they followed the program all year long.
- With coordination among French Dep. Teachers from first year, maybe we could reach the English Dep. Intermediate level word counts (44,000 on average)?
- Nevertheless, it worked as an « Introduction to Extensive Reading in French » for beginners!
- Many great feedbacks from students.

### Average weekly word count per book (n=26)



### 4. Other findings: Quizzes scores and reading accuracy

- For 2a, the longer the total word count, the lower the accuracy (correlation coefficient: -0.31, weak but significant negative correlation)
- Reasons: longer books are more difficult, and on the opposite, because many read easy books to score perfect scores (as it's the only criteria for grading)
- For 4c, it's the opposite (longer word count -> better accuracy) (cor. coef.: 0.51)
- Reason: the two atypical students read long books with better accuracy than the rest of the group

## 4. Other findings: Relations with other skills

- Comparing 2a reading accuracy with scores in listening and writing tests, I found out that reading accuracy for that group is closely related to **writing accuracy** (cor. coef.: 0.72), then **listening accuracy** (0.64) and also with **GPA** (0.55).  
-> People with better reading accuracy tend to perform better in general.
- No similar correlations were found for total word count.

## 5. Conclusion: A few things I learned

- ER offers precious occasions to enjoy L2 culture while improving both knowledge and skills, outside of the classroom limited time.
- A good program has to be flexible and convenient enough.
- Regular feedbacks and short books are both essential for beginner readers.
- It has to be economical for the teacher (limited preparation and classroom time needed)
- Students enjoy to share their thoughts about the things they like!

## 4. Other findings: Reading habits

- Big readers in French (L2) are often big readers in Japanese (L1).
- Students usually don't read in L2 because:
  - no time (or motivation) to do so
  - books in French are difficult to find and/or expensive
  - they don't know which book to pick for their level
- > All issues solved by the French ER program!

23. Est-ce que vous aimez lire des livres (papier ou numérique) en japonais ? Réponses : 18 Noté(e) : 230
23. Commentaires : Réponses : 13 Questions ouvertes : "Je lit un livre japonais tout les jours, j'aime lire beaucoup!" http://www.researchgate.net/publication/314488888
24. Est-ce que vous aimez lire des livres (papier ou numérique) en français (au-delà du niveau du lycée) ? Réponses : 18 Noté(e) : 133
24. Commentaires : Réponses : 10 Questions ouvertes : "Je lisais des livres en français comme ça quand j'étais au lycée (niveau lycée)..." http://www.researchgate.net/publication/314488888

## Thank you for your interest!

## 4. Other findings: Motivation

- When asked why they enjoyed the program, or a book in particular, 2 answers always come:
- "I enjoyed it because it helped me learn new vocabulary and improve my reading skills in French."  
(extrinsic motivation)
- "The books were so fun. I enjoy the stories, characters and illustrations very much!"  
(intrinsic motivation)

J'aime lire les livres.
J'ai aimé "P'tit Boule et Bill : La partie de crêpes".
フランス語の本を一冊借りると難しくて読めないの、絵本レベルの本を借るのがレベル的に丁寧かったです。
Parce que je peux apprendre de nouvelles expressions et du vocabulaire.
C'est quand on peut apprendre des mots que je ne sais pas.
新しい言葉や小さい子に対して使うような言葉、また日常生活でも使えるような単語が手に入った事です。
Les livres très intéressants pour moi.

## Resources



- Campbell A. P., Yoshida M. et alii (2015). Characterizing Best Practices in an Extensive Reading Program. *Kenkyū Ronsō*, 85, 77-95.
- 平松尚子 (2009). フランス語の読解指導における精読と多読の効用について. 『藝文研究』 (96), 165-177.
- Day, R. R., & Bamford, J.(1998). *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. U.K.: Cambridge University Press.

# GOALS IN THE GERMAN DEPARTMENT

- ## 1 HOW TO GET THERE
- Team Teaching
  - CEFR Training Courses
  - Proficiency Tests on KUFS Campus


### STUDENT PROFICIENCY GOALS

End of 1st year: level A1  
 End of 2nd year: level A2  
 End of 3rd year: level B1

### EXTENDED TEAM TEACHING

1st year & 2nd year: since 2018  
 8 teachers, shared textbook  
 4 courses (conversation, reading & writing, CALL, grammar)  
 shared online class register




### Common European framework

On this level you can...

<b>A1</b> Breakthrough! • understand and use familiar expressions • understand simple messages • communicate in simple and routine tasks • understand simple written texts	<b>A2</b> Waystage • understand the main points of standard oral communication • understand the main points of written communication • understand short audio texts • understand short written texts	<b>B1</b> Threshold • understand the main points of standard oral communication • understand the main points of written communication • understand short audio texts • understand short written texts	<b>B2</b> Vantage • understand the main points of standard oral communication • understand the main points of written communication • understand short audio texts • understand short written texts	<b>C1</b> Effective operational proficiency • understand a wide range of standard oral communication • understand a wide range of written communication • understand audio texts • understand written texts	<b>C2</b> Mastery! • understand virtually all standard oral communication • understand virtually all standard written communication • understand audio texts • understand written texts
---	---	--	--	--	--

CEFR



textbook  
 workbook  
 intensive trainer  
 teacher's manual  
 test book



Netzwerk neu



## TEACHERS & COURSES

	G1	G2
Grammatik	Tsutsui (Mo 1 + Do 2)	Hashimoto (Mo 2 + Do 1)
CALL (Hörverstehen)	Konagai (Mo 2) + Kaneko (Do 1)	Konagai (Mo 1 + Do 2)
Textproduktion + Leseverstehen	Haneda (Fr 1)	Kaneko (Di 1)
Konversation	a	b
	Bergmann (Di 1) + Sugimoto (Fr 2)	Kellmann (Di 2) + Bergmann (Fr 2)
		Bergmann (Di 2) + Pinnau (Fr 1)

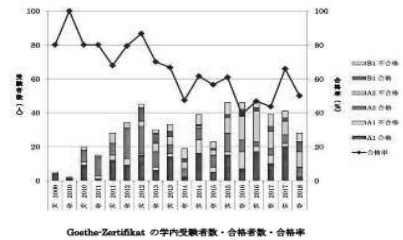
## TRAINING COURSES

A1 (1st year)  
A2 (2nd year)  
B1 (2nd-3rd year)

## ONLINE CLASS REGISTER (GOOGLE DOCS)

<p>1. Semester (Fr 2, 4 Klasse)</p> <p>a. Bergmann (Fr 2, 4 Klasse)</p> <p>c. Pinnau (Fr 2, 4 Klasse)</p>	<p>Kaneko: als PAK Bergmann: nicht gemacht Pinnau: als PAK</p>
<p>ITS 5 Bergmann (Fr 2, 4 Klasse)</p> <p>Bergmann (Fr 2, 4 Klasse)</p> <p>Pinnau (Fr 2, 4 Klasse)</p>	<p>Bergmann: Miete ist als Eintrag in Woche 5. Pinnau: als PAK</p>
<p>KB WS13 Konagai (Do 2, 4 Klasse, Call)</p> <p>Kaneko (Do 1, 4 Klasse, Call)</p>	<p>Konagai: Niwa/Wag Folge 9: Zahlen von 1 bis 100 Kaneko: als PAK</p>
<p>Woche 5 (17. Mai - 21. Mai) Kapitel 2</p>	
<p>Übungen erledigt?</p> <p>KB 6 Kaneko (Di 2, 4 Klasse)</p> <p>abc Bergmann (Di 2, 4 Klasse)</p> <p>abc Bergmann (Di 2, 4 Klasse)</p>	<p>Kommentare, Zusatzmaterial etc.</p>
<p>AB 6 Tsutsui (Mo 2, 4 Klasse)</p> <p>Hashimoto (Do 1, 4 Klasse)</p> <p>Kellmann (Di 2, 4 Klasse)</p>	<p>Kellmann: als PAK</p>

## SUCCESS OR FAILURE?

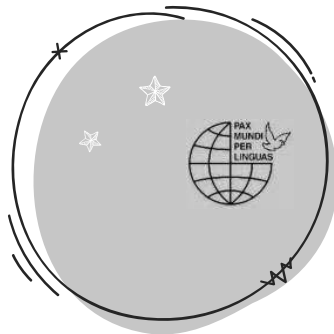


## PROFICIENCY TESTS



@ KUFWS Campus

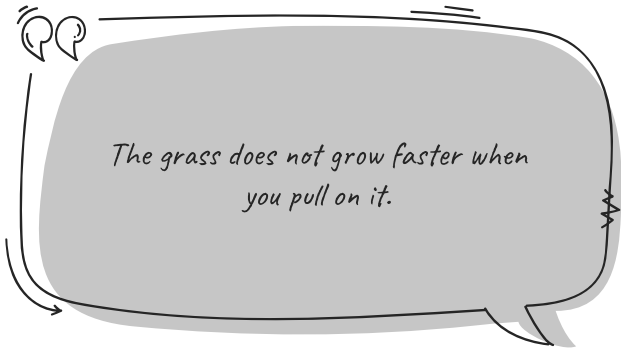
since 2009



## CONCLUSION

Pros & Cons

Outlook for the Future



13

THANKS!

Any questions?

You can find me at:

X [msugimoto@kufs.ac.jp](mailto:msugimoto@kufs.ac.jp)



14

## 冬季オンライン FD 講演会（資料・報告）

日 時：2022 年 2 月 24 日（木）10:30～12:00／16:30～18:00

方 式：Microsoft Teams によるオンライン開催

参加者（専任教員・非常勤講師）合計：延べ 131 名

日本語講演：84 名

英語講演：47 名



## 【開催趣旨・講評】

2020年度は新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で夏季FDが中止となりました。しかし、全教員が突然オンライン授業の実施を余儀なくされたことから、2020年5月に急遽オンライン分科会を開催しました。また、冬季FDについては開催することにはしたものの、例年とは少し形態を変え、2020年5月に開催したオンライン分科会とほぼ同様の体制でおこないました。これはともかく全教員が突然オンライン授業に対応しなければならないという事情への配慮でした。そして2021年度もコロナ禍による影響が続いてはいましたが、いつまでも緊急対応というわけにもいかないだろうということで、2021年9月の夏季FDもオンラインでの実施とはなったものの、2019年度までの体制に戻して通常通り実施しました。

そして、2022年2月の冬季FDでは、午前には本学法人部法務担当の柿沼拓也弁護士により「大学のオンライン授業において留意すべき著作権の知識」、午後には神田外国語大学のNeil Curry先生により「Helping anxious language learners」という題目で講演をいただきました。まず、午前の著作権に関する講演について述べたいと思います。84名の参加がありました。教科書や教材の教育利用に関しては、著作権法において特別な配慮がされていると言うものの、全てが自由だと言うわけではありません。教員が遵法意識を持ち、範を示すことが大切だと言えます。

次に午後の「Helping anxious language learners」について述べたいと思います。47名の参加がありました。悩める学習者の動機づけをどのように高めていくのかという課題は、対象言語が異なれど本学の永遠かつ共通のテーマと言えます。私自身、日本語教師の立場から、英語教育の取り組みを学ぶことができ、大変に参考になりました。本学のほとんどの教員が、言語教育という共通テーマを持つのが本学の特徴であり、強みであると思われます。FD活動をきっかけに、言語の枠を超えた「協働」による教育研究がおこなわれることも期待したいと思います。

ご参加いただいた教職員のみなさまに、改めて心から御礼申し上げます。

FD委員会 委員長 森 篤嗣

日時：2022年2月24日（木）10:30～12:00／16:30～18:00

方式：Microsoft Teams によるオンライン開催

日本語講演（10:30～12:00）

司会：森篤嗣 委員

講師：柿沼拓也 弁護士（法人部法務担当）

英語講演（16:30～18:00）

司会：ケイト・メイヤ 委員

講師：ネイル・カリー 先生（神田外語大学）

Date : 24<sup>th</sup> February, 2022 (Thursday) 15:00~17:00

Location : Microsoft Teams, 2021 年度 FD 分科会/FD sessions

Japanese Lecture (10:30~12:00)

Moderator : Atsushi Mori (Department of Japanese Studies)

Invited Speaker : Lawyer Takuya Kakinuma (Division of Corporate Affairs)

English Lecture (16:30~18:00)

Moderator : Kate Maher (Department of British and American Studies)

Invited Speaker : Professor Neil Curry (Kanda University of International Studies)

## 【日本語講演】

2021 年度・冬季 FD

「大学のオンライン授業において留意すべき著作権の知識」

講演者：柿沼 拓也先生（本学法人部法務担当 弁護士）

コーディネーター：森 篤嗣委員（外国語学部日本語学科）

実施日時：2022 年 2 月 24 日（土）10:00～12:00

実施形式：Teams によるオンライン講演

### 1. 本 FD について

#### (1) ねらい

オンライン授業が本格化し、授業を担当する教員の中で、著作権について判断に迷う場面も生じていると思われる。そこで、著作権について理解を深めるとともに、安心してオンライン授業を展開できるよう、本学法人部において法務を担当なさっている柿沼先生にご講演をいただくこととした。

#### (2) 参加者数

専任教員及び非常勤講師を合わせて 84 名の参加があった。

### 2. 講演内容

#### \* 著作者の権利の保護は大事

- ・しかし、その究極の目的は「それにより文化の発展に寄与する」という点である
- ∴権利者保護と文化の発展のバランスが大事である

#### \* 著作物の定義

- ・「思考または感情」を「創作的に」「表現」したものであつて、「文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属する」もの
- ∴特定のブランド名、会社名などは文字の羅列であるので、これを使うことは著作権法上の問題には当たらない

#### 2-1. 著作権とは何か

- ・店舗にある本やネット上の画像、web サイトの記載などはほとんど著作権があると考えた方がよい
- ・著作権は一定期間後に消滅する（保護期間は著作者の死後 70 年、映画の場合は著作物の公表後 70 年間：起算点は著作者の死亡／著作物の公表後の翌年 1 月 1 日）

## 2-2. 大学の授業における著作権の使用

\*原則として著作権者の利用許諾が必要

→ただし、一定の場合に限り、許諾なしに使用可能

\*著作権法における「著作権の制限」

- ・私的使用の範囲であればコピー可
- ・入試問題・定期試験に使う場合は、著作権者の利益を不当に害する場でなければ複製や公衆送信が可能（過去問集のようなものを作成する際は著作権の許諾が必要）
- ・非営利の教育機関では、教育の公益性に鑑みて許諾なしで使用できることが多い

\*上映について

- ・授業内でDVDを再生(上映)して学生に映画を見せることは可能(著作権法38条第1項)
- ・公表された著作物の非営利・無料・無報酬の上映は誰でも可能(教員の給与や学生の授業料は、教育への対価であるため、ここでの報酬としては扱われない)  
ただし出所(注:「でどころ」ではなく「しゅっしょ」)の明示が必要になることはある
- ・授業の参考に映画を流す場合は、口頭で監督名(著作者名)とタイトルを紹介するくらいでよいと考えられる(一般的な著作権者である制作会社などまで紹介する慣行はない)

\*複製について

- ・授業の参考として新聞をコピーして配布することは可能(著作権法35条第1項)

\*複製における要件(6点)

- ・公表された著作物であること
- ・非営利の教育機関で行われること
- ・教員又は授業を受ける者により行われること
- ・授業の過程における利用であること
- ・必要と認められる限度で行うこと → 必要であることの明確な説明が客観的にできること(「通常不要」なことはNG)
- ・著作権者の利益を不当に害しないこと → 【重要】市場での著作物の流通を阻害するよ  
うな影響を持つかどうか

+引用元を明らかにすること(例:○月×日\*\*新聞朝刊)

※補足:授業内容を一般に公開するような場合は上記を満たしていても、一般公開する範囲でNGとなる(∴「授業の過程における利用」に当たらない)

Table1 様々なケースとその判断<sup>1</sup>

例	内容	可否	備考
1	問題集をコピーして学生に配布・解かせる	×	購入して使用してもらう目的で作られており、コピーを認めると売れなくなる→著作権者の利益を不当に害することになるため ※購入した学生が授業当日に忘れた場合、該当箇所をコピーして配布することは可能
2	授業で採用した以外の教科書や教育用に編集された資料集の一部をコピーして授業で配布する	○	通常の本籍と同じ扱いになる 3の備考と同じ限度での使用が可能
3	雑誌、一般の本籍、観賞用の写真集のコピーを配布する	一部なら ○	ただし、数回程度が限度であり、頻繁に授業で用いるのであれば、購入させる必要がある
4	新聞記事の一部を pdf 化し、受講生全員に送信（公衆送信）する	○	公衆（不特定又は多数の相手方）送信の場合も原則として著作者の許諾が必要だが、「複製」と同じ要件により許諾なしで利用できる（上記の要件 6 点を確認＋出所の明示）
5	学生がダウンロードできるよう pdf ファイルをサーバーにアップロード（公衆送信）する	○	ただし、問題集などもともと購入が前提になっているものは送信不可
6	授業使用の目的でテレビ番組を録画して、サーバーにアップする	×	対面・オンラインを含め、授業内で上映する限りで許される
7	授業内で YouTube 等の動画投稿サイトの映像を再生して学生に見せる（公衆送信された著作物の伝達）	○	動画投稿サイトの授業での再生は「上映」ではなく「伝達」として 35 条 1 項により可能 ただし、違法に投稿された動画を上映することは NG
8	Netflix などのコンテンツ配信契約で配信される映像を、授業内で再生して学生に見せる	契約による	契約上、教育目的を含めて明確に複製・公衆送信が禁止されている場合、授業には利用できない *参考：「Netflix 教育目的」などで検索

<sup>1</sup> ここでいう「可否」は「基本的に」であり 100%を保証するものではないため、判断に迷う際や疑問を感じた場合は柿沼先生にご相談ください（連絡先は講演スライドに記載）。

\*対面で認められる範囲の著作物の取り扱い

- ・それを同時にオンラインで (i.e., ハイフレックスで) 受講生に流したとしても、問題にはならない (対面で問題ない内容は、オンラインでも差し支えない)。オンデマンドについても同様である

\*授業目的公衆送信補償金

- ・教育目的の理由で公衆送信をする場合、相当額を著作権者に支払う必要がある
- 本学は学生 1 人あたり年額 720 円を授業目的公衆送信補償等管理協会 (SARTRAS) に支払っている

\*過去のトラブル事例 (画像の不正使用) の紹介

- ・授業における成果物を学外に公表する場合は、「授業の過程における利用」にあたらないので注意が必要 (他人の著作物を使用したいときは、事前に教員に相談するよう、指示を徹底すること)

\*参考となる web サイトの紹介 (講演スライド参照)

### 3. 質疑応答

以下のとおり、質疑応答が活発に行われた。( \* : 質問, → : 回答)

\*写真の著作権について

- ・ネット上にアップされている写真で、Creative Commons に指定されていない写真を PowerPoint に貼るなどして用いる場合は、著作権の侵害になりますか。
- 授業内で使う範囲では著作権侵害にはあたらない (外部に公開する場合はトラブルになりえるので注意)。

\*以前に自分自身が作成して出版した問題集が今は絶版となっており、今後市場に出回る可能性はありません。しかし、そのコピー配布も NG でしょうか。

- 著作権が今、どこに帰属しているかによる。教員自身であればコピーは問題ない。著作権譲渡をしている場合などは、絶版になっていても再度出版される可能性はあるので、出版社に許諾を取るのが安心と思われる。

\*Teams で授業内容を録画した場合について、テレビ番組の内容が含まれていたり、学生が出所を明らかにせず発表に使用したものが含まれていたりすることは問題ないでしょうか。

- ダウンロードさせることの問題は、テレビ番組の代替物としていつでも視聴可能とすることで、著作権者の利益を不当に害する点にある。Teams で授業を録画して配信する場

合、テレビ番組の上映は授業風景の一部にすぎず、テレビ番組の代替物として視聴可能とまではいえないため、問題ないとする。(出所を表示せずに、複製物を用いて発表することは問題となりうる。)

\*公開の範囲について、今回は「授業」というお話しでしたが、公開講座や市民講座などの場合どうなりますか。

→公開講座の場合は複数の人が自由に閲覧できるため、NGとなる可能性が極めて高い。

\*写真や映像を使用することについて、「肖像権」はどう考えればよいでしょうか。

→肖像権は、法律には定めはないが、判例上認められている権利である。著作権とは別に存在する権利であるため、写真を撮る場合、公の場所であっても、アップする際は顔を隠すなどした方が無難である。

\*公開講座以外について、「シニア大学」のような、登録した方が対象の場合はどうなるでしょうか。

→「シニア大学」(カルチャーセンターのような扱い)は「学校その他の教育機関」に当たらないので、NGである。

\*自身が外部の講座を行う際、YouTubeの映像を使うことは可能でしょうか。

→引用の要件を満たした上で、出所を明らかにして使うことが重要。大事なはその映像を単に流すというより、講演の中で別のテーマがあり、必要に応じてその動画を流すということである。

\*70年以上前に発表された文章をレジュメなどに用いたり、自身の著書でも述べたりすることは可能でしょうか(映画とは別に、そのスピーチ部分が書かれた書籍もあるような場合)。

→映画の中でのスピーチが書籍化されているものなどは、映画の中の一部分を文字に起こしたものと考えられるので、映画の公開日を基準にして、保護期間の経過について考えればよい。

\*本日の著作権のお話にある○×は、海外の著作物にも当てはめることができますか。

→ベルヌ条約に加盟国の著作であれば、日本の国土内であればその法律で扱ってよいというように、海外の著作物に当てはめて考えることはできる。ただし、例外はあるので、迷った際は相談をしてほしい。

\*タブレット端末に、テキストを複製したようなものを入れて持参している学生がいます。

テキストが重たいという理由ですが、購入していないのではと思われるようなケースがあり、こうした学生にきちんとテキストを購入するよう依頼する場合、何と伝えればよいでしょうか。

→テキストを購入しているのであれば、その行為は私的利用の範囲なので認められると考えられる。しかし、購入せず他人のものを撮影して保存している場合は私的利用の範囲を外れるので著作権法上はNGとなる。「伝え方」は難しいが、「そもそも違法行為はNGである」ことと、「授業のテキストは作成者が相当の時間を割いて作成しているものであり、対価を支払わずに自由に使ってよいということにはならない（作成者への敬意をもって使うべき）」「もし自分が同様のことをされたらどう思うかを考えてほしい」などと説明するのはどうか。

\*個人で撮影した動画を中心に教科書を作っています（著作権は自分にある）。これを他の先生にも使ってもらうことは問題ないでしょうか。

→著作権が教員自身にあるならば問題ない。

\*全員が購入するよう指示している、私が作成したテキストを、まだ購入していない学生にpdfとして配布することは問題ないでしょうか。

→後日買うことが自明なのであれば可能。また、自分が著作権者のものであれば特に問題ないと思われるが、著作権を持っているのが出版社か教員自身かについて、事前に確認した方がよい。

\*授業で教科書として購入してもらっている TOEIC の問題集があります。この問題集の問題の一部をそのままコピーし配布し、復習テストとして利用することは可能ですか。

→可能と考えられる。

\*映像をダウンロードできるようにするのはNGとありますが、Teamsで提示した際に、ダウンロードはできなくても学生が画面の写真を撮るようなことは可能です。このことはどう考えればよいでしょうか。

→学生が写真を撮るということは、自分の手元に残すという前提と思われるため私的利用の範囲と考えられるので、その程度であれば著作権法上の問題はないと思われる。

\*TOEICの公式問題集について、学生に実際のTOEICの試験の感じを把握してもらうため、教員自身が持っている書籍に掲載されている過去問や、その中に収録されている音声を学生に提示することは問題ないでしょうか。

→コピーして配布するということまでは認められないと考えられるが、プロジェクタに投影する程度であれば、「引用」として提示できる可能性はある。

2021年度冬期FD  
大学のオンライン授業において  
留意すべき著作権の知識

学校法人京都外国語大学  
法務担当 弁護士 柿沼拓也

©弁護士 柿沼拓也

1

# 1. 著作権とは何か

©弁護士 柿沼拓也

4

## 自己紹介

- ・群馬県出身
- ・同志社大学法科大学院修了。法務博士(専門職)
- ・2013年12月 京都弁護士会で弁護士登録  
(京都市内の弁護士事務所に所属)
- ・2016年5月より 学校法人京都外国語大学
- ・現在は、法人部 秘書室に所属
- ・著書: Q&A 私学のための働き方改革(中央経済社、2020年)

©弁護士 柿沼拓也

2

## 1. 著作権とは何か

### (1) 著作権の存在意義

#### 目的(著作権法1条)

この法律は、著作物並びに実演、レコード、放送及び有線放送に関し著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作者等の権利の保護を図り、もつて文化の発展に寄与することを目的とする。

→権利者保護と文化の発展のバランスを取りながら、法律が定められている。

©弁護士 柿沼拓也

5

## 本日のスケジュール

1. 著作権とは何か
2. 大学の授業における著作権の使用
3. 過去のトラブル事例

©弁護士 柿沼拓也

3

## 1. 著作権とは何か

### (2) 著作物の定義(著作権法2条1号)

「思想又は感情」を「創作的に」「表現」したものであって、「文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属する」ものをいう。

©弁護士 柿沼拓也

6

## 1. 著作権とは何か

### 著作物の例示(著作権法10条1項)

- 一 小説、脚本、論文、講演その他の言語の著作物
  - 二 音楽の著作物
  - 三 舞踊又は無言劇の著作物
  - 四 絵画、版画、彫刻その他の美術の著作物
  - 五 建築の著作物
  - 六 地図又は学術的な性質を有する図面、図表、模型その他の図形の著作物
  - 七 映画の著作物
  - 八 写真の著作物
  - 九 プログラムの著作物
- ⇒お店にある本、インターネット上の画像やWebサイトの記載、ほとんどすべてのものに著作権があると考えて行動する。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

余談だが...

英会話が録音された教材

→音楽の著作物ではない。

→言語の著作物を口述(又は実演)し、録音という形で複製したものという理解

口述権(著作権法24条)

著作者は、その言語の著作物を公に口述する権利を専有する。

複製権(著作権法21条)

著作者は、その著作物を複製する権利を専有する。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

### (1)総論

- ・他人の著作物を使用するときは、原則として、著作権者の利用許諾が必要。
- ・しかし、それだと著作物を使いにくく、文化的な活動の妨げになる。
- ・一定の場合に、著作権者の許諾なしに使用できる。 一次のスライドへ

## 1. 著作権とは何か

### (3) 著作権の保護期間

- ・著作権は一定の期間経過で消滅し、公有財産(パブリックドメイン)となる。
- ・その存続期間のことを、保護期間と呼んでいる。
- ・原則として、著作者の死後70年間(著作権法51条2項)。
- ・映画の著作権は、著作物の公表後70年間(著作権法54条)。
- ・期間を計算する際の起算点は、著作者の死亡した日、映画であれば公表された日の属する年の翌年1月1日(著作権法57条)。
- ・例)1950年に亡くなった人の著作権は、1951年1月1日を起算点として、2021年12月31日の経過で消滅。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

- ・一定の場合について定められているのが...  
著作権法 第二章第三節第五款「著作権の制限」
- ・例)私的使用の範囲であれば、著作物のコピー(複製)を認める(30条)。
- ・例)入試問題や定期試験に使う場合には、著作権者の利益を不当に害することとなる場合を除き、著作物の複製や公衆送信を行うことができる(36条)。
- 非営利の教育機関での使用に関しては、教育の公益性に鑑み、許諾なしに使用できることが多い。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

### (2)各論1 ～上映について～

- ① 授業内でDVD等を再生(上映)して、学生に映画を見せることはできるか？

#### 上映権(著作権法22条の2)

著作者は、その著作物を公に上映する権利を専有する。 と、あるが…

⇒○ 著作権法38条1項によりできる

## 2. 大学の授業における著作権の使用

### (2)各論2 ～複製について～

- ②-1 授業の参考資料として新聞の文献をコピー(複製)し、受講生に配付することができるか？

#### 複製権(著作権法21条)

著作者は、その著作物を複製する権利を専有する。 と、あるが…

⇒○ 著作権法35条1項によりできる

## 2. 大学の授業における著作権の使用

#### 営利を目的としない上演等(著作権法38条1項)

公表された著作物は、営利を目的とせず、かつ、聴衆又は観衆から料金を(いずれの名義をもつてするかを問わず、著作物の提供又は提示につき受ける対価をいう。以下この条において同じ。)を受けない場合には、公に上演し、演奏し、上映し、又は口述することができる。ただし、当該上演、演奏、上映又は口述について実演家又は口述を行う者に対し報酬が支払われる場合は、この限りでない。

⇒公表された著作物の、非営利・無料・無報酬の上映は、誰でもできる。

※ただし、「出所の明示」が必要となることがある(著作権法48条)。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

#### 学校その他の教育機関における複製等(著作権法35条1項)

学校その他の教育機関(営利を目的として設置されているものを除く。)において教育を担当する者及び授業を受ける者は、その授業の過程における利用に供することを目的とする場合には、その必要と認められる限度において、公表された著作物を複製し、若しくは公衆送信(自動公衆送信の場合にあつては、送信可能化を含む。以下この条において同じ。)を行い、又は公表された著作物であつて公衆送信されるものを受信装置を用いて公に伝達することができる。ただし、当該著作物の種類及び用途並びに当該複製の部数及び当該複製、公衆送信又は伝達の態様に照らし著作者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

#### 出所の明示(著作権法48条)

次の各号に掲げる場合には、当該各号に規定する著作物の出所を、その複製又は利用の態様に応じ合理的と認められる方法及び程度により、明示しなければならない。

- 一 (略)
- 二 (略)
- 三 …第三十五条第一項、…(略)…第三十八条第一項…の規定により著作物を利用する場合において、その出所を明示する慣行があるとき。

一難しいところだが、授業の参考に映画を流すときは、口頭で、監督名(著作者名)とタイトルを紹介するくらいではなからうか。著作権者(製作者会社)まで紹介する慣行があるようには思えない。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

#### <要件>

- a 対象が公表された著作物
- b 非営利の教育機関において行われること
- c 教員又は授業を受ける者により行われること
- d 授業の過程における利用であること
- e 必要と認められる限度で行うこと 一解説
- f 著作権者の利益を不当に害しないこと 一解説  
⇒権利者の許諾なしに、複製or公衆送信を行うことができる。  
+出所の表示も忘れない! 例)著作者名(文献名)という形。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

### e 「必要と認められる限度」とは？

→授業の内容や進め方との関係で、必要であることの明確な説明が客観的に(=大抵の人が納得できる形で)できればよい。

- 学習に結び付かない他人のイラストを教材に貼り付けるのは、通常不要。
- 授業では直接扱わないが、読んだら参考になる書籍を丸々一冊コピーして配付するのは、通常不要。  
→書籍のタイトルや著作者を学生に紹介して読んでもらえばよい。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

### f 「著作権者の利益を不当に害しないこと」とは？

- ②-3 「授業で採用した以外の教科書」や「教育用に編集された資料集」の一部をコピー(複製)して、授業で配付できるか？

→○ できる。通常の書籍と同じ扱い。

→通常、授業用の教科書や資料集を何種類も購入させることはない。  
採択以外のものを限定的に使用しても売れ行きに影響しない。

…これを言う問題集も、採用したもの以外はコピーして良いのでは？とも思えるが、問題集は何種類も使うという理解なのかもしれない。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

### f 「著作権者の利益を不当に害しないこと」とは？

- その利用方法が、市場での著作物の流通を阻害するような影響を持つかという観点から判断されている。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

### f 「著作権者の利益を不当に害しないこと」とは？

- ②-4 「雑誌」、「一般の書籍」、「観賞用の写真集」をコピー(複製)して、授業で配付できるか？

→一部を複製するだけであれば可能。…多くをコピーするなら購入させよ！

→上記の書籍等は、授業で購入して使用されることを目的に作られていないので、配付したとしても、売上げ低下に繋がらない。

→もともと、数回程度が限度。

※頻繁に授業で用いるなら購入させよということになる。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

### f 「著作権者の利益を不当に害しないこと」とは？

#### <検討>

- ②-2 問題集の1ページをコピー(複製)して授業で学生に配付して解かせることができるか？

→× 問題集の一部分であっても複製不可。

→問題集は、学習する者に購入して使用してもらう目的で作られている。

→コピーでの使用を認めると問題集が売れなくなるため、著作権者の利益を不当に害する。

※購入済みの学生が授業に忘れたので、該当箇所をコピーして配付することは可能。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

### (2) 各論3 ～公衆送信について～

- ③-1 授業の参考資料として配付する目的で、新聞記事の一部をpdf化(複製)し、メールに添付して、受講生全員に送信(公衆送信)することができるか？

※「公衆送信」とは、公衆(不特定又は多数の相手方)に、電波や有線電気通信により送信を行うこと(著作権法2条7号の2)。

#### 公衆送信権等(第23条)

著作者は、その著作物について、公衆送信(自動公衆送信の場合にあつては、送信可能化を含む。)を行う権利を専有する。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

⇒以下を満たせばできる。複製と同じ理解。

<著作権法35条1項の要件> (再掲)

- a 対象が公表された著作物
- b 非営利の教育機関において行われること
- c 教員又は授業を受ける者により行われること
- d 授業の過程における利用であること
- e 必要と認められる限度で行うこと
- f 著作権者の利益を不当に害しないこと

+出所の表示も忘れない！

新聞なら、「〇〇新聞〇月〇日朝刊」という形か。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

- ③-4 授業内でYouTube等の動画投稿サイトの映像を再生(公衆送信された著作物の伝達)して学生に見せることはできるか？

※細かい話だが・・・

動画投稿サイトの授業での再生は「上映」ではなく「伝達」に分類される。「上映」を定義した著作権法2条17号において、上映の対象物から公衆送信される著作物が除外されているため。

⇒〇 著作権法35条1項によりできる

→ただし、違法に投稿された動画を上映することは、著作権者の利益を不当に害することとなり、許されない。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

- ③-2 ③-1と同じケースで、学生がダウンロードできるようにpdfファイルをサーバーにアップロード(公衆送信)することはできるか？

⇒これも同様に見える

※もつとも、③-1も③-2も、複製のとくと同じく、問題集など、元々購入して使用することが予定されているものは、公衆送信できない(著作権者の利益を不当に害することになる)。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

- ③-4 Netflix等のコンテンツ配信契約で配信される映像を、授業内で再生(公衆送信された著作物の伝達)して学生に見せることはできるか？

→契約内容による。

契約上、複製・公衆送信して利用することが禁止されている場合、授業には利用できない。

→Netflixは一部の教育的ドキュメンタリーに限り、1学期に1回の限度で授業内での上映を認めている。<https://help.netflix.com/ja/node/57695>  
「Netflix フリックス 教育目的」等で検索すると、関連記事が見つかる。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

- ③-3 授業で使用する目的で、テレビ番組を録画(複製)し、学生がダウンロードしていつでも視聴できるよう、サーバーにアップロード(公衆送信)することはできるか？

→× 録画はOKだが、番組をダウンロードできるよう、サーバーにアップロードすることは基本的にNGと考えるべき  
・・・学習以外の用途には使えない程度のもなら許される場合もありそうだが。

→ダウンロードしていつでも視聴できるようにすることは権利者の利益を不当に害する。

→授業内(対面・オンライン含む)で上映する限りで許される。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

・対面とオンラインのハイブリッド授業について

・対面授業で認められる範囲の著作物の取扱いは、それを同時にオンラインでの受講生に流したとしても、問題にはならない。

## 2. 大学の授業における著作権の使用

### ・授業目的公衆送信補償金

#### 著作権法35条2項

前項の規定により公衆送信を行う場合には、同項の教育機関を設置する者は、相当な額の補償金を著作権者に支払わなければならない。

→大学なら学生1人あたり年額720円といった具合に、文化庁の定める金額があり、授業目的公衆送信補償等管理協会(通称:SARTRAS)に支払う。

→これについては、法人部法人課において、まとめて支払っている。  
京都外国語大学、京都外国語短期大学、生涯学習講座、教員免許更新講習、京大外大西高等学校、京都外国語専門学校…等の分

…権利者に配分するため、学部単位で利用状況調査の依頼があるため、公衆送信した著作物の記録をつけておくのが望ましい。

→法的に説明すると、①写真をネットから取ってくる「複製」と、②それを公表する際の「公衆送信」が、無断でなされたことが著作権法に抵触。

→教育機関における複製等を広く定めた35条1項があるが、授業の中で行っても、外部に公表されたものは、「授業の過程における利用」に当たらず、35条1項の適用がない。利用には許諾が必要となる。(35条1項は、あくまで学内にとどめた使用でなければならない。)

・学生にも賠償責任が発生する問題であるため、成果物を外部に公表する授業では、著作権法違反に十分に注意して取り組むよう指導することが肝要。

・他人の著作物を使用したいときは、事前に教員に相談させることを徹底する。  
・「引用」等の要件を満たせば利用できることもある。  
・著作権者に利用許諾を得て使う方法もある。

## 3. 過去のトラブル事例(1件)

### 本日のまとめ

・授業内で、授業に必要な範囲で映像等を流すことはできる。  
・しかし、学生がダウンロードできる形にして使うことはできない。  
・また、有料のコンテンツ配信サイトのデータの使用は注意する。

・授業に必要な範囲で、様々な文献をコピーしたり、授業用の資料に取り入れて配付することはできる。メールに添付して送信や、学生が資料をダウンロードできるようにすることもできる。(出所表記を忘れずに。)  
・しかし、問題集やドリルはそれができない。

・本日の説明は一般的なケースで、一律には言えないため、疑問に感じたら相談してください。 メールアドレス: t\_kakinu@kufs.ac.jp

## 3. 過去のトラブル事例

- ・授業内で学生が行った調査の結果を一般にも公表した。
- ・公表された成果物の中に、ある写真家が、京都の景色を撮影した写真が含まれていた。(当然、教員はそのことを知らない。)
- ・画像検索等で、本学のWebサイトに辿りついた写真家が、弁護士を通じて、「利用許諾を受けずに著作物を使用した」として、写真の削除および損害賠償を請求してきた。
- ・金額は、その写真家が利用許諾を与える際に使っている料金表に従った7万円。支払いがなければ、今後正規の損害額を請求するとのこと。
- ・やむなく7万円を支払うこととなった。
- ・中には、こういうビジネスをしている人もいかもしれない。

## 参考になるWebサイト

- ◆文化庁 学校における教育活動と著作権  
[https://www.bunka.go.jp/chosakuken/hakase/pdf/gakkou\\_chosakuken.pdf](https://www.bunka.go.jp/chosakuken/hakase/pdf/gakkou_chosakuken.pdf)
- ◆文化庁セミナー資料 学校教育と著作権  
[https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seminar/2021/pdf/93183101\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seminar/2021/pdf/93183101_01.pdf)
- ◆著作物の教育利用に関する関係者フォーラム 改正著作権法第35条運用指針  
[https://forum.sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin\\_20201221.pdf](https://forum.sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin_20201221.pdf)  
→本日の考え方は概ねこれに従っています。

ご清聴ありがとうございました！

お疲れさまでした。

【英語講演】

## KUFS Winter FD: English language session

### How to help students with foreign language learning anxiety

Neil Curry (KUIS)

*February 24, 2022, 16:30-18:00*

*Attended by 47 faculty members.*

*Report written by Romain Jourdan-Ôtsuka and Kate Maher.*

Neil Curry has been a learning advisor in the Self-Access Learning Center at Kanda University of International Studies in Japanese for the last 8 years. As well as being responsible for the department's curriculum development, his primary interests include learner autonomy, self-directed learning, foreign language anxiety, and reflection on learning.

#### I – About student's anxiety

**Question** to the audience: Why do we need to consider our students' emotions?

Comment: We have many students needing emotional support for anxiety, panic crisis, difficulty coming to class, etc., and this number is increasing each year. (J. Berglund)

Neil was invited once to a freshman class and gave the 20 students a brief questionnaire to better understand their emotions, answering with one word for each question.

“Nervous”, “anxious”, “worried” and “ashamed” were some of the most frequent negative emotions. There were also some positive feelings such as ‘happy’, ‘fun’ and ‘motivated’.

Students were particularly anxious about being seen by the other people in the classroom.

Neil tried to help them think more objectively than emotionally to help them balance their negative thoughts about language learning.

**Question:** If you've had students that are anxious about or lack confidence in speaking, what did you notice about them? What did you do about it?

Comments: Giving different ways to communicate (such as typing in the chat for hybrid/online class). Doing activities in class to help the students know each other better.

University classes are much more communicative than SHS classes, which put pressure on freshmen, but 3<sup>rd</sup> and 4<sup>th</sup> year students also consult Neil about their anxiety.

Most language teachers are knowledgeable in SLA pedagogy rather than in the psychological aspects of learning (feelings and emotions).

### What we can do:

- Focus on individual learners (more explanation in Curry, N. (2014).)
- Focus on groups / classes
- Understanding feelings
- Designing activities

## II - Using Cognitive Behaviour Therapy (CBT)

### Brief introduction to CBT:

We try to help the persons modify their emotions, through discussion, to replace negative responses with positive or neutral ones. CBT looks at symptoms rather than at causes.

The problem with negative emotions is that they become negative automatic thoughts, that will stop you from acting, while positive emotions will encourage you to perform again. Emotions can create both vicious and virtuous circles.



We need to get rid of negative emotions for that reason.

### Students' anxieties often stem from the same causes:

- Fear of making mistakes and being thought badly of / laughed at
- Making unfavorable comparisons between own abilities and others
- Mistakes are pointed out and criticized
- Being unable to communicate their thoughts

But they often worry about things that has not happened, most of the time, so we can help them to find out that there is no evidence that they will be laughed at (etc.), and that it is mostly an emotive, negative self-bias.

**Therefore, we try to help them realize the following:**

- Focus on rational, objective interpretations
- Focus on successes
- Look for evidence
- Talk to friends

### **III - Activities for raising confidence (based on CBT)**

**Goal setting** is an effective way to help students think progressively and fight their anxiety.

We ask the students to set long-term goals and think about the series of steps (short-term goals) to get there, as illustrated below:



Achieving the smaller, easier goals, will give them a confidence boost, impetus to keep going.

**Guided Discovery** is when learning advisors meet the students individually to listen to them and give them some insight on their progress, in a non-prescriptive way, because students should be able to determine their own goals and be autonomous in their progress.

**Socratic questioning** is when you make learners query their ideas, learn their strengths and weaknesses and find by themselves the most effective way to succeed.

Below is an example of such interaction between an advisor and a student:

Y: I think that I can... I know some English words, but actually..I didn't know... English words. So...

LA: Why would you think that's surprising? Is English your first language?

Y: Ah, *soka* (I see).

LA: How long have you studied English? How many years? Five?

Y: Six.

LA: And at school.

Y: Yes junior high school.

LA: What kind of language did you get at school? Easy language? High-level language?

Y: Easy language.

LA: Right. So would you be so shocked at finding lots of words you don't know?

Y: (laughs)

LA: If you think about it, it's probably normal. So you really shouldn't feel so bad about it.

Y: I'm too worried about.

#### **Encouraging reflection:**

- Problem diagnosis
- Explaining your situation
- Thinking Problems
- Goal Ladder

## **IV – Some activities we can do with our students in class or individually**

### **Warm ups / free write activities**

Think about a time you made a mistake in language / look back on something you did that....

How did you feel?

Write a letter to your future self

Write a letter to your future teacher

Tell me about something you learned this week

Rate the class activities this week

Rate your English participation this class / how can you improve?

Set a tangible goal for the week

Time management quiz / self-evaluation

Make a rubric – periodically reflect

**Confidence Building Diary** is a good tool to help the students become conscious of the positive elements of their learning activities.

**Talking to friends** will also give students helpful insights about the other people in the classroom feelings.

**Question:** Have you tried confidence building activities yourself?

**Comments:** Explaining the goals and the activities of the class in detail will reassure the students.

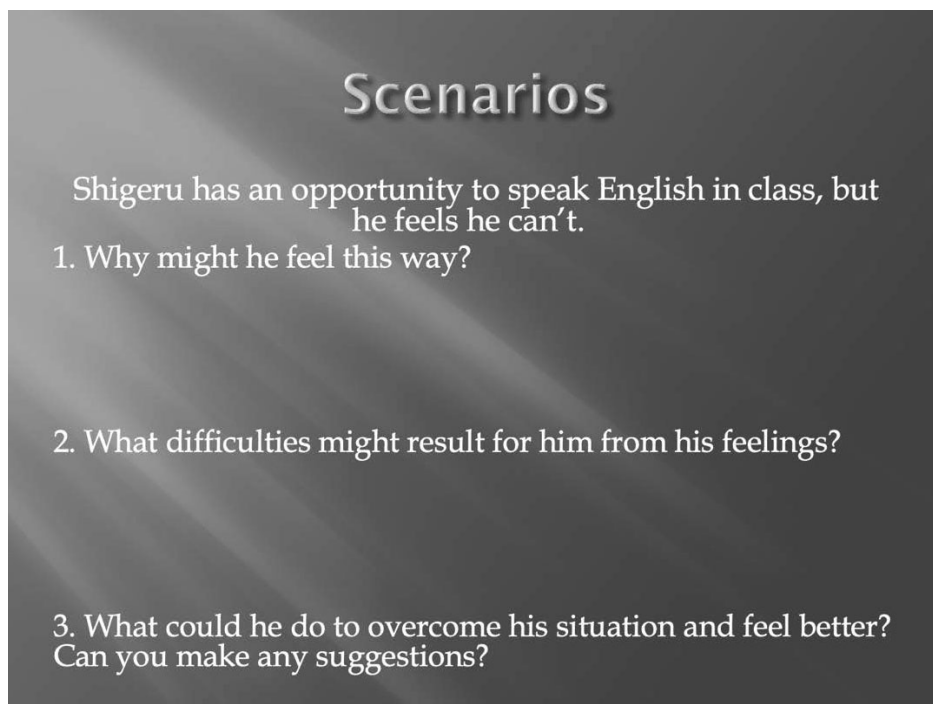
## V – Activities designed by Neil Curry & Kate Maher: Feelings questionnaire & Conversation Analysis

Both activities are done in the classroom. Research process and results are described in Curry, N. ., Maher, K. ., & Peeters, W. (2020).

The **Feeling questionnaire** is based on Gkonou and Oford's MYE (2016).

It uses scenarios, with fictional characters, to help the students better express their own feelings without sharing too much about themselves directly.

An example below:



**Scenarios**

Shigeru has an opportunity to speak English in class, but he feels he can't.

1. Why might he feel this way?
  
2. What difficulties might result for him from his feelings?
  
3. What could he do to overcome his situation and feel better?  
Can you make any suggestions?

In **Conversation Analysis**, the teacher first asked students engage in a simple conversation on an everyday life topic, then have them reflect on their performance, using questions such as the following:

## Conversation Analysis

- ▣ Did you make a mistake?
- ▣ Did anyone laugh because you made a mistake?
- ▣ Did anyone else make a mistake?
- ▣ Did you laugh because they made a mistake?
- ▣ If others make a mistake, do you think they are stupid?
- ▣ Could your partner understand you?
- ▣ How do you feel about the conversation you just had?
- ▣ Do you think your friend enjoyed it?

It allows the students to share their perspectives and understand that they all have similar fears and worries. It helps them get a more objective view of their emotions. It is amazingly effective.

### **Activities need to include:**

- Opportunities to reflect and question
  - Looking for evidence
  - Developing objectivity
- (As shown in the activities above)

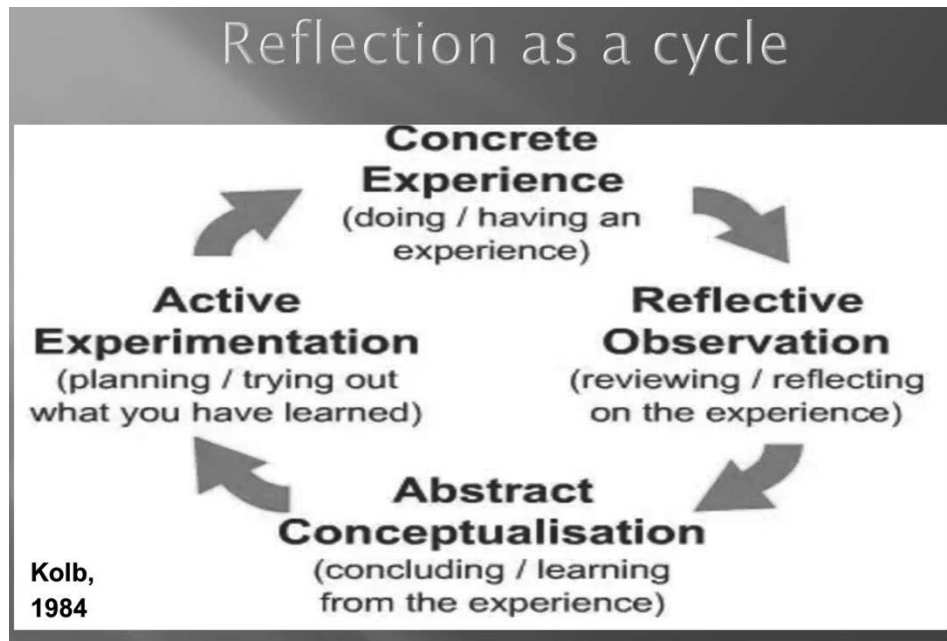
## **VI – In conclusion: Why have students reflect?**

### **To help them:**

- Focus on personal goals - Understand what they need to do
- Make connections with other things they do
- Understand their own learning processes
- Make better choices about their learning
- Understand themselves better

It is not a one-time activity. Reflection will help them during all their learning years and after, helping them setting their own goals, and giving them objective ways to assess their progress.

Reflection is a cycle, as described in the following diagram (borrowed from Kolb, 1984):



#### Some comments from the audience:

- How to deal with non-supportive peers (students making fun of each other)? In Neil's experience, he has never seen this, because students had the chance to think about their common feelings during activities and tend to enjoy sharing with their peers. Students tend to be respectful of one another in class.
- CBT doesn't try to negate or ignore negative feelings. It encourages for example resilience and help how to deal with negative feelings.
- It's important to reassure the students that they have every right to make mistakes in the classroom. Classroom is a place for experimentation.
- We have many students, and not so many are self-aware, or capable of deep reflection. How can we do it with the more common students? It is true that reflection activities will not work with everybody. It is good to try different type of activities (not only written activities, but also discussions, video diary, etc.), and it's important to go progressively, starting with simple things, scaffolding, and keep doing it regularly for better understanding of its benefits.

Neil Curry will be happy to continue the discussion through e-mail. Feel free to write him at [curry-n@kanda.kuis.ac.jp](mailto:curry-n@kanda.kuis.ac.jp).

#### References:

- Curry, N. (2014). Using CBT with anxious language learners: The potential role of the learning advisor. *Studies in Self-Access Learning Journal*, 5(1), 29-41.

Curry, N. ., Maher, K. ., & Peeters, W. (2020). Identifying Emotions and Thoughts Related to Speaking Anxiety: Laying the Groundwork for Designing CBT-based Support Materials for Anxious Learners. *JOURNAL FOR THE PSYCHOLOGY OF LANGUAGE LEARNING*, 2(1), 57-89.

Kolb, D. A. (1984). *Experiential learning: Experience as the source of learning and development* (Vol. 1). Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.

# HELPING ANXIOUS LEARNERS

Neil Curry

- Why do we need to consider our students' emotions?

## Content

- Anxious students
- Using Cognitive Behaviour Therapy
- Activities for raising confidence
- Encouraging reflection

How I feel about how much English I speak in class

upset bad  
anxious  
nervous  
worried

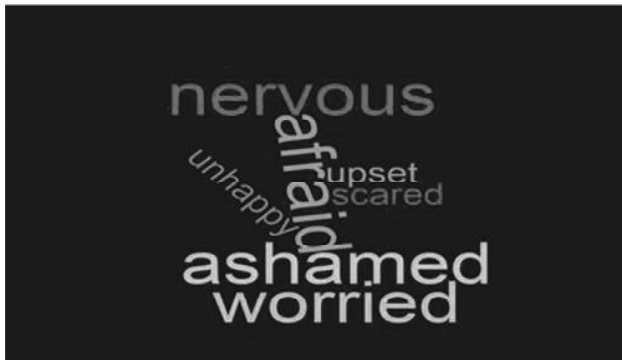
## My background

- Teaching in Japan since 2007
- KUIS since 2013 – learning advisor
- Since 2017 – responsible for SALC curriculum
- Teaching self-directed learning
  
- Interests: learner autonomy, foreign language anxiety, reflection

How I feel about my English speaking abilities

anxious  
worried  
depressed  
ashamed  
satisfied  
nervous

How I feel about making mistakes in class



How I feel about what other students might think about my English speaking



How I feel about speaking English with a classmate who is good at English



If you've had students who are anxious about or lack confidence in speaking, what did you notice about them?

What did you do about it?

How I feel about speaking English in class



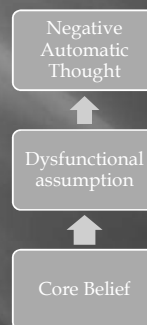
### Background to research

"for most language advisors, with a background based more on pedagogy than on psychology, dealing with feelings and emotions presents a challenge" Tassinari & Ciekanski, 2013, p263

## Background to research

- Focus on individual learners: Curry, N. (2014). Using CBT with anxious language learners: The potential role of the learning advisor. *Studies in Self-Access Learning Journal*, 5(1), 29-41.
- Focus on groups / classes
- Understanding feelings
- Designing activities

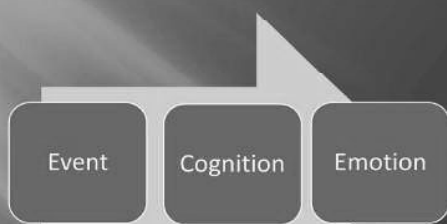
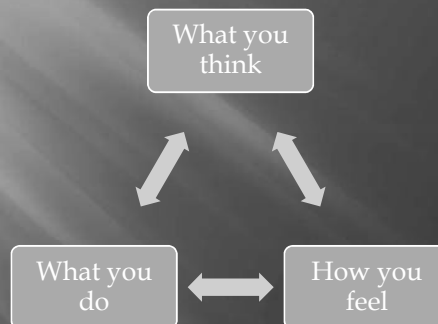
## Levels of cognition (Westbrook et al 2011)



## Cognitive Behaviour Therapy

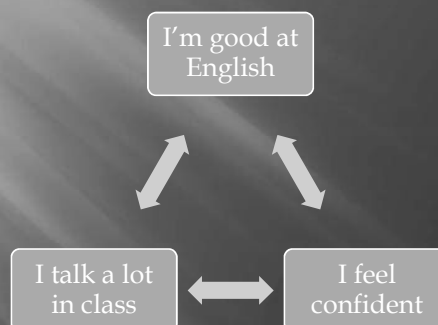
- Anxiety disorders
- Modify emotions and behaviours
- Replace negative response with positive or neutral
- Looks at symptoms, not causes

## Cognitive Cycle (Wilding 2012)

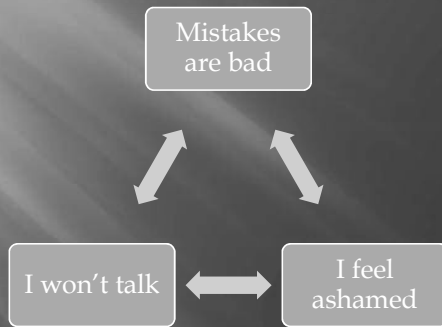


Westbrook, Kennerley & Kirk 2011

## Positive



## Negative



Often, the thing that they are afraid of hasn't actually happened

## Shared methods

- Goal setting
- Guided discovery
- Socratic questioning
- Reflection

## Responses are:

Emotional

Not always supported by evidence

Seem to reflect a negative self-bias

## Students' anxieties seem to stem from the same causes:

- Fear of making mistakes and being thought badly of / laughed at
- Making unfavourable comparisons between own abilities and others
- Mistakes are pointed out and criticized
- Being unable to communicate their thoughts

## Preferred responses:

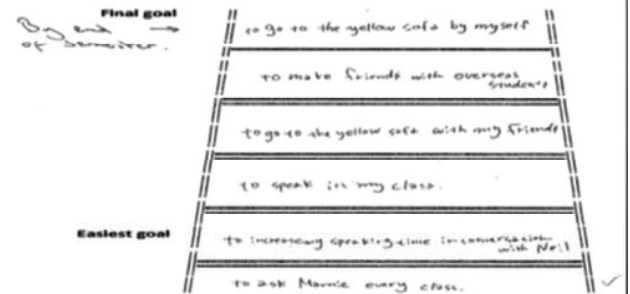
- Focus on rational, objective interpretations
- Focus on successes
- Look for evidence
- Talk to friends

## Thinking progressively

- ▣ Set goals
- ▣ Monitor progress – reflect
- ▣ Think objectively
- ▣ Ask questions
- ▣ Take risks

Think about your final goal and the steps you need to take to get there. Some of them will seem fairly easy and others will feel more difficult and may take longer to achieve. Put those that feel easiest at the bottom, the most difficult and long-term ones at the top, and the slightly easier ones in the middle.

Start at the bottom and see if you can complete your next task up the ladder. When you are successful, climb up to the next step and try that one. Taking small steps will help you to climb your ladder.



Adapted from material Copyright © 2007 John Wiley & Sons Ltd 978047051082202 (paperback)

## Goal-setting

- ▣ Long-term-goals – series of steps
- ▣ Measurable and quantifiable goals
- ▣ Boosts – confidence – impetus to next goal

## Guided Discovery – LAs (McCarthy 2009)

- ▣ Advisor as 'guide', 'facilitator'
- ▣ Help learners reflect, 'narrow their focus'
- ▣ Non-prescriptive, learner gain an insight into their own style, and determines their own goals



## Guided Discovery – CBT (Westbrook, Kennerley & Kirk 2011)

- ▣ Clients need to make own decisions
- ▣ Achieve autonomy
- ▣ Counselor acts as facilitator – becomes redundant
- ▣ Not prescriptive
- ▣ Identify needs and goals

## Socratic questioning

- ❑ Makes learners query their ideas
- ❑ Search for alternative perspectives
- ❑ Discover their own best way for examining a situation
- ❑ Learn their strengths & weaknesses
- ❑ Look for evidence which supports or negates a belief

- ❑ Problem diagnosis
- ❑ Explaining your situation
- ❑ Thinking Problems
- ❑ Goal Ladder

Y: I think that I can... I know some English words, but actually I didn't know... English words. So...  
LA: Why would you think that's surprising? Is English your first language?  
Y: Ah, *soka* (I see).  
LA: How long have you studied English? How many years? Five?  
Y: Six.  
LA: And at school.  
Y: Yes junior high school.  
LA: What kind of language did you get at school? Easy language? High-level language?  
Y: Easy language.  
LA: Right. So would you be so shocked at finding lots of words you don't know?  
Y: (laughs)  
LA: If you think about it, it's probably normal. So you really shouldn't feel so bad about it.  
Y: I'm too worried about.

## Looking for evidence

- ❑ Explaining Your Situation
- ❑ Challenging your beliefs

## Reflection

- ❑ Consider effectiveness of strategies a& resources
- ❑ Evaluate progress
- ❑ Plan future studies
- ❑ Analyse critical events
- ❑ Examine evidence
- ❑ Question beliefs

## Focusing on success

- ❑ Confidence Building Diary
- ❑ Identifying Possible Solutions

## Talking to friends

Ask your friends what they think about your worry

## But...

- ▣ What about a group of students?

Has anyone tried anything?

- ▣ LA - what would (friend) say to you about making a mistake?
- ▣ S - nothing maybe
- ▣ LA - what does she say about your worry?
- ▣ S - she says don't worry about that too much
- ▣ LA - do others make mistakes in class?
- ▣ S - sometimes
- ▣ LA - do you care?
- ▣ S - no

## Feelings questionnaire

- ▣ Examine students' own words
- ▣ Use in class
- ▣ Reflection
- ▣ Based on Gkonou and Oxford's MYE (2016)
- ▣ Curry, N. ., Maher, K. ., & Peeters, W. (2020). Identifying Emotions and Thoughts Related to Speaking Anxiety: Laying the Groundwork for Designing CBT-based Support Materials for Anxious Learners. *JOURNAL FOR THE PSYCHOLOGY OF LANGUAGE LEARNING*, 2(1), 57-89. Retrieved from <https://www.jppll.org/index.php/journal/article/view/curryetal>

- ▣ What other problems have you observed?

What activities need to include:

Explanation / model  
of thought process

What activities need to include:

## Discussion of problems / solutions

## Conversation Analysis

- ❑ Did you make a mistake?
- ❑ Did anyone laugh because you made a mistake?
- ❑ Did anyone else make a mistake?
- ❑ Did you laugh because they made a mistake?
- ❑ If others make a mistake, do you think they are stupid?
- ❑ Could your partner understand you?
- ❑ How do you feel about the conversation you just had?
- ❑ Do you think your friend enjoyed it?

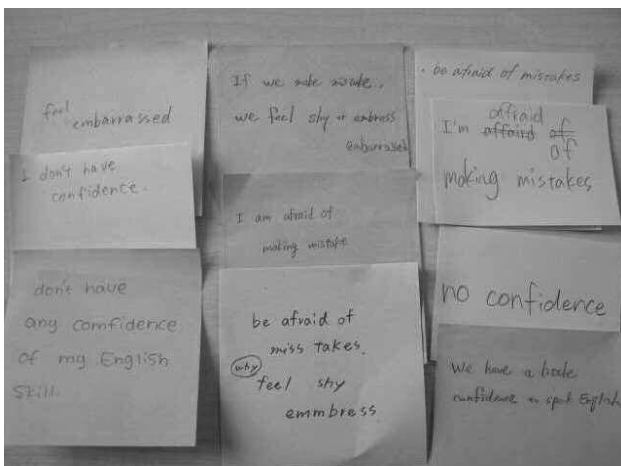
## Scenarios

Shigeru has an opportunity to speak English in class, but he feels he can't.

1. Why might he feel this way?
2. What difficulties might result for him from his feelings?
3. What could he do to overcome his situation and feel better? Can you make any suggestions?

What activities need to include:

- ❑ Opportunities to reflect & question
- ❑ Looking for evidence  
e.g. What evidence challenges your worries and thoughts?
- ❑ Developing objectivity  
e.g. What do you think might be a more balanced thought about your English?



- ❑ Challenge your beliefs 思考と向き合う
- ❑ Select your main negative belief and for **1 week** note **any** evidence which suggests that it's not necessarily true. 自分の中の特にマイナスと思われる考えを1つ選び、1週間それが必ずしも真実ではない証拠をすべて書き留めてください。
- ❑ Belief: 考え (e.g. "Everyone will laugh at me if I make a mistake!", "People can't understand my English")
- ❑ Evidence that does not support it: それが真実でない証拠

Not necessarily true. 自分の中の神にアイマスと思われる考えを1つ選び、1週間それの必ずしも真実ではない証拠をすべて書き留めてください。

**Belief 考え**

People can't understand what I say.

**Evidence that does not support it: それが真実でない証拠**

- When I talk with my brother in English to improve speaking skill, my brother could understand what I said. We could make conversation.
- When I did group discussion in Freshman English class, members couldn't understand what I said at my first try. But I talked slowly again so they could understand what I said.

What do you think might be a more balanced thought about your English? あなたの英語について、より偏っていない考えとほどのようなものかと思いませんか？

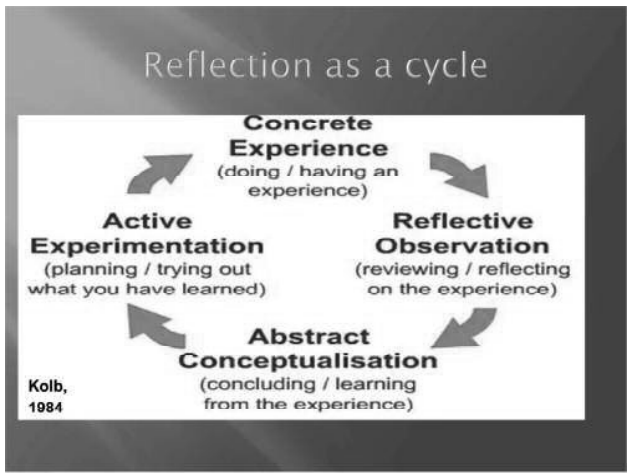
If I talk slowly, people can understand.

## Why have students reflect?

- Focus on personal goals - Understand what they need to do
- Make connections with other things they do
- Understand their own learning processes
- Make better choices about their learning
- Understand themselves better

## Importance of reflection

- What is reflection?
- Why should we get students to reflect on their learning?

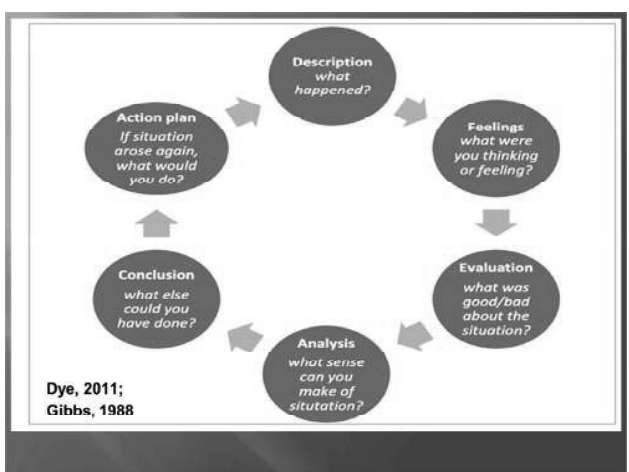


## What is reflection? And Why?

“Reflection is the process of internal examination to explore issues and concerns which are triggered by experience that may bring about conceptual changes in perspective.”  
 Boyd and Fales (1983)

Reflection is necessary in order to:  
 Re-define understanding  
 Develop self-awareness  
 Evaluate action  
 Enhance the quality of action  
 Increase accountability

(Dewey, 1953; Schön, 1983)



## Linear reflection



## Example

**Descriptive reflection:** Describing what happened

**Comparative reflection:** Thinking about the situation from different perspectives; question values and beliefs

**Critical reflection:** Looking at all the different perspectives of a situation and everyone involved

Farrell (2012)

## Introducing reflections

Warm ups / free write activities

- + Think about a time you made a mistake in language / look back on something you did that....
- + How did you feel?

Write a letter to your future self

Write a letter to your future teacher

Tell me about something you learned this week

Rate the class activities this week

Rate your English participation this class / how can you improve?

Set a tangible goal for the week

Time management quiz / self-evaluation

Make a rubric – periodically reflect

## Intentional reflective dialogue (IRD)

“Reflection with others is more challenging and offers opportunities to discover different perspectives compared with self-reflection. To make the reflective dialogue even more powerful, it needs to be structured ‘intentionally.’

(Kato & Mynard, 2016)

## References

- Boyd, F. M. & Fales, A. W. (1983). Reflective learning: Key to learning from experience. *Journal of Humanistic Psychology*, 23(2), 99–117. <https://doi.org/10.1177/0022167883232011>
- Curry, N. (2014). Using CBT with anxious language learners: The potential role of the learning advisor. *Studies in Self-Access Learning Journal*, 5(1), 29-41.
- Curry, N., Maher, K., & Peeters, W. (2020). Identifying Emotions and Thoughts Related to Speaking Anxiety: Laying the Groundwork for Developing CBT-based Support Materials for Anxious Learners. *JOURNAL FOR THE PSYCHOLOGY OF LANGUAGE LEARNING*, 2(1), 57-89. Retrieved from <https://www.researchgate.net/publication/354116100>
- Dewey, J. (1933). *How we think: A restatement of the relation of reflective thinking to the educative process*. Boston, MA: D.C. Heath & Co Publishers.
- Doo, Y. (2011). Reflection, reflection, reflection. I'm thinking all the time, why do I need a theory or model of reflection? In D. McGeevor, & D. L. Cartwright, I. (Eds.), *Developing Reflective practice: A guide for beginning teachers* (pp. 217-234). Maidenhead: McGraw-Hill Education.
- Farrell, T. S. C. (2015). *Promoting teacher reflection in second language education: A framework for TESOL professionals*. New York, NY: Routledge.
- Gibbs, G. (1988). *Learning by doing: A guide to teaching and learning methods*. Oxford: Further Education Unit, Oxford Polytechnic.
- Kolb, D. A. (1984). *Experiential learning: Experience as the source of learning and development* (Vol. 1). Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.
- Schön, D. (1983). *The reflective practitioner. How professionals think in action*. New York, NY: Basic Books.
- Stallard, P. (2002). *Think good – feel good: A behaviour therapy workbook for children and young people*. Chichester, UK: Wiley.
- Tsoumari, M. G., & Czikowski, M. (2013). Accessing the self in self-access learning: Emotions and feelings in language advising. *Studies in Self-Access Learning Journal*, 4(4), 262-280. Retrieved from <http://www.self-accesslearning.com>
- Westbrook, D., Kennerley, H., & Kirk, J. (2011). *An introduction to cognitive behavioural therapy: Skills and applications* (2<sup>nd</sup> ed.). London, UK: Sage.
- Wilding, C. (2012). *Cognitive behavioural therapy* (3<sup>rd</sup> ed.). London, UK: Hodder Education.

2021年（令和3年）度

学生による授業アンケート

集 計 結 果



## 2021年（令和3年）度「学生による授業アンケート」実施結果

### 【春学期】

1. 期 間：2021年（令和3年）7月12日（月）～7月17日（土）の担当授業内  
※2021年7月19日（月）～7月24日（土）を予備週として設定
2. 対象科目：（大学）外国語学部及び国際貢献学部の全科目  
（短期大学）キャリア英語科の全科目
3. 科 目 数：（大学）外国語学部 1,219 科目  
（大学）国際貢献学部 196 科目  
（短期大学）キャリア英語科 101 科目
4. 回答者数：（大学）外国語学部 39,455 名中 28,235 名回答（回答率 71.6%）  
（大学）国際貢献学部 8,522 名中 5,950 名回答（回答率 69.8%）  
（短期大学）キャリア英語科 2,539 名中 1,772 名回答（回答率 69.8%）
5. 質問項目：FD 委員会で検討・策定、京都外大 Web Campus より入力
6. 回 答 者：全学生授業欠席者も期間内入力可
7. 集計方法：項目毎の単純集計と分野別集計

### 【秋学期】

1. 期 間：2021年（令和3年）12月20日（月）～12月25日（土）の担当授業内  
※2022年1月11日（火）～1月17日（月）を予備週として設定
2. 対象科目：（大学）外国語学部及び国際貢献学部の全科目  
（短期大学）キャリア英語科の全科目
3. 科 目 数：（大学）外国語学部 1,218 科目  
（大学）国際貢献学部 154 科目  
（短期大学）キャリア英語科 75 科目
4. 回答者数：（大学）外国語学部 36,465 名中 21,492 名回答（回答率 58.9%）  
（大学）国際貢献学部 6,442 名中 3,676 名回答（回答率 57.1%）  
（短期大学）キャリア英語科 1,373 名中 848 名回答（回答率 61.8%）
5. 質問項目：FD 委員会で検討・策定、京都外大 Web Campus より入力
6. 回 答 者：全学生授業欠席者も期間内入力可
7. 集計方法：項目毎の単純集計と分野別集計

（注）秋学期実施期間中、授業アンケートシステムの不具合により回答出来ない事象が発生。  
システムの改善が間に合わず、回答率が下がる。

## 2021 年度「学生による授業アンケート」質問項目

Q1. この授業の「シラバス」に示された講義目標は、理解できましたか？

The goal of the syllabus for this class is useful for students who take this course.

Q2. この授業の評価方法は理解できましたか？

The evaluation method explained by the teacher is easy to understand.

Q3. この授業で用いられた教材は、授業の理解に役立ちましたか？

The teaching materials used in this class are helpful in understanding the class content.

Q4. 教員の説明はわかりやすいものでしたか？

I can easily understand the teacher's explanations.

Q5. 学生の質問に対する教員の対応は適切でしたか？

The teacher responds to questions from students appropriately.

Q6. この授業は、新しい知識または技能の習得に役立ちましたか？

This subject serves as a useful means of obtaining knowledge and(or) expertise.

Q7. この授業の難易度は適切でしたか？

Considering my level, this course is:

Q8. この授業の課題分量はあなたにとって適切でしたか？

The amount of homework for this course is:

Q9. この授業の進度はあなたにとって適切でしたか？

The pace of this course is:

Q10. この授業に対するあなたの満足度はどれくらいですか？

How satisfied are you with this class?

Q11. あなたのこの授業への出席率はどの程度でしたか？

Your attendance rate for this course has been:

Q12. あなたのこの授業に関する授業時間外での取り組みはどの程度でしたか？

Your level of preparation and review outside of class hour in this course was:

Q13. あなたはこの授業の講義概要に示された講義目標に、どの程度到達したと思いますか？

To what degree do you think you achieved the course goals?

Q14. この授業で向上したと思われる能力を選択してください (2 つまで)。

Please choose the achieved abilities in this course from these items below (Up to 2).

Q15. この授業について、あなたの意見・感想を自由に書いてください。

Opinion papers

## 授業アンケート回答項目（5段階、一部6段階）

◎質問1～6 までの回答は次の基準によります。

- 5 = そう思う / Agree
- 4 = どちらかといえばそう思う / Somewhat agree
- 3 = どちらともいえない / Neither agree nor disagree
- 2 = どちらかといえばそう思わない / Somewhat disagree
- 1 = そう思わない / disagree

◎質問7

- 5 = 難しい / Difficult
- 4 = やや難しい / A little difficult
- 3 = 適切 / Just right
- 2 = やや易しい / A little easy
- 1 = 易しい / Easy

◎質問8

- 5 = 多い / Too much
- 4 = やや多い / A bit much
- 3 = 適切 / Appropriate
- 2 = やや少ない / Not quite enough
- 1 = 少ない / Very little

◎質問9

- 6 = あてはまらない (オンデマンド授業のため) / not applicable (For on-demand classes)
- 5 = 全般的に速い / Fast
- 4 = 速いと感じる時がある / A bit fast
- 3 = 適切 / Just right
- 2 = 遅いと感じる時がある / A bit slow
- 1 = 全般的に遅い / Slow

◎質問10

- 5 = 満足 / Satisfied
- 4 = どちらかといえば満足 / Somewhat satisfied
- 3 = どちらともいえない / Neither satisfied nor dissatisfied
- 2 = どちらかといえば不満 / Somewhat dissatisfied
- 1 = 不満 / Dissatisfied

◎質問 11

- 5 = 毎回出席 (欠席 0 回) / Full
- 4 = ほぼ出席 (欠席 1~3 回) / Most
- 3 = 全体の 3 分の 2 程度 (欠席 4~5 回) / Two-thirds
- 2 = 全体の 3 分の 2 から半分程度 (欠席 6~7 回) / About half
- 1 = 全体の半分以下 (欠席 8 回以上) / Under half

◎質問 12

- 5 = 必ず予習または復習していた / High
- 4 = 予習または復習をすることが多かった / Fairly high
- 3 = 予習または復習を時々していた / Normal
- 2 = 試験直前だけ復習をしていた / Somewhat low
- 1 = 予習も復習も全くしなかった / Low

◎質問 13

- 5 = 十分に到達できた / Fully
- 4 = ある程度まで到達できた / Mostly
- 3 = どちらともいえない / Somewhat
- 2 = あまり伸びなかった / Not so much
- 1 = 全く伸びなかった / Not at all

◎質問 14

- 1 = 問題発見力・解決力 / Problem solving
- 2 = 思考力・判断力 / Critical thinking & reasoning
- 3 = 創造力・企画力 / Creativity & initiative taking
- 4 = 主体的に取り組む力 / Independent study
- 5 = 計画力・実行力 / Planning & implementation
- 6 = 情報収集力・分析力 / Research & analysis
- 7 = プレゼンテーション力 / Presentation skills
- 8 = コミュニケーション力 / Communication skills
- 9 = 多文化強制力 / Cultural adaptability

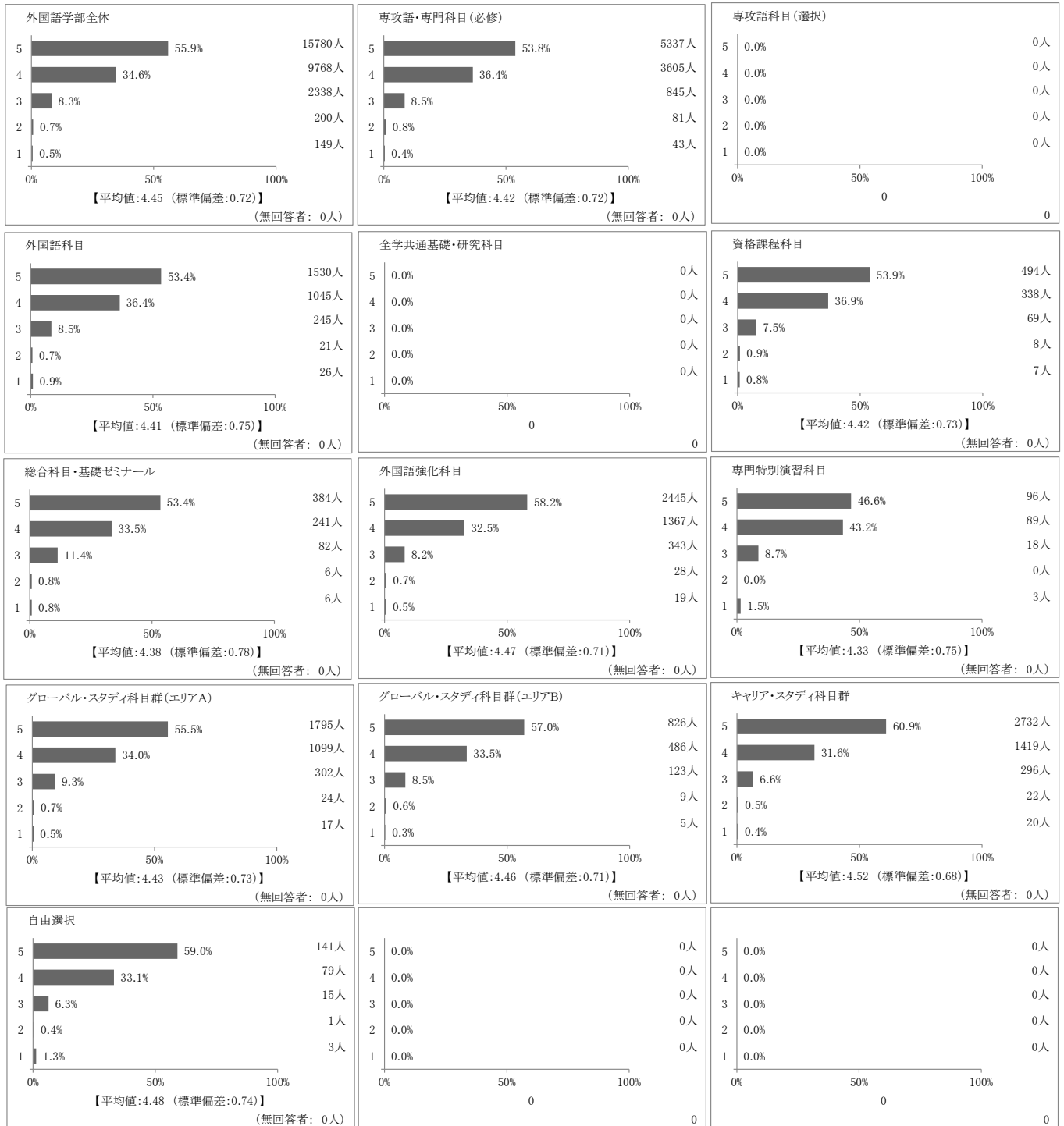
## 分野別アンケート結果

〈2021年度 外国語学部 春学期〉

授業科目区分	科目数	受講者	回答者	回答率(%)
専攻語・専門科目(必修)	533	11757	9911	84.3
専攻語科目(選択)				
外国語科目	147	3442	2867	83.3
全学共通基礎・研究科目				
資格課程科目	57	1482	916	61.8
総合科目・基礎ゼミナール	32	1344	719	53.5
外国語強化科目	151	5236	4202	80.3
専門特別演習科目	10	299	206	68.9
グローバル・スタディ科目群(エリアA)	126	4779	3237	67.7
グローバル・スタディ科目群(エリアB)	63	2365	1449	61.3
キャリア・スタディ科目群	81	8282	4489	54.2
自由選択	19	469	239	51
	1219	39455	28235	71.6

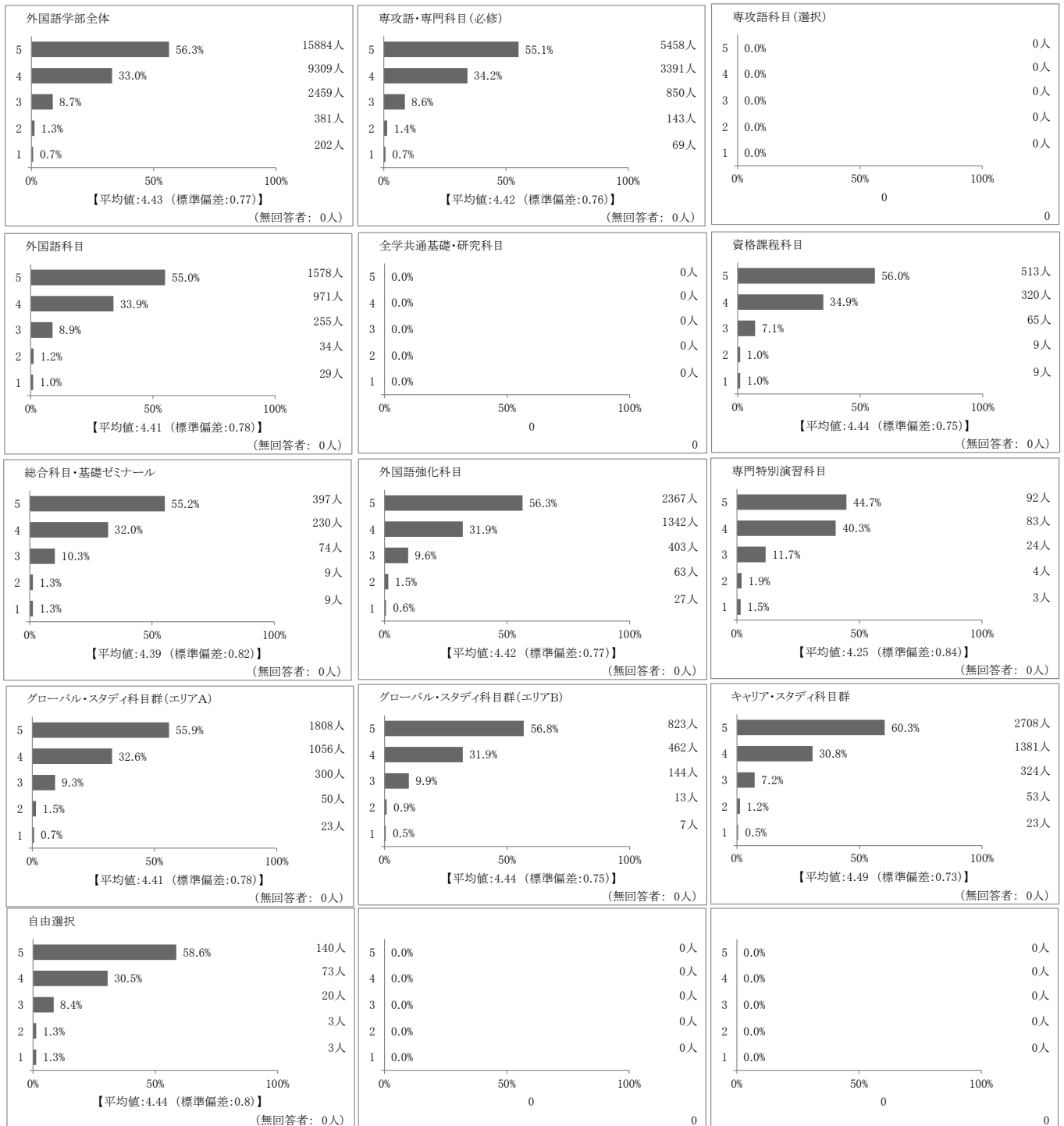
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q1.この授業の「シラバス」に示された講義目標は、理解できましたか？



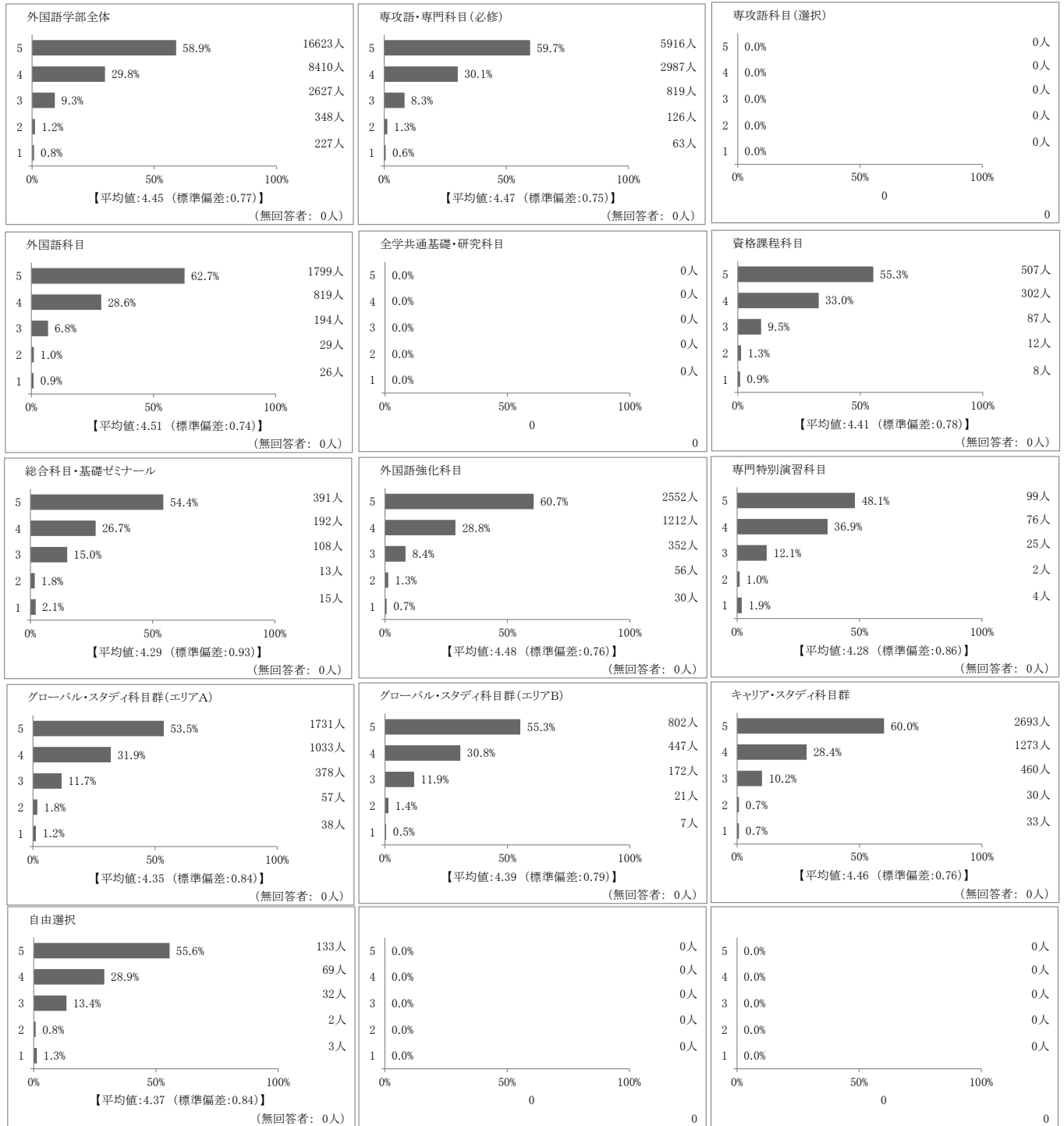
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q2.この授業の評価方法は理解できましたか？



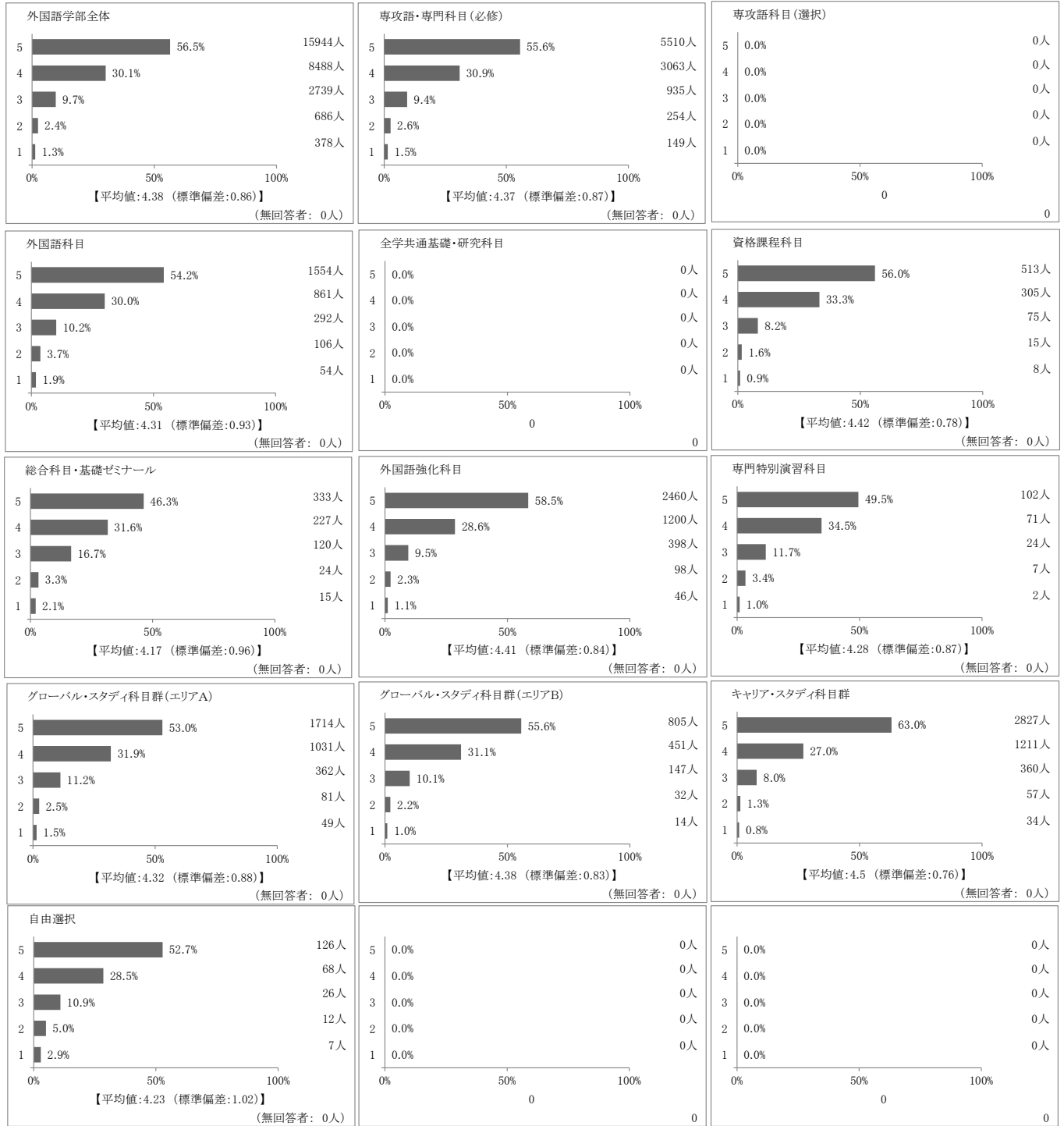
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q3.この授業で用いられた教材は、授業の理解に役立ちましたか？



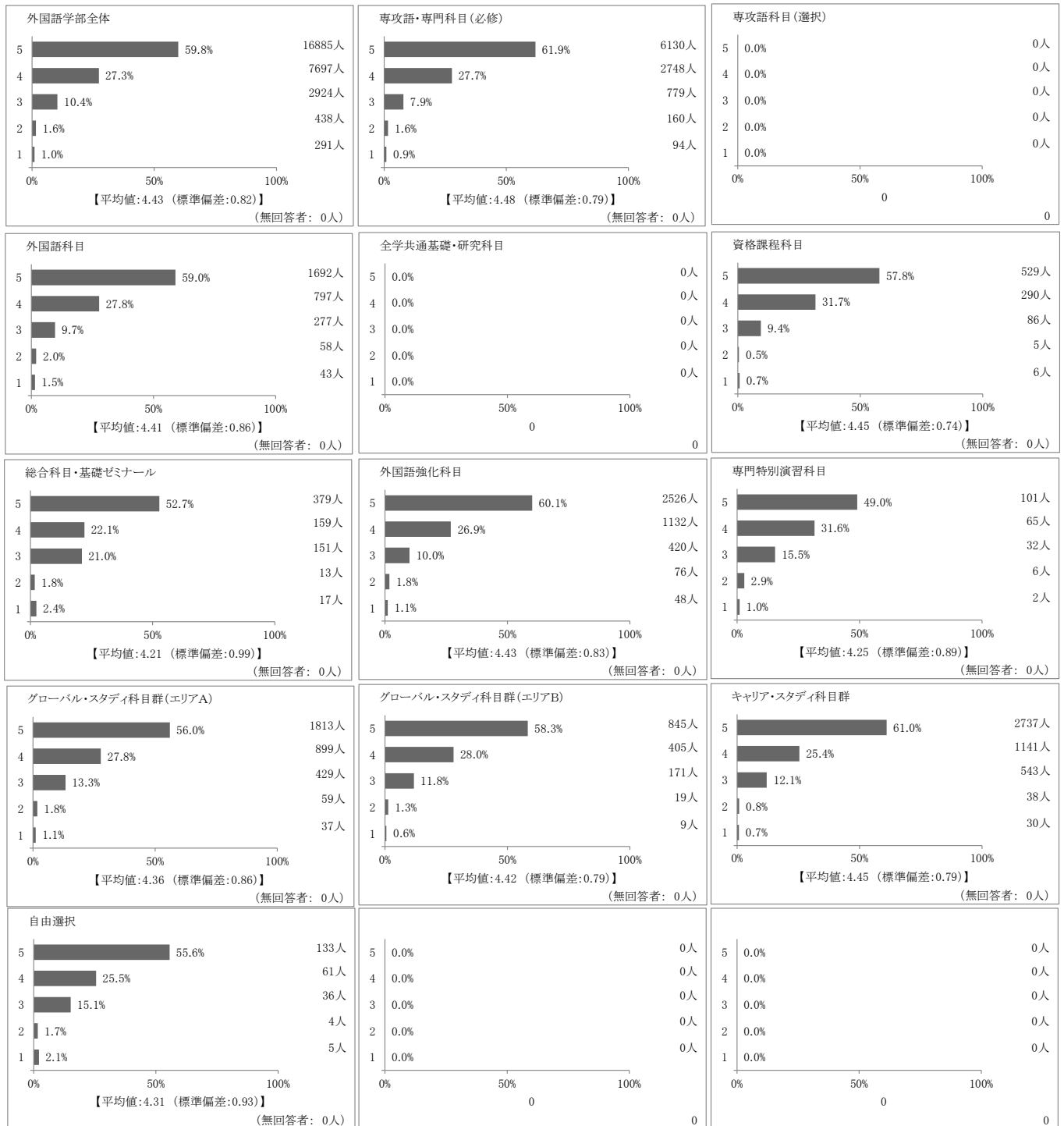
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q4.教員の説明はわかりやすいものでしたか？



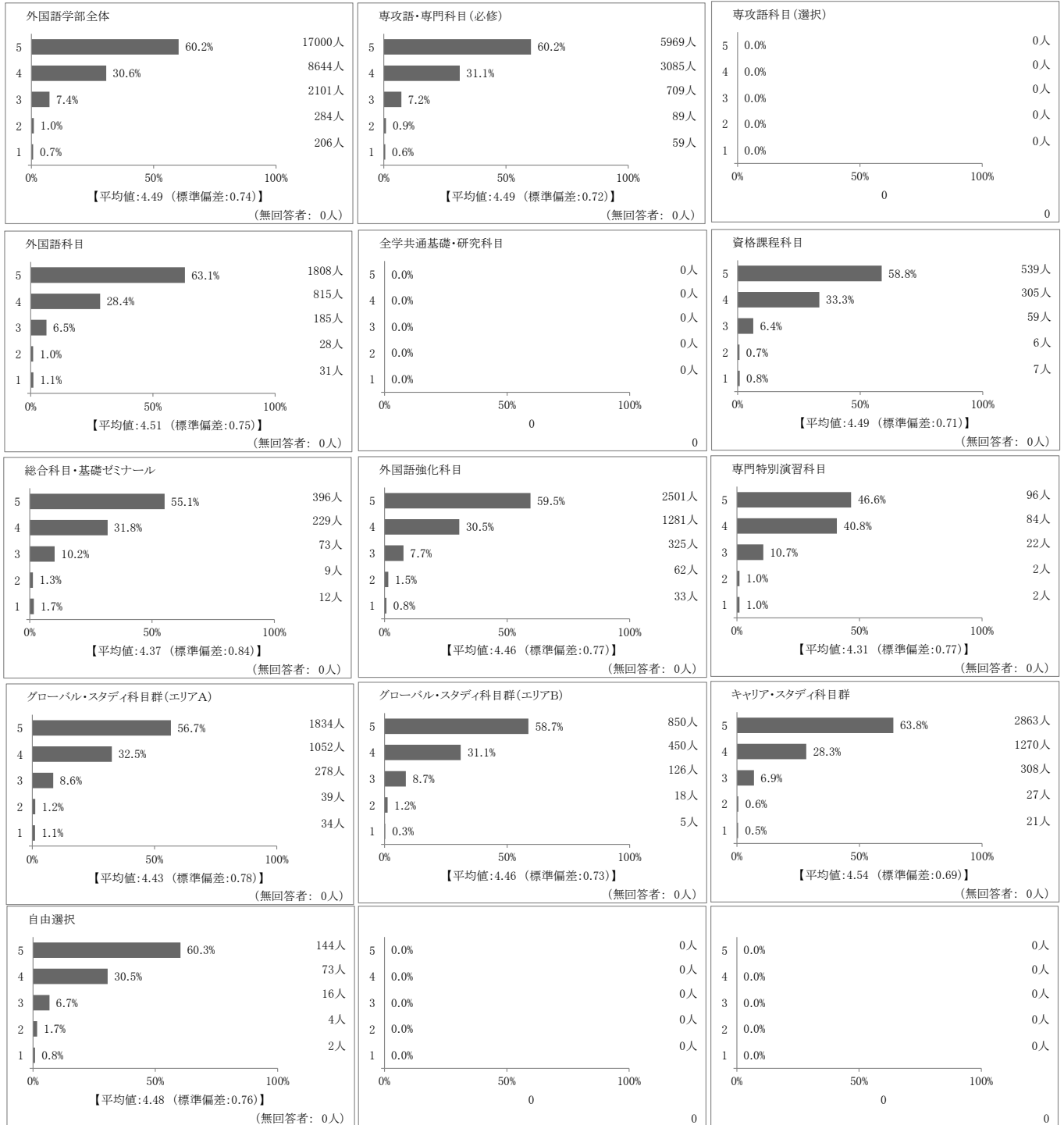
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q5.学生の質問に対する教員の対応は適切でしたか？



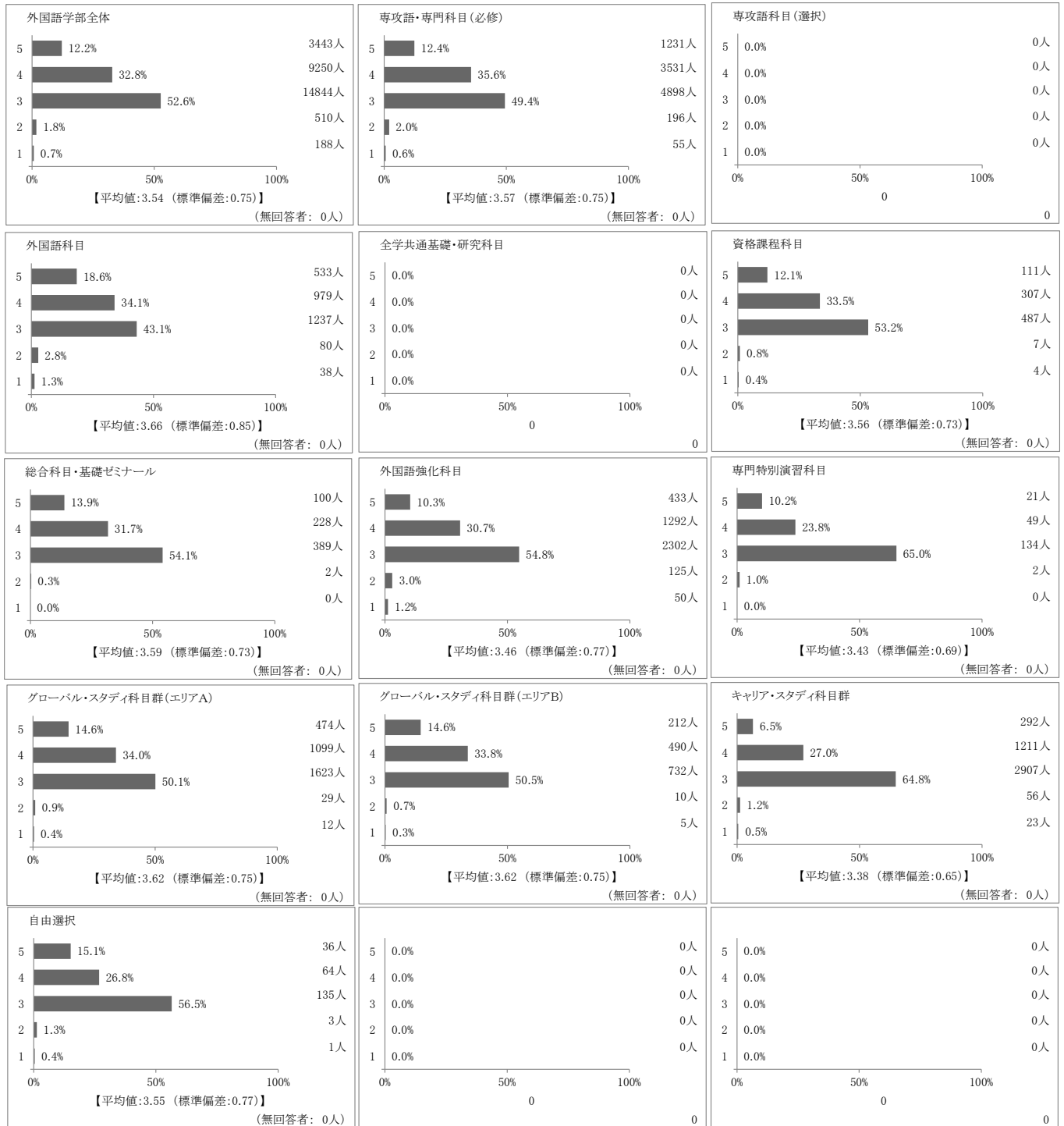
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q6.この授業は、新しい知識または技能の習得に役立ちましたか？



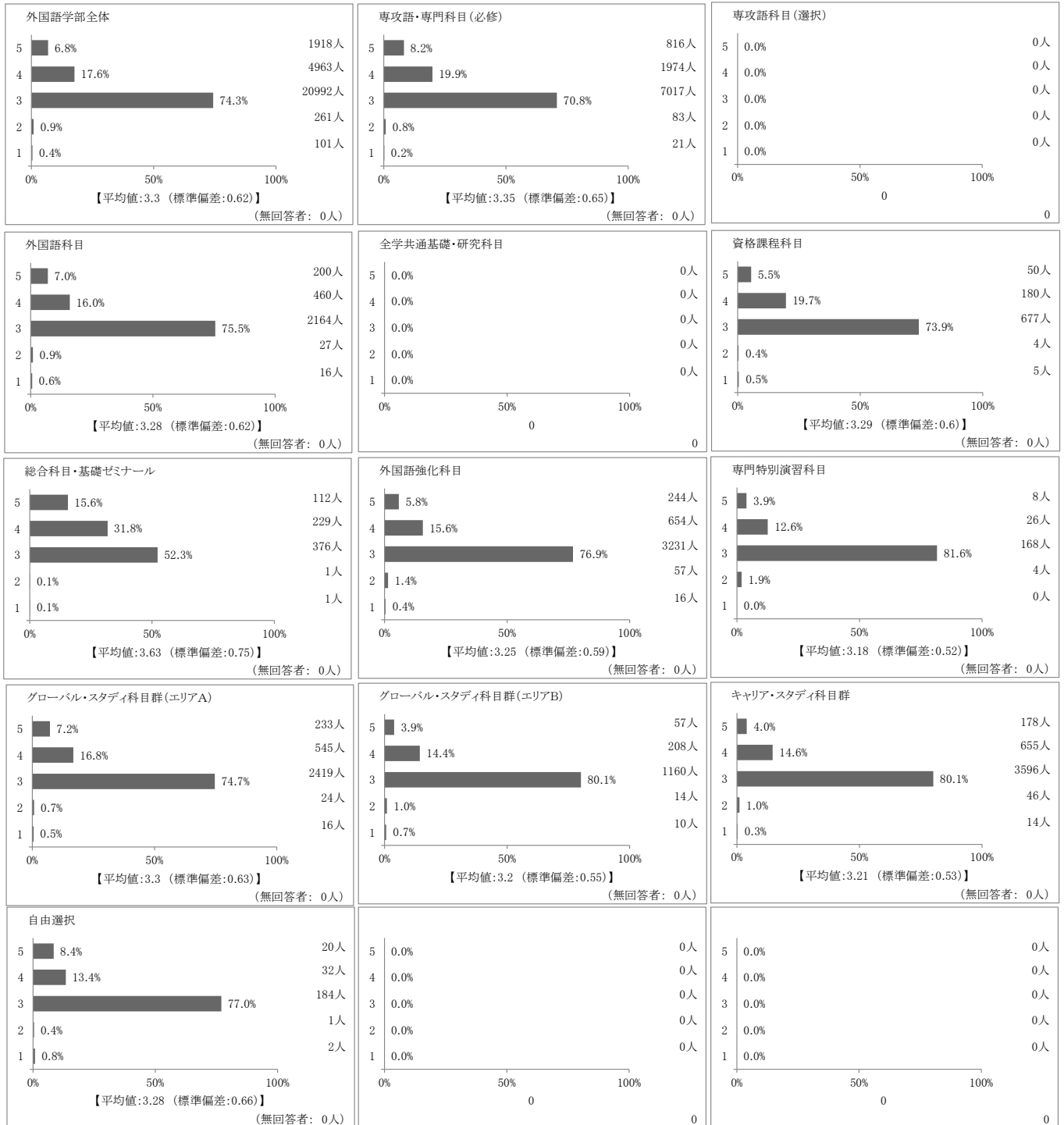
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q7.この授業の難易度は適切でしたか？



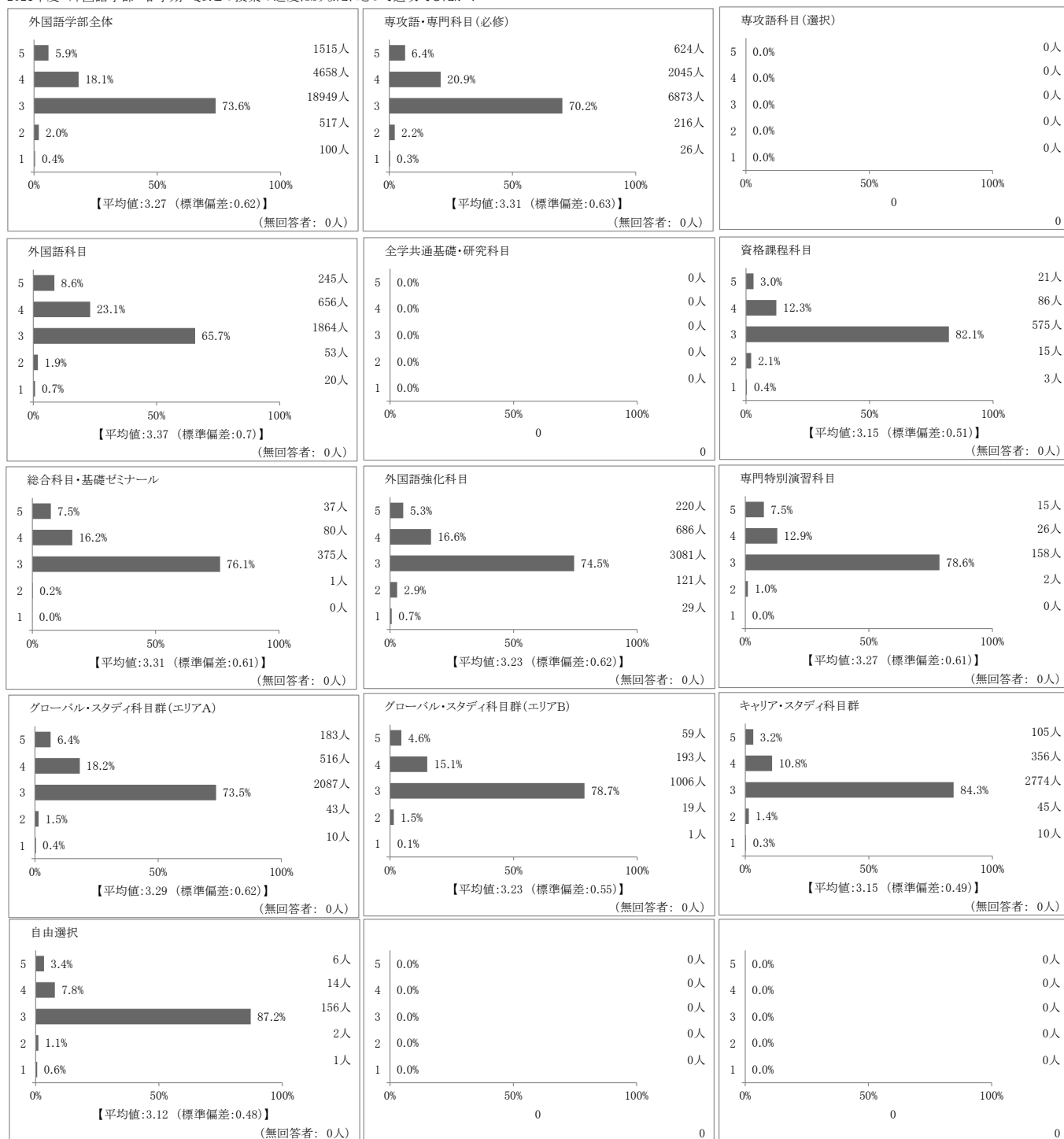
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q8.この授業の課題分量はあなたにとって適切でしたか？



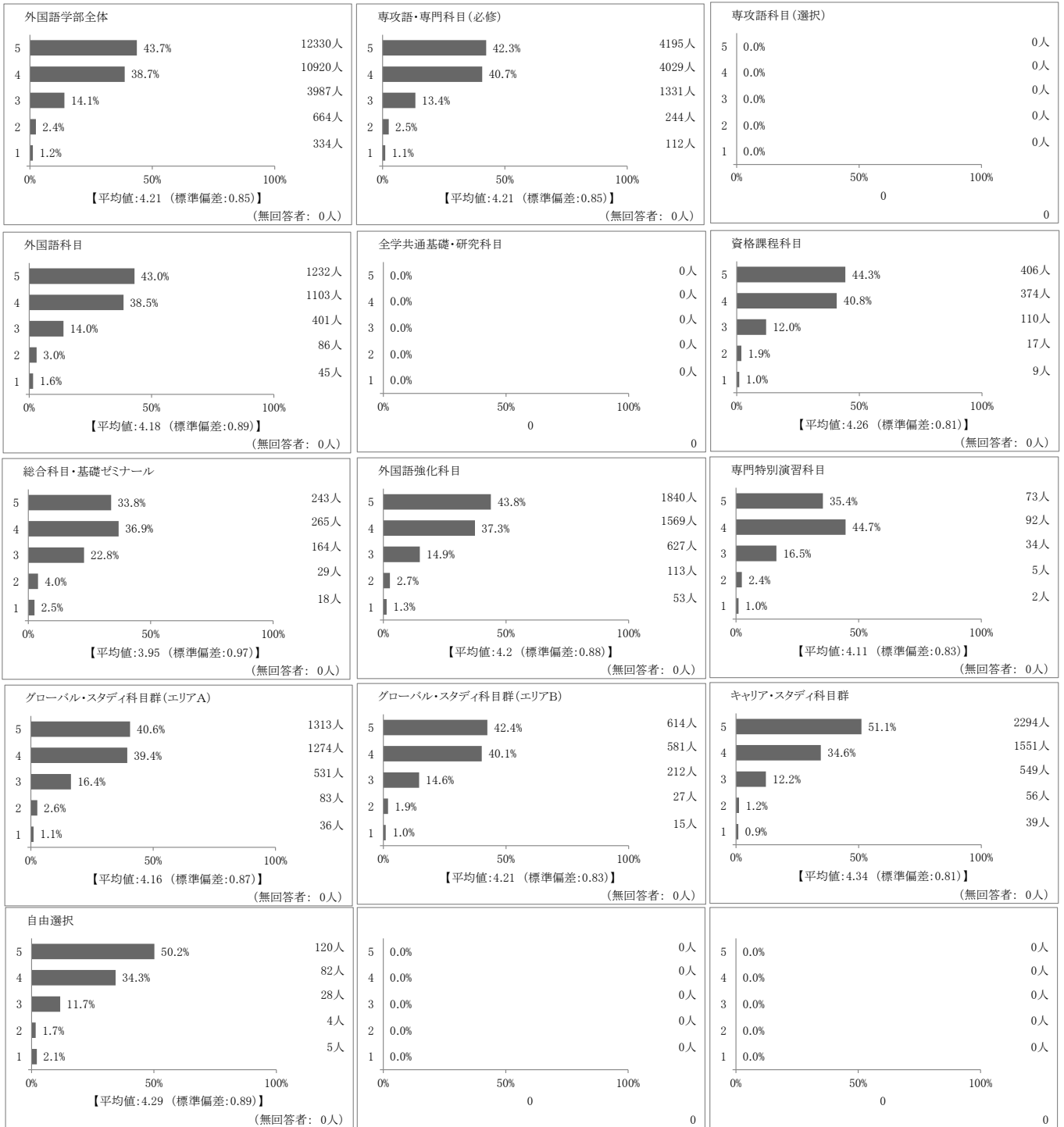
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q9.この授業の進度はあなたにとって適切でしたか？



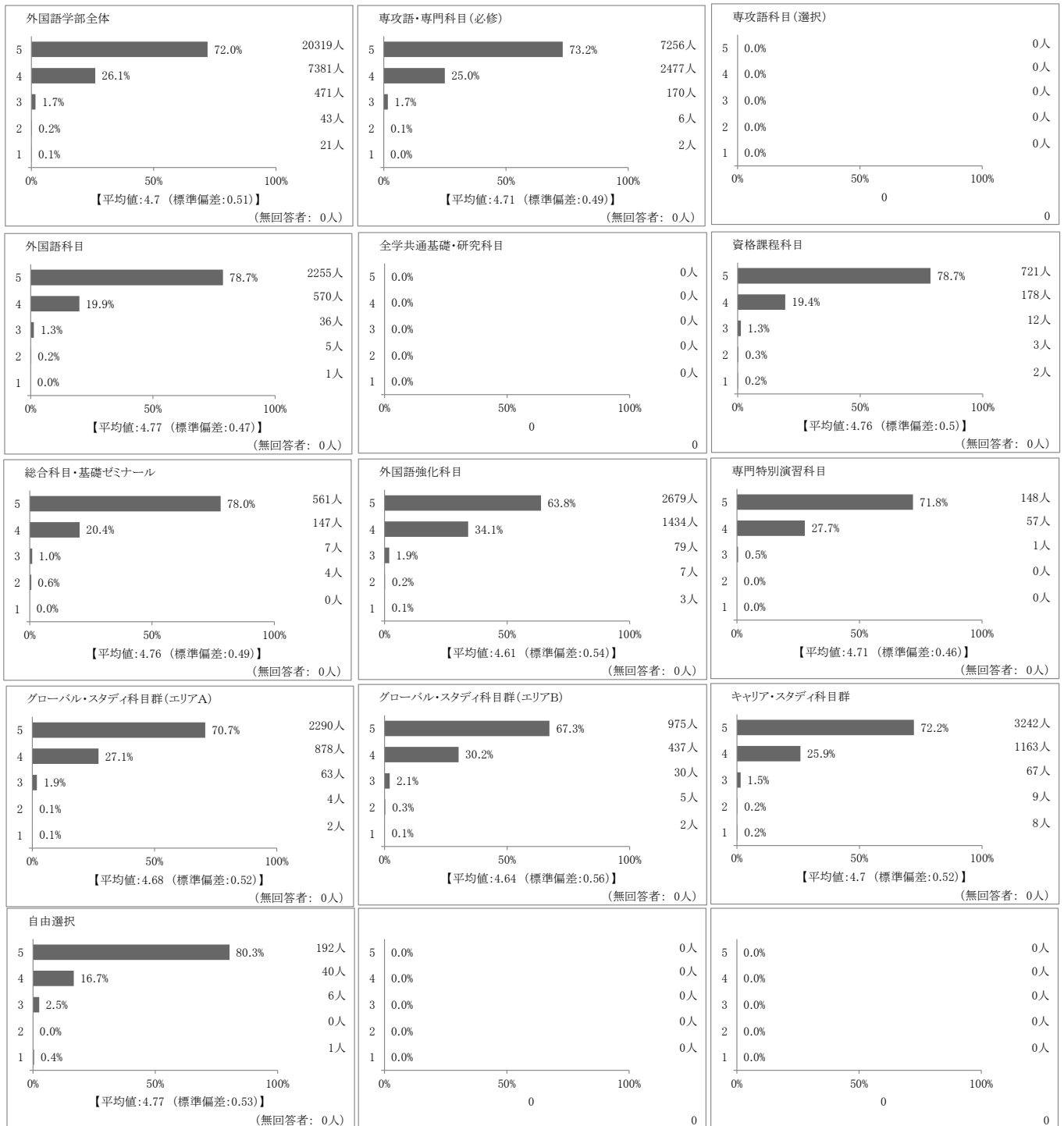
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q10.この授業に対するあなたの満足度はどのくらいですか？



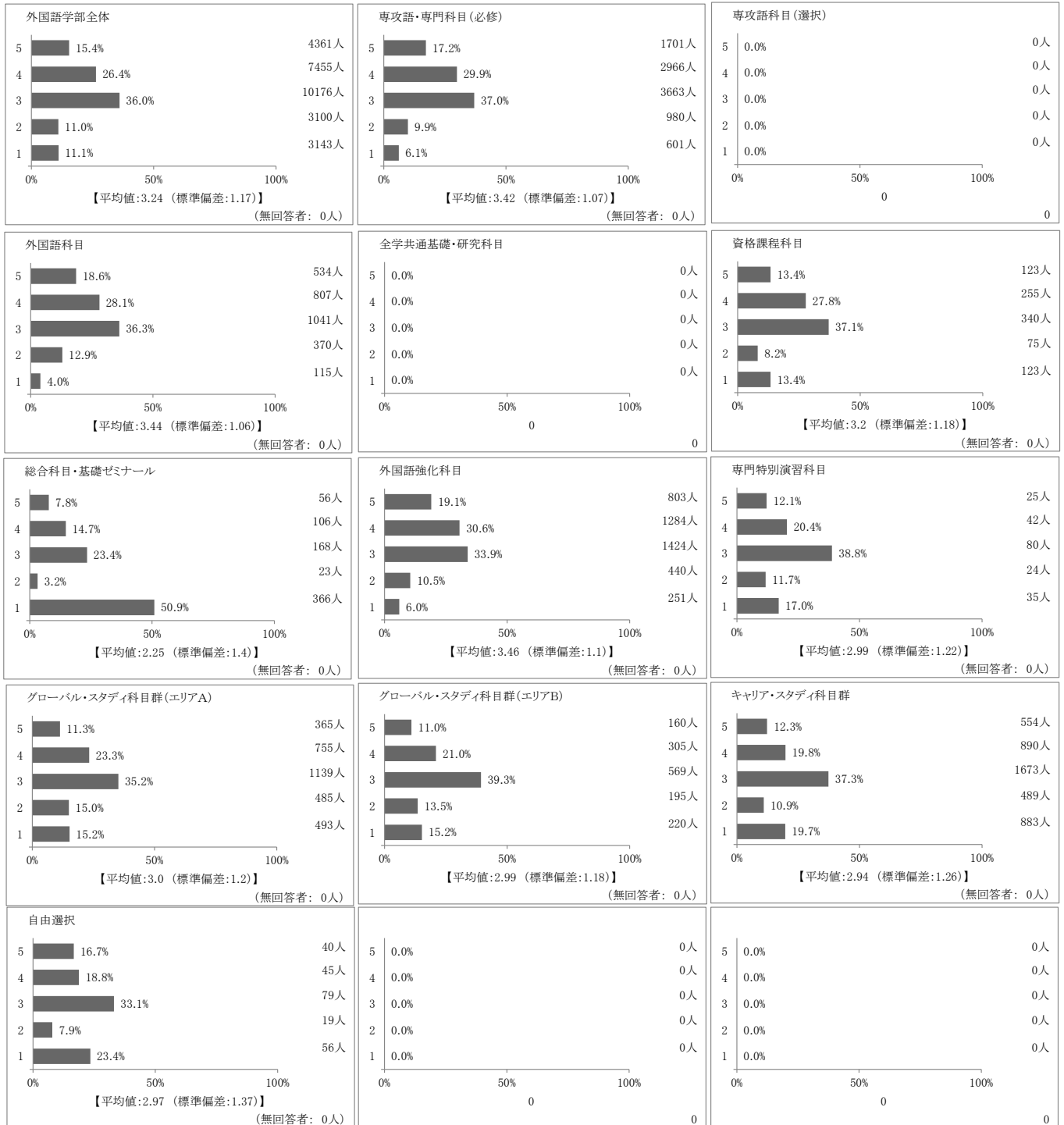
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q11.あなたのこの授業への出席率ほどの程度でしたか？



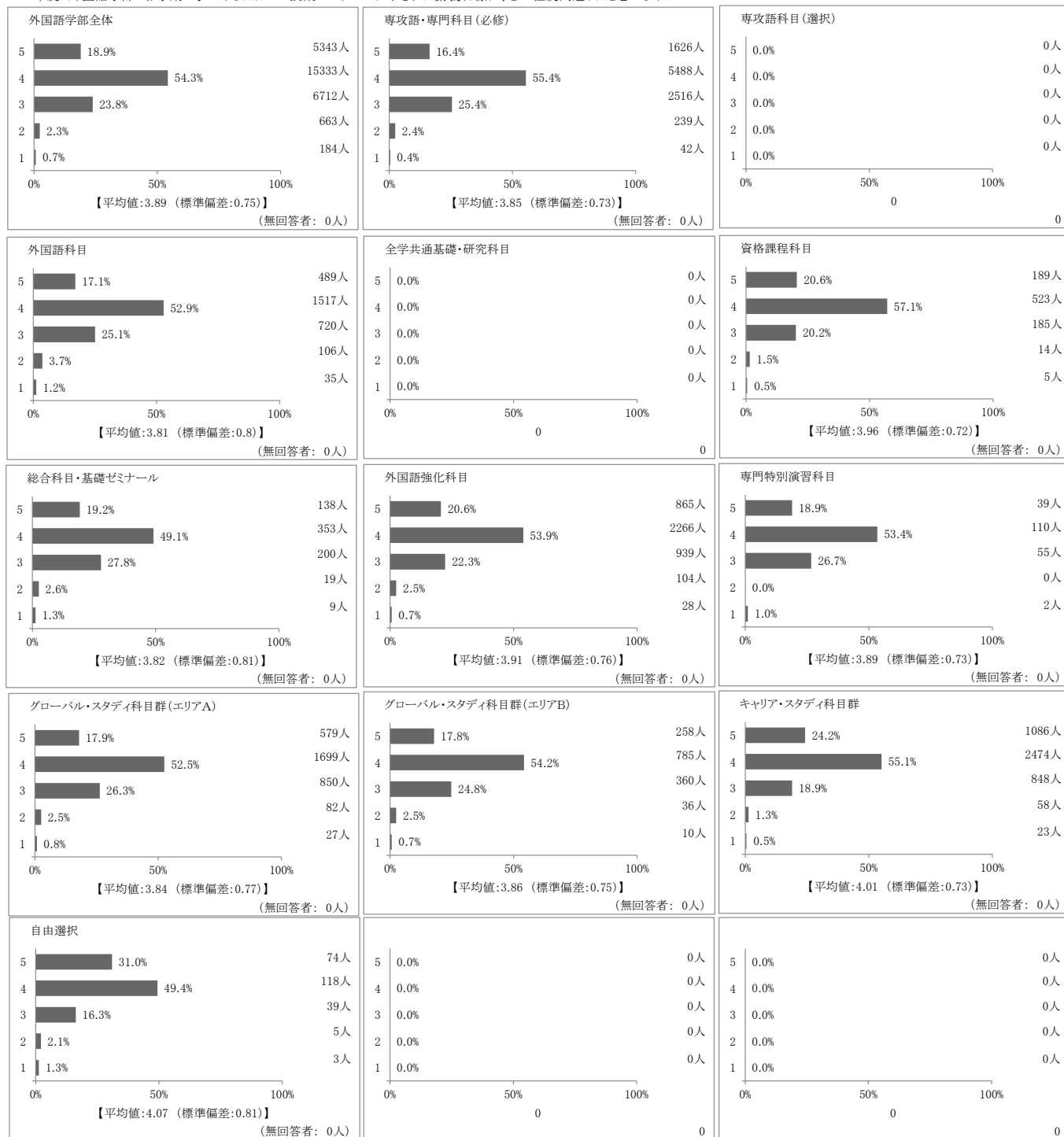
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q12.あなたのこの授業に関する授業時間外での取り組みはどの程度でしたか？



## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q13.あなたはこの授業のシラバスに示された講義目標に、どの程度到達したと思いますか？



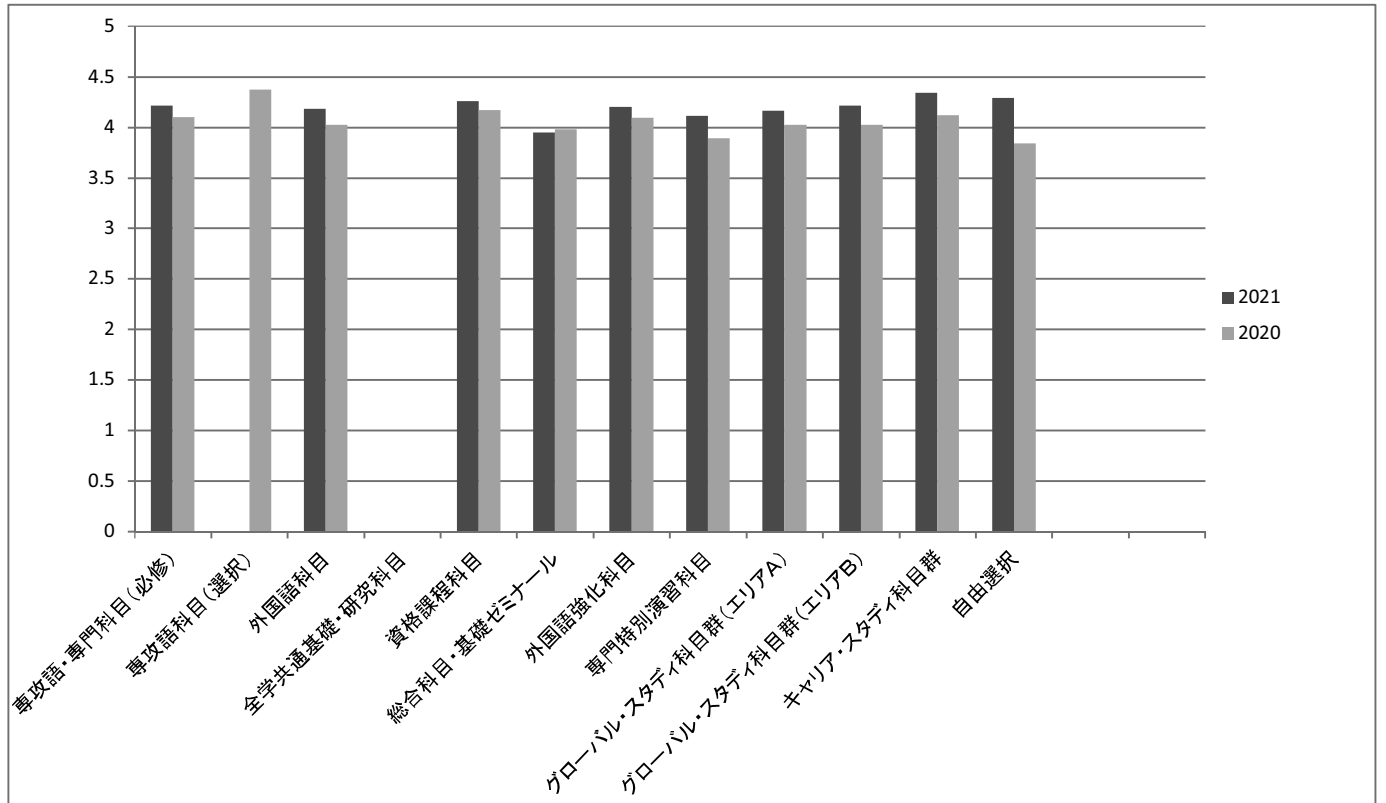
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 春学期 Q14.この授業で向上したと思われる能力を選択してください(2つまで)。

外国語学部全体			専攻語・専門科目(必修)			専攻語科目(選択)		
問題発見力・解決力	12.5%	7049人	問題発見力・解決力	11.8%	2344人	問題発見力・解決力		
思考力・判断力	20.5%	11586人	思考力・判断力	21.5%	4256人	思考力・判断力		
創造力・企画力	3.9%	2196人	創造力・企画力	4.0%	784人	創造力・企画力		
主体的に取り組む力	11.0%	6199人	主体的に取り組む力	11.6%	2295人	主体的に取り組む力		
計画力・実行力	2.8%	1605人	計画力・実行力	3.4%	667人	計画力・実行力		
情報収集力・分析力	7.9%	4441人	情報収集力・分析力	5.6%	1111人	情報収集力・分析力		
プレゼンテーション力	2.6%	1492人	プレゼンテーション力	4.0%	794人	プレゼンテーション力		
コミュニケーション力	5.2%	2915人	コミュニケーション力	8.2%	1621人	コミュニケーション力		
多文化共生力	3.2%	1800人	多文化共生力	1.5%	292人	多文化共生力		
外国語科目			全学共通基礎・研究科目			資格課程科目		
問題発見力・解決力	11.0%	631人	問題発見力・解決力			問題発見力・解決力	12.2%	224人
思考力・判断力	20.5%	1178人	思考力・判断力			思考力・判断力	19.4%	356人
創造力・企画力	1.9%	111人	創造力・企画力			創造力・企画力	6.1%	111人
主体的に取り組む力	13.9%	797人	主体的に取り組む力			主体的に取り組む力	11.5%	210人
計画力・実行力	2.3%	130人	計画力・実行力			計画力・実行力	3.6%	66人
情報収集力・分析力	2.9%	168人	情報収集力・分析力			情報収集力・分析力	8.1%	148人
プレゼンテーション力	2.0%	114人	プレゼンテーション力			プレゼンテーション力	2.3%	42人
コミュニケーション力	10.6%	607人	コミュニケーション力			コミュニケーション力	1.6%	30人
多文化共生力	6.2%	356人	多文化共生力			多文化共生力	0.4%	8人
総合科目・基礎ゼミナール			外国語強化科目			専門特別演習科目		
問題発見力・解決力	11.9%	171人	問題発見力・解決力	14.9%	1248人	問題発見力・解決力	9.2%	38人
思考力・判断力	17.0%	245人	思考力・判断力	21.6%	1812人	思考力・判断力	19.4%	80人
創造力・企画力	8.1%	117人	創造力・企画力	2.8%	233人	創造力・企画力	4.4%	18人
主体的に取り組む力	8.6%	124人	主体的に取り組む力	13.0%	1091人	主体的に取り組む力	13.1%	54人
計画力・実行力	6.1%	87人	計画力・実行力	2.9%	242人	計画力・実行力	2.2%	9人
情報収集力・分析力	17.1%	246人	情報収集力・分析力	5.5%	464人	情報収集力・分析力	14.3%	59人
プレゼンテーション力	1.0%	15人	プレゼンテーション力	1.5%	125人	プレゼンテーション力	2.2%	9人
コミュニケーション力	0.3%	4人	コミュニケーション力	4.8%	403人	コミュニケーション力	1.5%	6人
多文化共生力	4.9%	71人	多文化共生力	1.5%	124人	多文化共生力	4.1%	17人
グローバル・スタディ科目群(エリアA)			グローバル・スタディ科目群(エリアB)			キャリア・スタディ科目群		
問題発見力・解決力	10.5%	677人	問題発見力・解決力	13.8%	401人	問題発見力・解決力	13.9%	1251人
思考力・判断力	19.3%	1247人	思考力・判断力	20.5%	594人	思考力・判断力	19.3%	1733人
創造力・企画力	4.1%	268人	創造力・企画力	4.2%	122人	創造力・企画力	4.7%	421人
主体的に取り組む力	9.2%	598人	主体的に取り組む力	6.8%	196人	主体的に取り組む力	8.4%	754人
計画力・実行力	2.0%	130人	計画力・実行力	1.6%	47人	計画力・実行力	2.1%	192人
情報収集力・分析力	12.8%	830人	情報収集力・分析力	11.2%	326人	情報収集力・分析力	11.8%	1055人
プレゼンテーション力	2.8%	179人	プレゼンテーション力	1.7%	49人	プレゼンテーション力	1.8%	165人
コミュニケーション力	1.1%	70人	コミュニケーション力	0.8%	23人	コミュニケーション力	1.3%	121人
多文化共生力	6.8%	438人	多文化共生力	7.2%	208人	多文化共生力	3.1%	281人
自由選択								
問題発見力・解決力	13.4%	64人						
思考力・判断力	17.8%	85人						
創造力・企画力	2.3%	11人						
主体的に取り組む力	16.7%	80人						
計画力・実行力	7.3%	35人						
情報収集力・分析力	7.1%	34人						
プレゼンテーション力	0.0%	0人						
コミュニケーション力	6.3%	30人						
多文化共生力	1.0%	5人						

# 満足度アンケート前年度比較

<外国語学部 春学期>



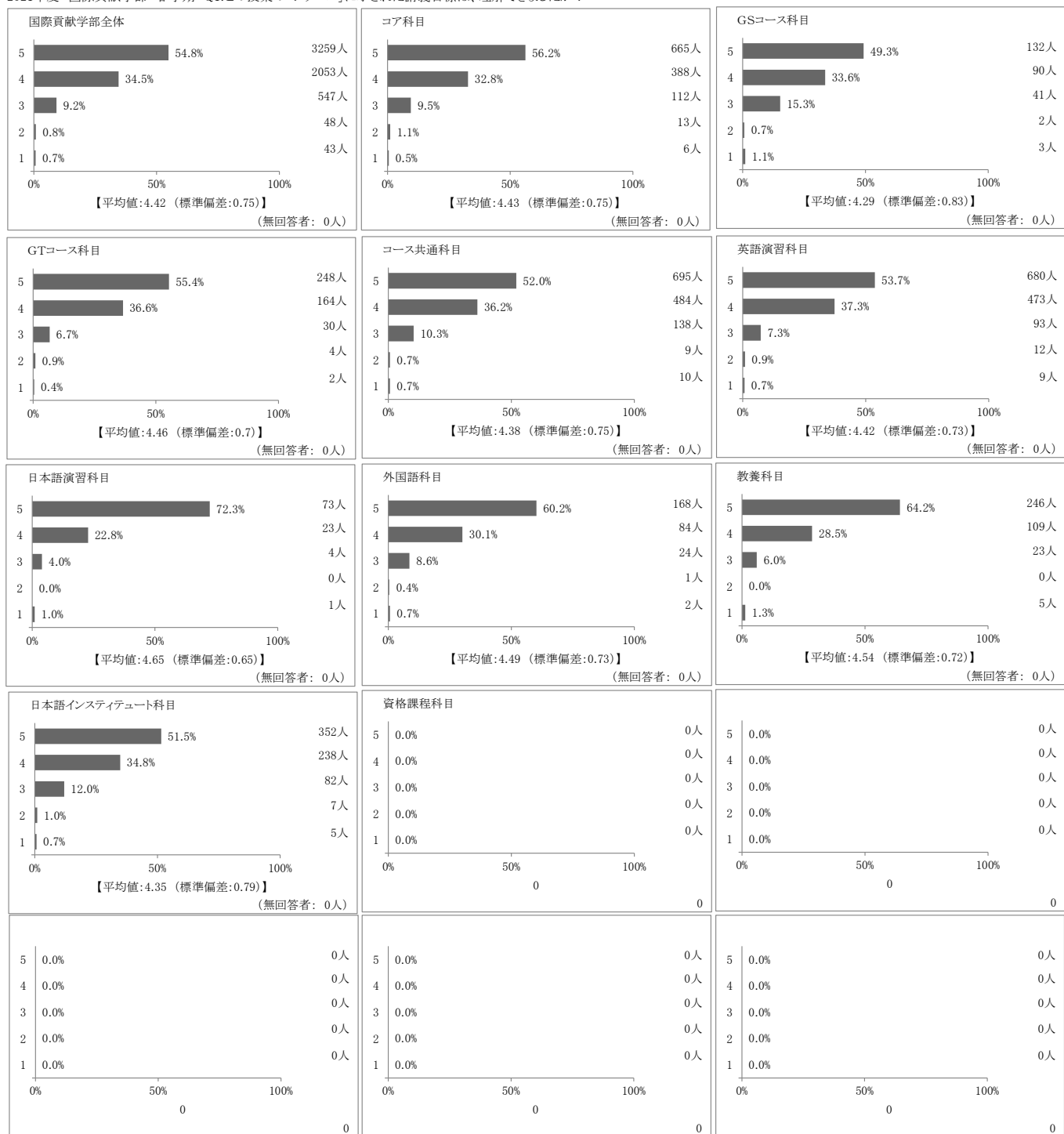
## 分野別アンケート結果

<2021年度 国際貢献学部 春学期>

授業科目区分	科目数	受講者	回答者	回答率(%)
コア科目	36	1624	1184	72.9
GSコース科目	13	399	268	67.2
GTコース科目	26	621	448	72.1
コース共通科目	38	1938	1336	68.9
英語演習科目	51	1561	1267	81.2
日本語演習科目	9	125	101	80.8
外国語科目	8	323	279	86.4
教養科目	7	590	383	64.9
日本語インスティテュート科目	8	1341	684	51
資格課程科目				
	196	8522	5950	69.8

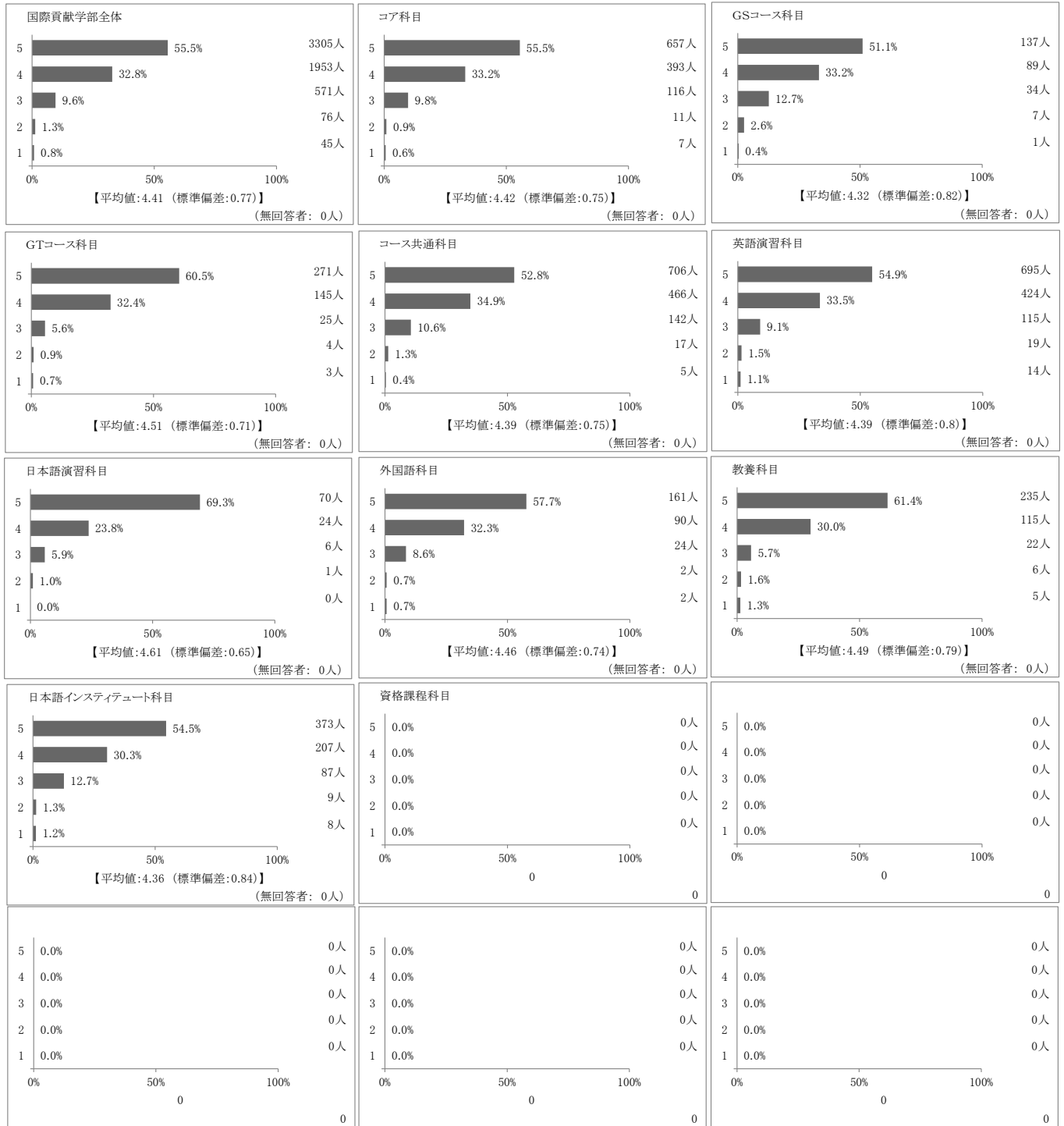
### 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q1.この授業の「シラバス」に示された講義目標は、理解できましたか？



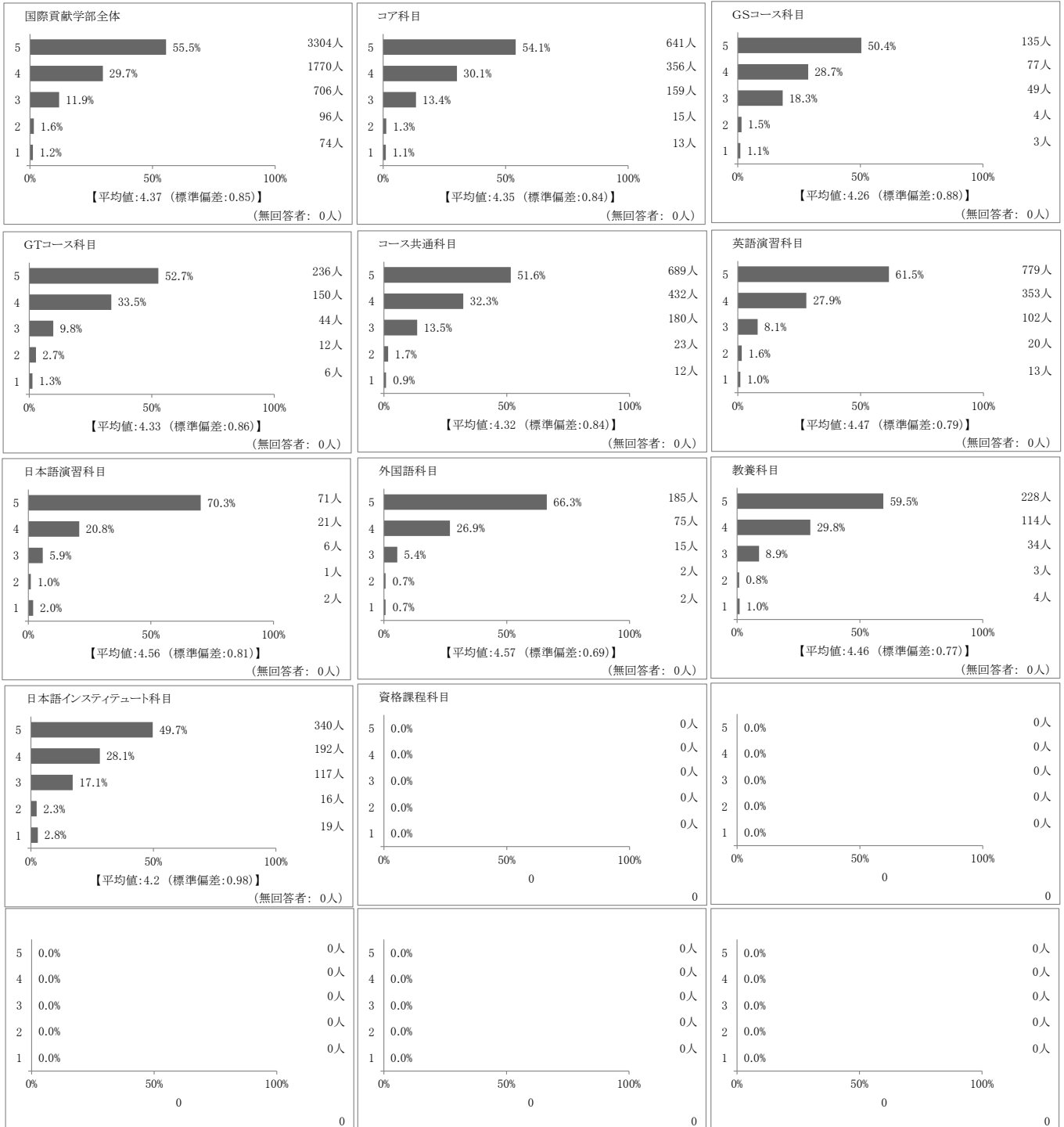
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q2.この授業の評価方法は理解できましたか？



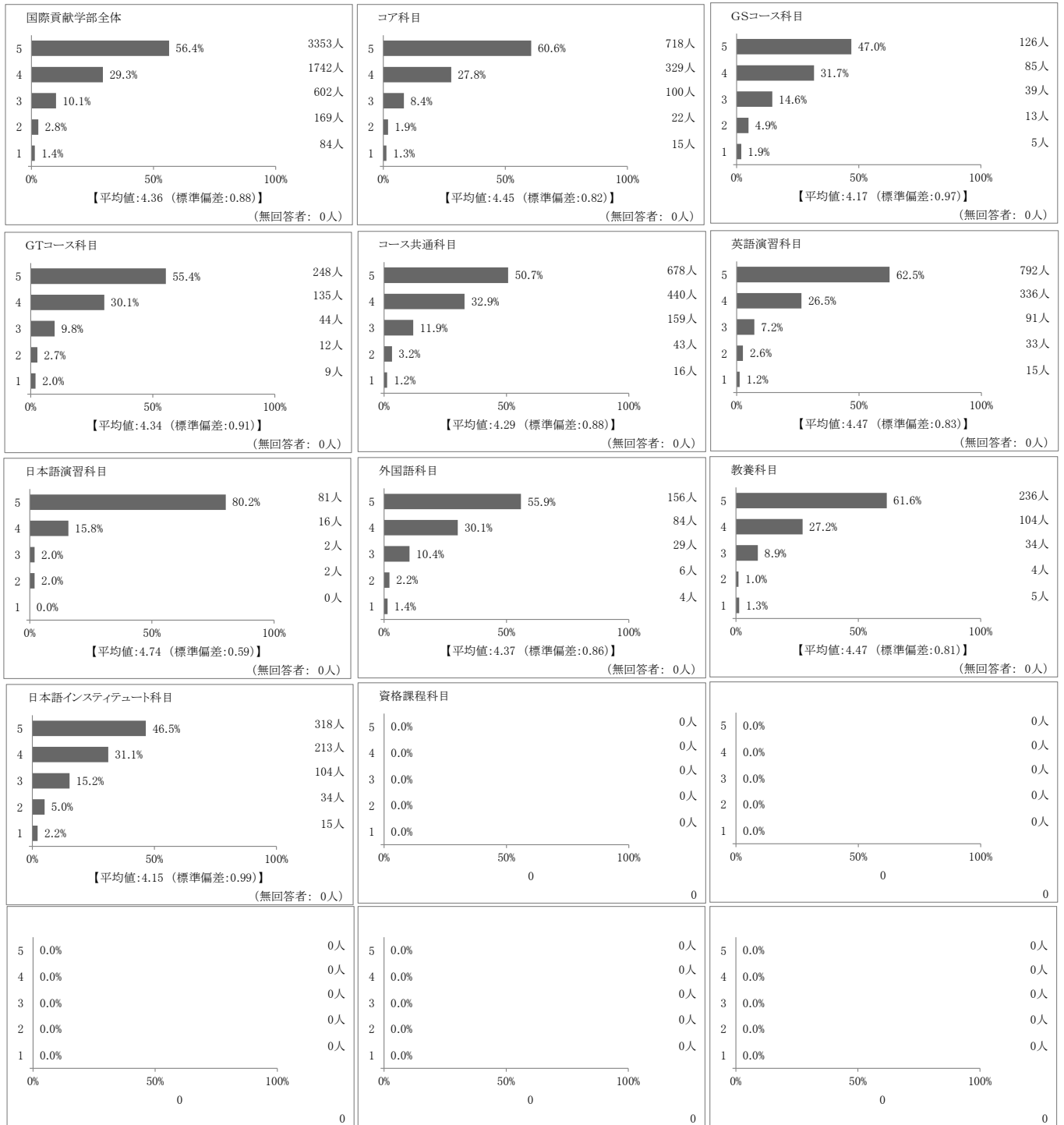
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q3.この授業で用いられた教材は、授業の理解に役立ちましたか？



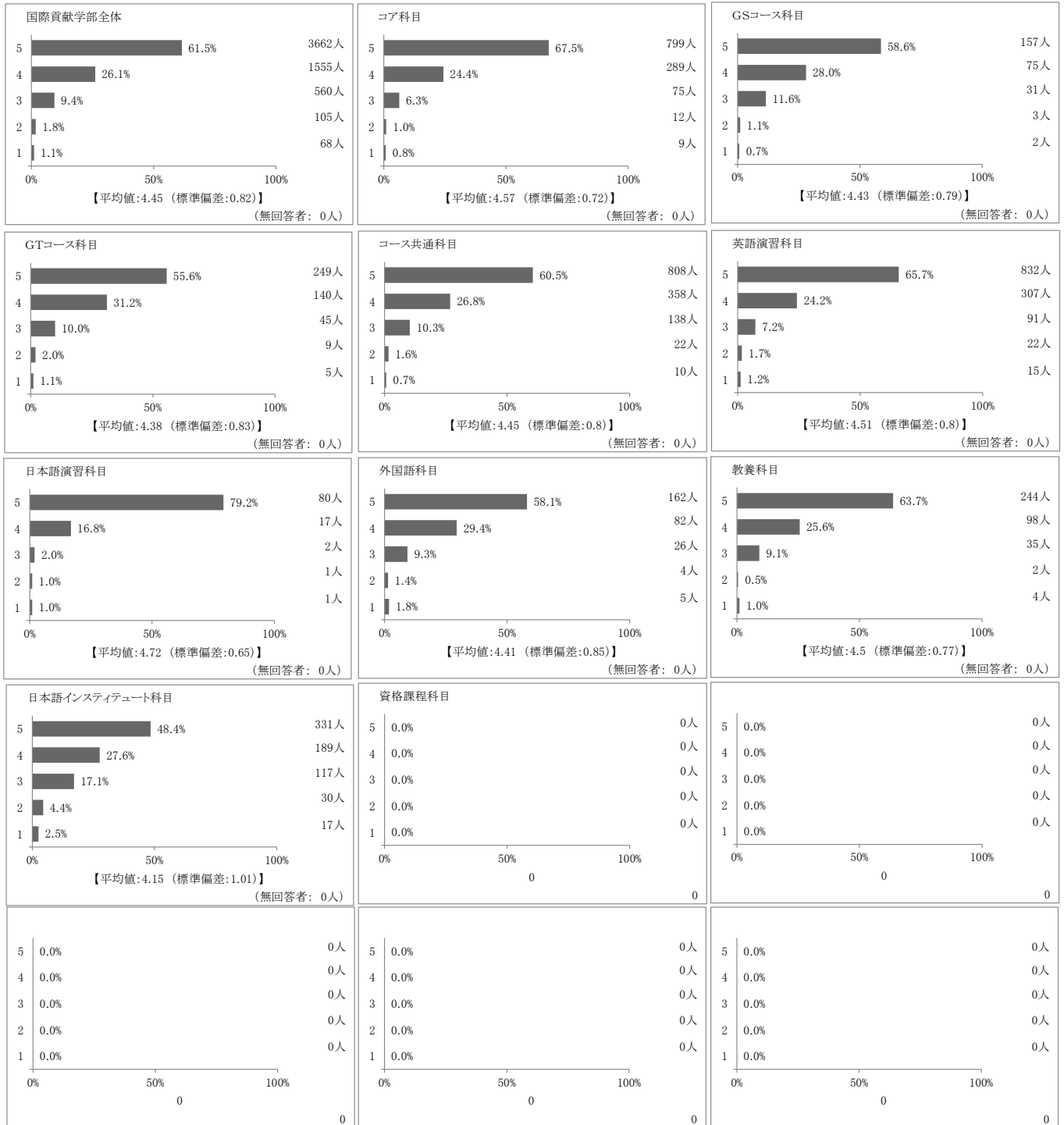
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q4.教員の説明はわかりやすいものだったか？



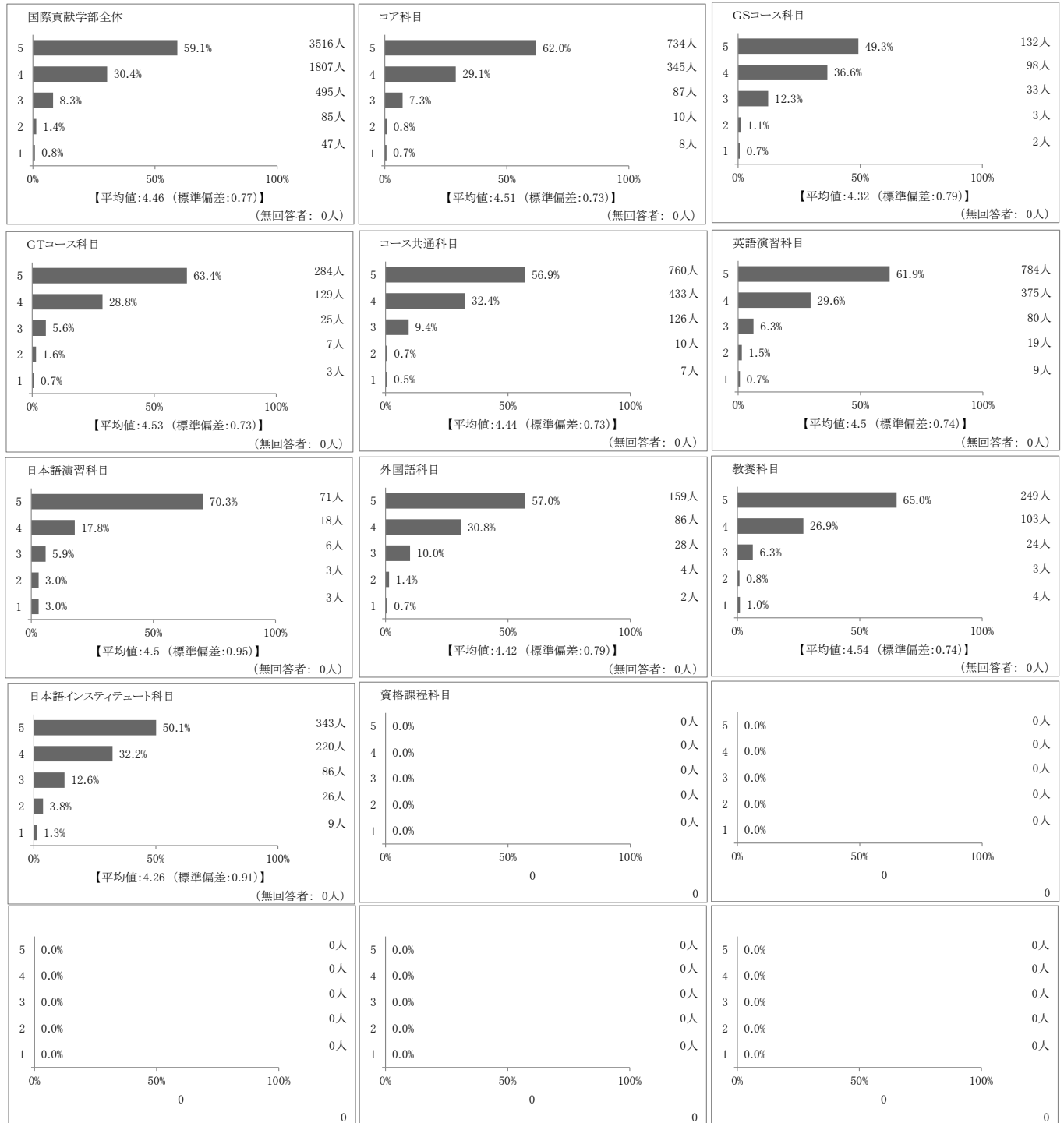
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q5.学生の質問に対する教員の対応は適切でしたか？



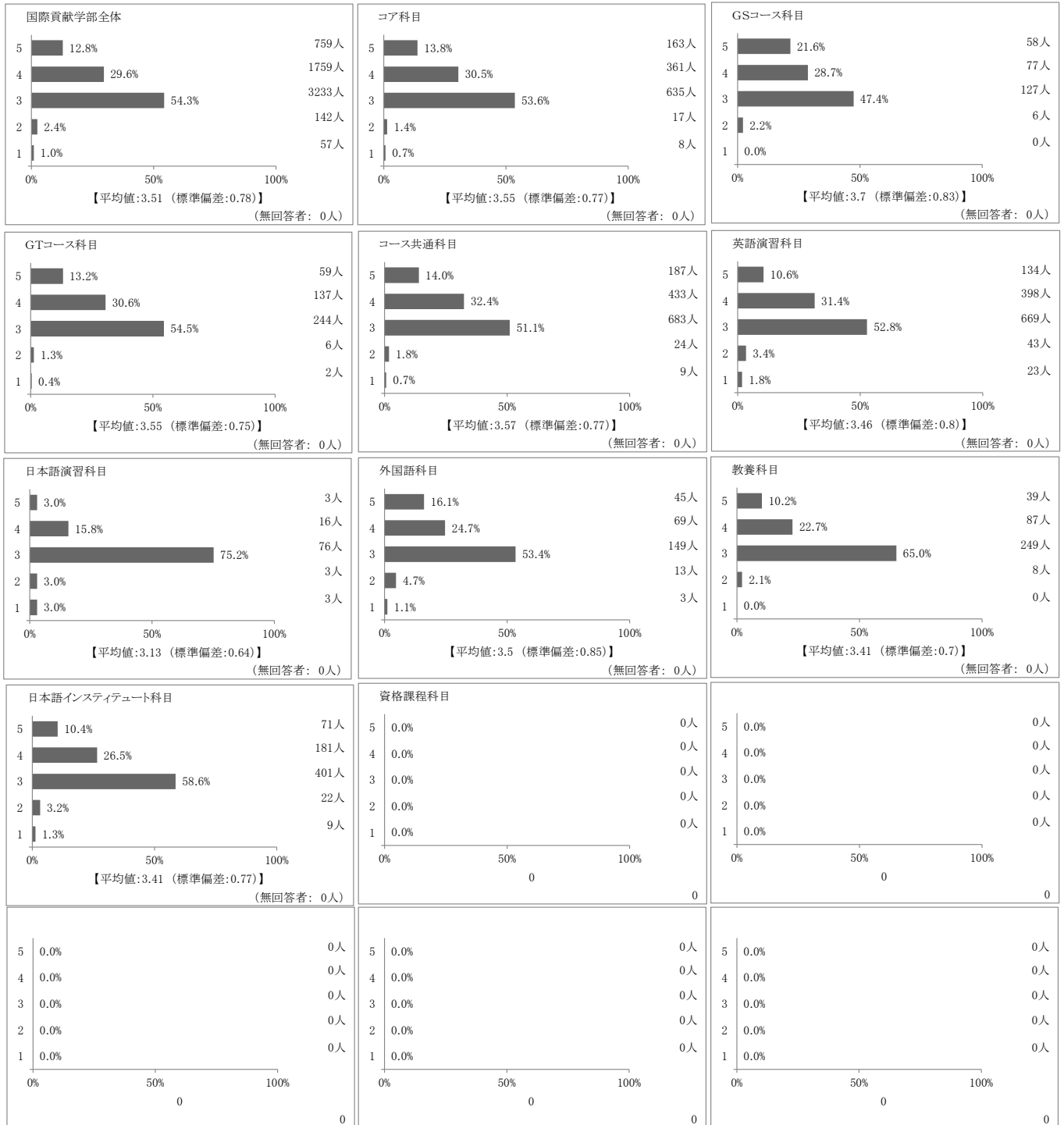
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q6.この授業は、新しい知識または技能の習得に役立ちましたか？



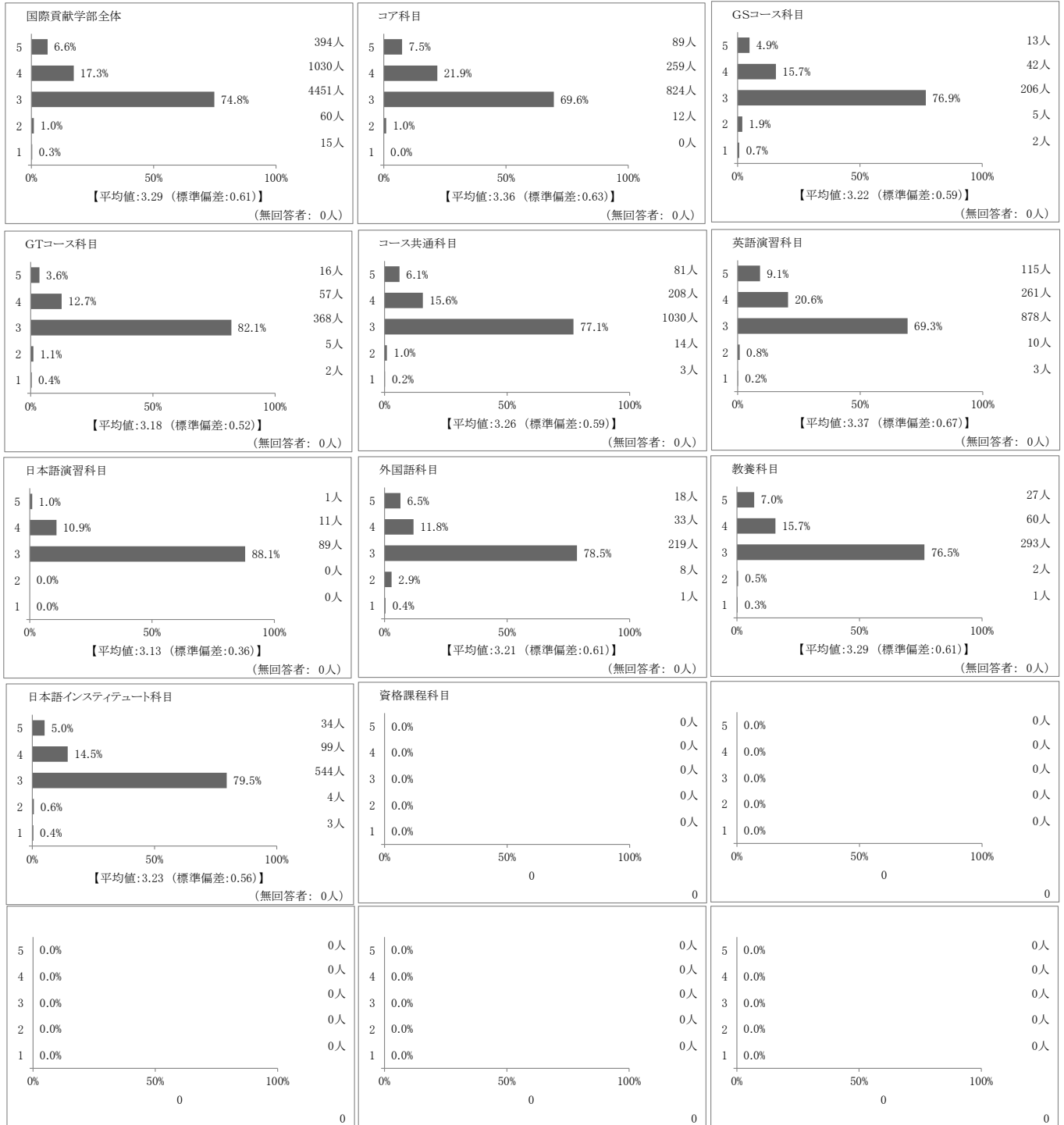
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q7.この授業の難易度は適切でしたか？



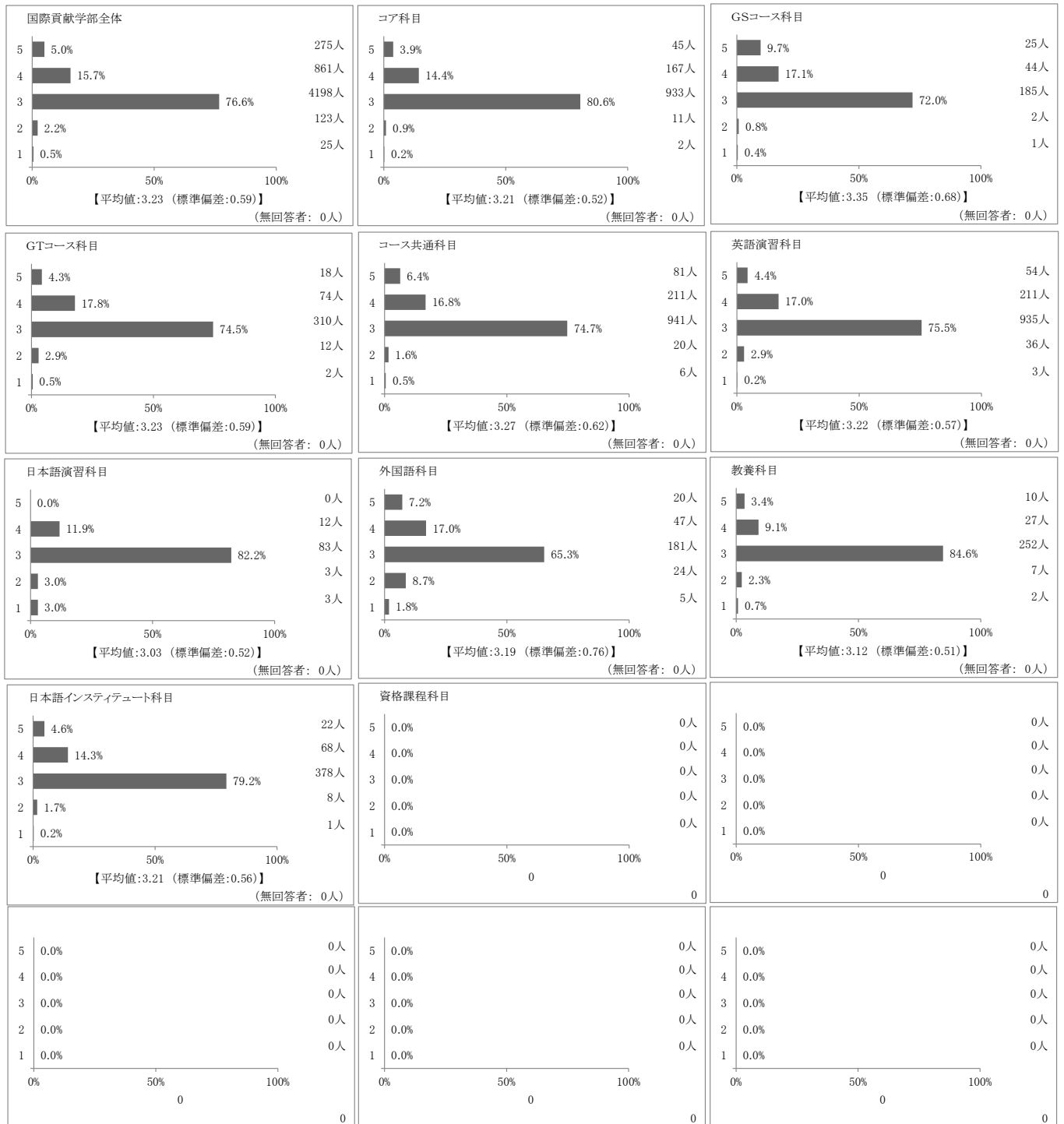
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q8.この授業の課題分量はあなたにとって適切でしたか？



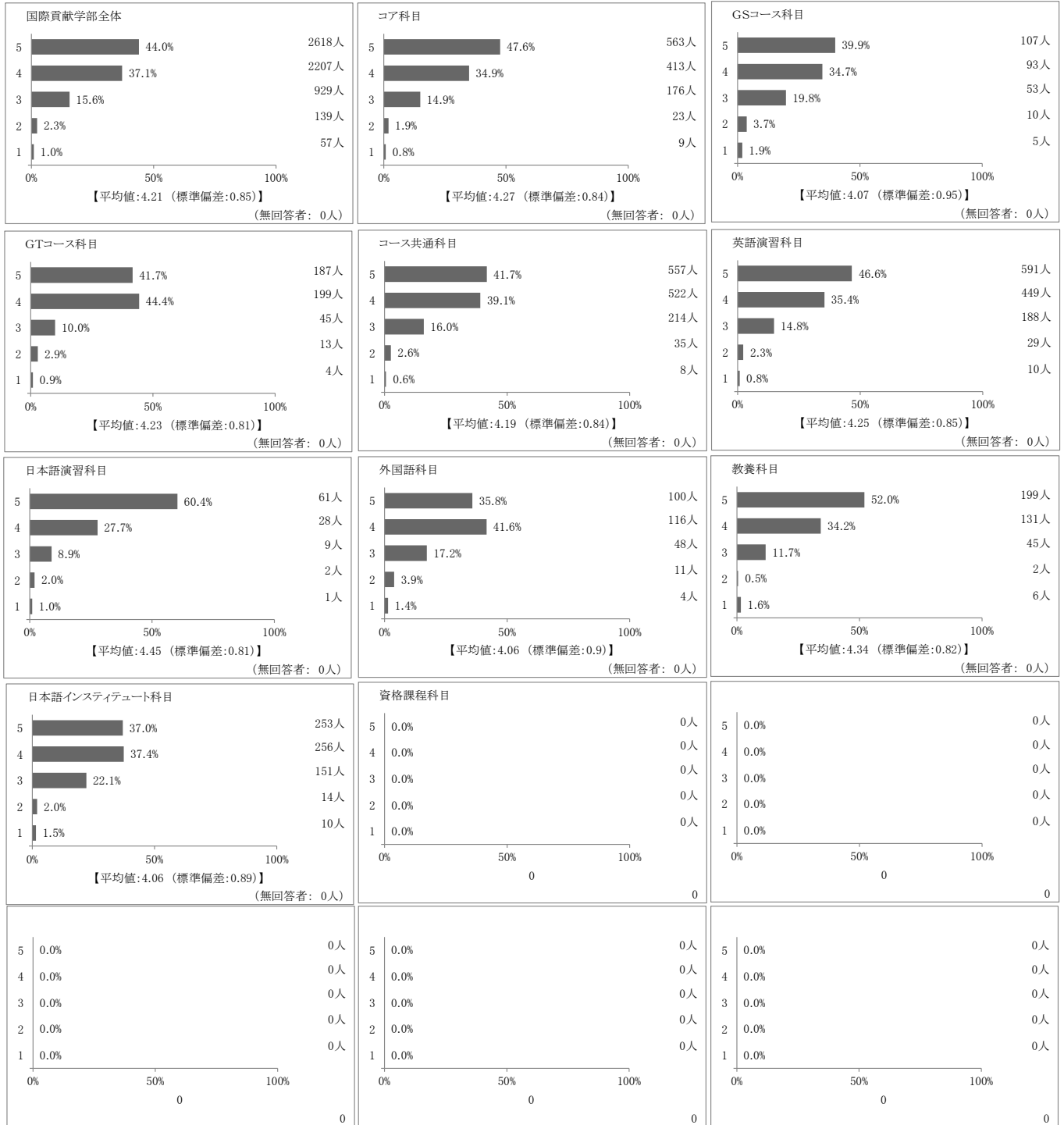
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q9.この授業の進度はあなたにとって適切でしたか？



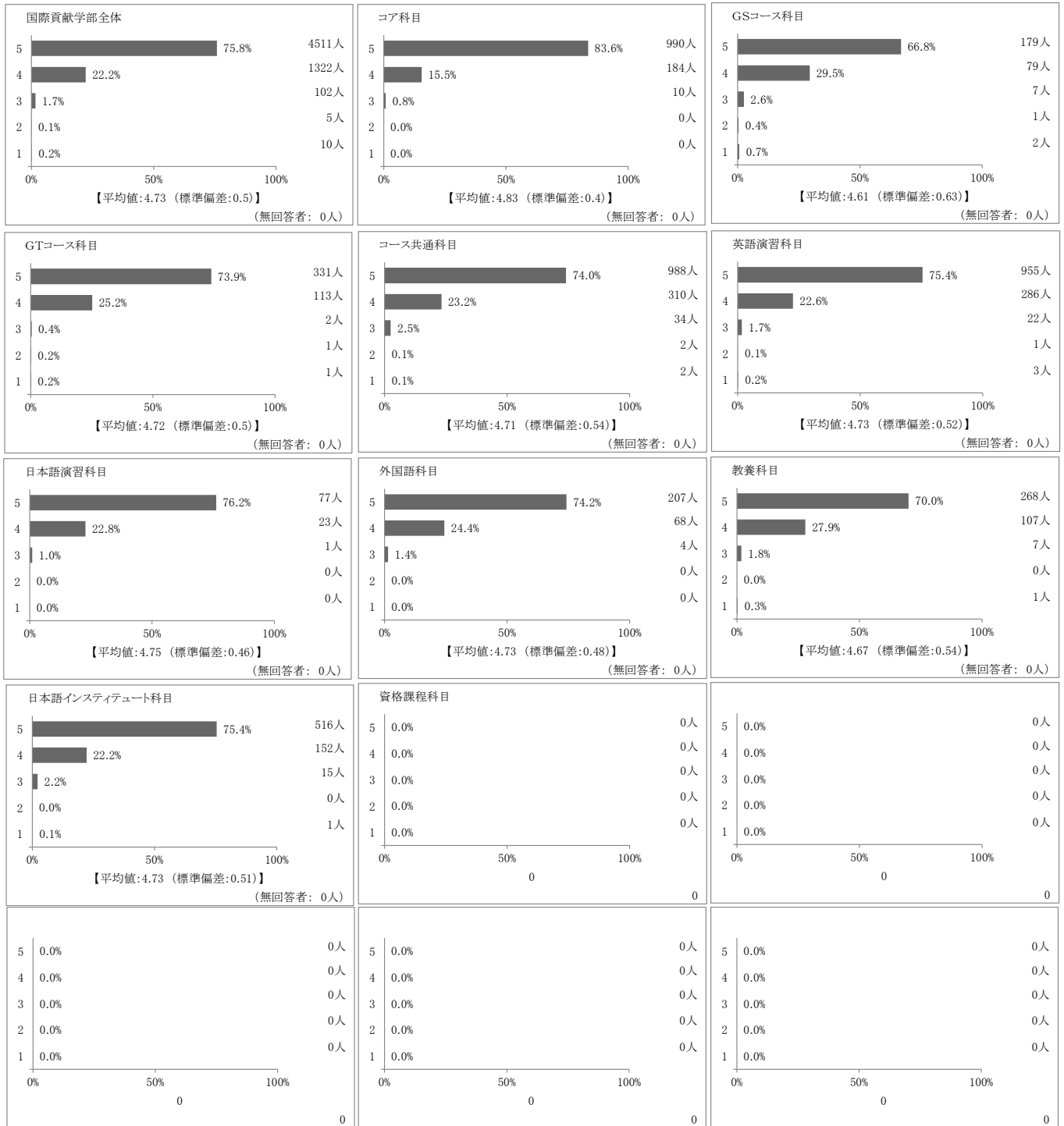
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q10.この授業に対するあなたの満足度はどのくらいですか？



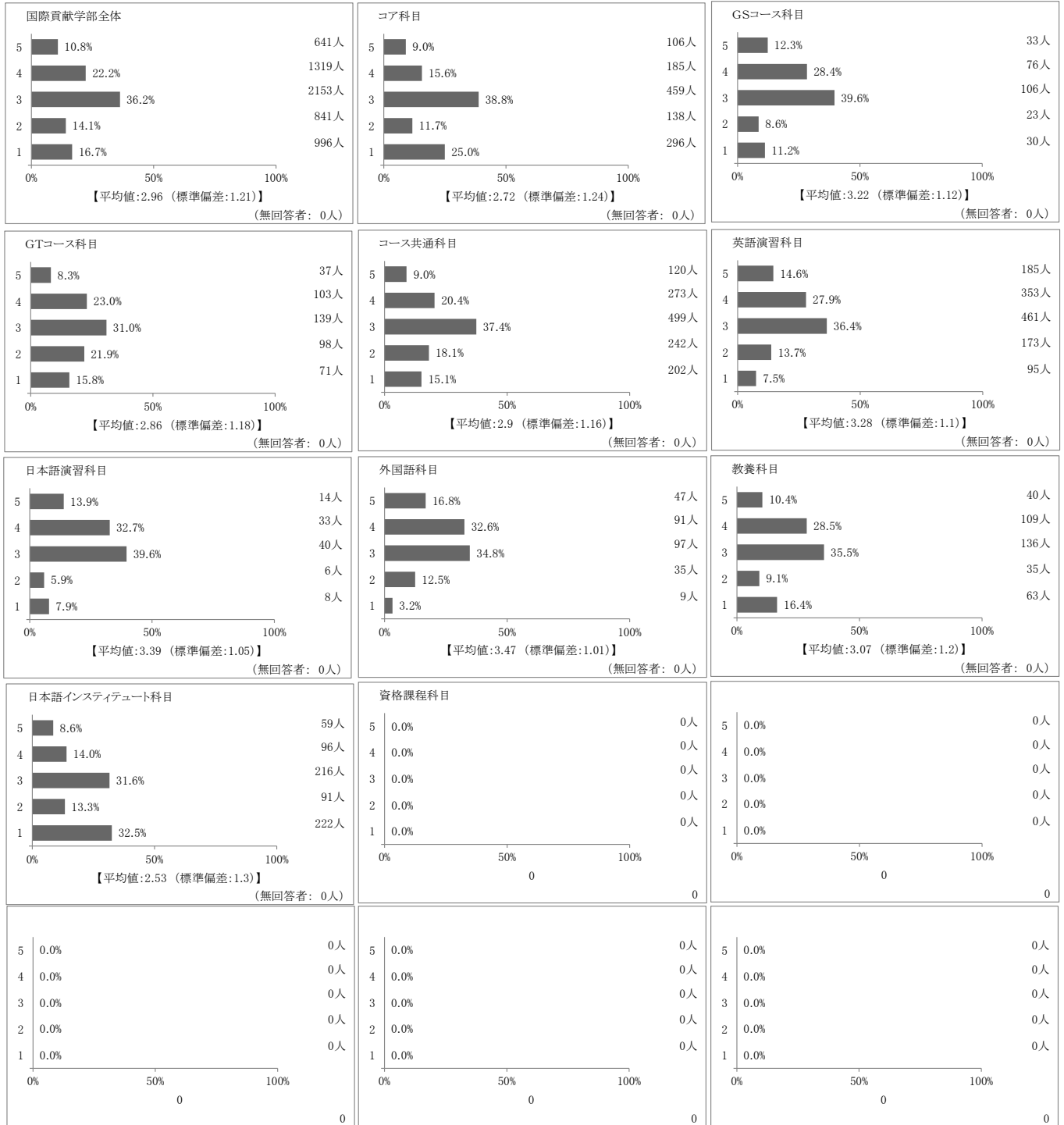
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q11.あなたのこの授業への出席率ほどの程度でしたか？



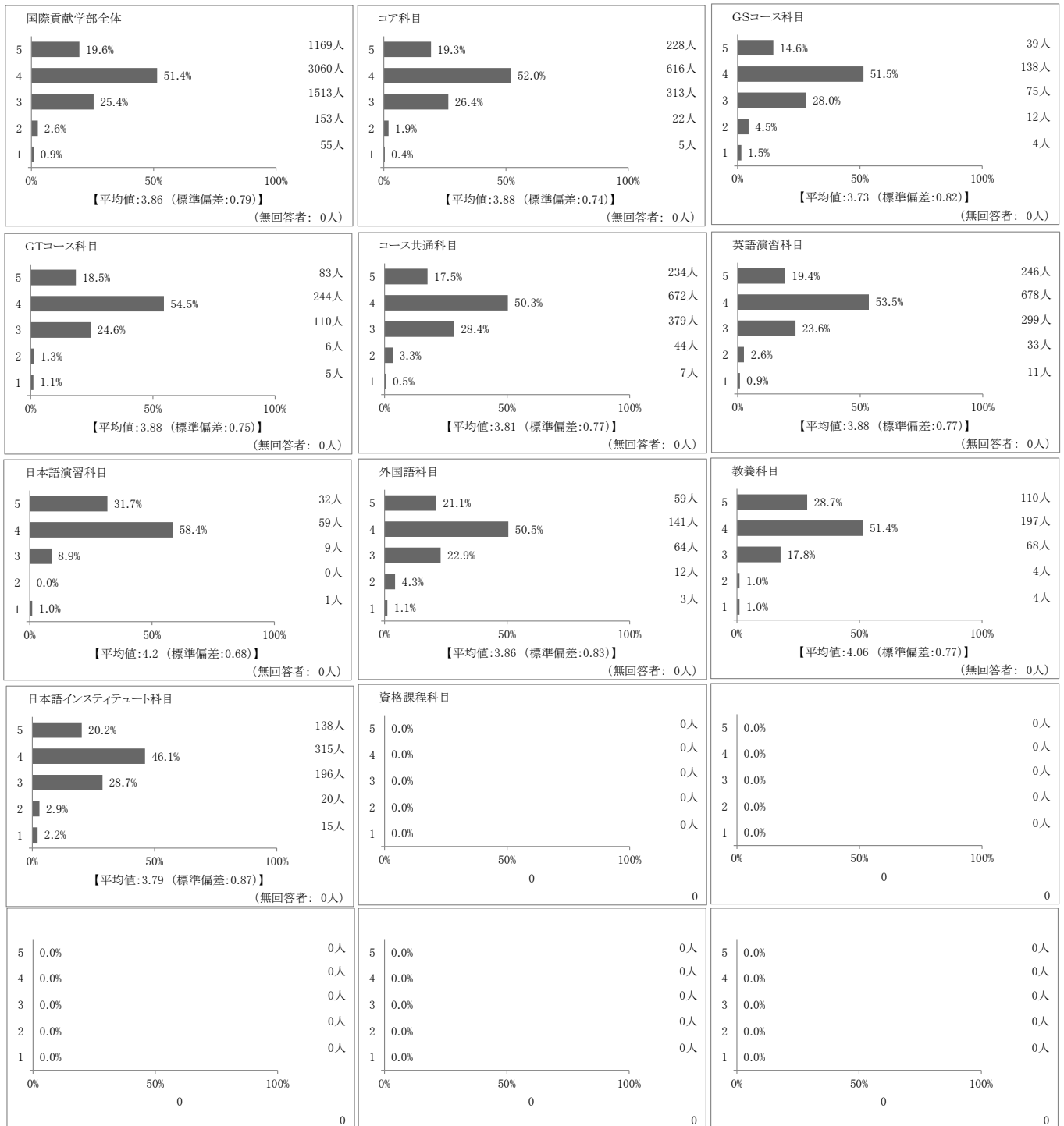
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q12.あなたのこの授業に関する授業時間外での取り組みはどの程度でしたか？



## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q13.あなたはこの授業のシラバスに示された講義目標に、どの程度到達したと思いますか？



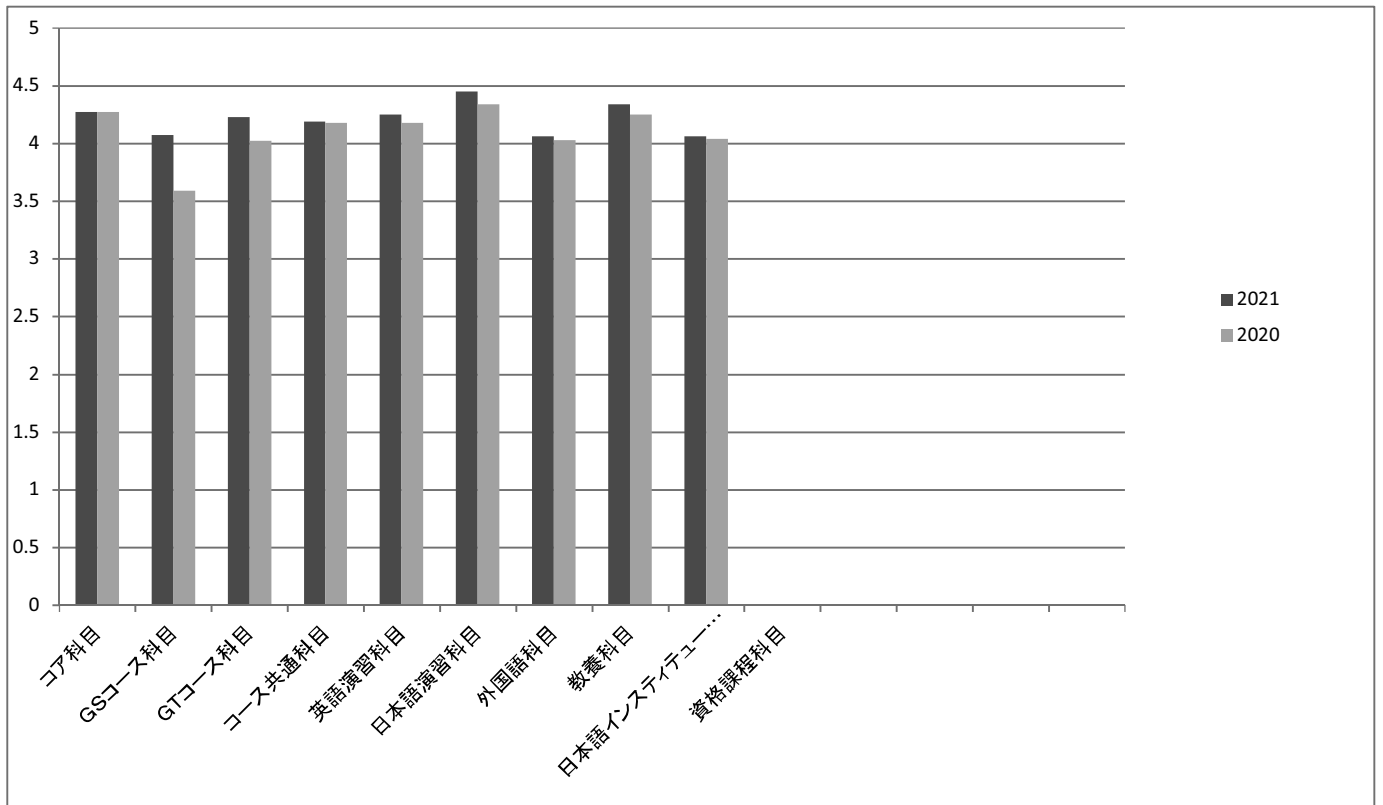
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 春学期 Q14.この授業で向上したと思われる能力を選択してください(2つまで)。

国際貢献学部全体			コア科目			GSコース科目		
問題発見力・解決力	12.8%	1519人	問題発見力・解決力	14.4%	340人	問題発見力・解決力	12.3%	66人
思考力・判断力	17.8%	2119人	思考力・判断力	16.6%	392人	思考力・判断力	13.2%	71人
創造力・企画力	4.7%	554人	創造力・企画力	5.7%	135人	創造力・企画力	1.7%	9人
主体的に取り組む力	7.8%	925人	主体的に取り組む力	7.2%	170人	主体的に取り組む力	6.2%	33人
計画力・実行力	2.7%	326人	計画力・実行力	3.3%	79人	計画力・実行力	2.2%	12人
情報収集力・分析力	10.7%	1273人	情報収集力・分析力	12.8%	302人	情報収集力・分析力	11.9%	64人
プレゼンテーション力	2.9%	347人	プレゼンテーション力	3.5%	83人	プレゼンテーション力	5.4%	29人
コミュニケーション力	3.5%	414人	コミュニケーション力	3.0%	70人	コミュニケーション力	1.9%	10人
多文化共生力	2.9%	346人	多文化共生力	1.6%	37人	多文化共生力	0.9%	5人
GTコース科目			コース共通科目			英語演習科目		
問題発見力・解決力	12.8%	115人	問題発見力・解決力	14.3%	382人	問題発見力・解決力	10.2%	259人
思考力・判断力	15.8%	142人	思考力・判断力	18.6%	497人	思考力・判断力	21.0%	532人
創造力・企画力	4.5%	40人	創造力・企画力	5.4%	144人	創造力・企画力	4.3%	108人
主体的に取り組む力	7.0%	63人	主体的に取り組む力	5.0%	134人	主体的に取り組む力	10.8%	274人
計画力・実行力	2.7%	24人	計画力・実行力	2.1%	56人	計画力・実行力	2.9%	74人
情報収集力・分析力	13.7%	123人	情報収集力・分析力	12.1%	324人	情報収集力・分析力	4.9%	123人
プレゼンテーション力	2.8%	25人	プレゼンテーション力	3.2%	86人	プレゼンテーション力	2.8%	72人
コミュニケーション力	1.2%	11人	コミュニケーション力	1.0%	27人	コミュニケーション力	8.4%	212人
多文化共生力	2.0%	18人	多文化共生力	2.8%	74人	多文化共生力	2.4%	61人
日本語演習科目			外国語科目			教養科目		
問題発見力・解決力	7.4%	15人	問題発見力・解決力	16.5%	92人	問題発見力・解決力	12.3%	94人
思考力・判断力	8.9%	18人	思考力・判断力	23.7%	132人	思考力・判断力	15.9%	122人
創造力・企画力	3.5%	7人	創造力・企画力	1.6%	9人	創造力・企画力	4.6%	35人
主体的に取り組む力	4.5%	9人	主体的に取り組む力	11.3%	63人	主体的に取り組む力	7.0%	54人
計画力・実行力	0.5%	1人	計画力・実行力	3.0%	17人	計画力・実行力	2.3%	18人
情報収集力・分析力	9.9%	20人	情報収集力・分析力	4.3%	24人	情報収集力・分析力	9.8%	75人
プレゼンテーション力	5.9%	12人	プレゼンテーション力	0.0%	0人	プレゼンテーション力	3.7%	28人
コミュニケーション力	9.9%	20人	コミュニケーション力	4.8%	27人	コミュニケーション力	3.9%	30人
多文化共生力	2.0%	4人	多文化共生力	4.1%	23人	多文化共生力	2.2%	17人
日本語インスティテュート科目			資格課程科目					
問題発見力・解決力	11.4%	156人	問題発見力・解決力					
思考力・判断力	15.6%	213人	思考力・判断力					
創造力・企画力	4.9%	67人	創造力・企画力					
主体的に取り組む力	9.1%	125人	主体的に取り組む力					
計画力・実行力	3.3%	45人	計画力・実行力					
情報収集力・分析力	15.9%	218人	情報収集力・分析力					
プレゼンテーション力	0.9%	12人	プレゼンテーション力					
コミュニケーション力	0.5%	7人	コミュニケーション力					
多文化共生力	7.8%	107人	多文化共生力					

# 満足度アンケート前年度比較

〈国際貢献学部 春学期〉



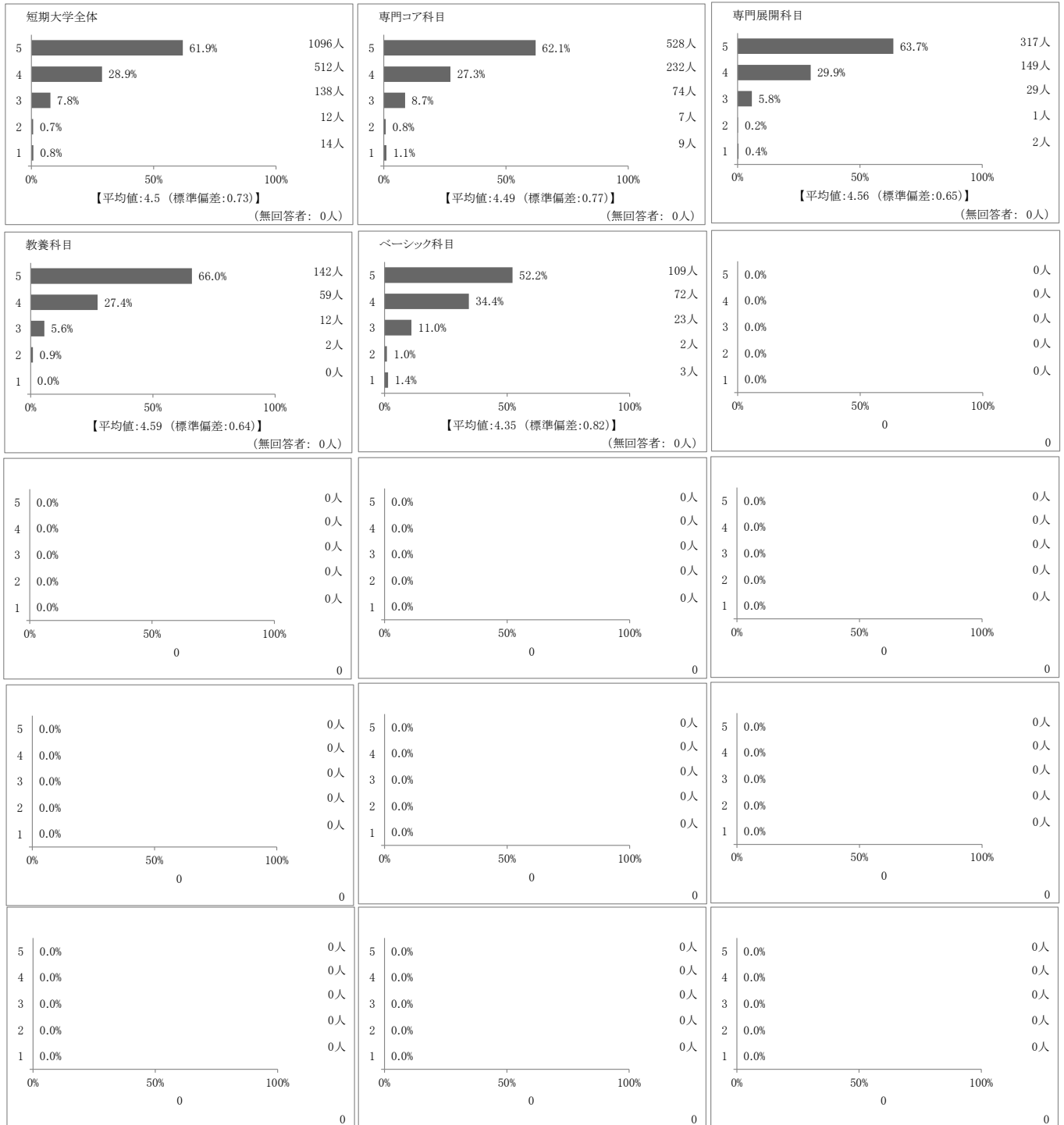
## 分野別アンケート結果

〈2021年度 短期大学 春学期〉

授業科目区分	科目数	受講者	回答者	回答率(%)
専門コア科目	56	1086	850	78.3
専門展開科目	18	610	498	81.6
教養科目	19	348	215	61.8
ベーシック科目	8	495	209	42.2
	101	2539	1772	69.8

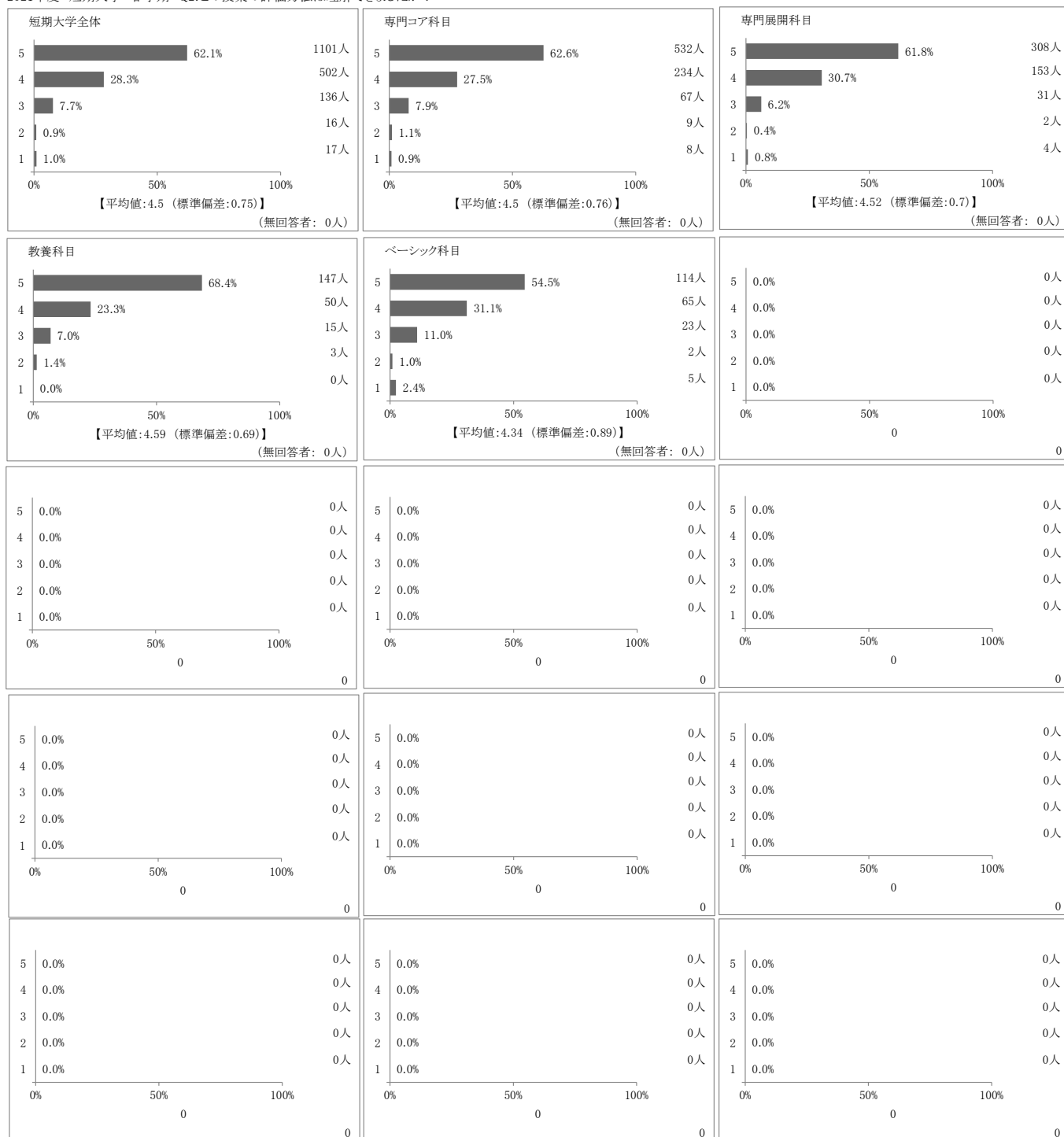
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 春学期 Q1.この授業の「シラバス」に示された講義目標は、理解できましたか？



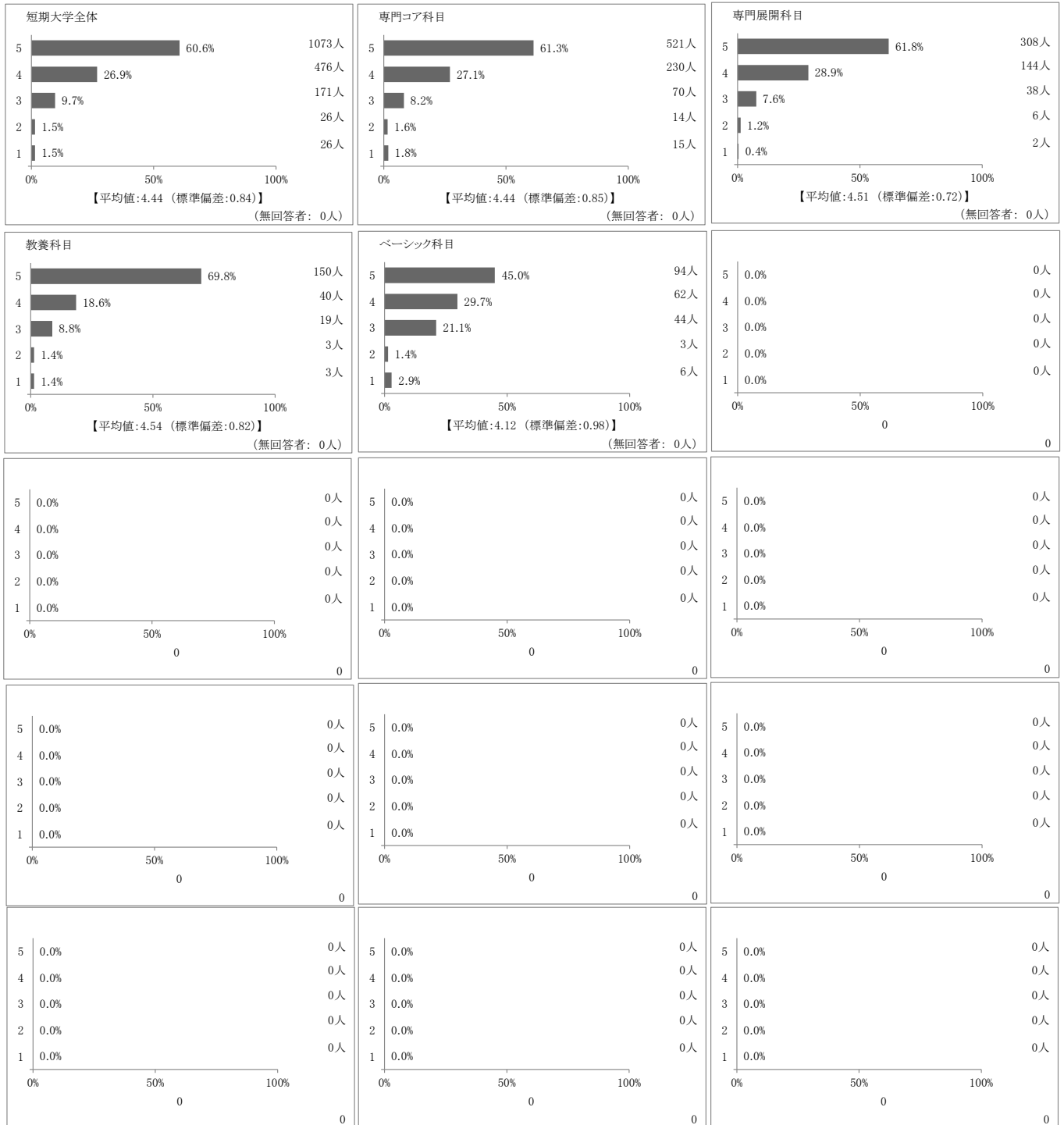
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 春学期 Q2.この授業の評価方法は理解できましたか？



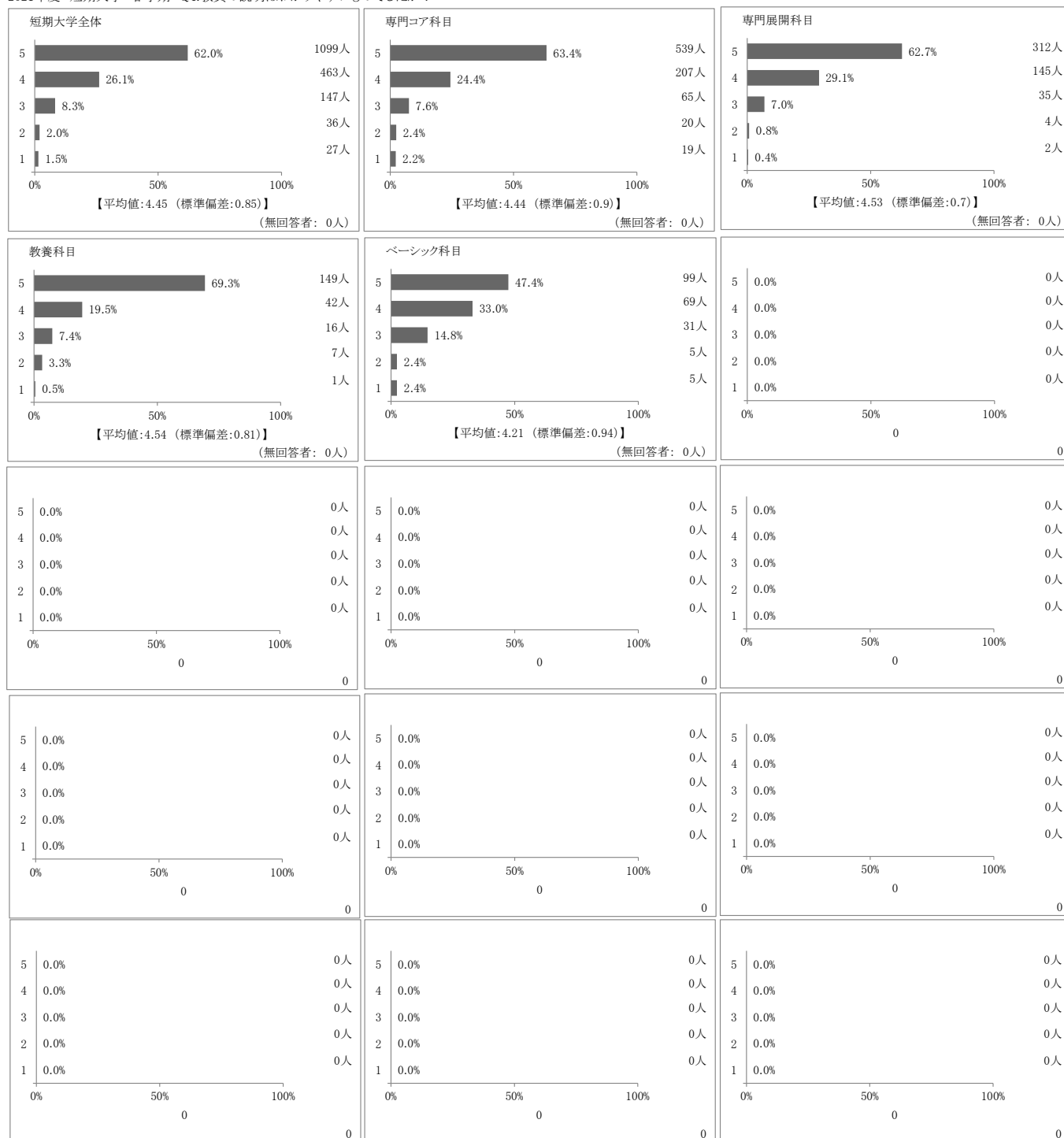
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 春学期 Q3.この授業で用いられた教材は、授業の理解に役立ちましたか？



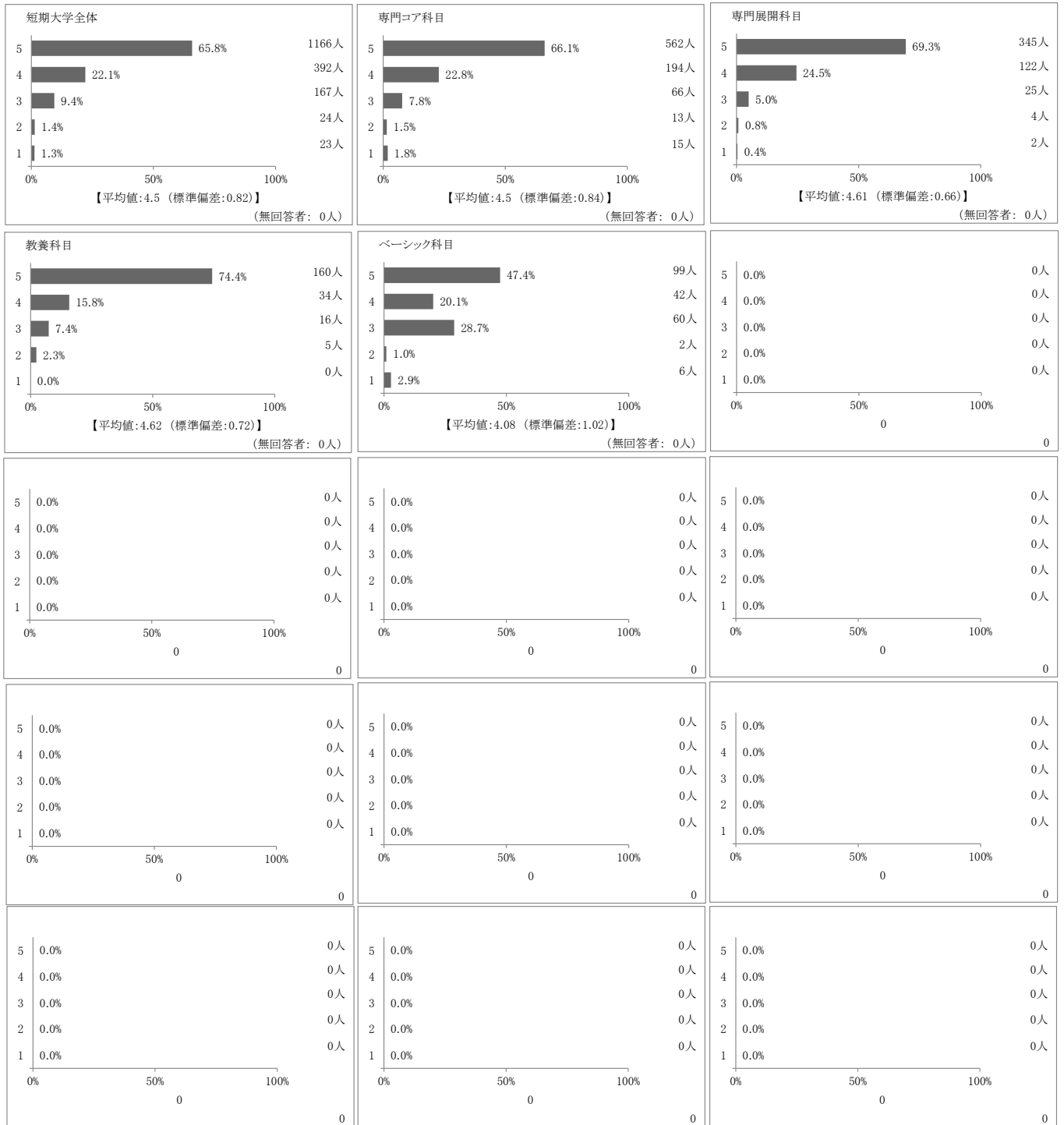
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 春学期 Q4.教員の説明はわかりやすいものでしたか？



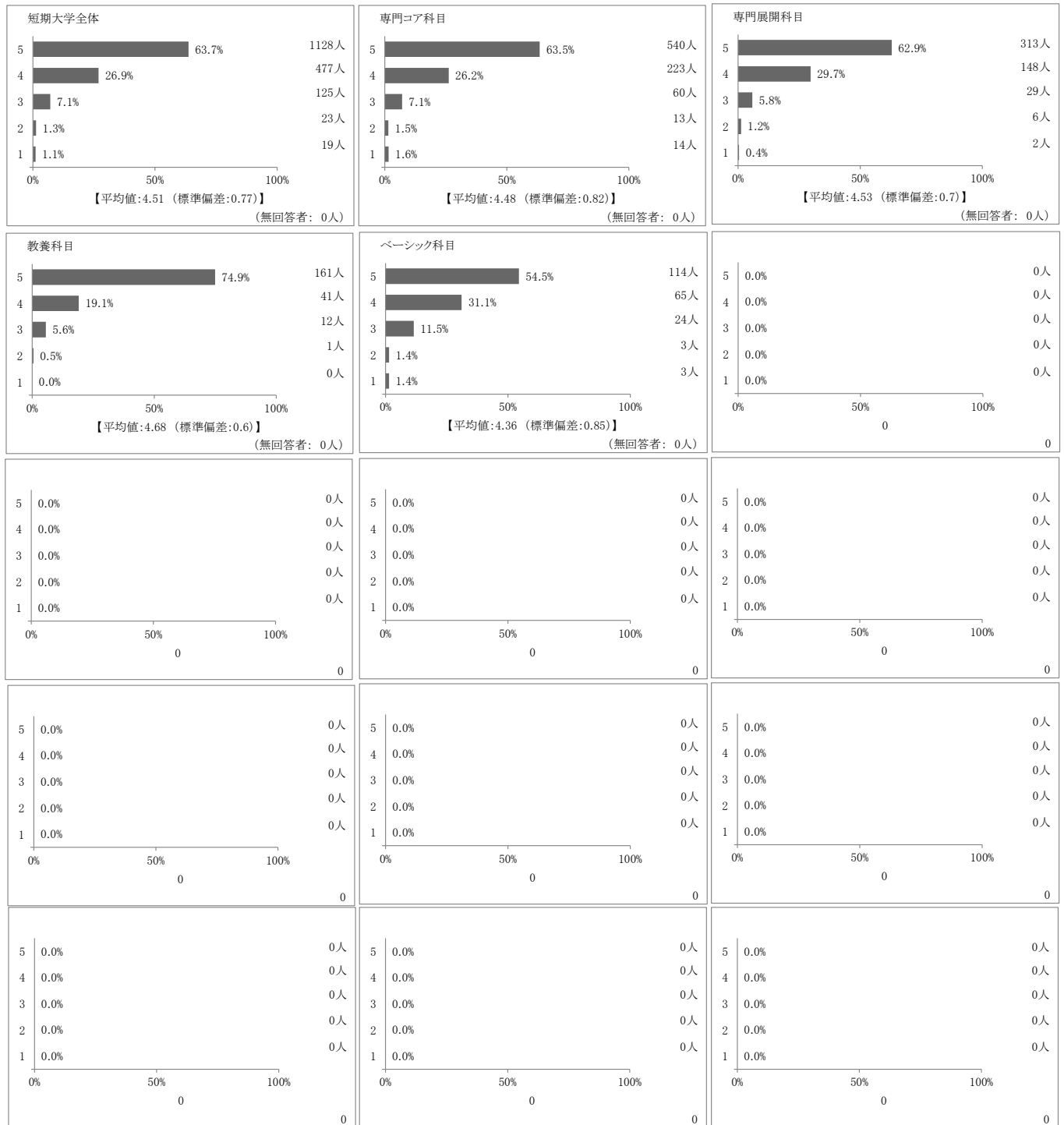
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 春学期 Q5.学生の質問に対する教員の対応は適切でしたか？



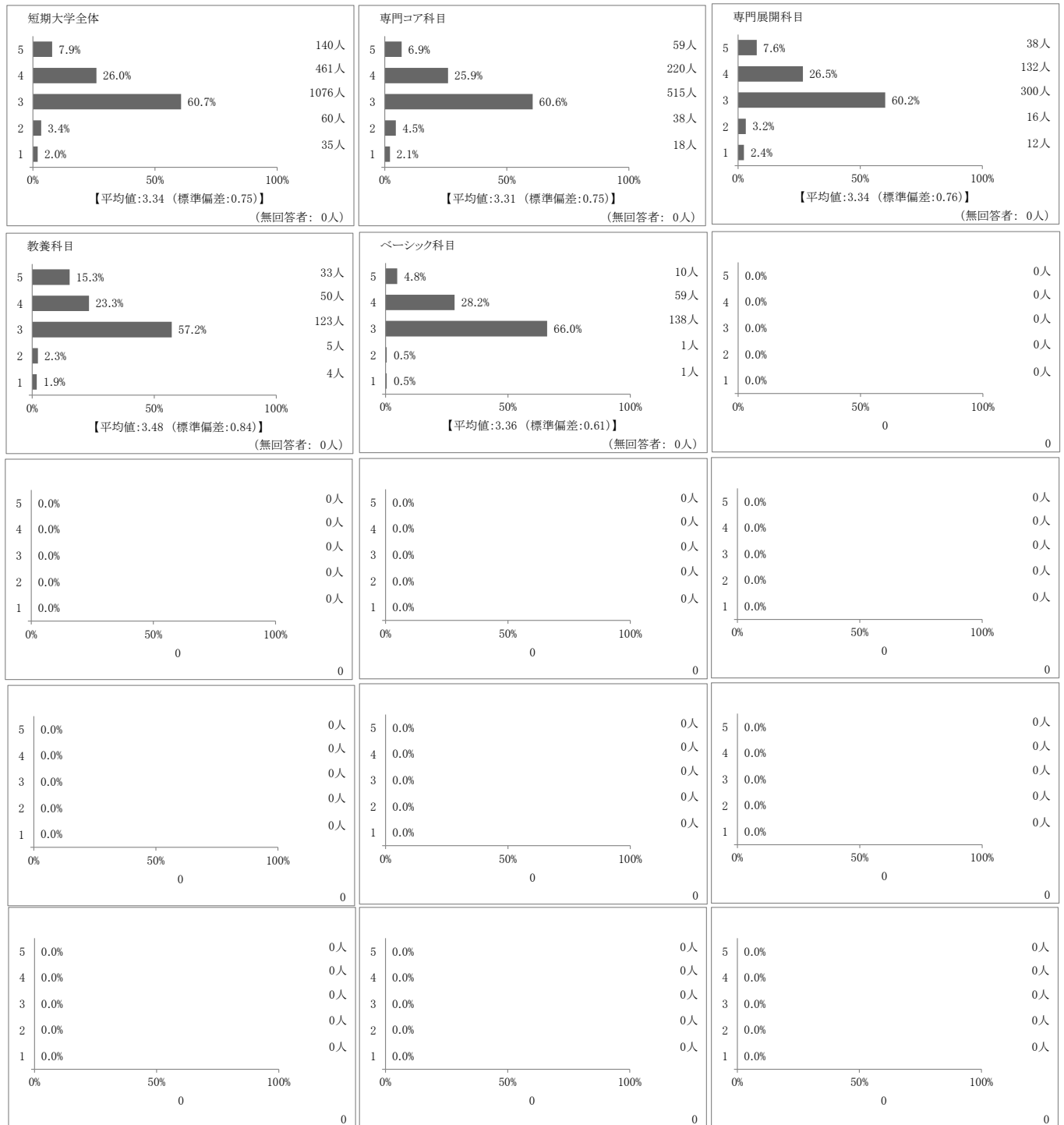
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 春学期 Q6.この授業は、新しい知識または技能の習得に役立ちましたか？



## 質問別アンケート結果

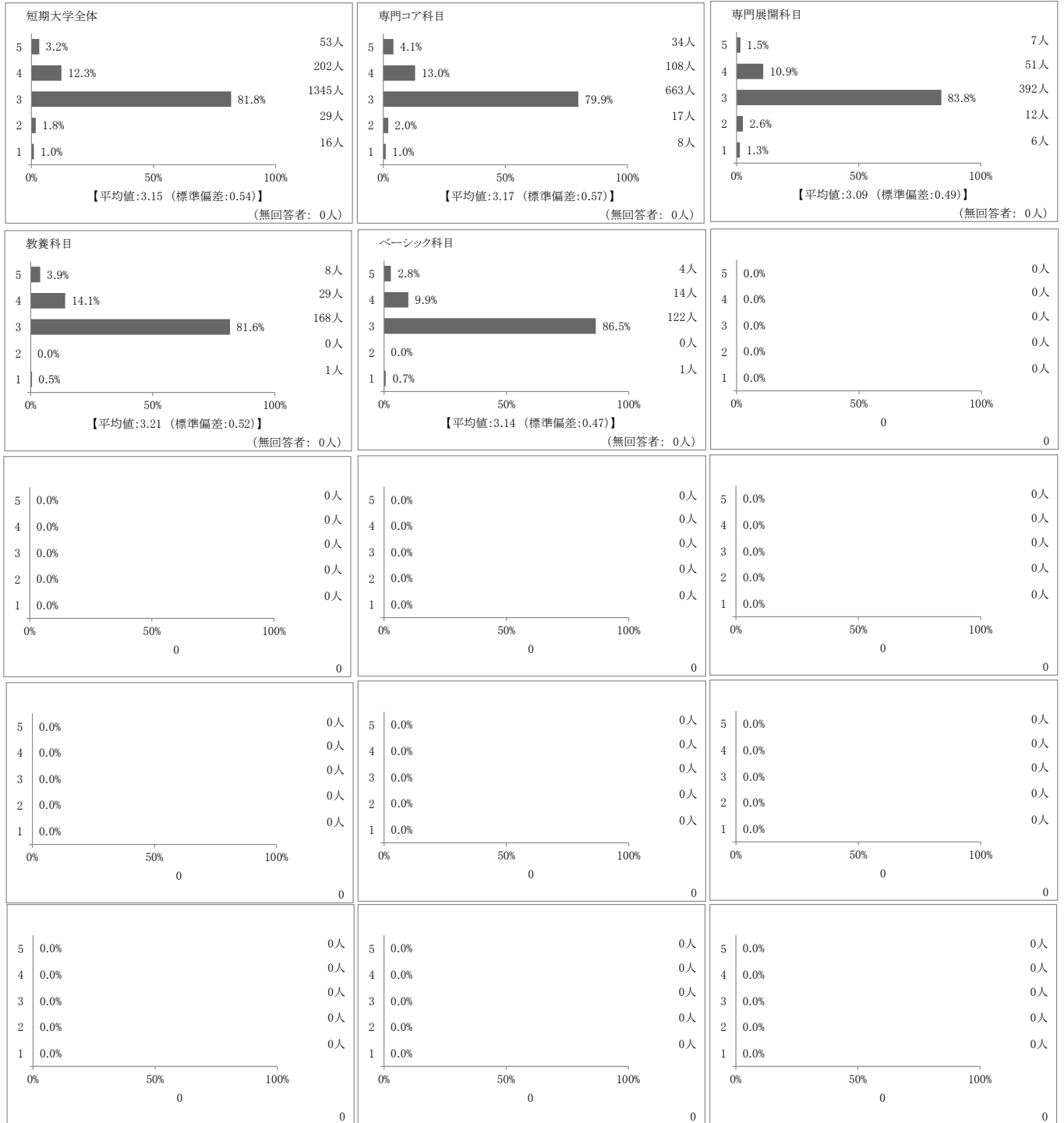
2021年度 短期大学 春学期 Q7.この授業の難易度は適切でしたか？





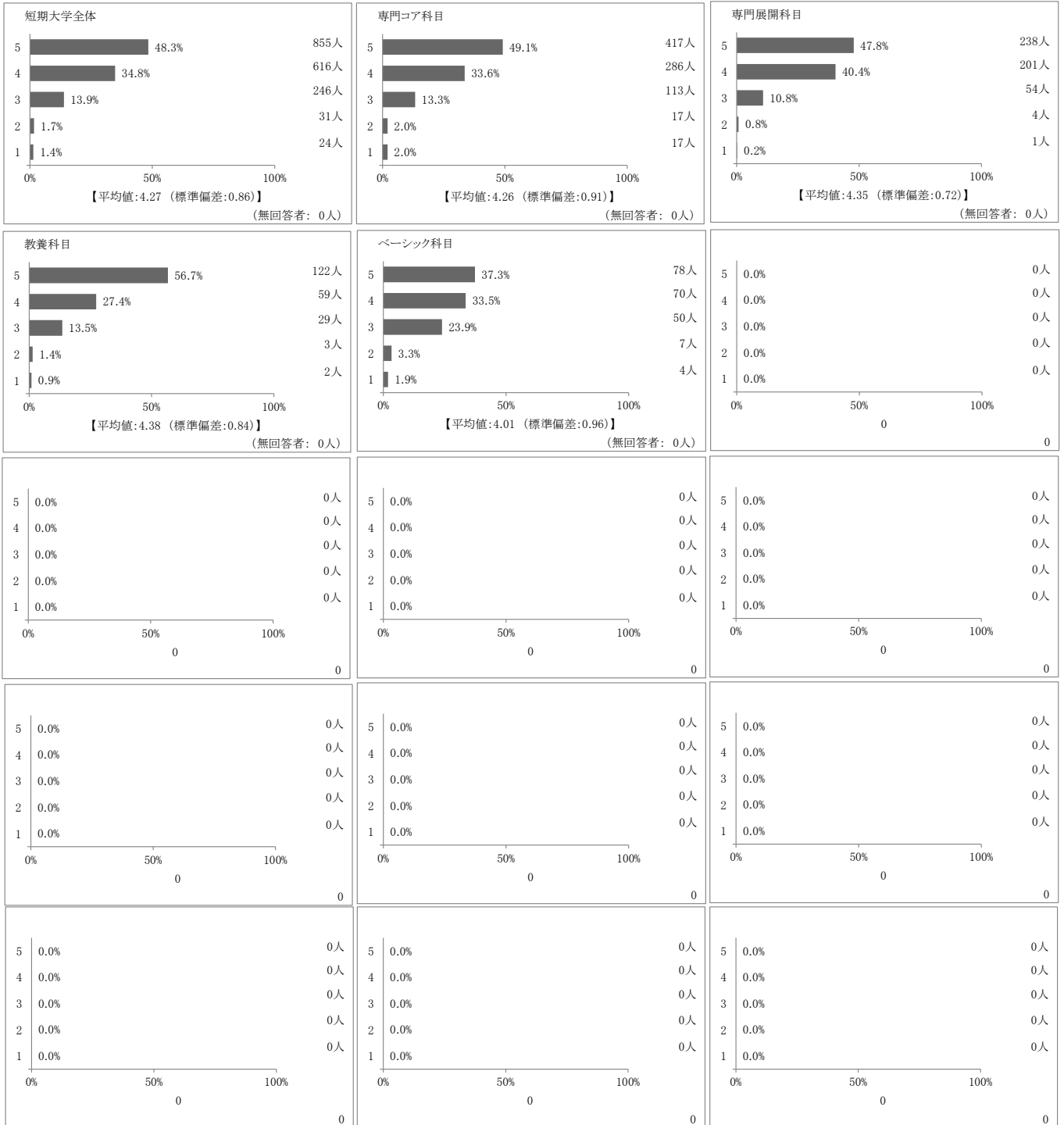
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 春学期 Q9.この授業の進度はあなたにとって適切でしたか？



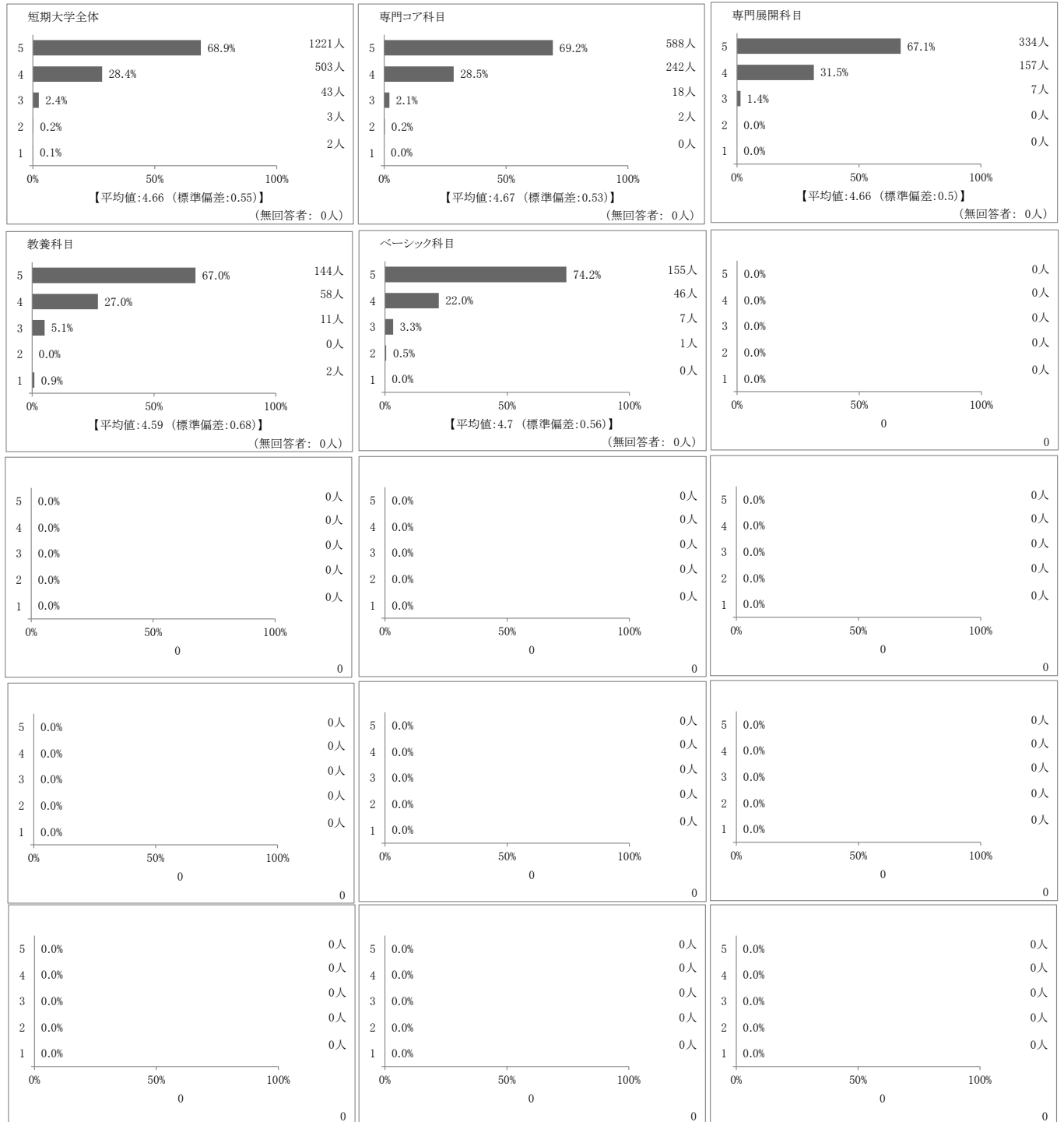
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 春学期 Q10.この授業に対するあなたの満足度はどのくらいですか？



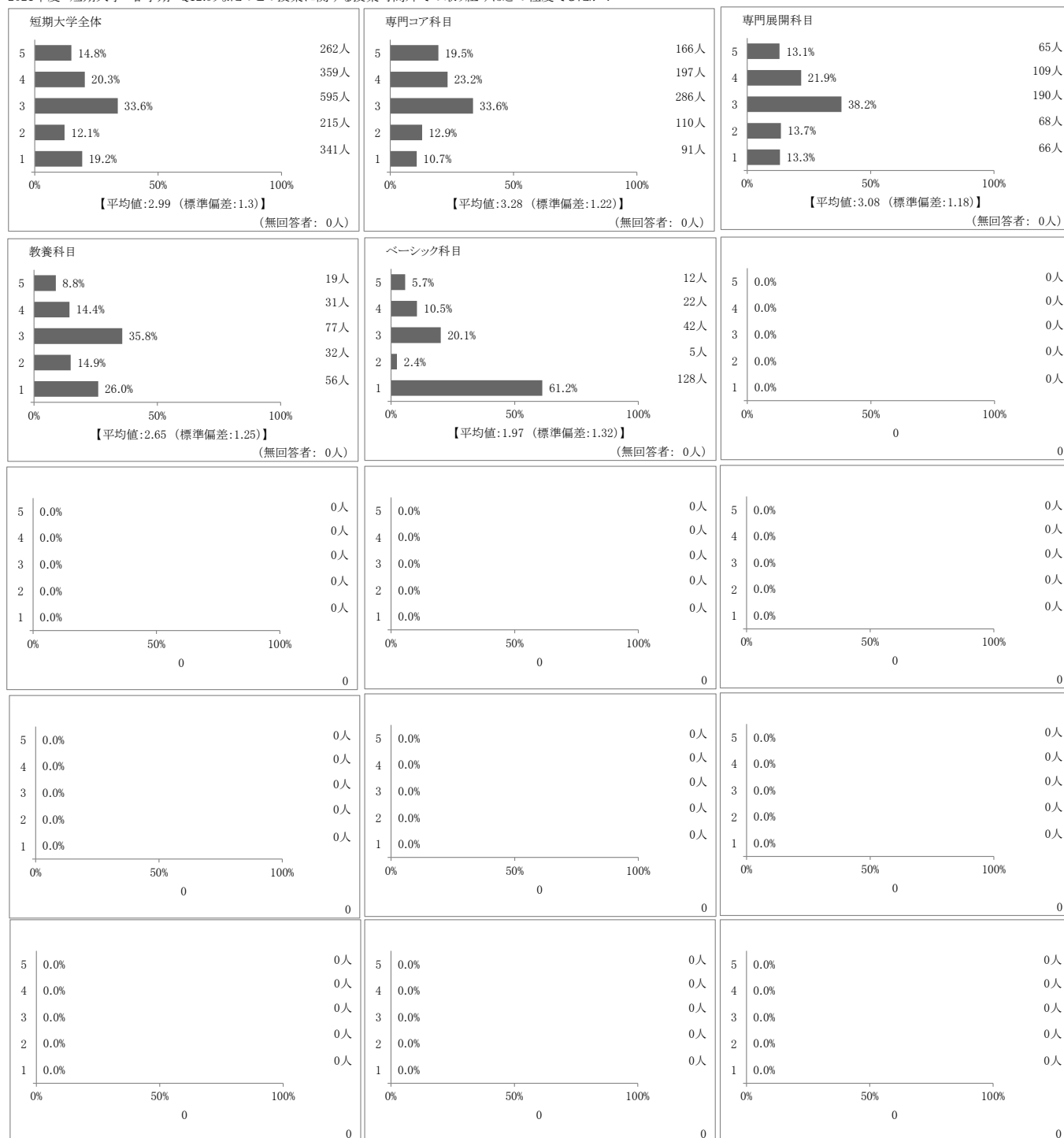
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 春学期 Q11.あなたのこの授業への出席率ほどの程度でしたか？



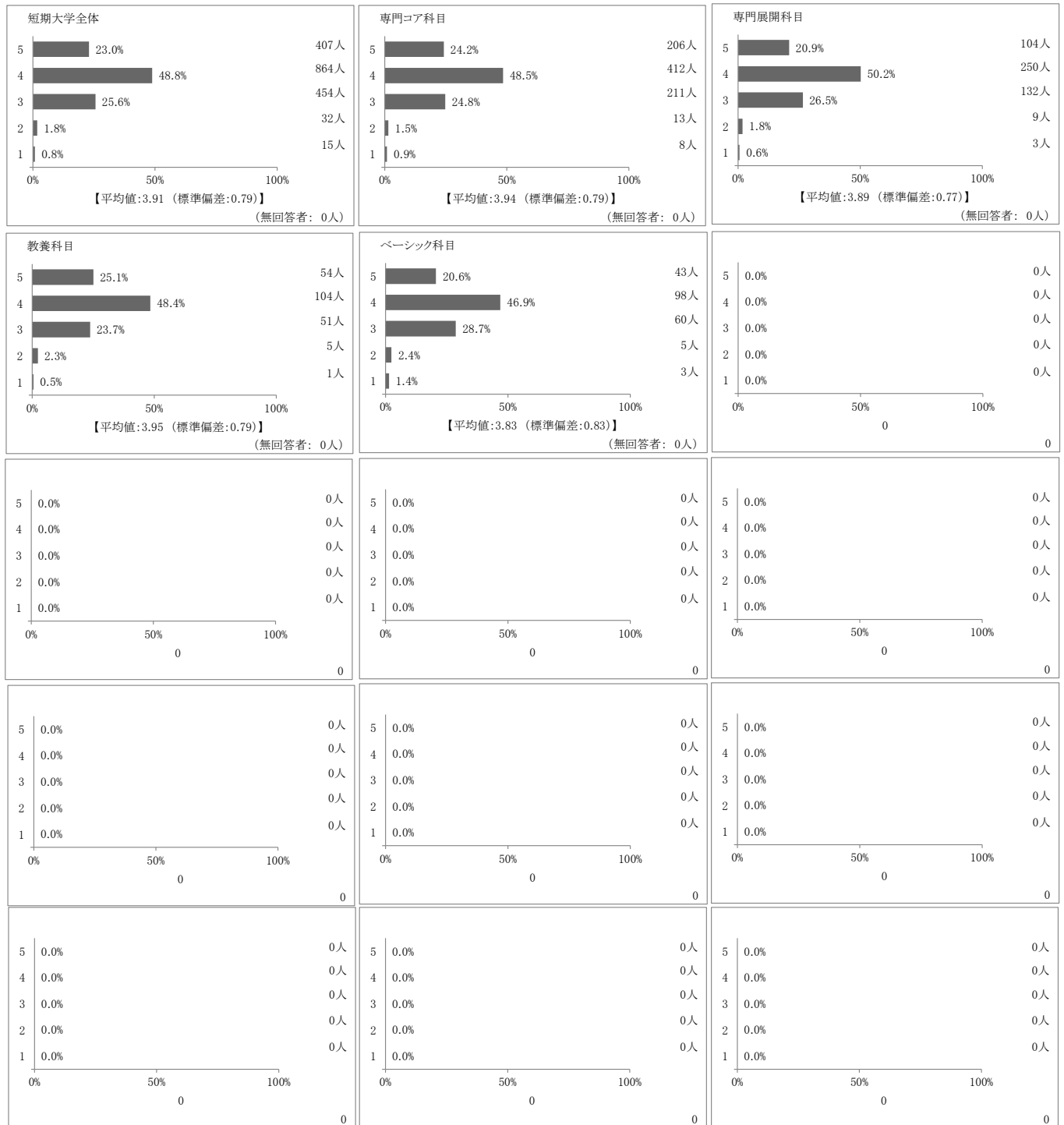
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 春学期 Q12.あなたのこの授業に関する授業時間外での取り組みはどの程度でしたか？



## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 春学期 Q13.あなたはこの授業のシラバスに示された講義目標に、どの程度到達したと思いますか？



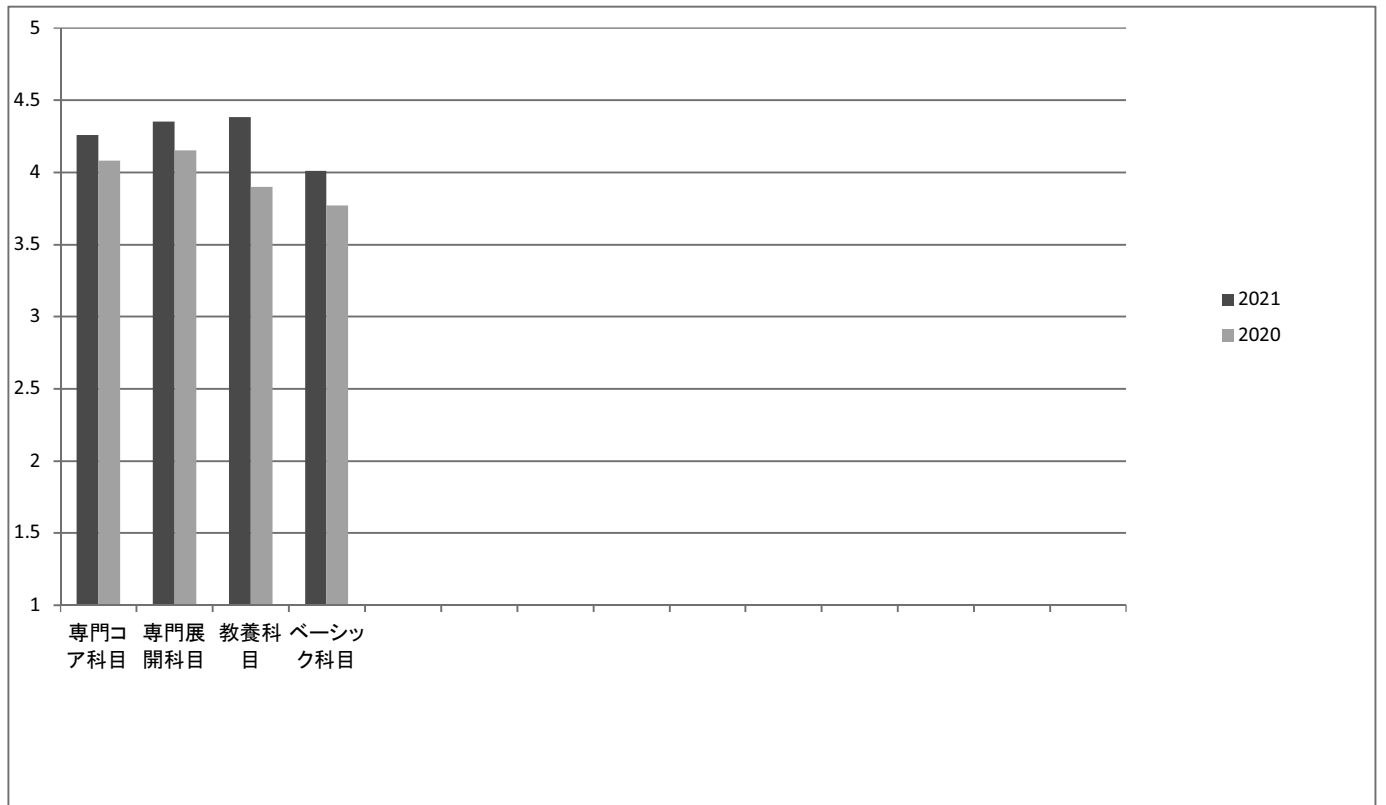
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 春学期 Q14.この授業で向上したと思われる能力を選択してください(2つまで)。

短期大学全体			専門コア科目			専門展開科目		
問題発見力・解決力	14.9%	529人	問題発見力・解決力	15.3%	260人	問題発見力・解決力	15.5%	154人
思考力・判断力	20.9%	741人	思考力・判断力	20.7%	352人	思考力・判断力	21.2%	211人
創造力・企画力	4.5%	158人	創造力・企画力	3.8%	64人	創造力・企画力	5.0%	50人
主体的に取り組む力	9.4%	334人	主体的に取り組む力	10.3%	175人	主体的に取り組む力	8.7%	87人
計画力・実行力	2.7%	97人	計画力・実行力	2.8%	47人	計画力・実行力	2.9%	29人
情報収集力・分析力	5.5%	196人	情報収集力・分析力	3.2%	55人	情報収集力・分析力	6.6%	66人
プレゼンテーション力	2.5%	89人	プレゼンテーション力	3.1%	53人	プレゼンテーション力	1.3%	13人
コミュニケーション力	5.2%	185人	コミュニケーション力	7.3%	124人	コミュニケーション力	2.7%	27人
多文化共生力	2.8%	100人	多文化共生力	1.8%	30人	多文化共生力	1.7%	17人
教養科目			ベーシック科目					
問題発見力・解決力	13.0%	56人	問題発見力・解決力	14.1%	59人			
思考力・判断力	20.9%	90人	思考力・判断力	21.1%	88人			
創造力・企画力	4.9%	21人	創造力・企画力	5.5%	23人			
主体的に取り組む力	10.9%	47人	主体的に取り組む力	6.0%	25人			
計画力・実行力	1.9%	8人	計画力・実行力	3.1%	13人			
情報収集力・分析力	6.5%	28人	情報収集力・分析力	11.2%	47人			
プレゼンテーション力	1.9%	8人	プレゼンテーション力	3.6%	15人			
コミュニケーション力	7.7%	33人	コミュニケーション力	0.2%	1人			
多文化共生力	4.4%	19人	多文化共生力	8.1%	34人			

# 満足度アンケート前年度比較

<短期大学 春学期>



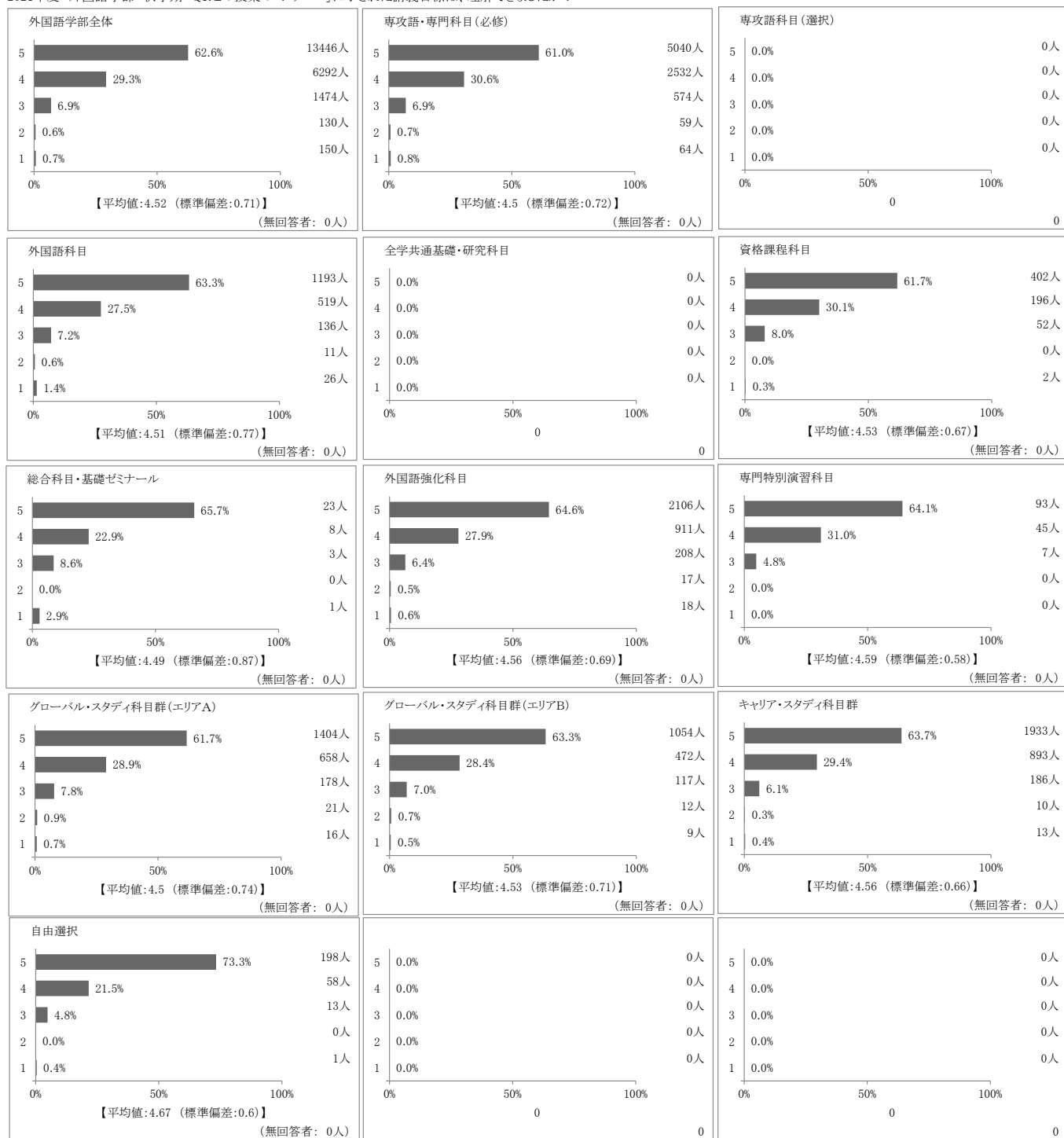
## 分野別アンケート結果

〈2021年度 外国語学部 秋学期〉

授業科目区分	科目数	受講者	回答者	回答率(%)
専攻語・専門科目(必修)	533	11662	8269	70.9
専攻語科目(選択)				
外国語科目	179	3904	1885	48.3
全学共通基礎・研究科目				
資格課程科目	66	1293	652	50.4
総合科目・基礎ゼミナール	3	82	35	42.7
外国語強化科目	146	4862	3260	67.1
専門特別演習科目	11	199	145	72.9
グローバル・スタディ科目群(エリアA)	119	3868	2277	58.9
グローバル・スタディ科目群(エリアB)	57	3097	1664	53.7
キャリア・スタディ科目群	71	6951	3035	43.7
自由選択	33	547	270	49.4
	1218	36465	21492	58.9

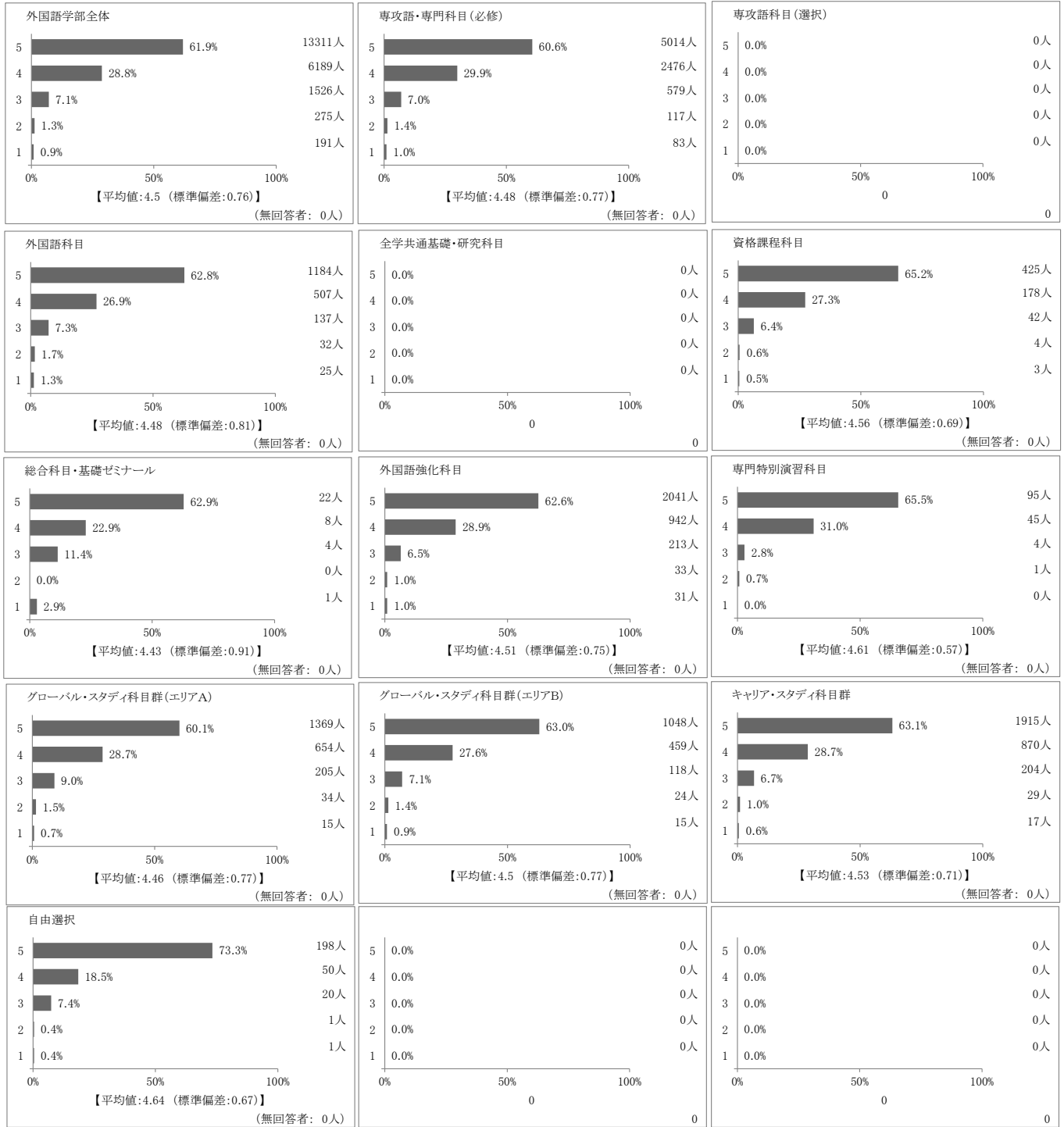
### 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q1.この授業の「シラバス」に示された講義目標は、理解できましたか？



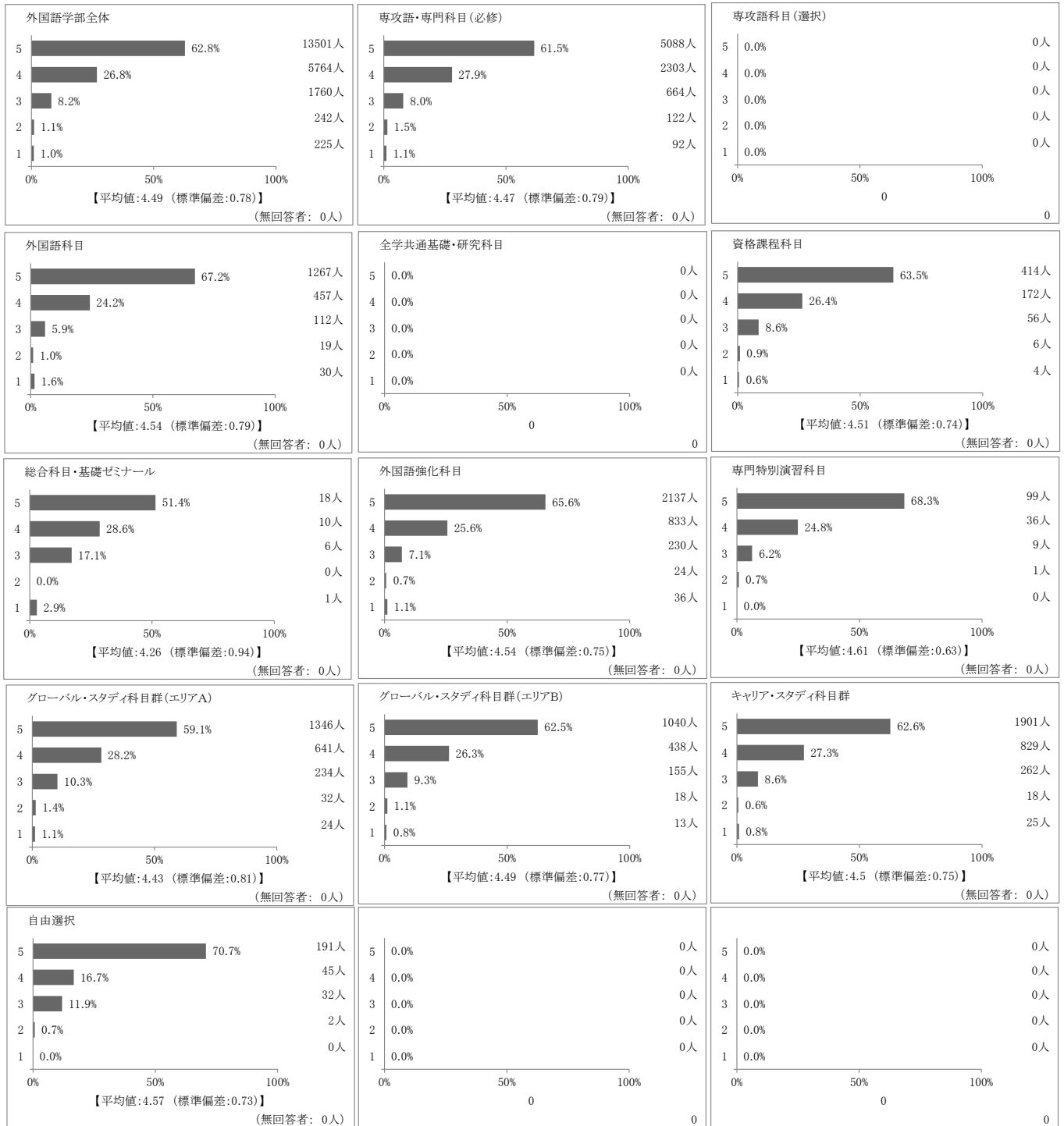
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q2.この授業の評価方法は理解できましたか？



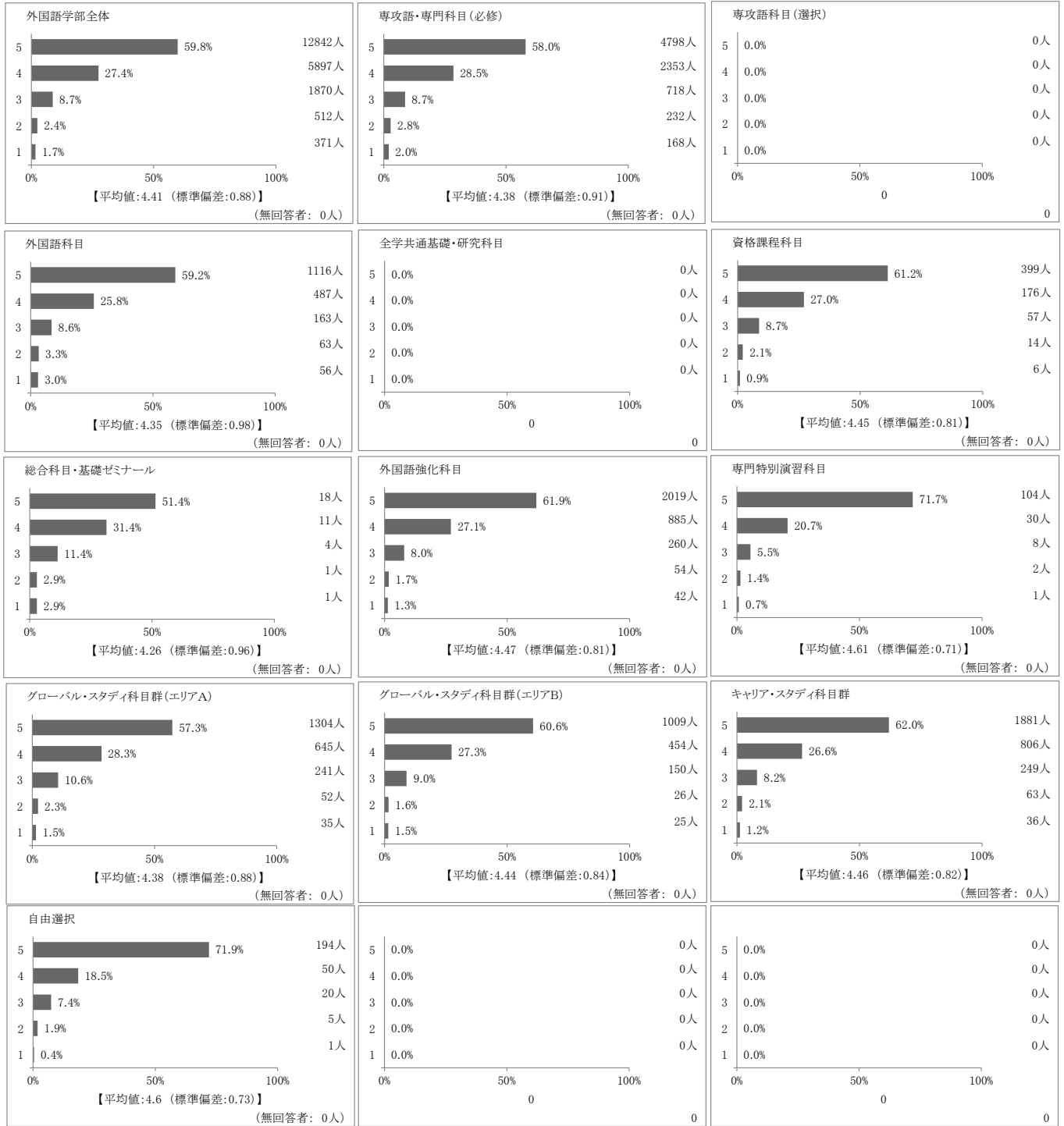
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q3.この授業で用いられた教材は、授業の理解に役立ちましたか？



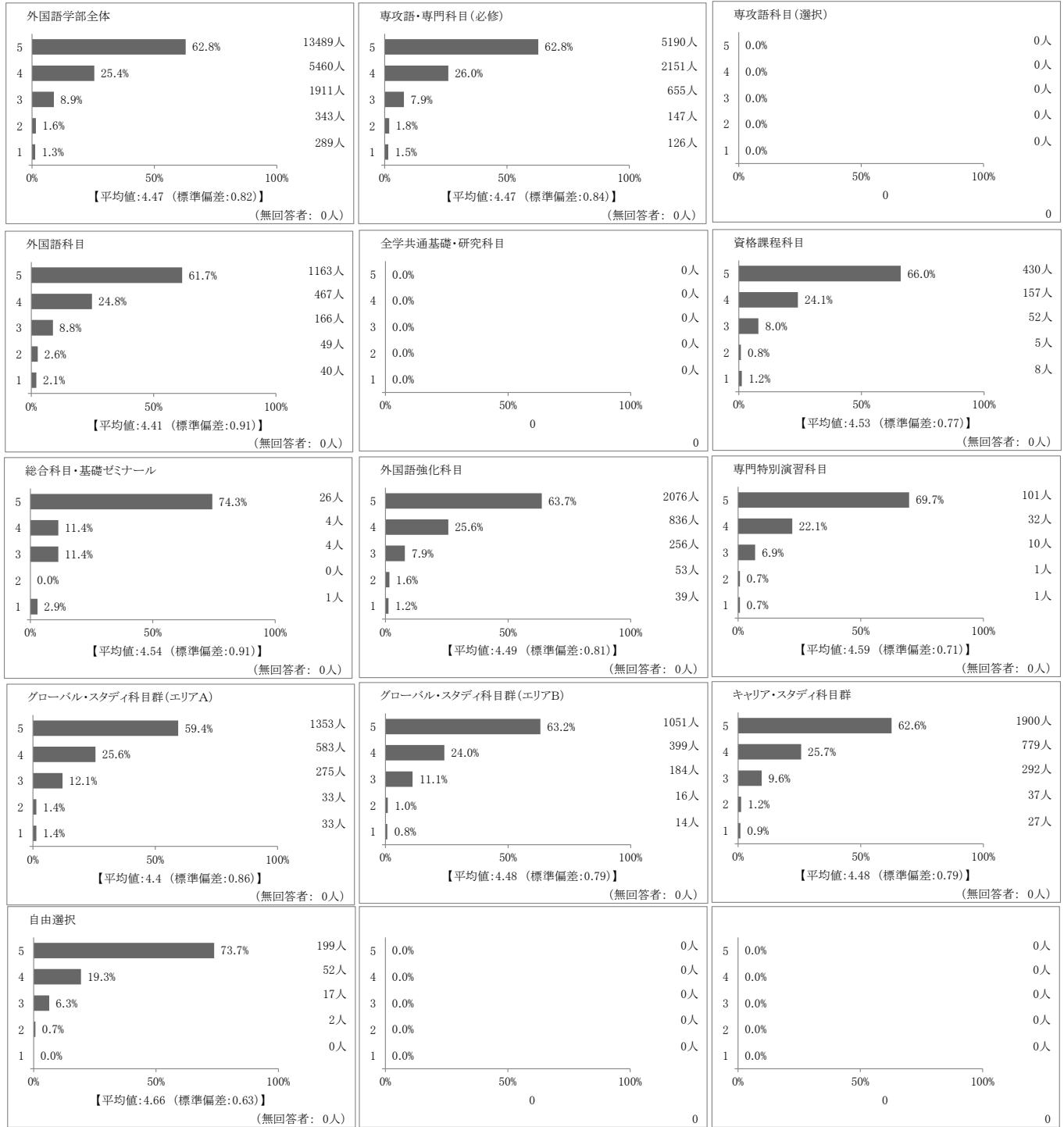
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q4.教員の説明はわかりやすいものでしたか？



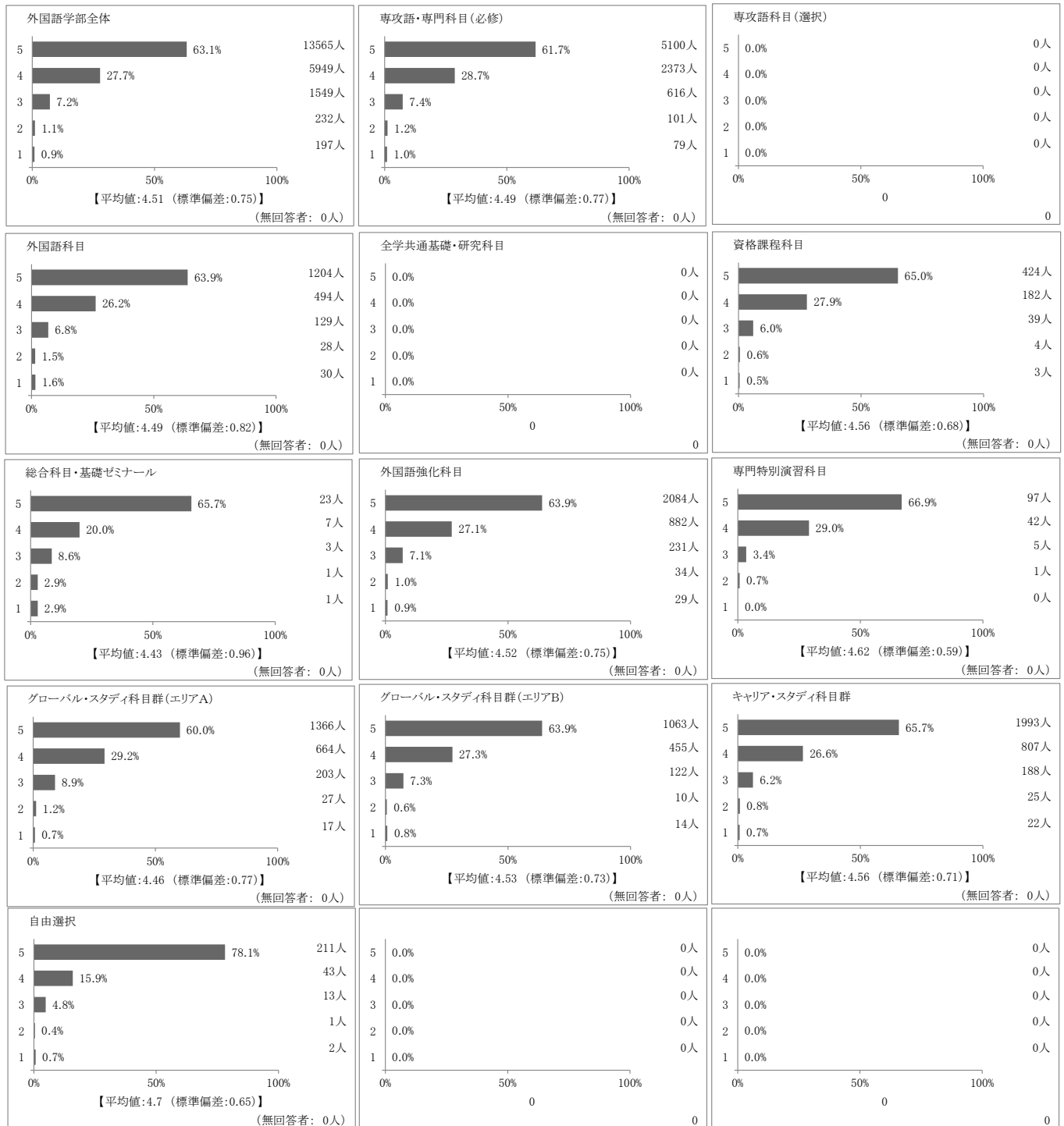
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q5.学生の質問に対する教員の対応は適切でしたか？



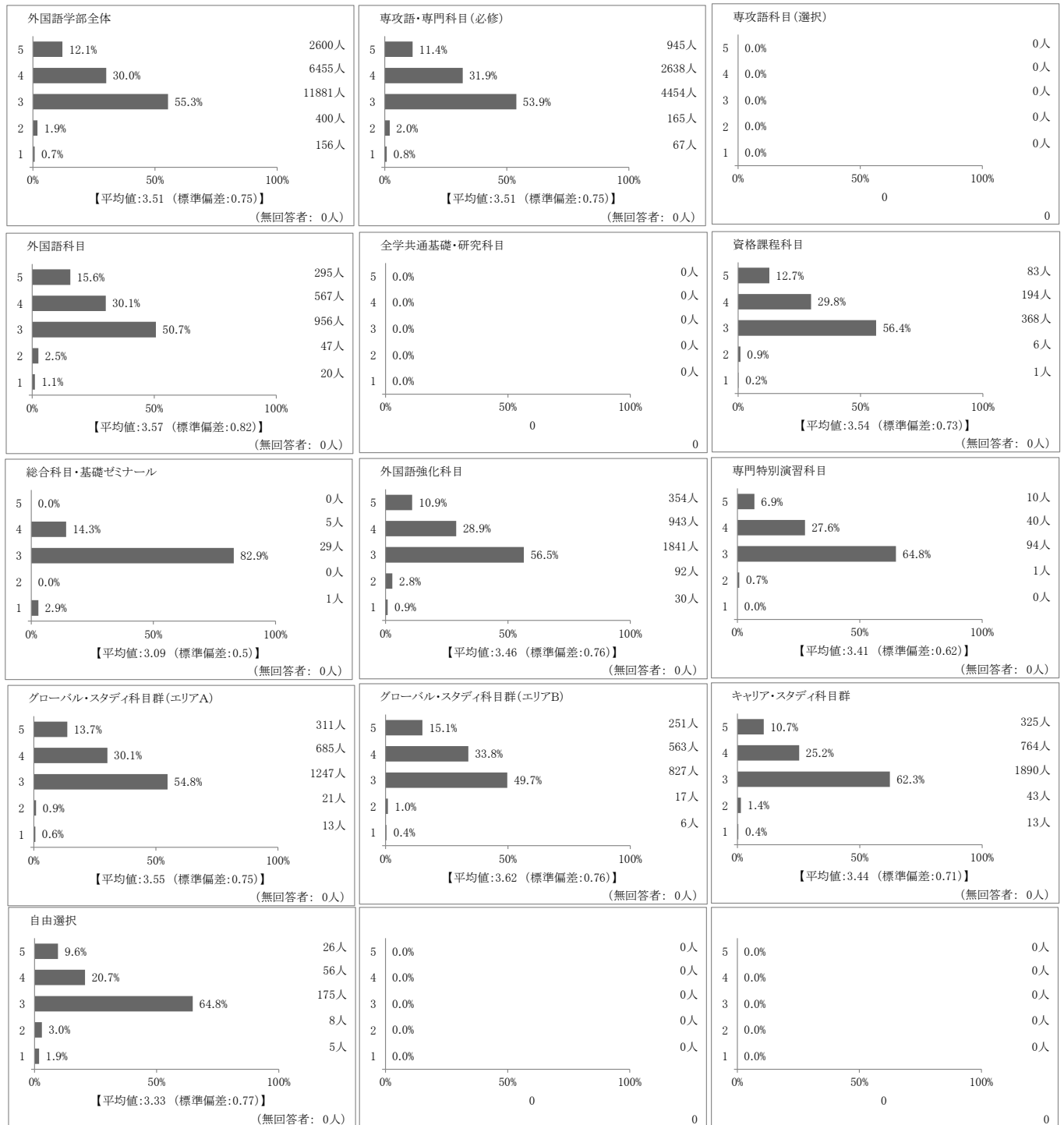
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q6.この授業は、新しい知識または技能の習得に役立ちましたか？



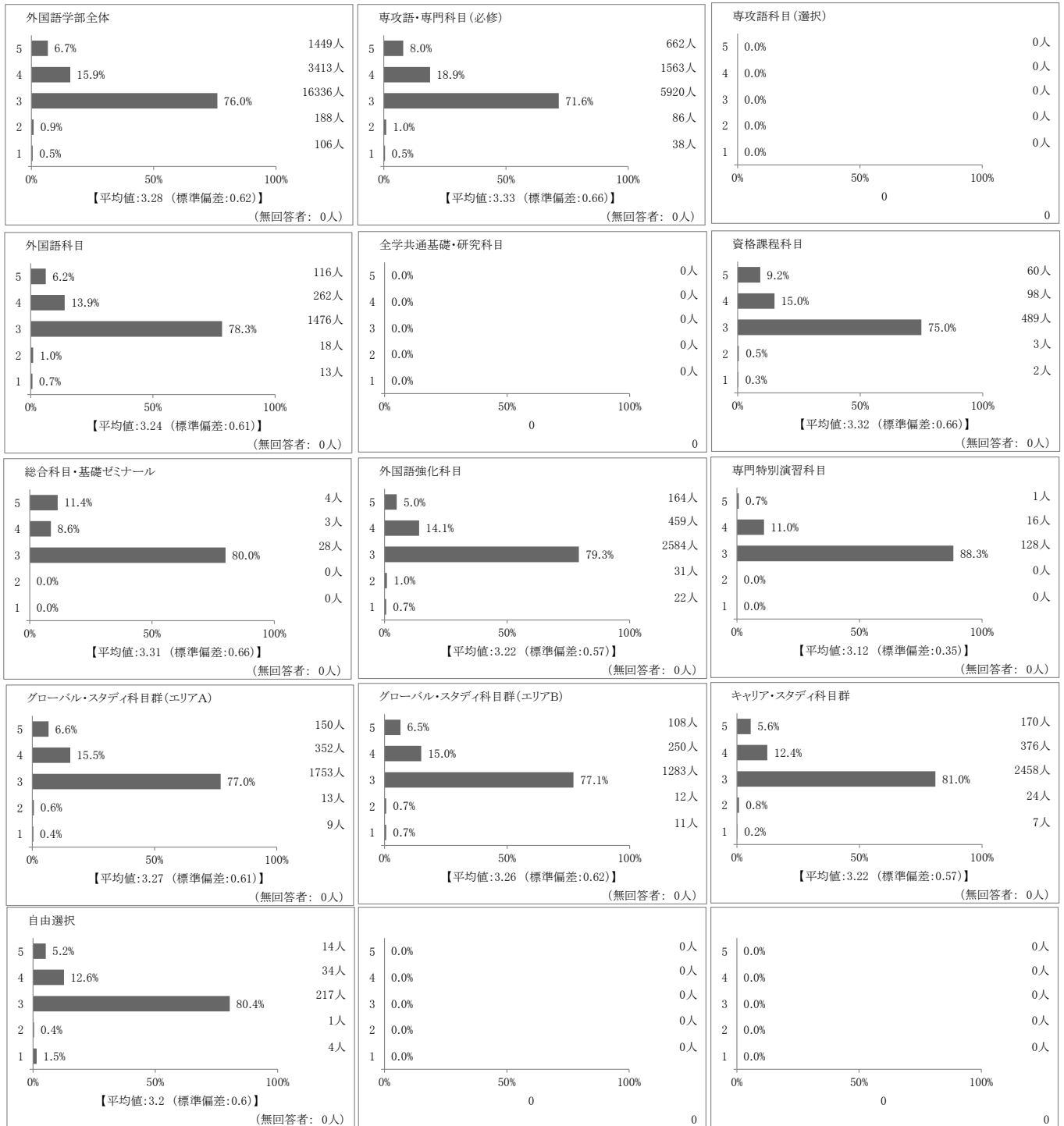
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q7.この授業の難易度は適切でしたか？



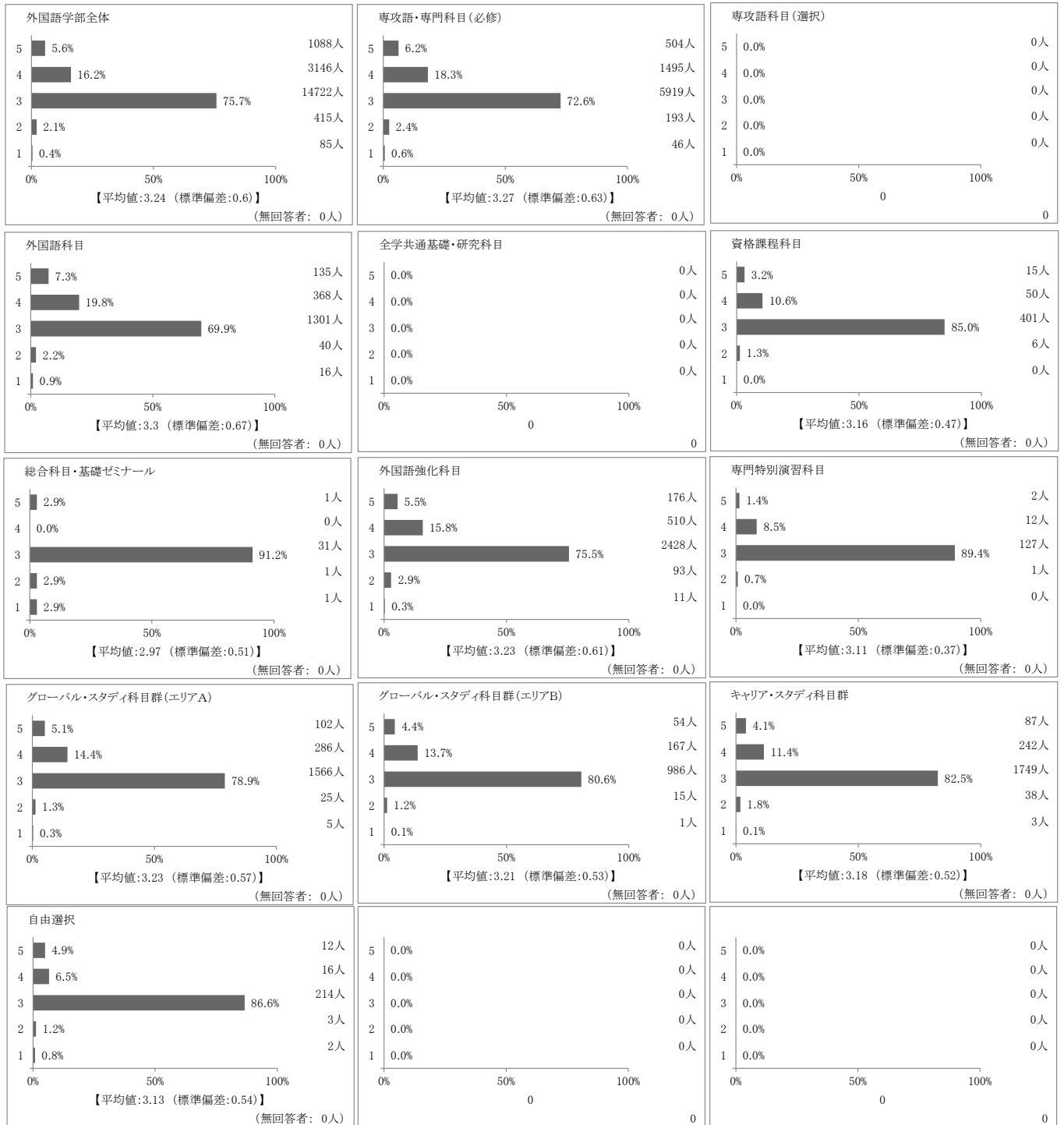
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q8.この授業の課題分量はあなたにとって適切でしたか？



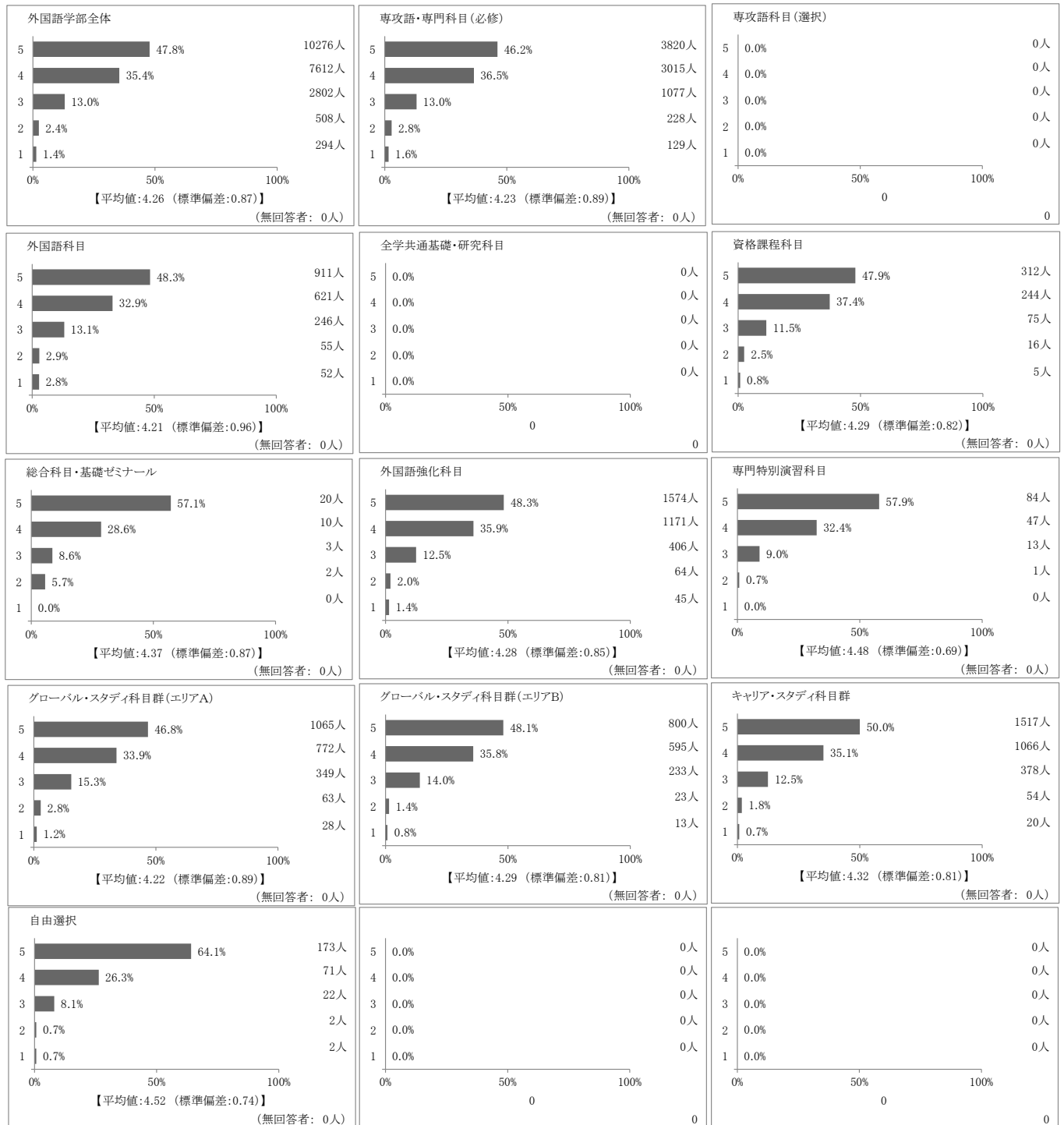
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q9.この授業の進度はあなたにとって適切でしたか？



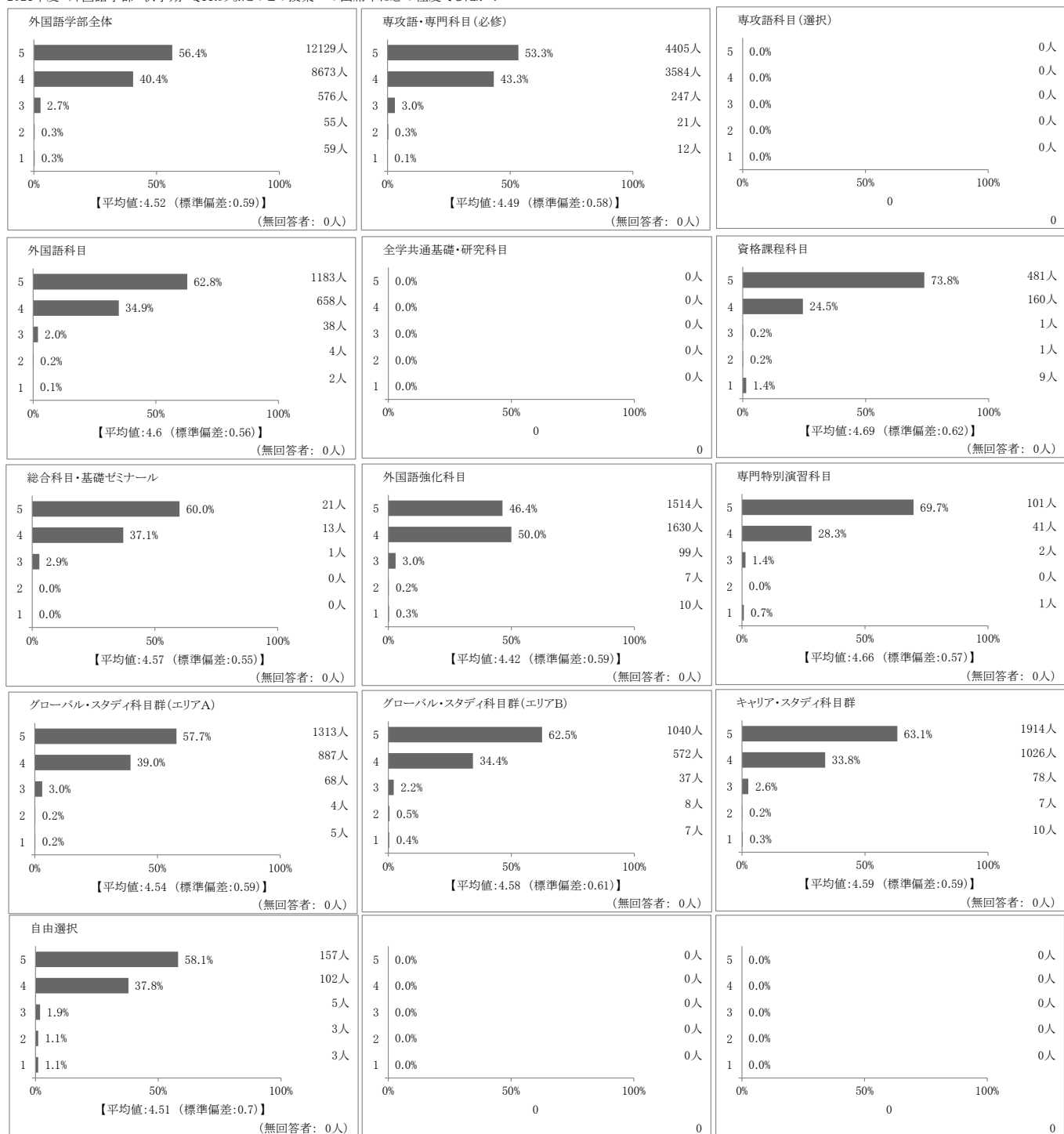
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q10.この授業に対するあなたの満足度はどのくらいですか？



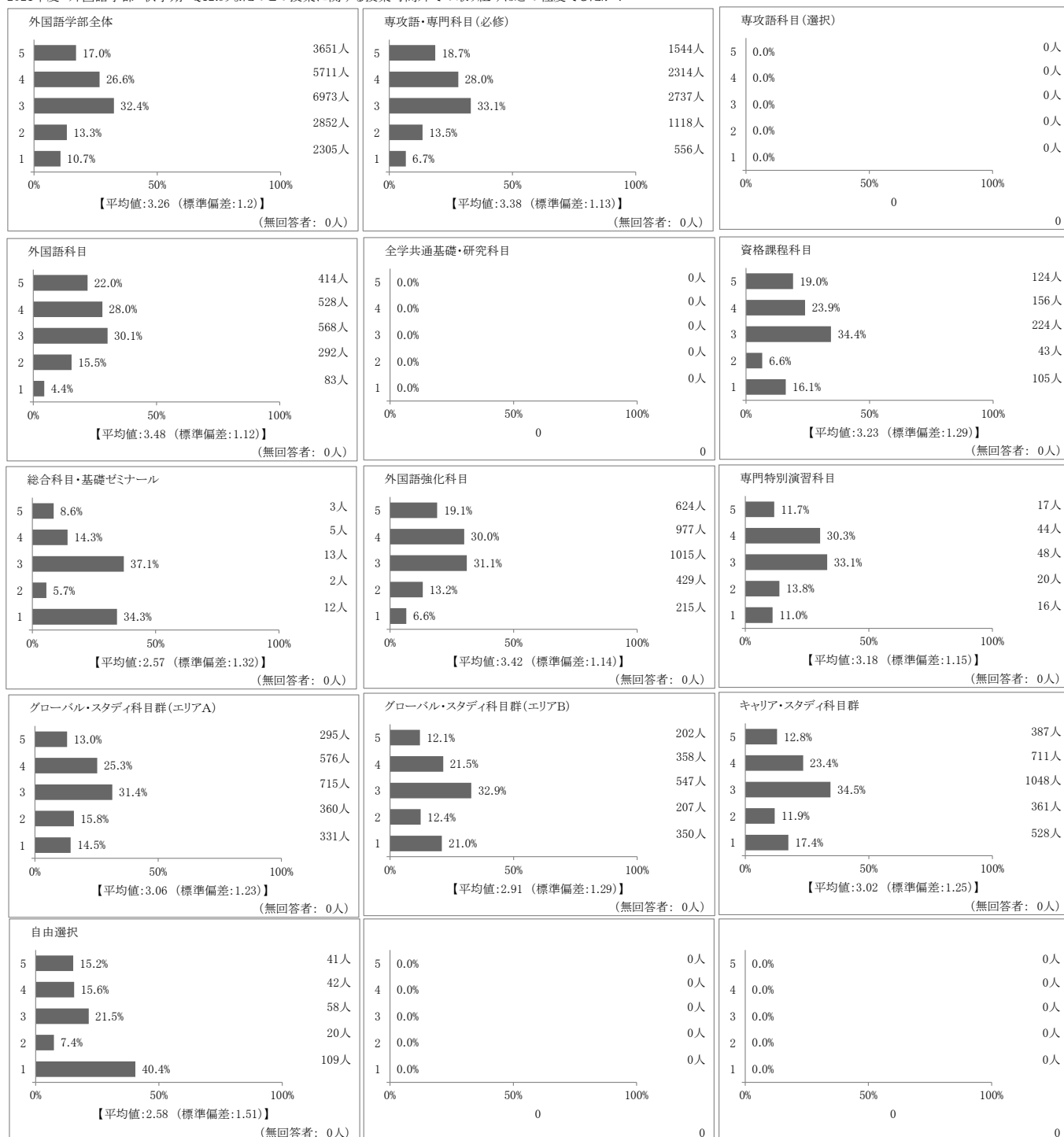
### 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q11.あなたのこの授業への出席率ほどの程度でしたか？



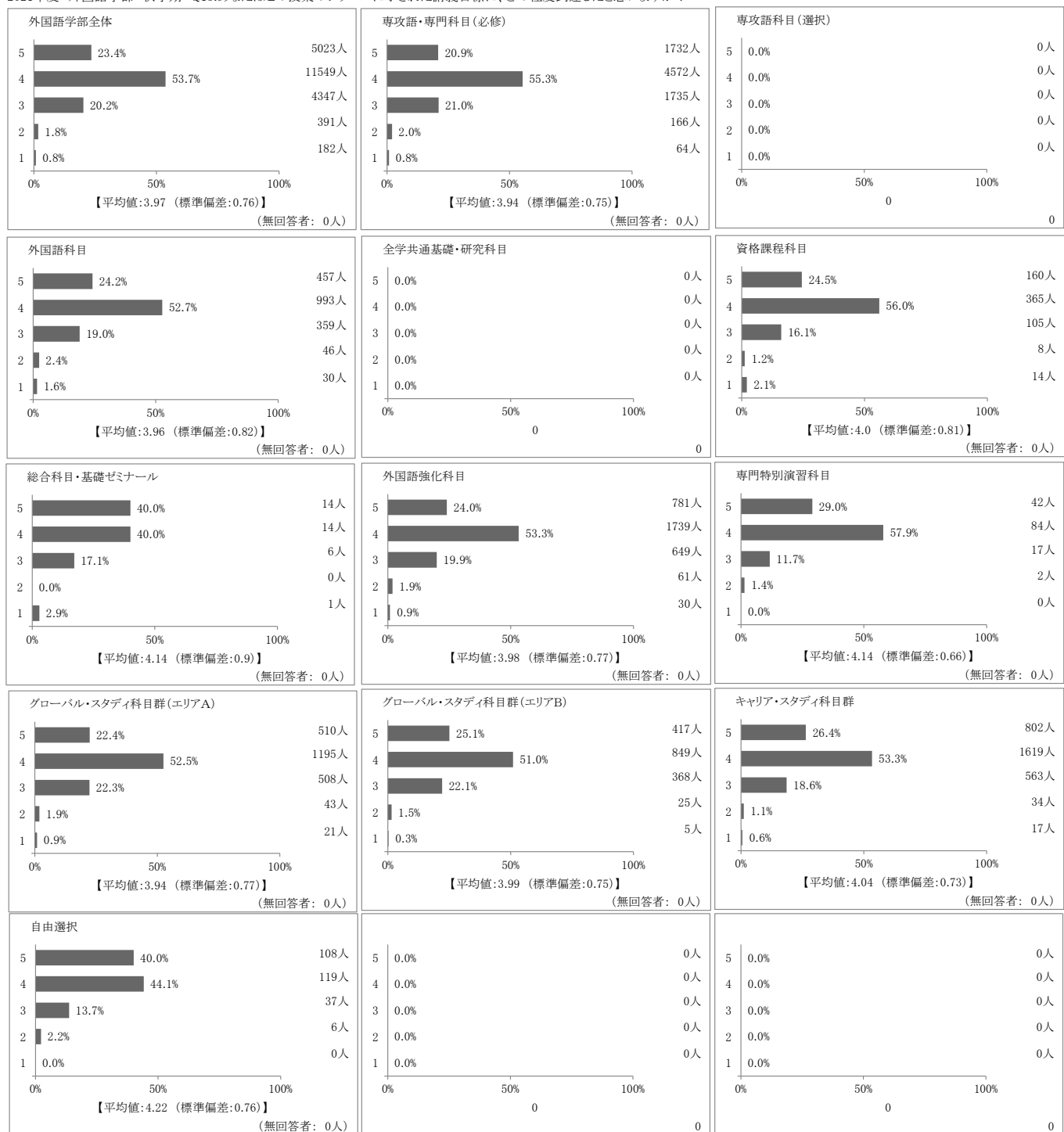
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q12.あなたのこの授業に関する授業時間外での取り組みはどの程度でしたか？



### 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q13.あなたはこの授業のシラバスに示された講義目標に、どの程度到達したと思いますか？



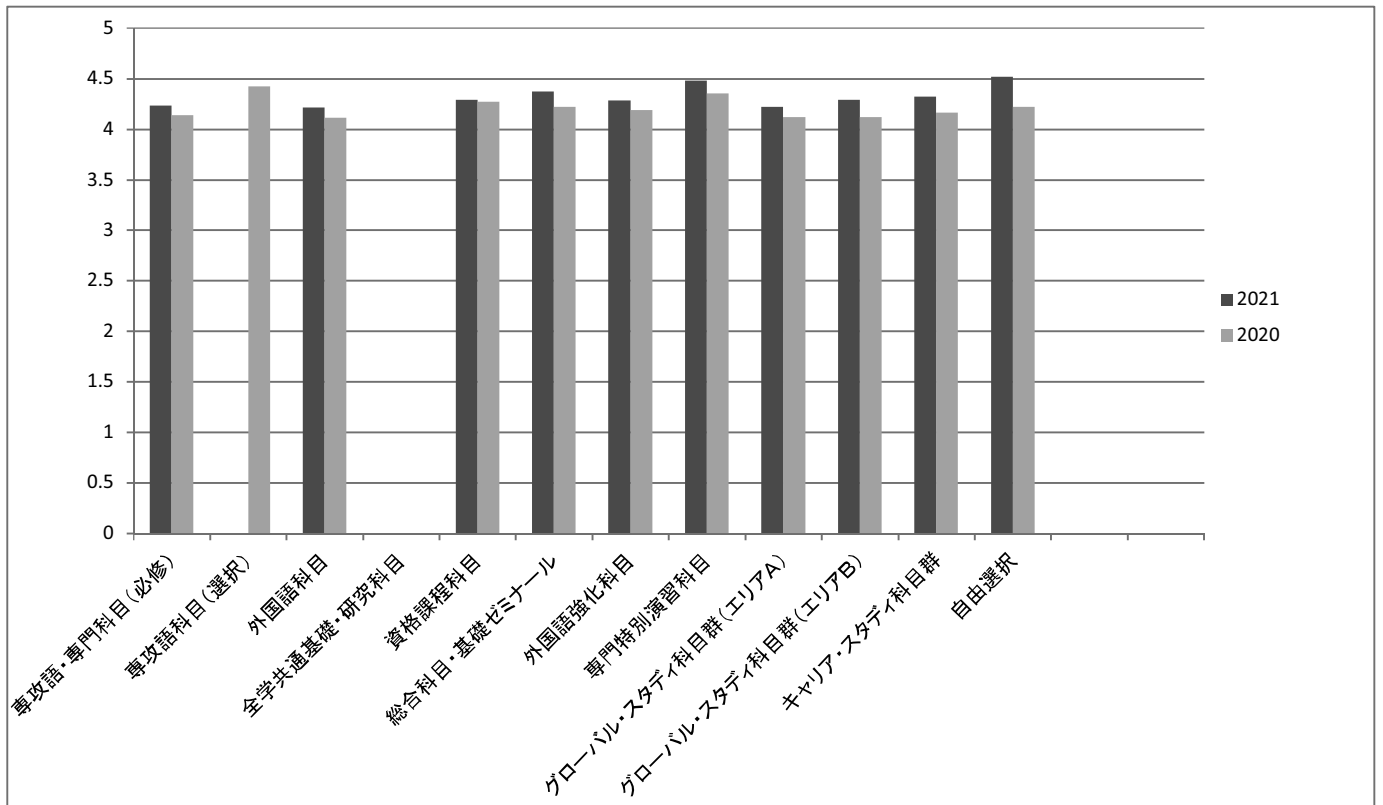
## 質問別アンケート結果

2021年度 外国語学部 秋学期 Q14.この授業で向上したと思われる能力を選択してください(2つまで)。

外国語学部全体			専攻語・専門科目(必修)			専攻語科目(選択)		
問題発見力・解決力	12.7%	5470人	問題発見力・解決力	12.3%	2037人	問題発見力・解決力		
思考力・判断力	19.8%	8503人	思考力・判断力	20.2%	3343人	思考力・判断力		
創造力・企画力	3.9%	1684人	創造力・企画力	3.9%	643人	創造力・企画力		
主体的に取り組む力	11.3%	4861人	主体的に取り組む力	11.5%	1896人	主体的に取り組む力		
計画力・実行力	2.4%	1053人	計画力・実行力	2.6%	433人	計画力・実行力		
情報収集力・分析力	7.3%	3126人	情報収集力・分析力	5.4%	893人	情報収集力・分析力		
プレゼンテーション力	3.4%	1450人	プレゼンテーション力	4.8%	798人	プレゼンテーション力		
コミュニケーション力	4.9%	2094人	コミュニケーション力	7.0%	1155人	コミュニケーション力		
多文化共生力	2.9%	1259人	多文化共生力	1.7%	280人	多文化共生力		
外国語科目			全学共通基礎・研究科目			資格課程科目		
問題発見力・解決力	11.7%	441人	問題発見力・解決力			問題発見力・解決力	12.3%	161人
思考力・判断力	20.1%	758人	思考力・判断力			思考力・判断力	18.9%	246人
創造力・企画力	1.6%	62人	創造力・企画力			創造力・企画力	5.4%	70人
主体的に取り組む力	14.3%	538人	主体的に取り組む力			主体的に取り組む力	11.0%	144人
計画力・実行力	1.7%	65人	計画力・実行力			計画力・実行力	3.5%	45人
情報収集力・分析力	2.8%	105人	情報収集力・分析力			情報収集力・分析力	10.3%	134人
プレゼンテーション力	2.3%	87人	プレゼンテーション力			プレゼンテーション力	3.9%	51人
コミュニケーション力	10.4%	392人	コミュニケーション力			コミュニケーション力	2.0%	26人
多文化共生力	6.2%	234人	多文化共生力			多文化共生力	1.2%	16人
総合科目・基礎ゼミナール			外国語強化科目			専門特別演習科目		
問題発見力・解決力	12.9%	9人	問題発見力・解決力	14.3%	934人	問題発見力・解決力	6.2%	18人
思考力・判断力	7.1%	5人	思考力・判断力	20.7%	1351人	思考力・判断力	16.9%	49人
創造力・企画力	2.9%	2人	創造力・企画力	2.9%	187人	創造力・企画力	5.2%	15人
主体的に取り組む力	10.0%	7人	主体的に取り組む力	13.4%	871人	主体的に取り組む力	11.4%	33人
計画力・実行力	1.4%	1人	計画力・実行力	2.5%	166人	計画力・実行力	4.5%	13人
情報収集力・分析力	10.0%	7人	情報収集力・分析力	5.2%	337人	情報収集力・分析力	7.6%	22人
プレゼンテーション力	17.1%	12人	プレゼンテーション力	1.9%	123人	プレゼンテーション力	3.8%	11人
コミュニケーション力	2.9%	2人	コミュニケーション力	4.9%	322人	コミュニケーション力	3.1%	9人
多文化共生力	0.0%	0人	多文化共生力	1.8%	118人	多文化共生力	4.8%	14人
グローバル・スタディ科目群(エリアA)			グローバル・スタディ科目群(エリアB)			キャリア・スタディ科目群		
問題発見力・解決力	11.1%	506人	問題発見力・解決力	12.7%	423人	問題発見力・解決力	14.9%	903人
思考力・判断力	17.7%	805人	思考力・判断力	20.3%	676人	思考力・判断力	19.9%	1206人
創造力・企画力	4.2%	190人	創造力・企画力	4.0%	133人	創造力・企画力	6.0%	362人
主体的に取り組む力	9.4%	427人	主体的に取り組む力	9.2%	305人	主体的に取り組む力	8.7%	530人
計画力・実行力	2.6%	118人	計画力・実行力	1.7%	56人	計画力・実行力	2.2%	131人
情報収集力・分析力	11.0%	501人	情報収集力・分析力	12.4%	413人	情報収集力・分析力	11.1%	673人
プレゼンテーション力	4.0%	182人	プレゼンテーション力	1.5%	51人	プレゼンテーション力	1.9%	114人
コミュニケーション力	0.8%	36人	コミュニケーション力	0.8%	28人	コミュニケーション力	1.1%	67人
多文化共生力	5.8%	263人	多文化共生力	6.6%	220人	多文化共生力	1.8%	109人
自由選択								
問題発見力・解決力	7.0%	38人						
思考力・判断力	11.9%	64人						
創造力・企画力	3.7%	20人						
主体的に取り組む力	20.4%	110人						
計画力・実行力	4.6%	25人						
情報収集力・分析力	7.6%	41人						
プレゼンテーション力	3.9%	21人						
コミュニケーション力	10.6%	57人						
多文化共生力	0.9%	5人						

## 満足度アンケート前年度比較

〈外国語学部 秋学期〉



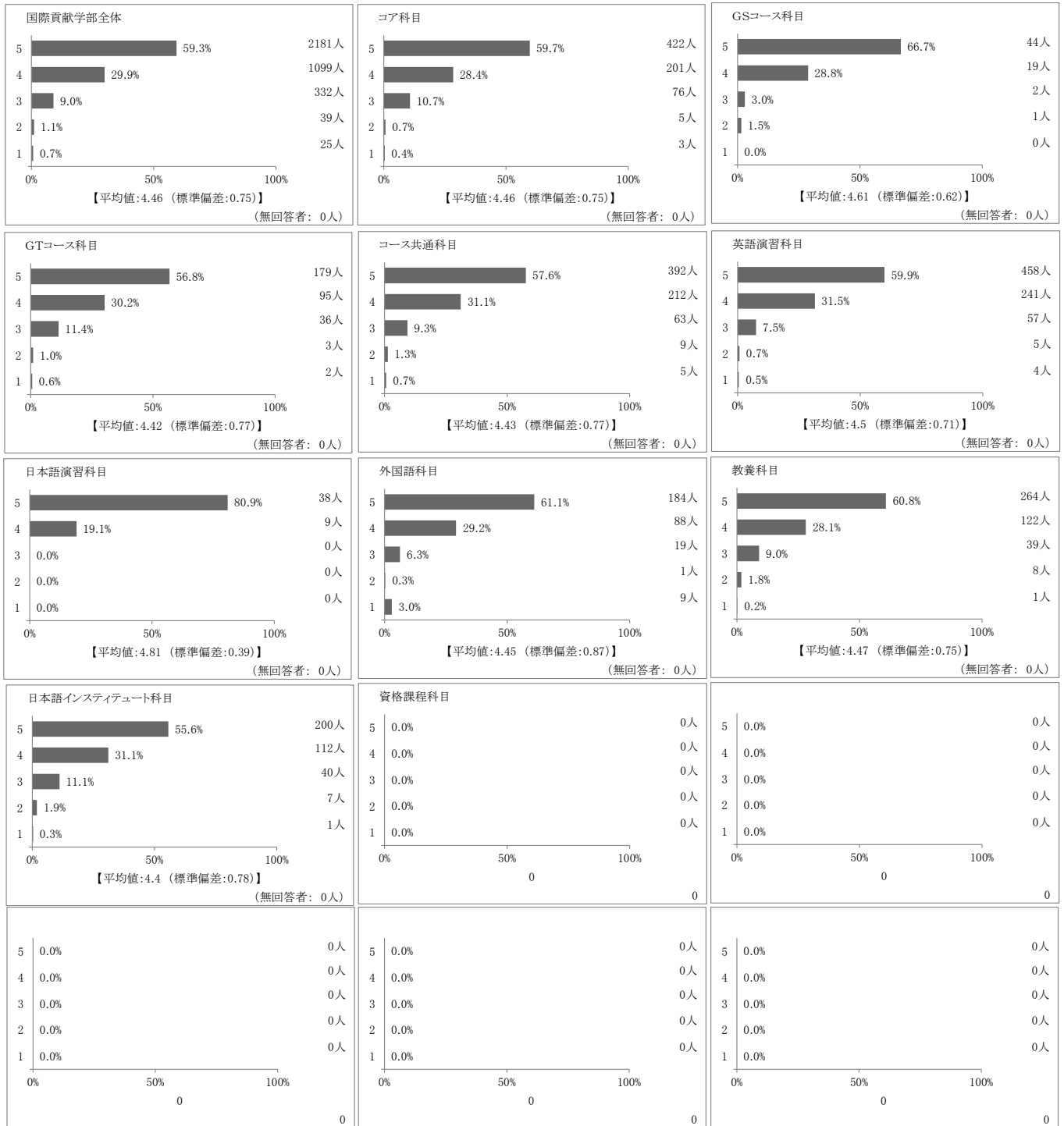
## 分野別アンケート結果

<2021年度 国際貢献学部 秋学期>

授業科目区分	科目数	受講者	回答者	回答率(%)
コア科目	17	1064	707	66.4
GSコース科目	11	239	66	27.6
GTコース科目	24	609	315	51.7
コース共通科目	34	1172	681	58.1
英語演習科目	31	1037	765	73.8
日本語演習科目	5	59	47	79.7
外国語科目	11	434	301	69.4
教養科目	16	1007	434	43.1
日本語インスティテュート科目	5	821	360	43.8
資格課程科目				
	154	6442	3676	57.1

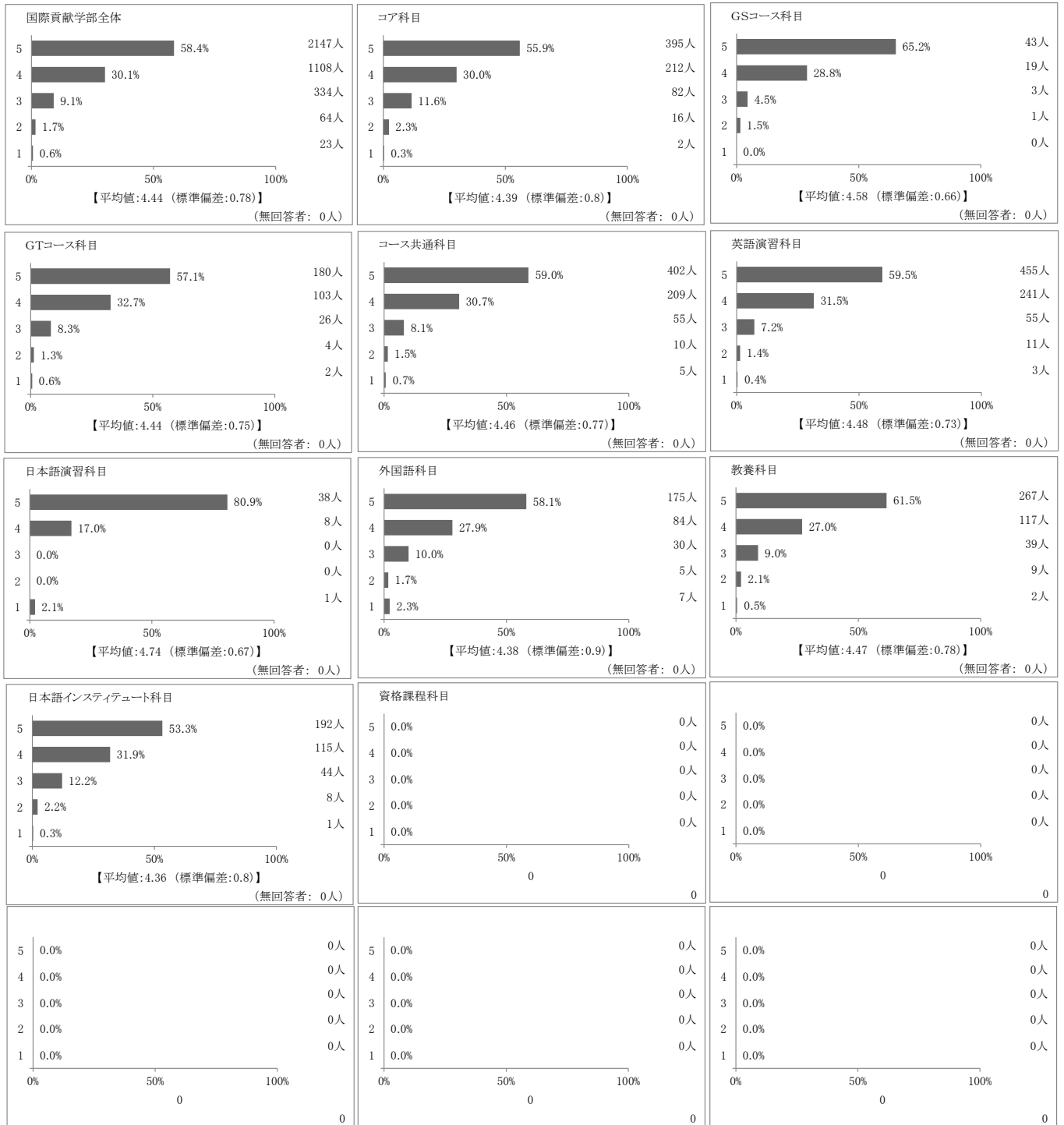
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q1.この授業の「シラバス」に示された講義目標は、理解できましたか？



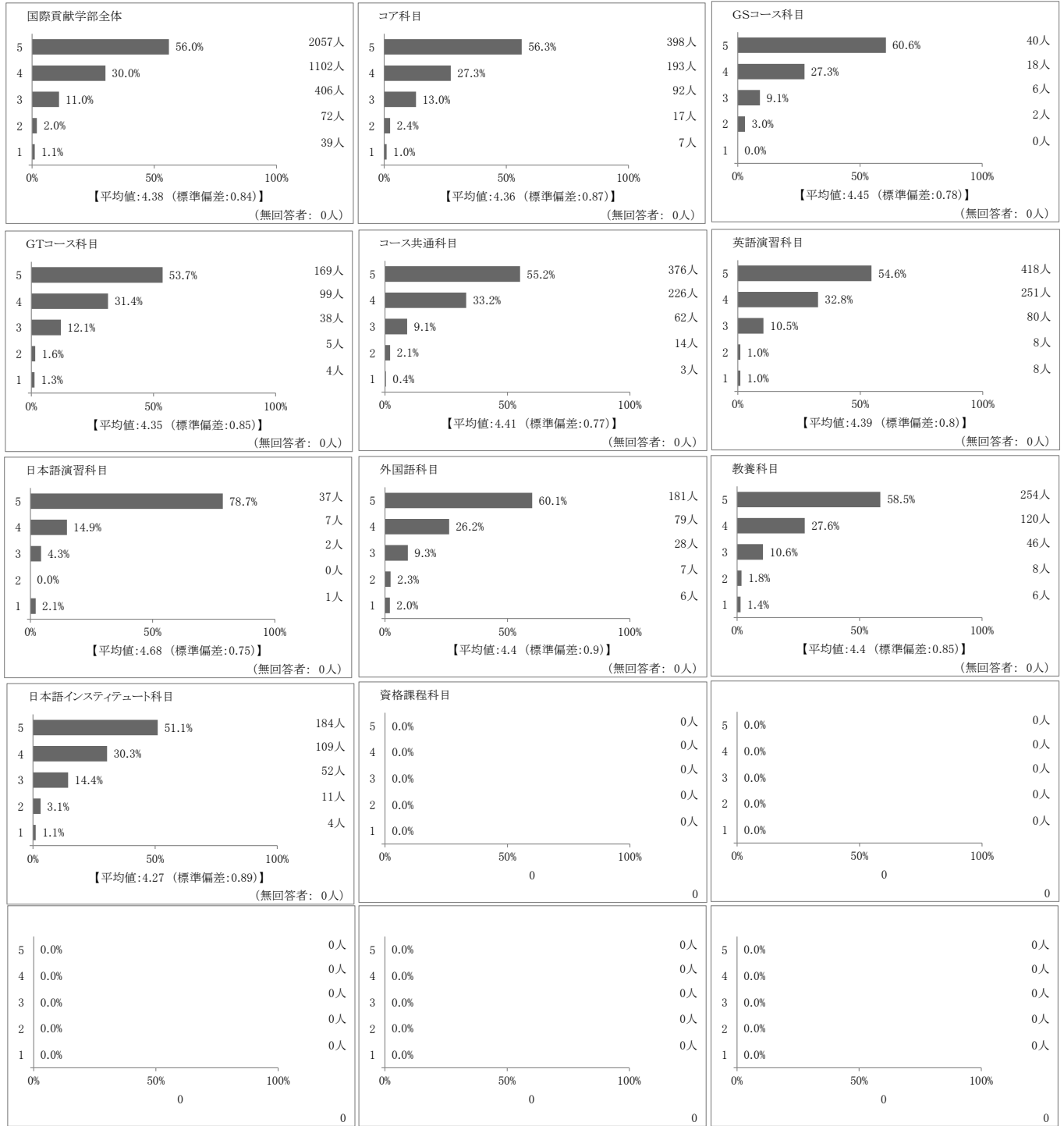
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q2.この授業の評価方法は理解できましたか？



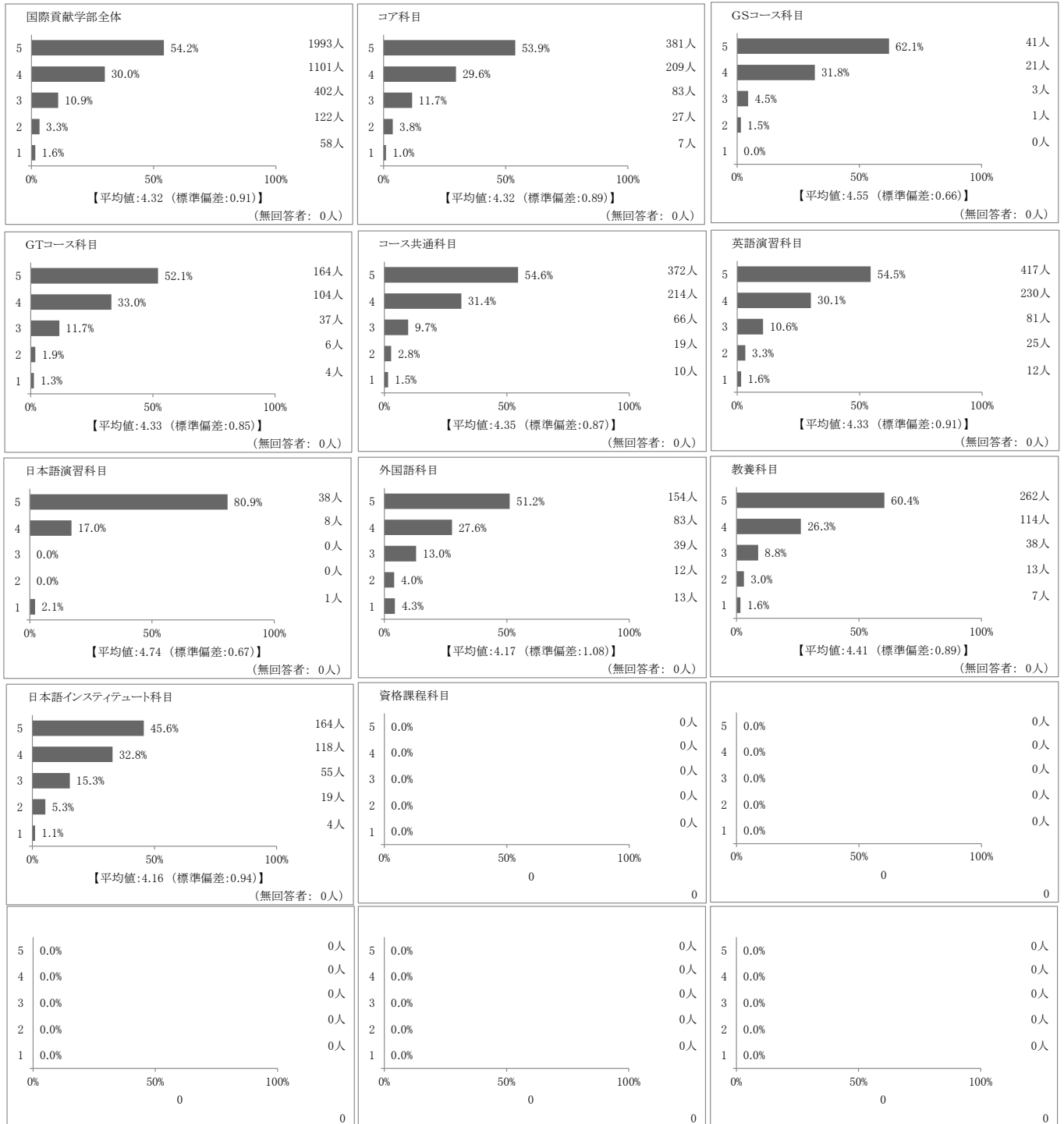
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q3.この授業で用いられた教材は、授業の理解に役立ちましたか？



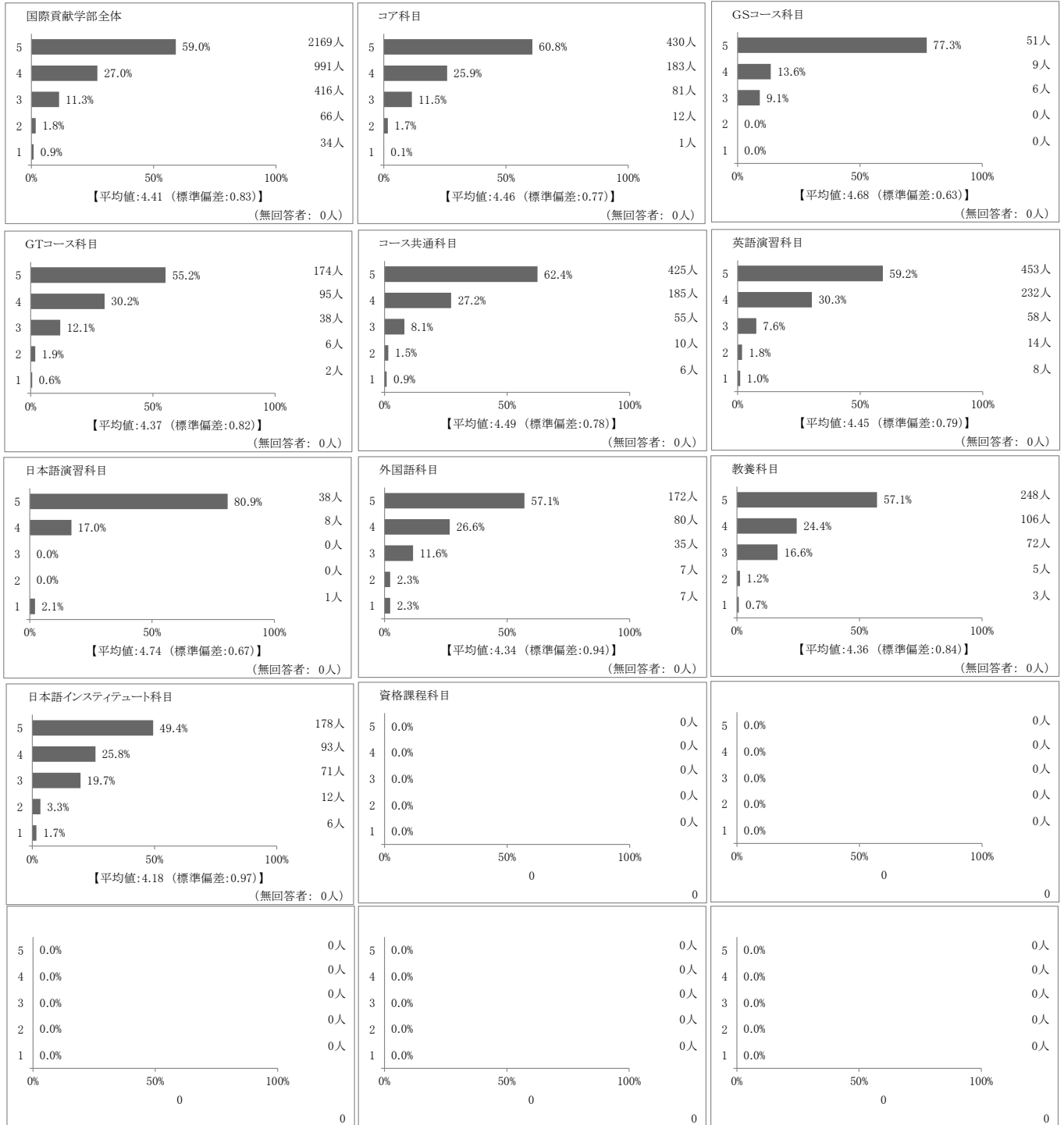
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q4.教員の説明はわかりやすいものでしたか？



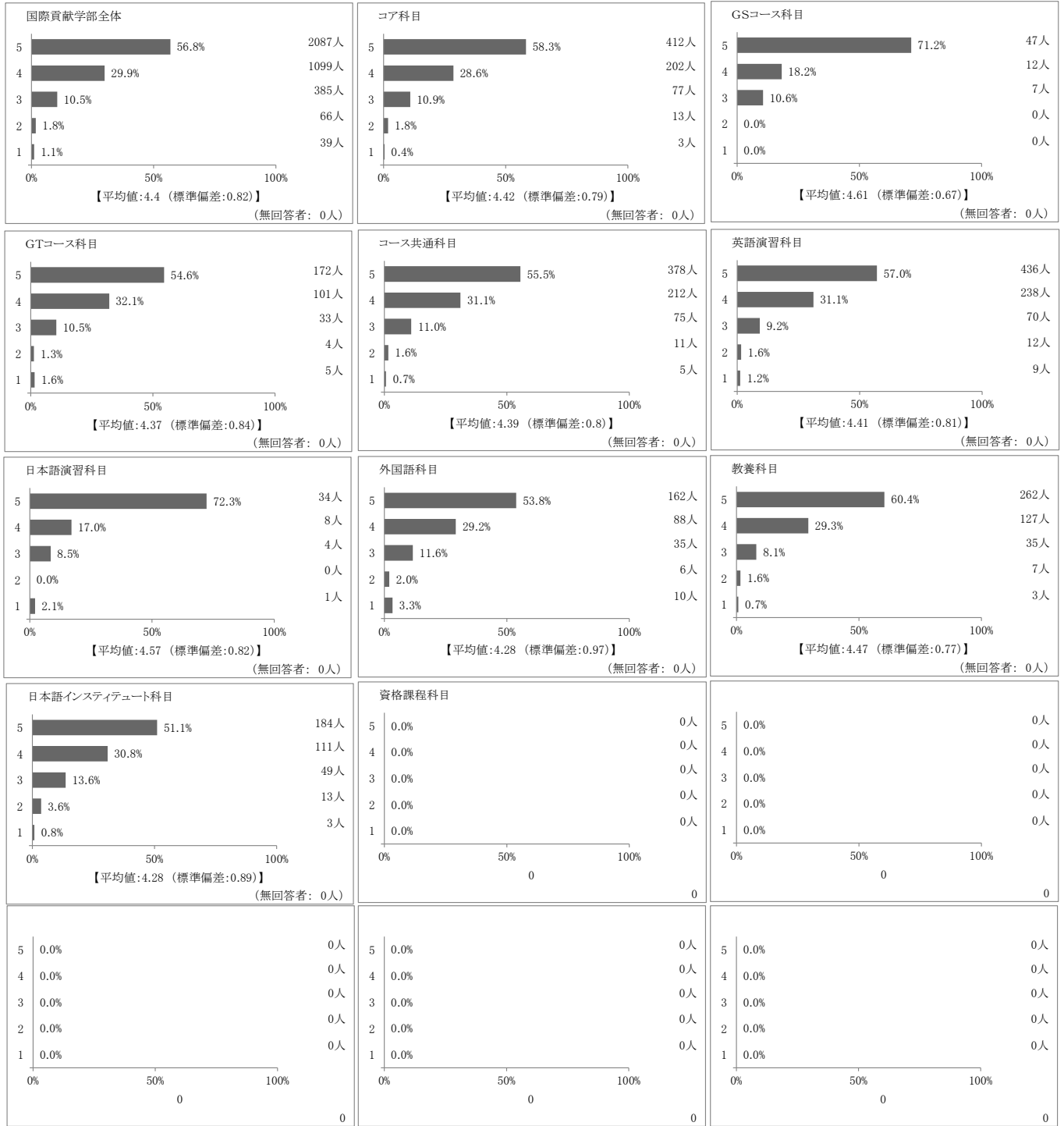
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q5.学生の質問に対する教員の対応は適切でしたか？



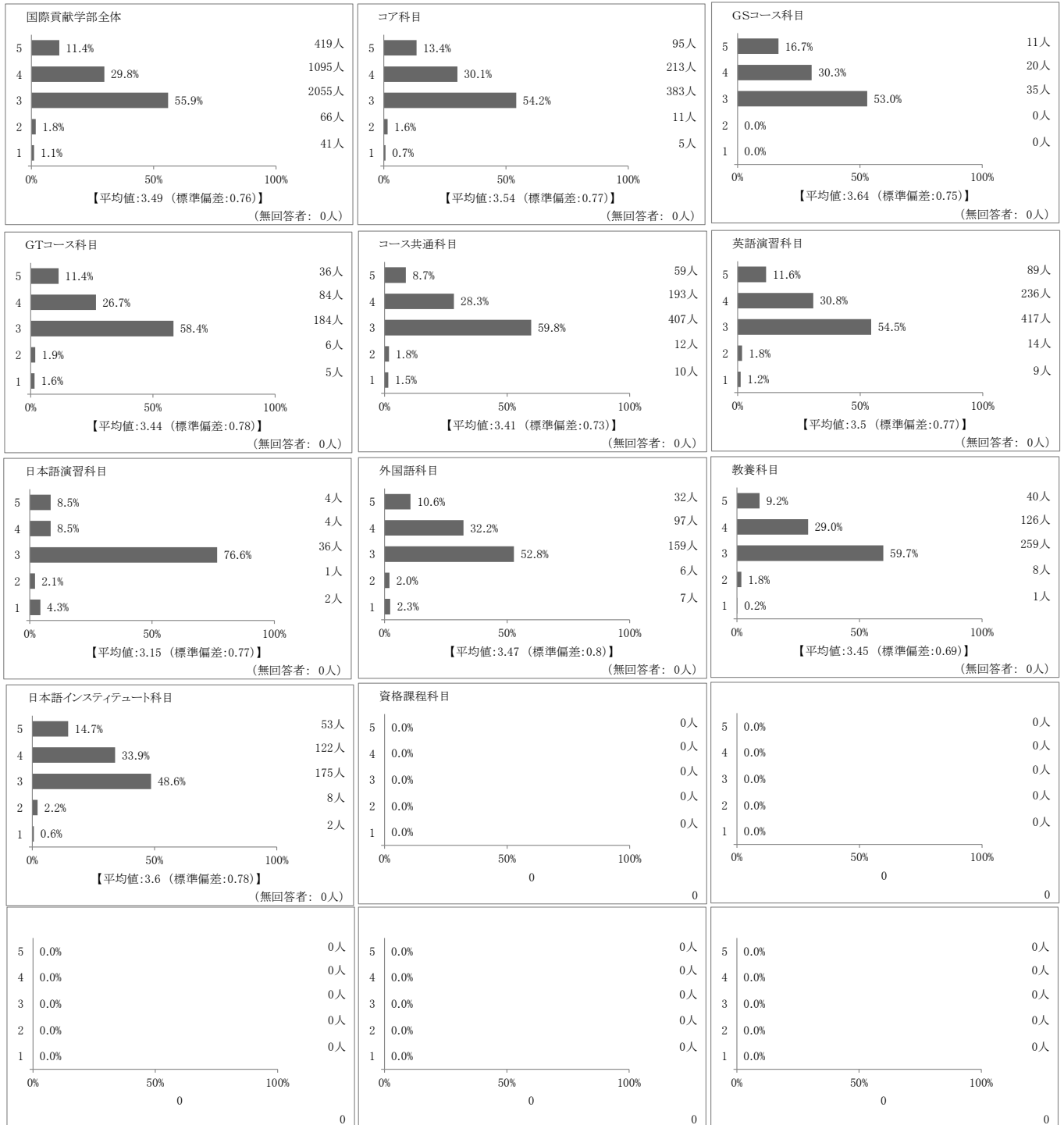
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q6.この授業は、新しい知識または技能の習得に役立ちましたか？



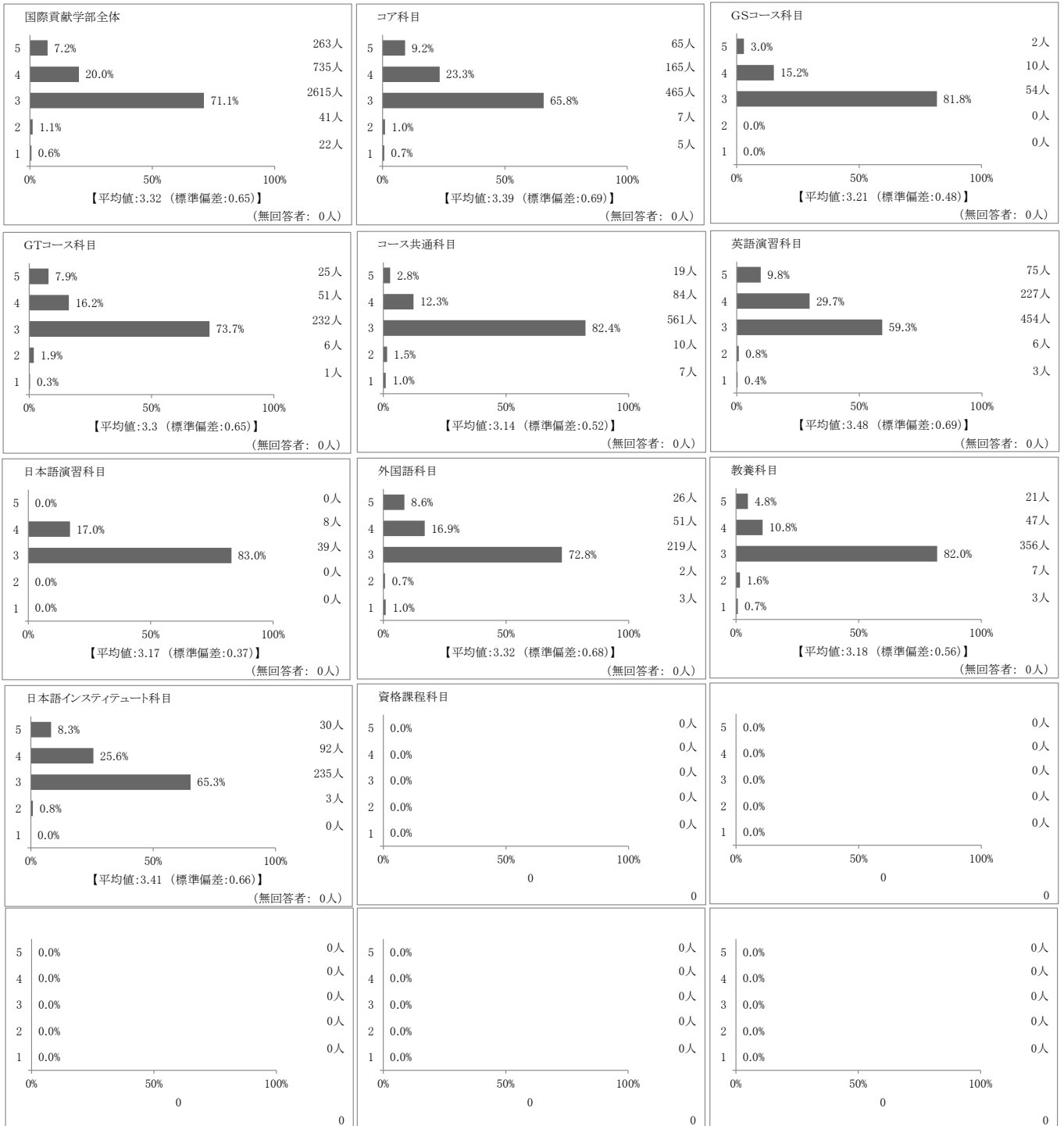
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q7.この授業の難易度は適切でしたか？



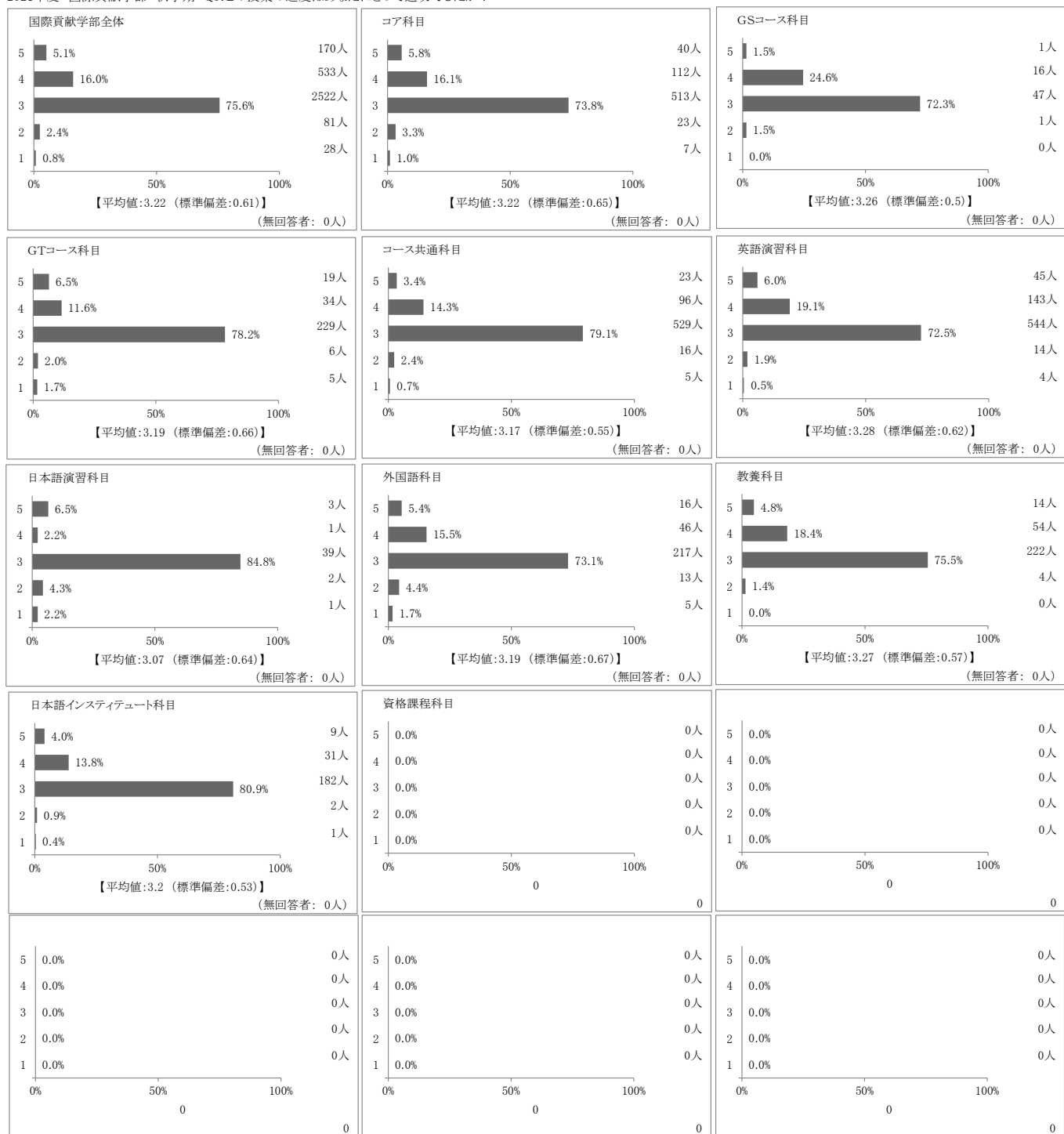
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q8.この授業の課題分量はあなたにとって適切でしたか？



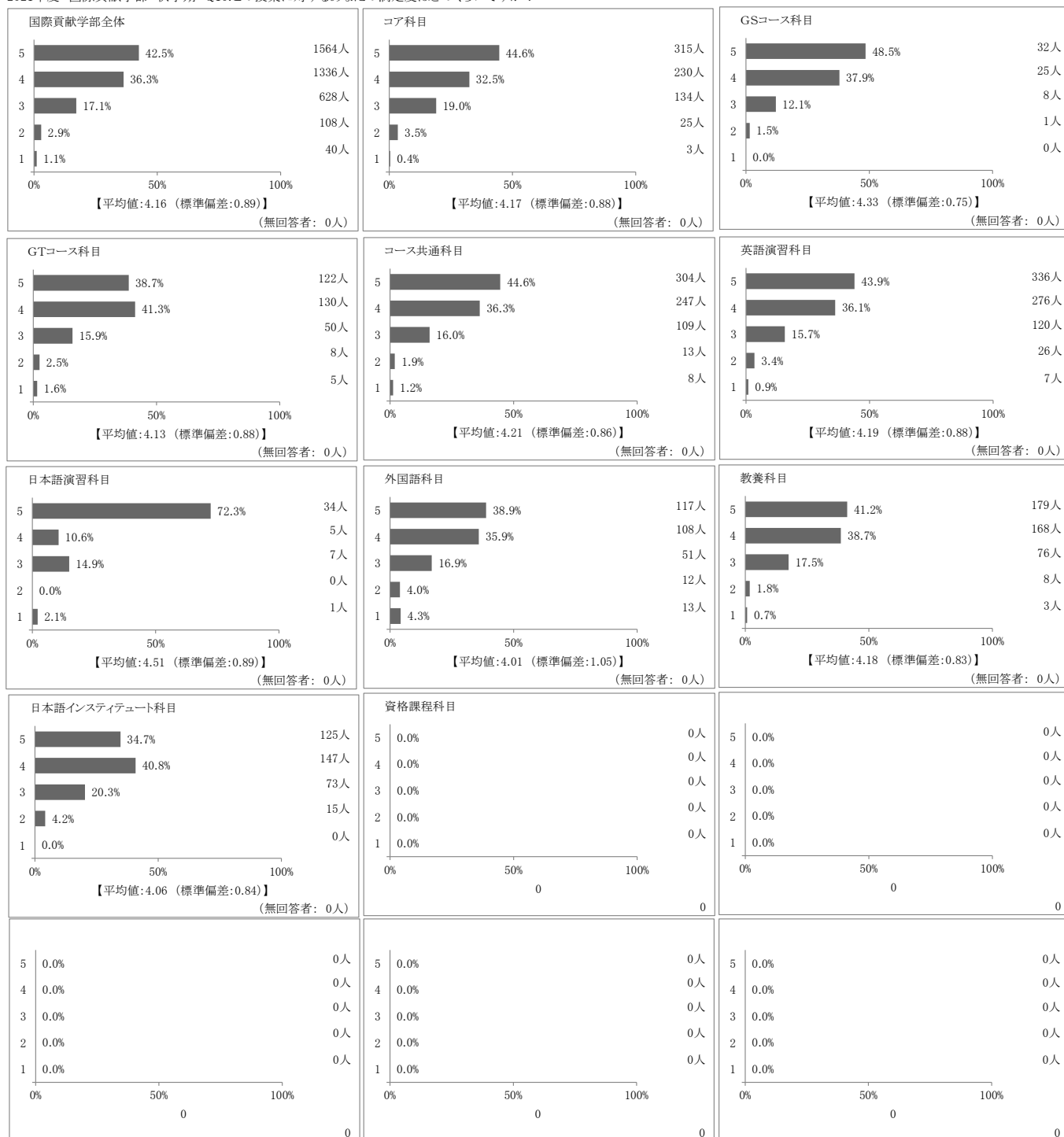
### 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q9.この授業の進度はあなたにとって適切でしたか？



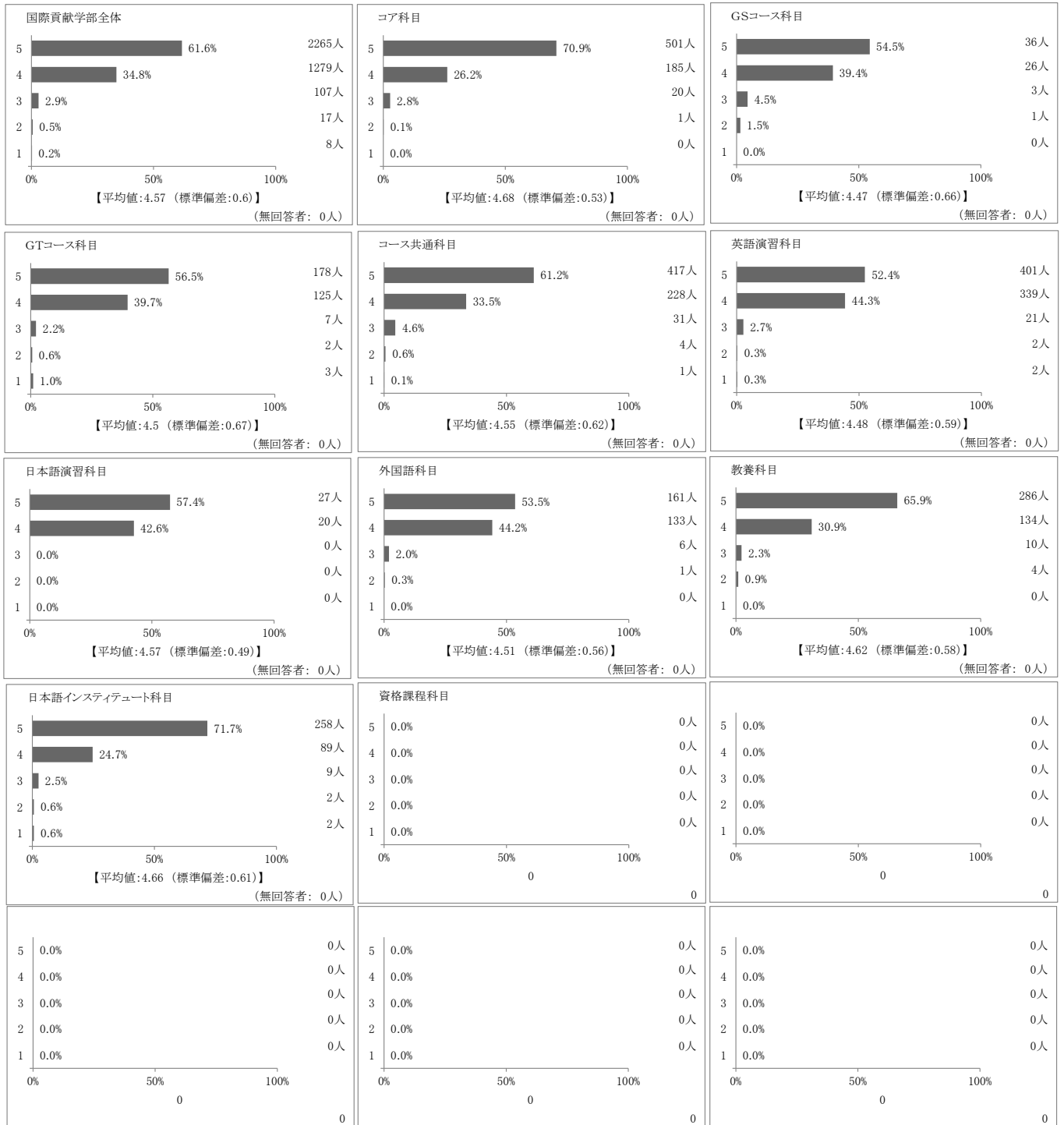
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q10.この授業に対するあなたの満足度はどのくらいですか？



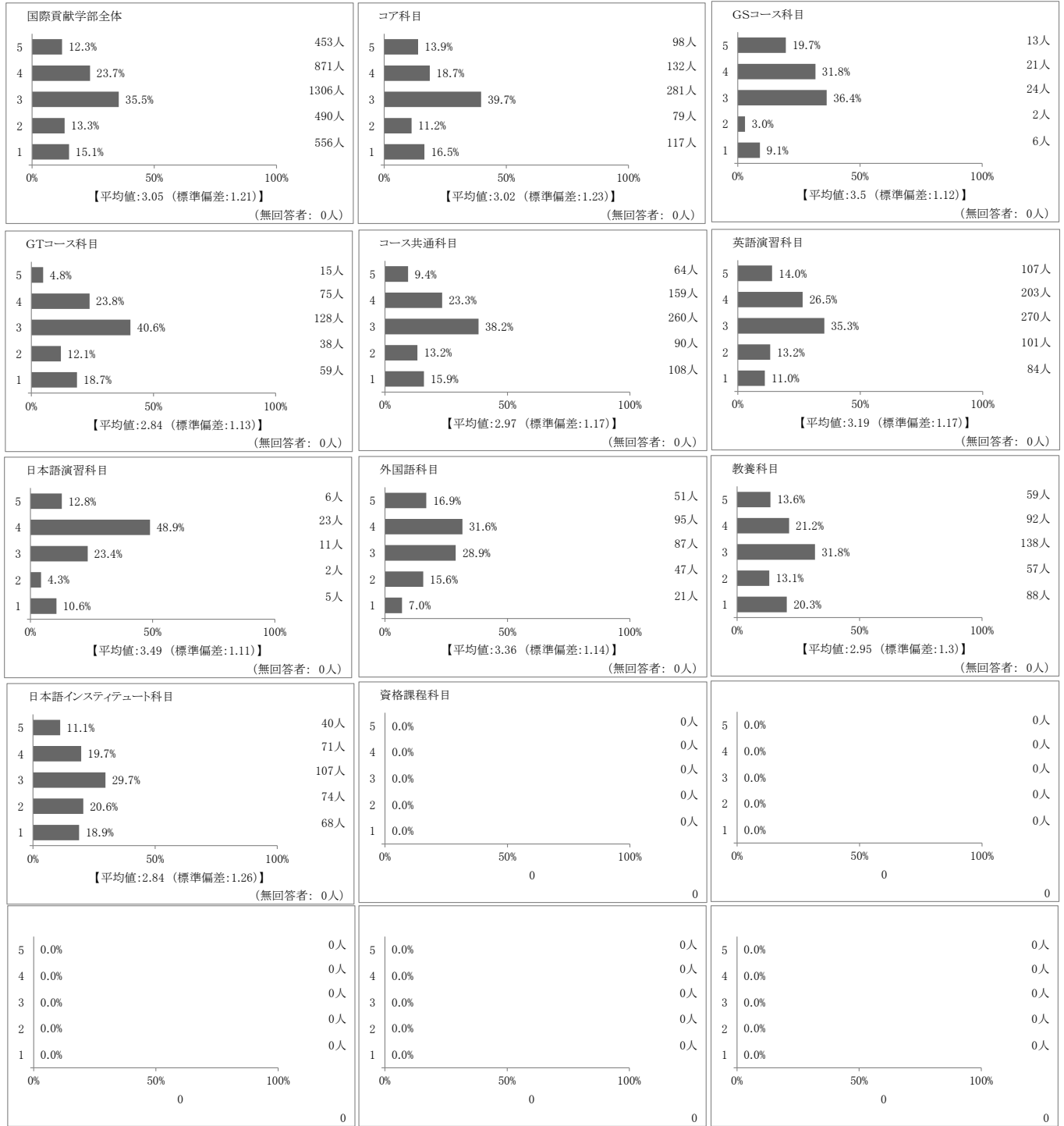
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q11.あなたのこの授業への出席率ほどの程度でしたか？



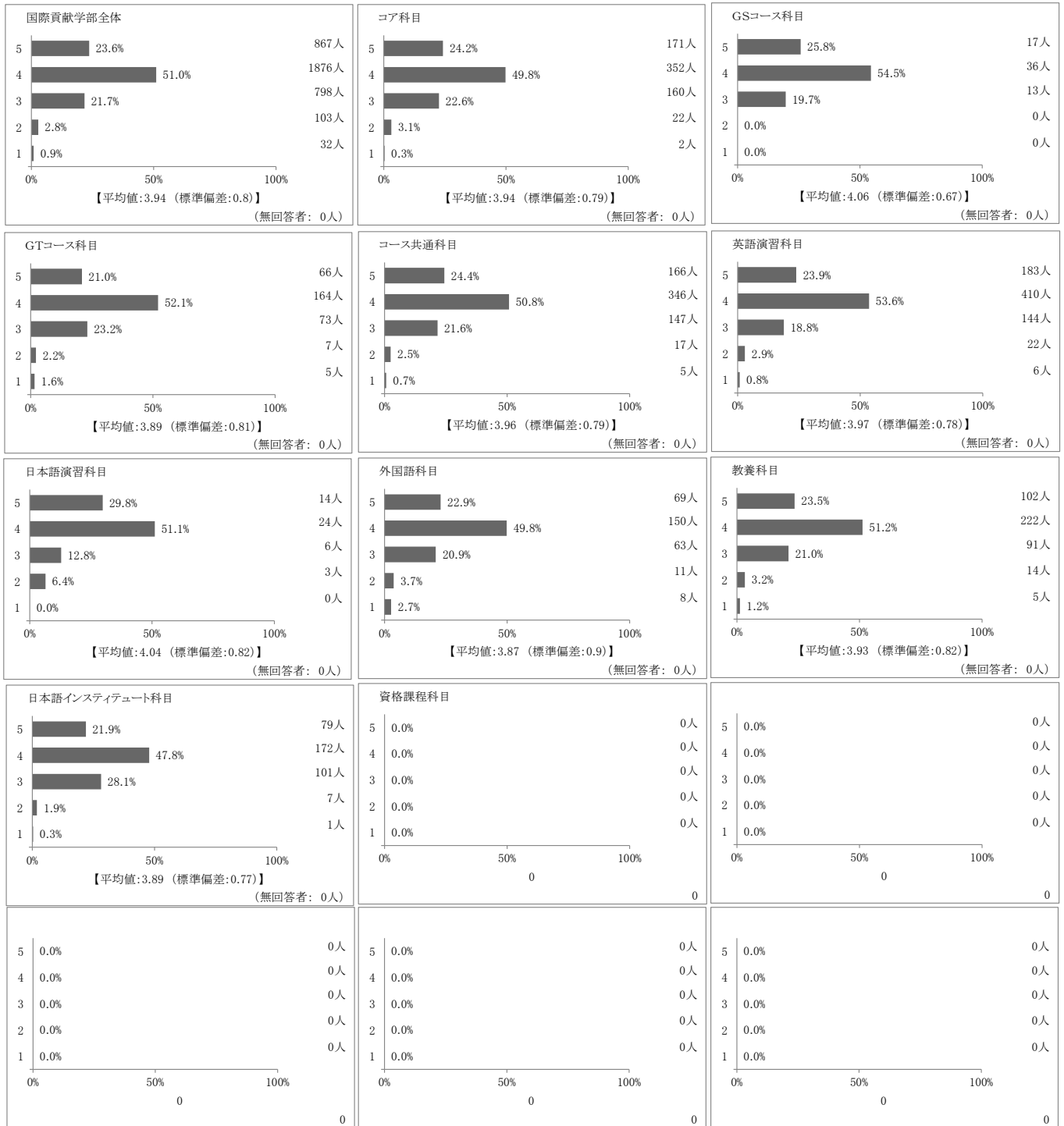
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q12.あなたのこの授業に関する授業時間外での取り組みほどの程度でしたか？



## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q13.あなたはこの授業のシラバスに示された講義目標に、どの程度到達したと思いますか？



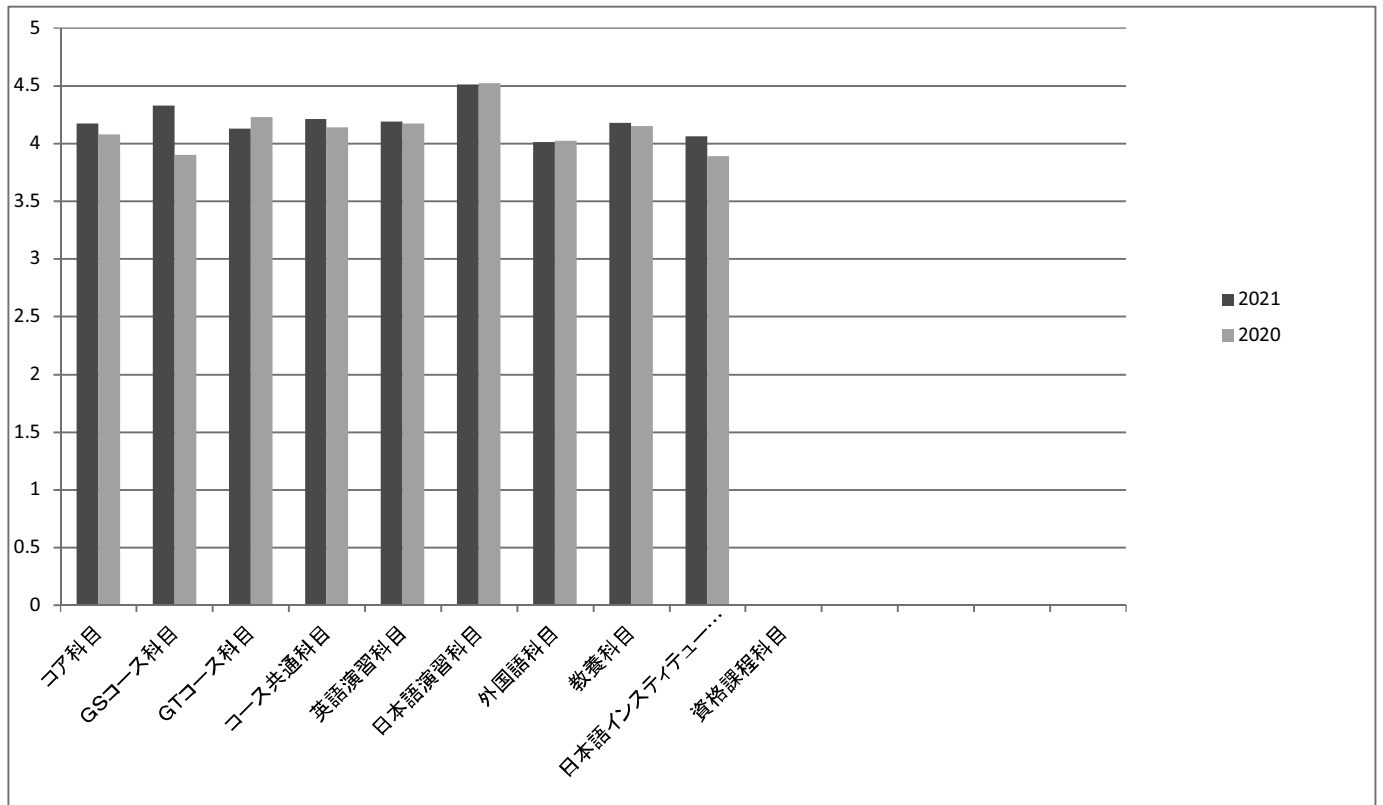
## 質問別アンケート結果

2021年度 国際貢献学部 秋学期 Q14.この授業で向上したと思われる能力を選択してください(2つまで)。

国際貢献学部全体			コア科目			GSコース科目		
問題発見力・解決力	10.6%	781人	問題発見力・解決力	10.7%	151人	問題発見力・解決力	11.4%	15人
思考力・判断力	16.1%	1187人	思考力・判断力	17.0%	240人	思考力・判断力	12.1%	16人
創造力・企画力	5.1%	375人	創造力・企画力	4.5%	64人	創造力・企画力	2.3%	3人
主体的に取り組む力	9.1%	667人	主体的に取り組む力	7.4%	105人	主体的に取り組む力	8.3%	11人
計画力・実行力	2.6%	192人	計画力・実行力	2.2%	31人	計画力・実行力	0.8%	1人
情報収集力・分析力	9.9%	726人	情報収集力・分析力	11.5%	162人	情報収集力・分析力	10.6%	14人
プレゼンテーション力	3.8%	280人	プレゼンテーション力	2.8%	40人	プレゼンテーション力	7.6%	10人
コミュニケーション力	3.3%	246人	コミュニケーション力	2.5%	36人	コミュニケーション力	1.5%	2人
多文化共生力	3.1%	225人	多文化共生力	3.7%	52人	多文化共生力	1.5%	2人
GTコース科目			コース共通科目			英語演習科目		
問題発見力・解決力	7.8%	49人	問題発見力・解決力	12.0%	164人	問題発見力・解決力	5.7%	87人
思考力・判断力	13.3%	84人	思考力・判断力	15.3%	208人	思考力・判断力	12.9%	197人
創造力・企画力	7.5%	47人	創造力・企画力	4.0%	55人	創造力・企画力	7.6%	116人
主体的に取り組む力	8.6%	54人	主体的に取り組む力	7.0%	96人	主体的に取り組む力	10.5%	160人
計画力・実行力	2.5%	16人	計画力・実行力	2.5%	34人	計画力・実行力	3.9%	59人
情報収集力・分析力	8.6%	54人	情報収集力・分析力	12.3%	167人	情報収集力・分析力	5.9%	90人
プレゼンテーション力	3.8%	24人	プレゼンテーション力	3.7%	51人	プレゼンテーション力	8.4%	128人
コミュニケーション力	4.3%	27人	コミュニケーション力	2.1%	29人	コミュニケーション力	7.6%	117人
多文化共生力	1.6%	10人	多文化共生力	2.9%	40人	多文化共生力	2.1%	32人
日本語演習科目			外国語科目			教養科目		
問題発見力・解決力	1.1%	1人	問題発見力・解決力	14.0%	84人	問題発見力・解決力	16.4%	142人
思考力・判断力	9.6%	9人	思考力・判断力	22.4%	135人	思考力・判断力	19.2%	167人
創造力・企画力	0.0%	0人	創造力・企画力	2.3%	14人	創造力・企画力	4.3%	37人
主体的に取り組む力	4.3%	4人	主体的に取り組む力	14.5%	87人	主体的に取り組む力	7.9%	69人
計画力・実行力	0.0%	0人	計画力・実行力	2.5%	15人	計画力・実行力	1.8%	16人
情報収集力・分析力	8.5%	8人	情報収集力・分析力	4.8%	29人	情報収集力・分析力	12.1%	105人
プレゼンテーション力	5.3%	5人	プレゼンテーション力	0.3%	2人	プレゼンテーション力	1.6%	14人
コミュニケーション力	3.2%	3人	コミュニケーション力	2.7%	16人	コミュニケーション力	0.5%	4人
多文化共生力	0.0%	0人	多文化共生力	1.3%	8人	多文化共生力	5.3%	46人
日本語インスティテュート科目			資格課程科目					
問題発見力・解決力	12.2%	88人	問題発見力・解決力					
思考力・判断力	18.2%	131人	思考力・判断力					
創造力・企画力	5.4%	39人	創造力・企画力					
主体的に取り組む力	11.2%	81人	主体的に取り組む力					
計画力・実行力	2.8%	20人	計画力・実行力					
情報収集力・分析力	13.5%	97人	情報収集力・分析力					
プレゼンテーション力	0.8%	6人	プレゼンテーション力					
コミュニケーション力	1.7%	12人	コミュニケーション力					
多文化共生力	4.9%	35人	多文化共生力					

# 満足度アンケート前年度比較

〈国際貢献学部 秋学期〉



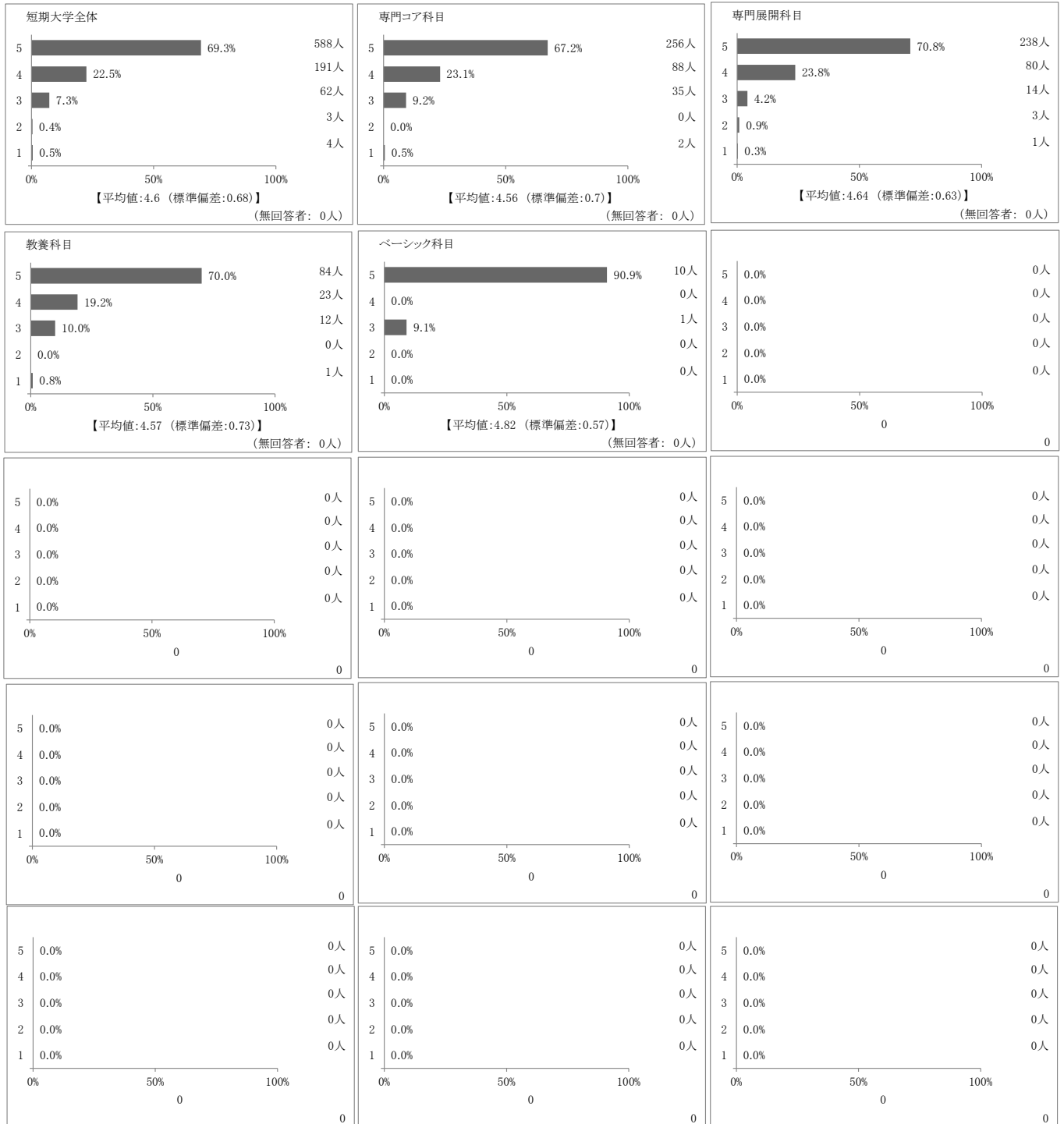
## 分野別アンケート結果

<2021年度 短期大学 秋学期>

授業科目区分	科目数	受講者	回答者	回答率(%)
専門コア科目	35	614	381	62.1
専門展開科目	24	546	336	61.5
教養科目	14	170	120	70.6
ベーシック科目	2	43	11	25.6
	75	1373	848	61.8

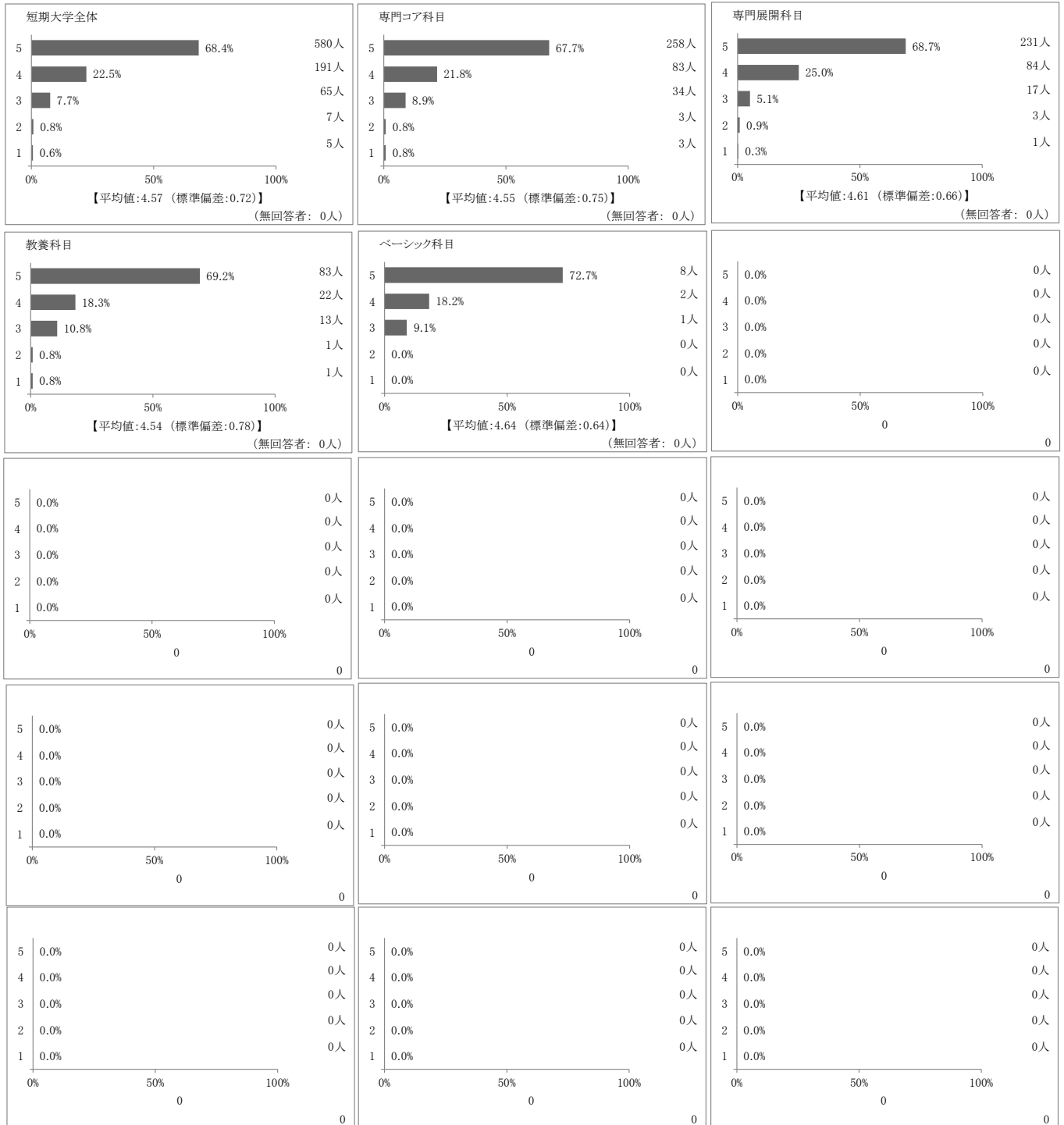
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q1.この授業の「シラバス」に示された講義目標は、理解できましたか？



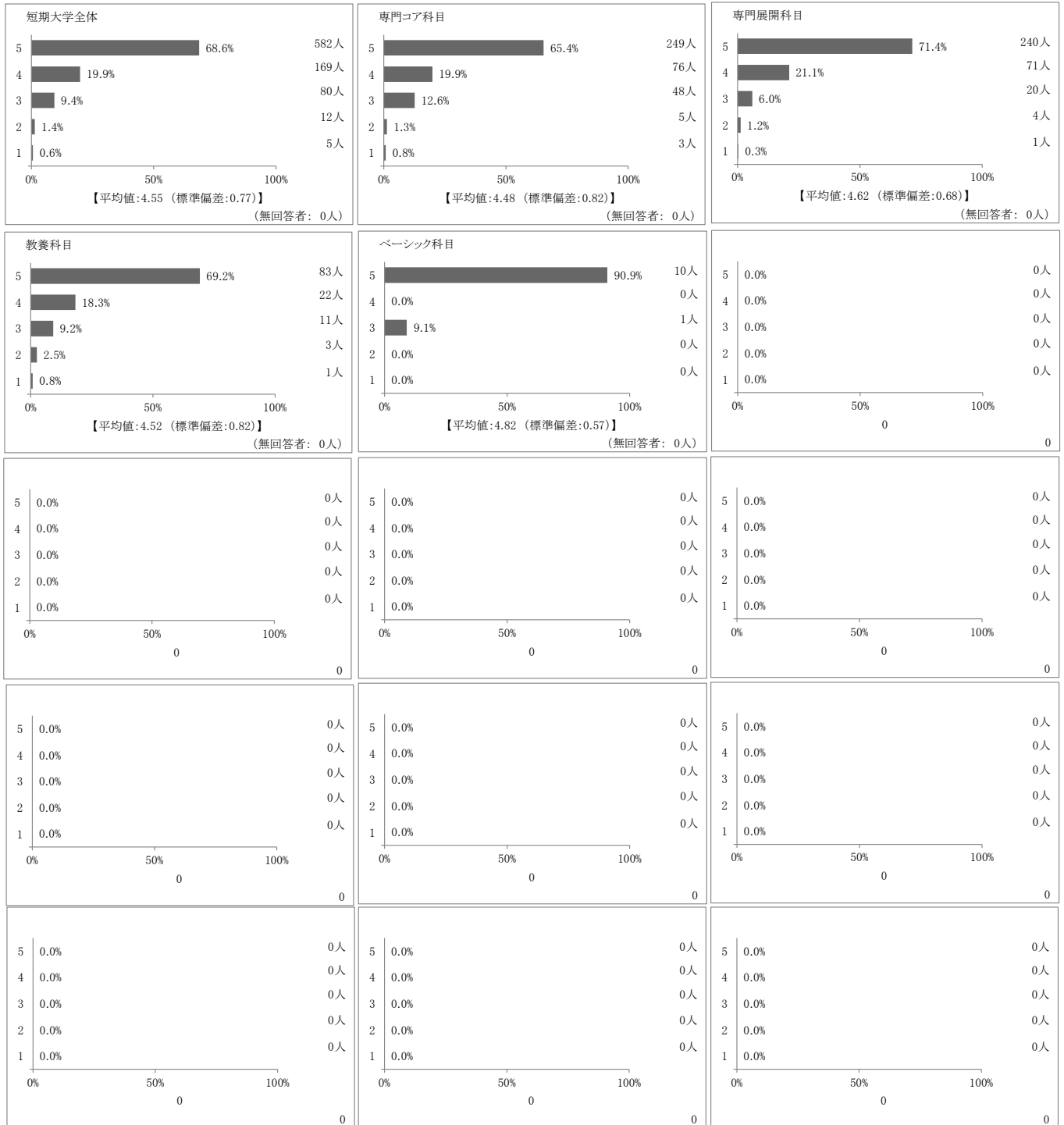
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q2.この授業の評価方法は理解できましたか？



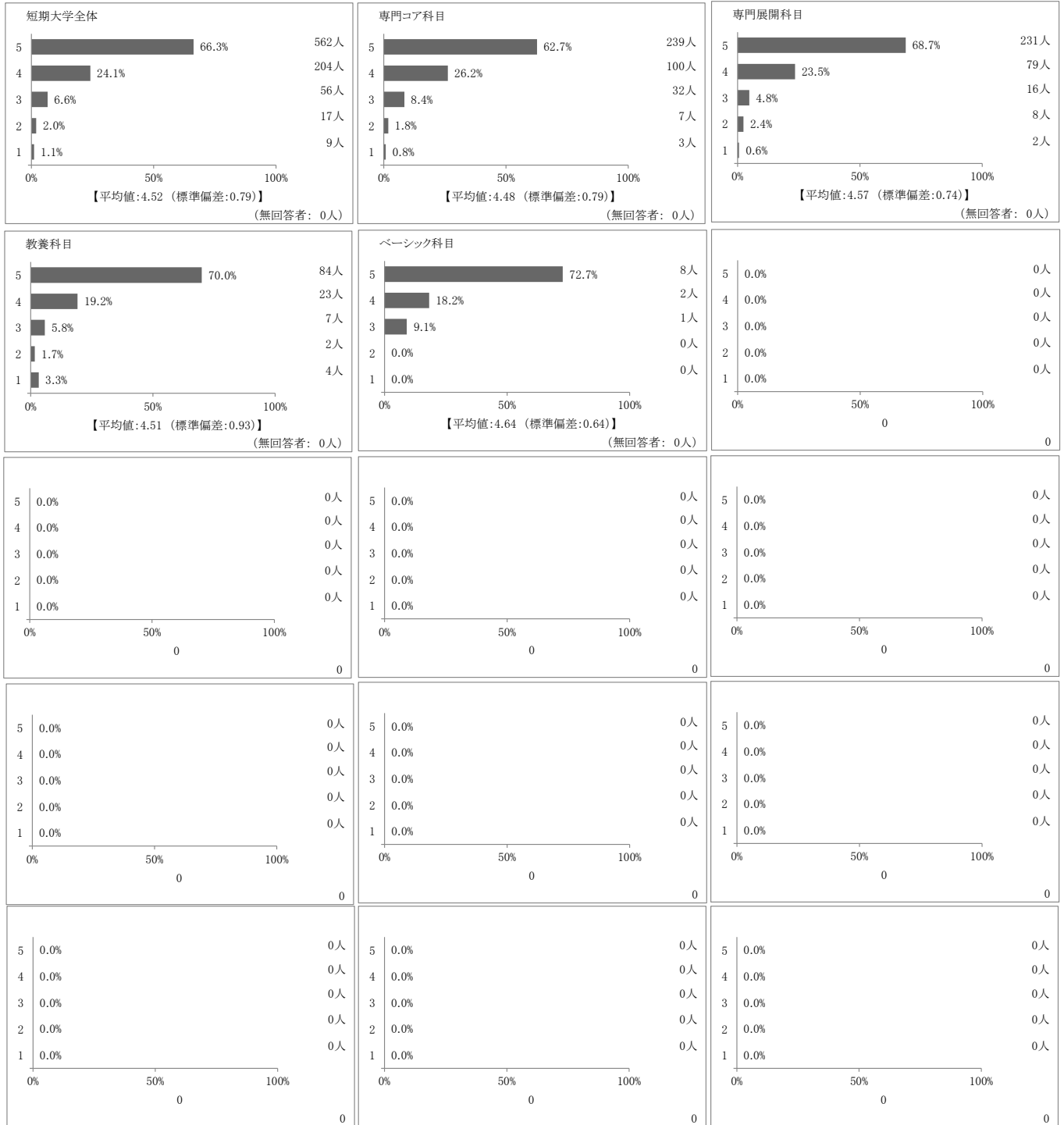
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q3.この授業で用いられた教材は、授業の理解に役立ちましたか？



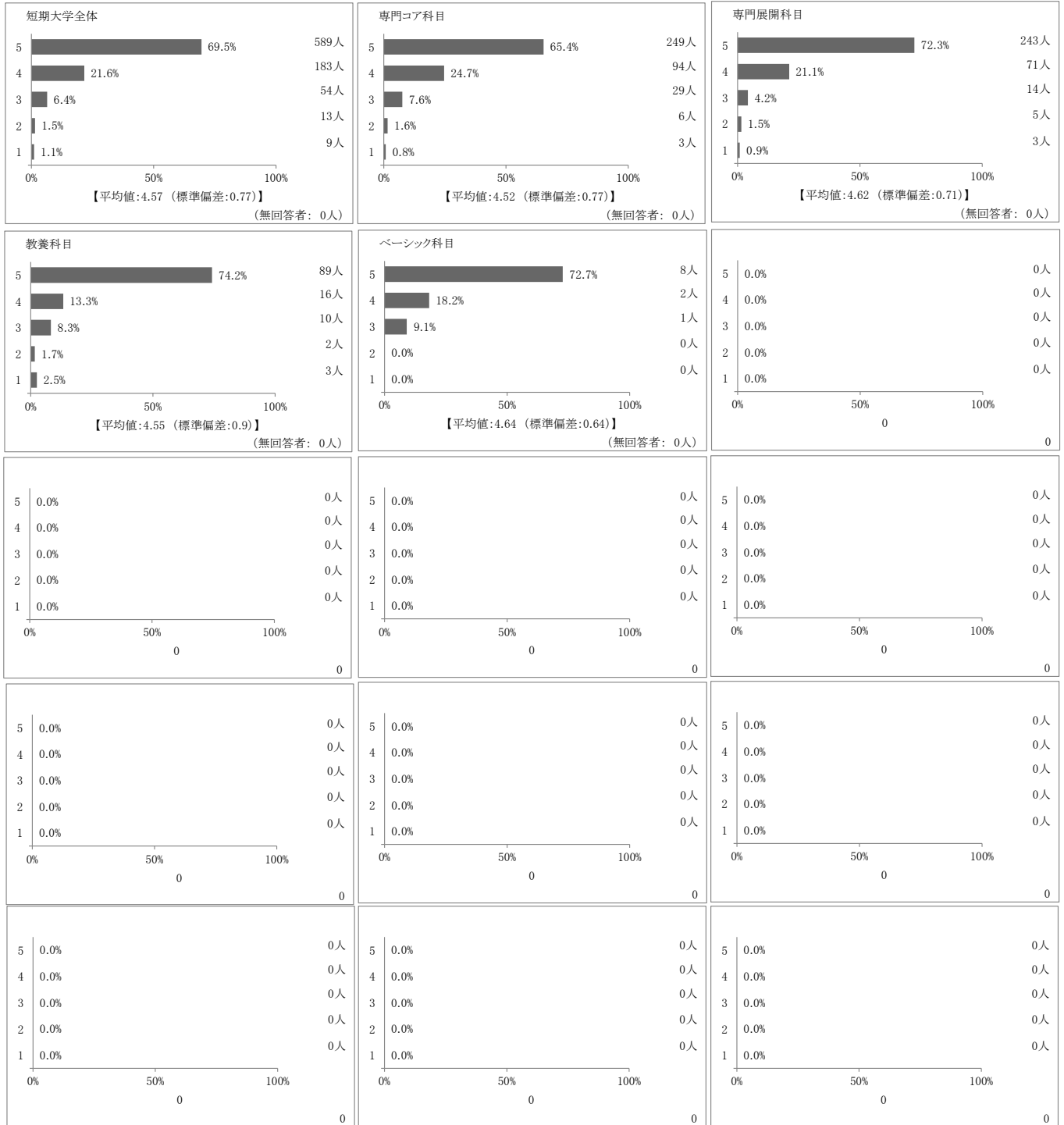
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q4.教員の説明はわかりやすいものでしたか？



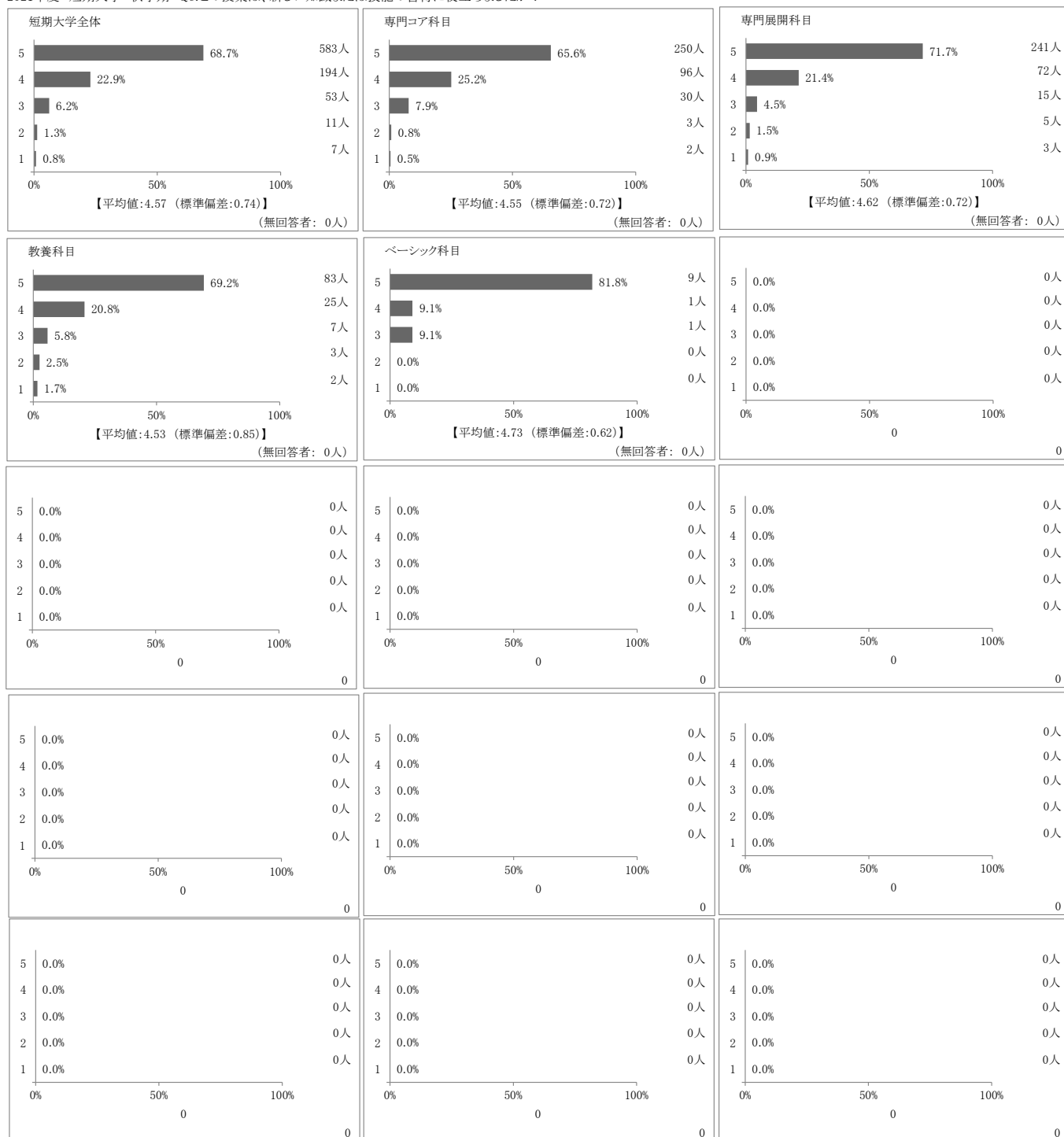
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q5.学生の質問に対する教員の対応は適切でしたか？



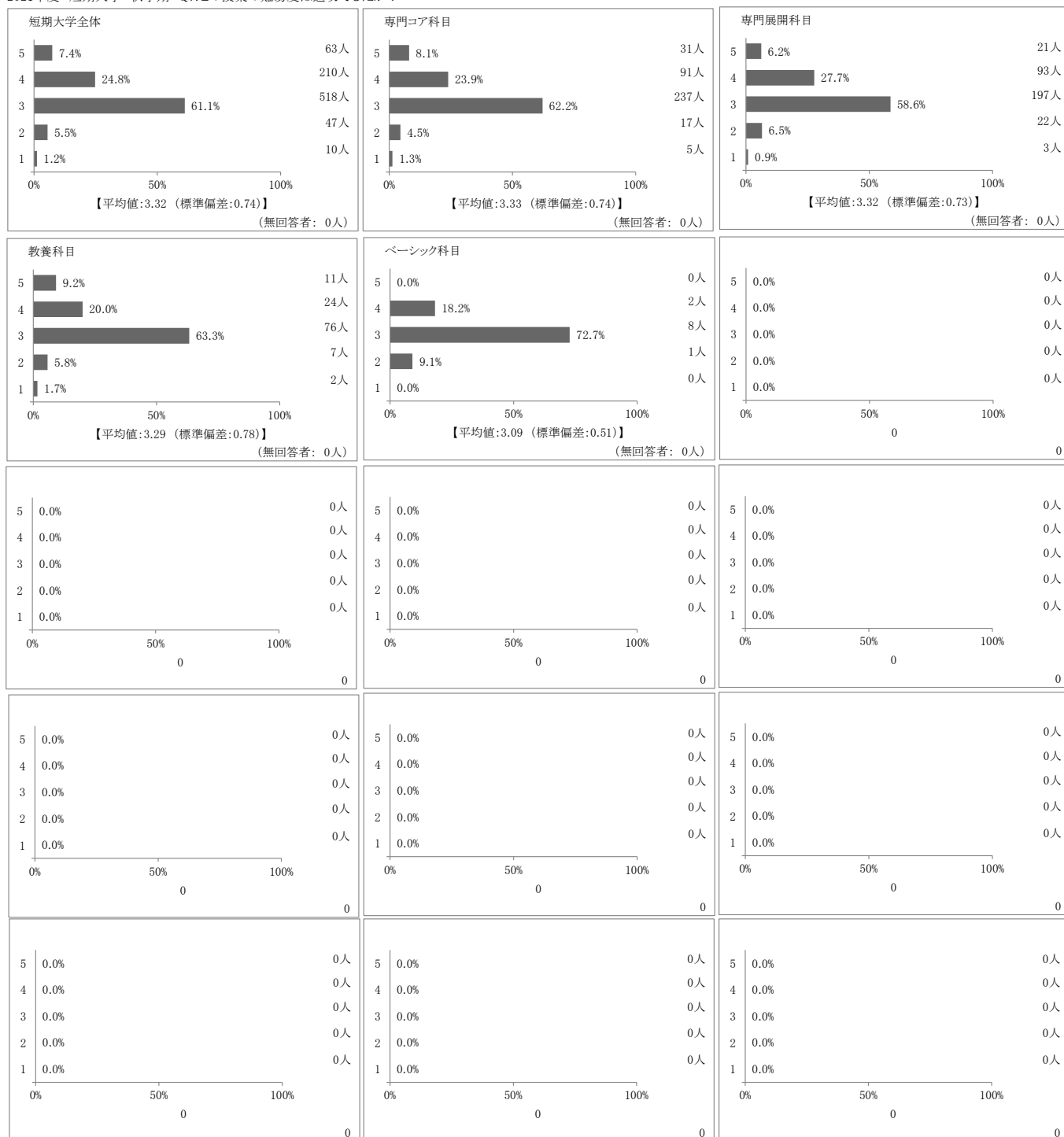
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q6.この授業は、新しい知識または技能の習得に役立ちましたか？



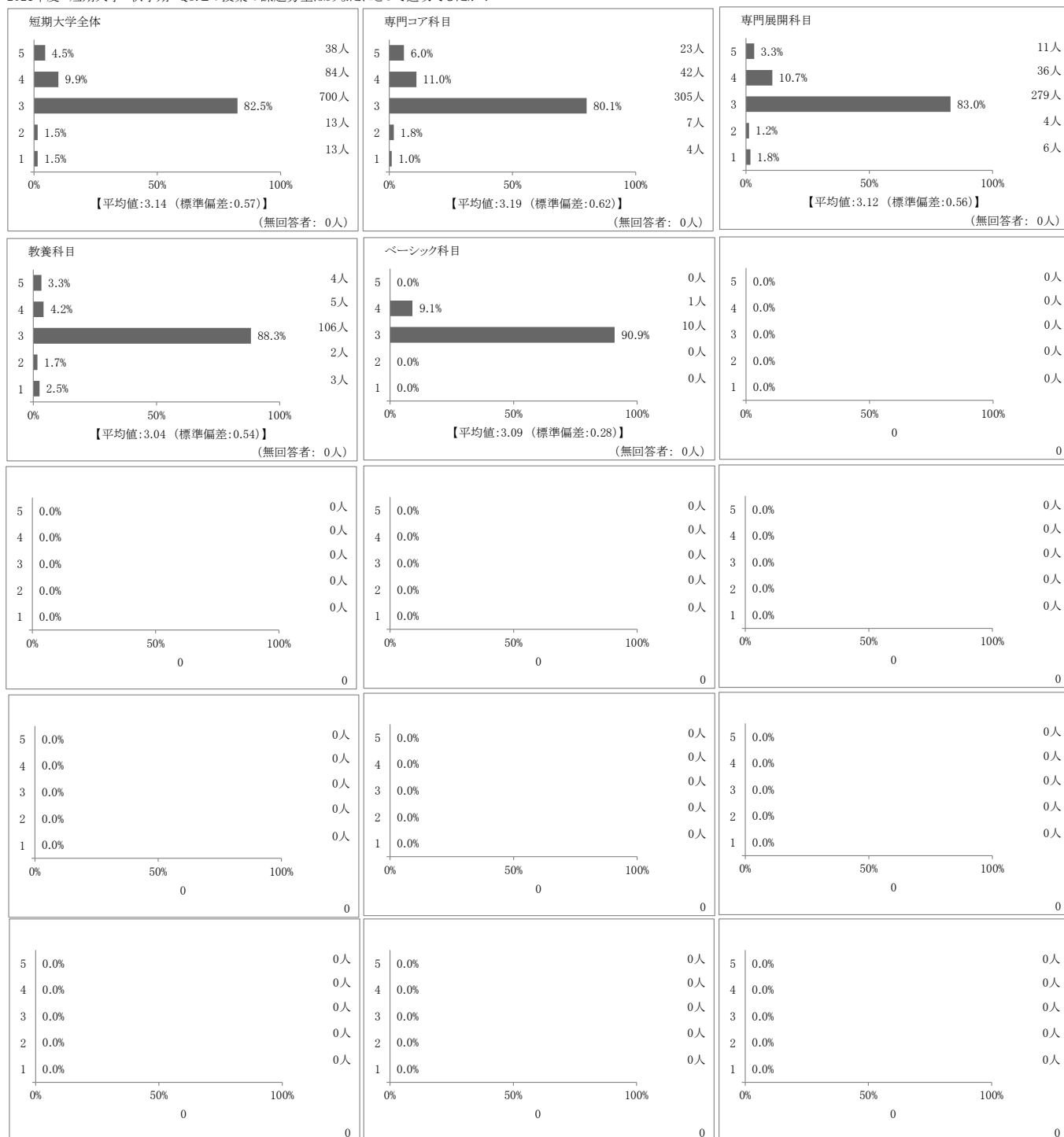
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q7.この授業の難易度は適切でしたか？



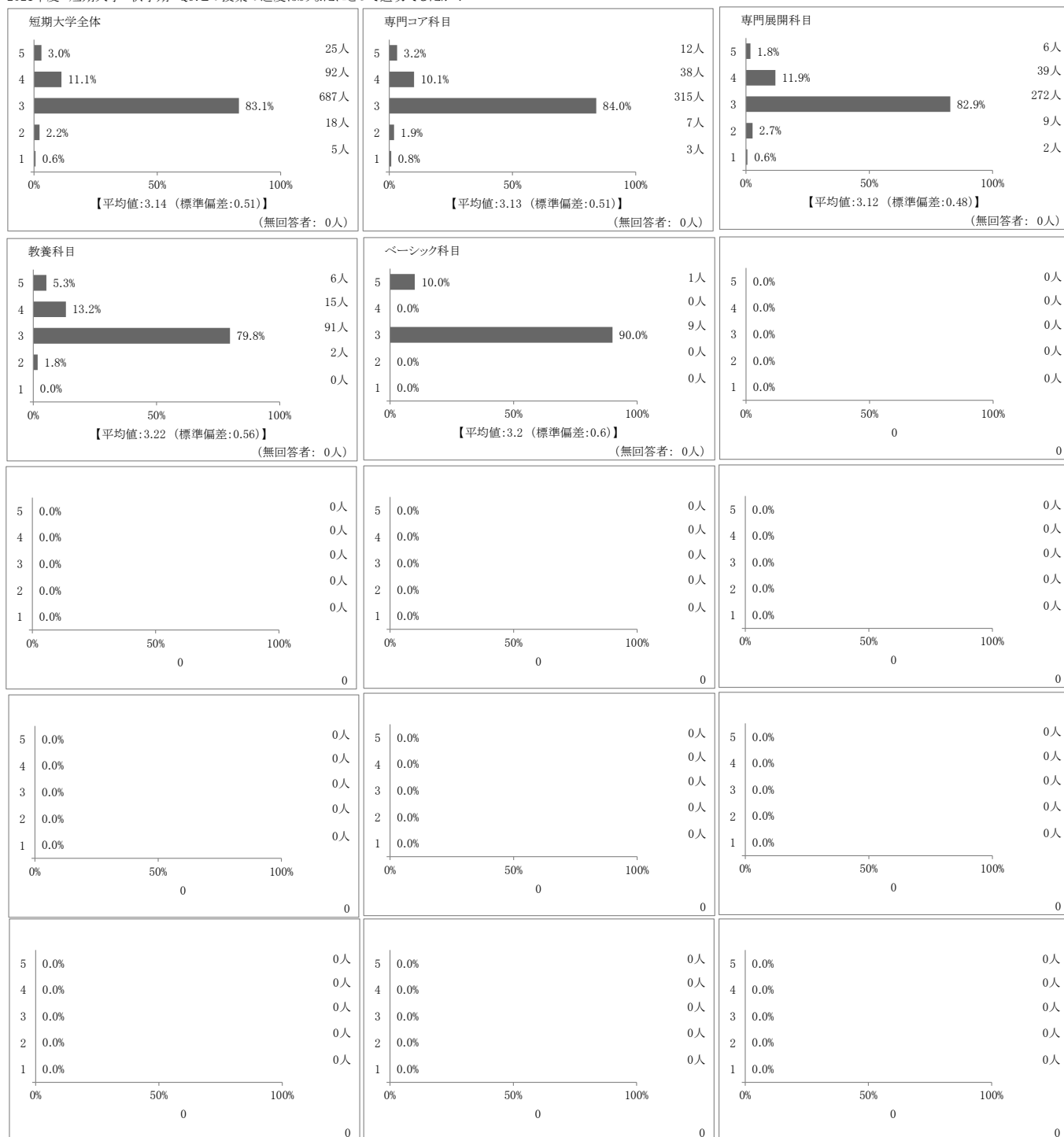
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q8.この授業の課題分量はあなたにとって適切でしたか？



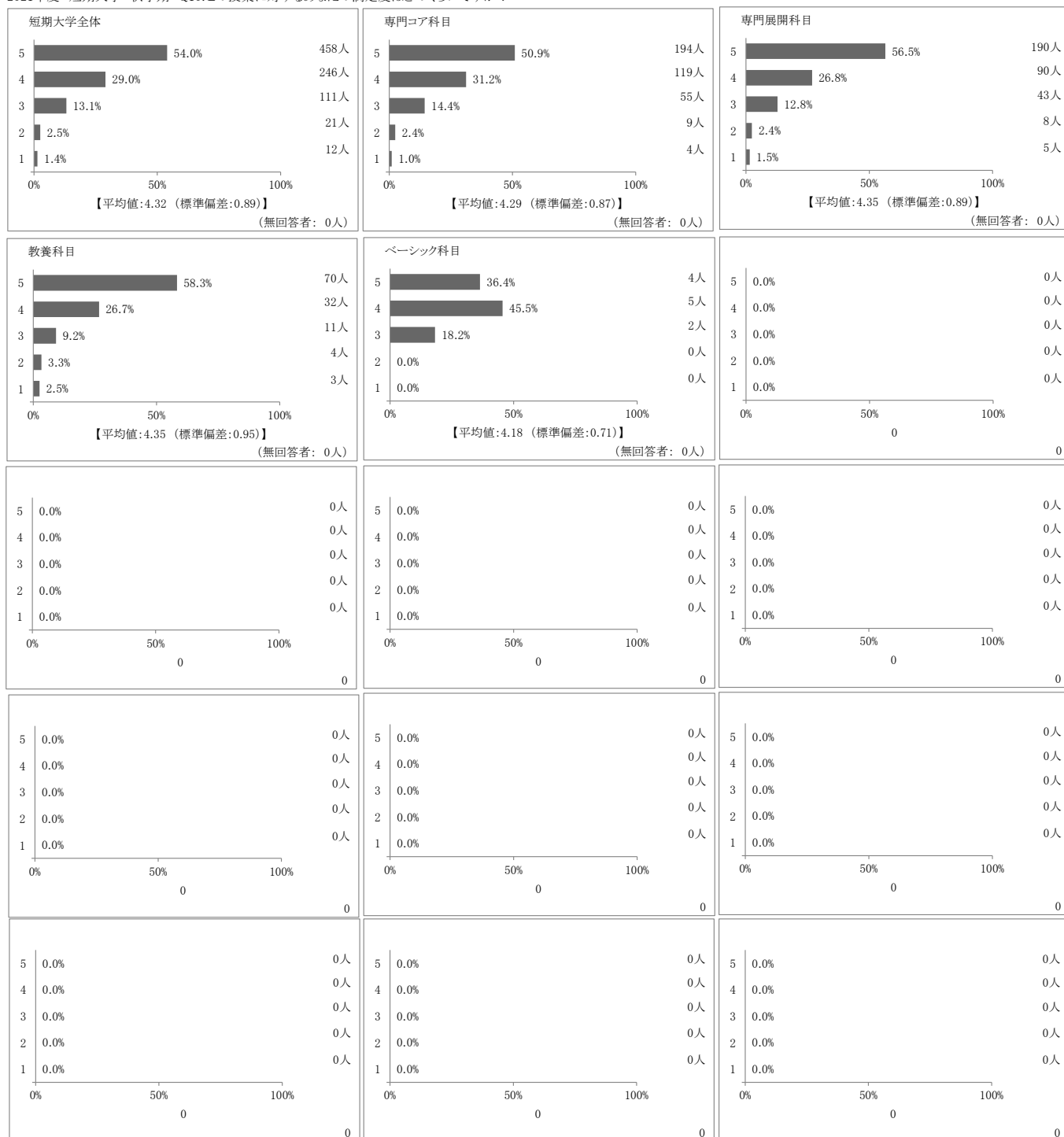
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q9.この授業の進度はあなたにとって適切でしたか？



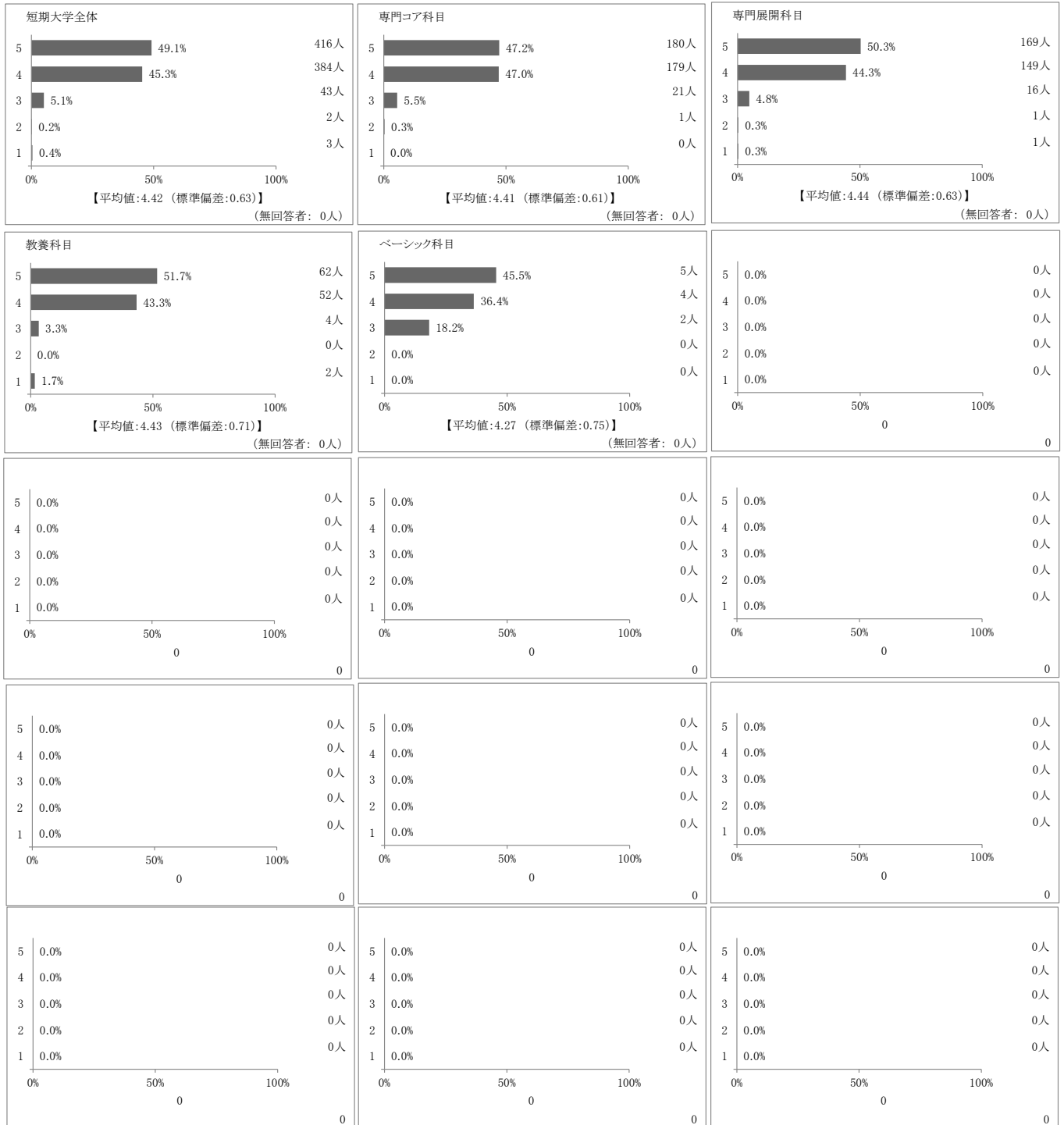
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q10.この授業に対するあなたの満足度はどのくらいですか？



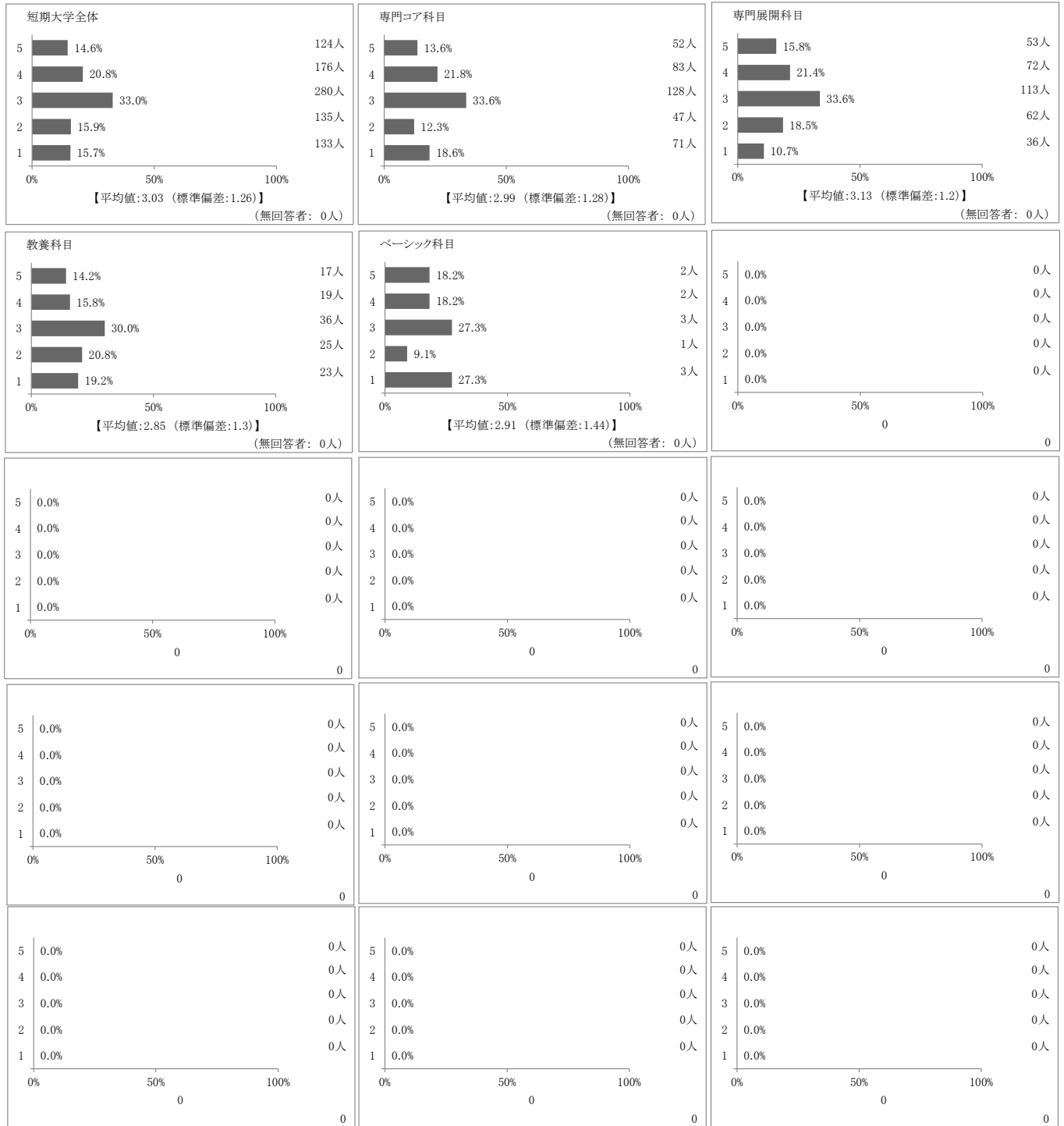
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q11.あなたのこの授業への出席率ほどの程度でしたか？



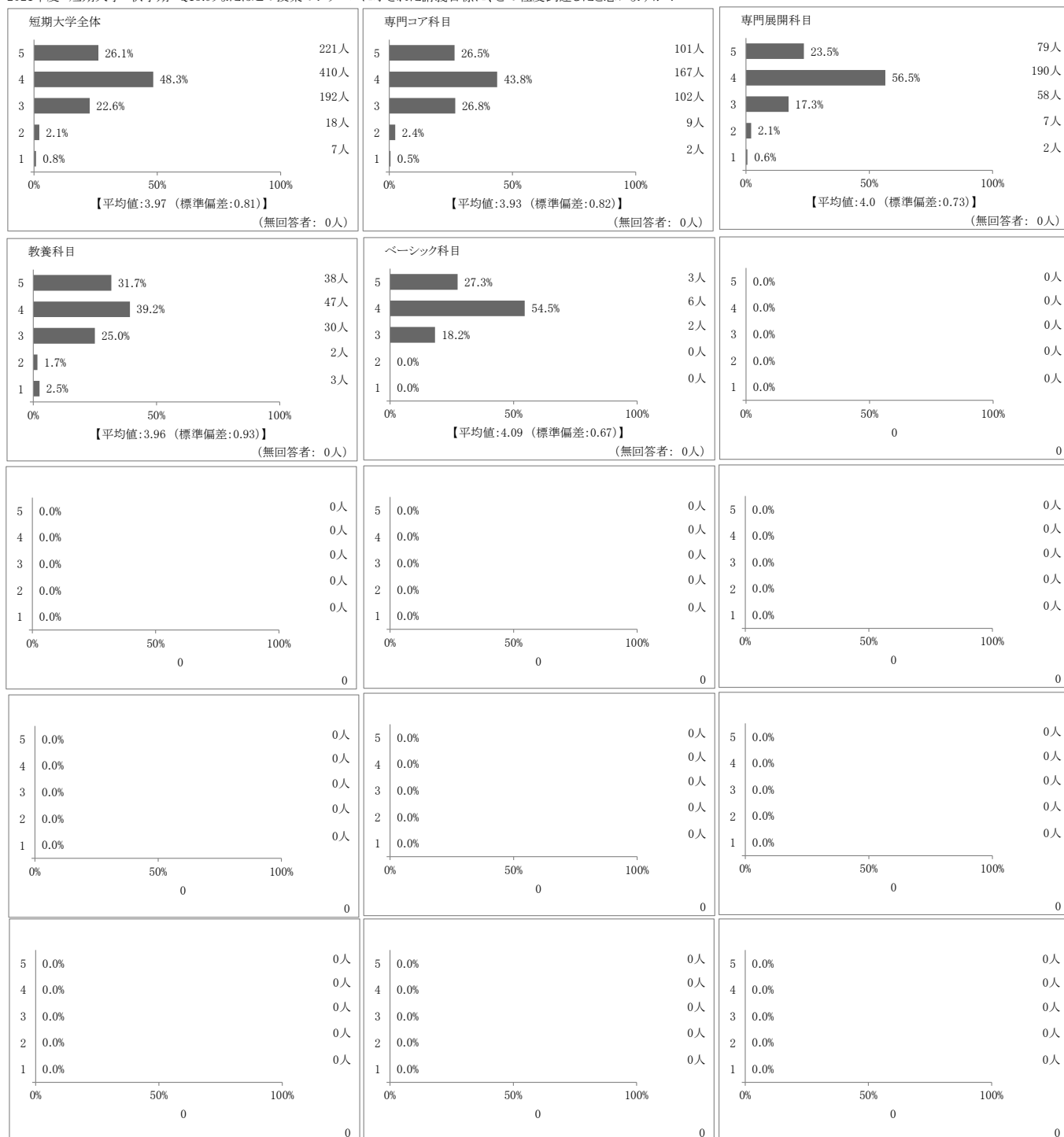
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q12.あなたのこの授業に関する授業時間外での取り組みはどの程度でしたか？



## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q13.あなたはこの授業のシラバスに示された講義目標に、どの程度到達したと思いますか？



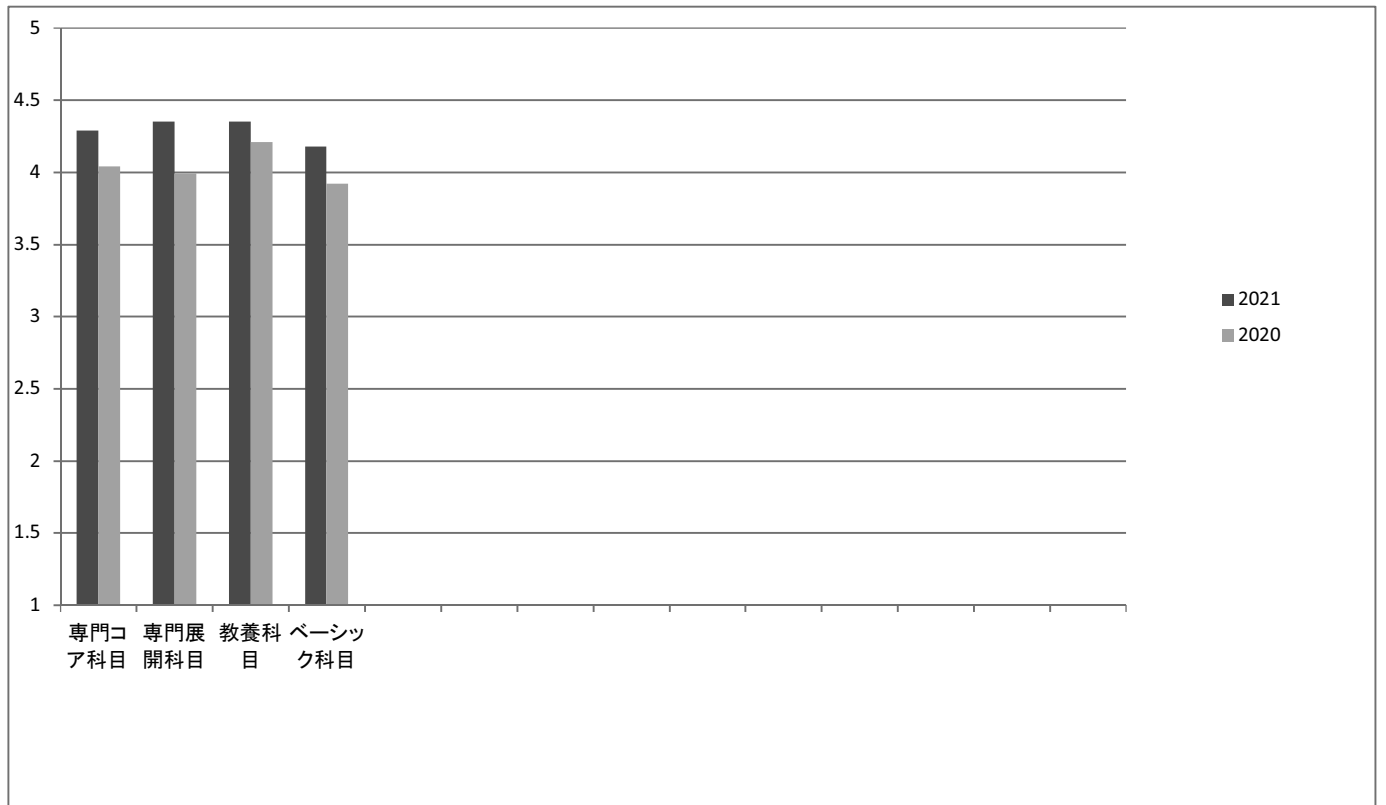
## 質問別アンケート結果

2021年度 短期大学 秋学期 Q14.この授業で向上したと思われる能力を選択してください(2つまで)。

短期大学全体			専門コア科目			専門展開科目		
問題発見力・解決力	12.8%	217人	問題発見力・解決力	10.8%	82人	問題発見力・解決力	15.2%	102人
思考力・判断力	17.8%	302人	思考力・判断力	17.2%	131人	思考力・判断力	17.6%	118人
創造力・企画力	4.7%	80人	創造力・企画力	4.2%	32人	創造力・企画力	4.3%	29人
主体的に取り組む力	10.1%	171人	主体的に取り組む力	9.4%	72人	主体的に取り組む力	10.9%	73人
計画力・実行力	2.8%	48人	計画力・実行力	2.8%	21人	計画力・実行力	3.4%	23人
情報収集力・分析力	4.9%	83人	情報収集力・分析力	3.8%	29人	情報収集力・分析力	6.2%	42人
プレゼンテーション力	5.0%	85人	プレゼンテーション力	8.4%	64人	プレゼンテーション力	2.1%	14人
コミュニケーション力	6.2%	106人	コミュニケーション力	7.9%	60人	コミュニケーション力	4.5%	30人
多文化共生力	1.8%	31人	多文化共生力	1.2%	9人	多文化共生力	1.5%	10人
教養科目			ベーシック科目					
問題発見力・解決力	12.5%	30人	問題発見力・解決力	13.6%	3人			
思考力・判断力	21.2%	51人	思考力・判断力	9.1%	2人			
創造力・企画力	7.5%	18人	創造力・企画力	4.5%	1人			
主体的に取り組む力	10.4%	25人	主体的に取り組む力	4.5%	1人			
計画力・実行力	1.7%	4人	計画力・実行力	0.0%	0人			
情報収集力・分析力	5.0%	12人	情報収集力・分析力	0.0%	0人			
プレゼンテーション力	2.5%	6人	プレゼンテーション力	4.5%	1人			
コミュニケーション力	6.7%	16人	コミュニケーション力	0.0%	0人			
多文化共生力	4.6%	11人	多文化共生力	4.5%	1人			

# 満足度アンケート前年度比較

<短期大学 秋学期>



## FD 委員会年間活動記録

6月24日(木)	第1回FD委員会
7月12日(月)～ 7月17日(土)	春学期「学生による授業アンケート」実施
8月25日(水)	夏季FD打ち合わせ会
9月10日(金)	夏季FDオンライン分科会
11月18日(木)	第2回FD委員会
12月20日(月)～ 12月25日(土)	秋学期「学生による授業アンケート」実施
1月26日(木)	臨時FD委員会(メール会議)
2月24日(木)	冬季オンラインFD分科会

## FD 委員会委員

委員長 森 篤嗣 (外国語学部日本語学科)

副委員長 竹下 ルッジェリ・アンナ (外国語学部イタリア語学科)

委員 由井 紀久子 (副学長)

ケイト・メイヤ (外国語学部英米語学科)

ロマン・ジョルダン＝大塚 (外国語学部フランス語学科)

杉本 モニカ (外国語学部ドイツ語学科)

楊 雷 (外国語学部中国語学科)

陳 依君 (国際貢献学部 GS 学科)

エリック・ハーキンソン (国際貢献学部 GT 学科)

畑田 彩 (教養教育等)

稲垣 勉 (教養教育等)

村岡 孝之 (総合企画室)

西村 政洋 (総合企画室)

## あとがき

『2021年度FD年間活動報告書』が刊行の運びとなりましたのでお届けします。

本報告書は2021年9月のオンラインFD分科会と、2022年2月のオンラインFD講演会の報告、そしてアンケート結果が掲載されています。ご多忙にもかかわらず原稿をお寄せいただいた方ならびに職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は今年度も継続しており、数回のリバウンドを経ながらオンライン授業と対面授業、そしてハイフレックス授業やオンデマンド授業など様々な形態での講義が試行錯誤された一年でもありました。コロナウイルスに脅かされることなく、通常通りの授業に戻って欲しいというのは、学生はもちろんのこと教員の皆様にとっても切望するところだと思えます。しかしながら、コロナウイルス感染拡大という災厄が、奇しくもオンライン授業の普及を促したということは間違いありません。後ろ向きにばかりなっているのは、活気ある大学を取り戻すことは難しいと思われまますので、この機会にオンライン授業の方法について、そしてどのような授業が学生の興味を喚起するのかという授業の内容についても、夏季FDで討論・情報共有ができたことは意義が大きかったと振り返っております。

冬季FDについては、分科会形式や発表形式ではなく、今年度は講演会形式を取りました。日本語講演では、オンライン授業を進めていく中で学生にどのように資料提供をして良いものか、著作権の観点からご講演をいただきました。英語講演では、悩める学習者の動機づけをどのように高めていくのかという課題は、対象言語が異なれど本学の永遠かつ共通のテーマについてご講演をいただきました。いずれの講演も、本学のFD活動において必要な情報提供であったのではないかと思います。本報告書に、講演の概要をまとめた報告と、当日使用されたパワーポイントを計算しておりますので、講演を聞かれた方の振り返りや、やむなく欠席された方のフォローアップにご活用ください。

最後になりましたが、ご多忙にもかかわらず、年間のFD活動に積極的に参加していただいた先生方、ならびに各種のFDイベントを献身的なご尽力で支えていただいたFD委員会の教職員の皆様に心より感謝の意を表したいと思います。どうもありがとうございました。

京都外国語大学・京都外国語短期大学 FD委員長  
森 篤嗣

**2021 年（令和 3 年）度 FD 活動報告書**

2022 年 3 月 31 日

編集・発行：京都外国語大学・京都外国語短期大学 FD 委員会

印刷：(株)あおぞら印刷